

授業科目名 <英訳>	人間科学入門 Introduction to Human Sciences	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成
			人間・環境学研究所 教授 高橋 由典
			こころの未来研究センター 教授 カール・ベッカー
			人間・環境学研究所 教授 杉 毅夫(Toshio Sugimura)
			高等教育研究開発センター 教授 吉田 純
			人間・環境学研究所 准教授 沼田 泰弘(Monshiko Nagata)
			人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子
			人間・環境学研究所 准教授 戸田 剛文
			人間・環境学研究所 教授 篠原 資明
			人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子
配当学年	1,2回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
本講義では、人間科学系を構成する6関係分野から、教員を選出し、それぞれの専門を踏まえながら論議していく。			
【授業計画と内容】			
総合人間学部人間科学入門は、ヨーロッパでいわれている「人間科学」の学問的入門ではなく、総合人間学部の「人間科学系」のある分野の学問紹介・人物紹介と考えた方が分かりやすい。分野から選出された10名の教員が、それぞれの専門領域について講じる。詳細については、第一回の授業で説明する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
受講者の出席と複数のレポートにより、単位認定を行う。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	人間形成論演習 B Seminar B on Theories of Education	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 倉石 一郎
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	木3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
教育と人間形成に関係するテーマを持ち寄り、各人の関心に従って発表し、論評しあう。重複履修可。			
【授業計画と内容】			
参加者のテーマによる。卒論の準備演習を兼ねる。			
【履修要件】			
教育と人間形成に関心を持っていること。			
【成績評価の方法・基準】			
出席と発表による。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは、水曜日の昼休みを原則とし、メールによる事前連絡も受け付ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	人間形成論 Theory of Education	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 倉石 一郎
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	木2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
20世紀前半のアメリカ合衆国における教育の包摂と排除の諸相、また教育と福祉とのアンビバレントな関係を、をさまざまな角度から見つめ、検証していく。世紀転換期から革新主義に至る社会変革のエネルギーに満ちあふれた時期、世界大戦の影響下の改革ムードの沈滞と愛国主義の台頭、元祖パブルとも言うべき1920年代の心理主義の高まり、大恐慌とニューディール体制を経た社会体制の再編、といった陰影に富んだ時代を、教育・福祉・包摂・排除といった切り口から論じたい。			
【授業計画と内容】			
1: 授業のねらい - なぜ20世紀前半の米国なのか: visiting teacherと福祉教員 2~3: 世紀転換期における少年司法の革新と少年裁判所の設立 4~5: 児童教育家たちの群像と児童労働撲滅運動 6~7: セツルメント運動の台頭と新たな都市文化 8~9: 障害児をめぐる包摂と排除の動き 10~11: 黒人あるいはcolored peopleをめぐる状況と認識の地平 12~13: 貧者の救済をめぐる: 慈善運動から公的福祉の登場まで 14: 全体のまとめ			
【履修要件】			
二回生以上、院と共通			
【成績評価の方法・基準】			
論文形式のレポートと出席状況による。50:50の比重。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 倉石一郎 『包摂と排除の教育学』(生活書院)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは、水曜日の昼休みを原則とし、メールによる事前連絡も受け付ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	人間形成史論 History of Education	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小山 静子
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
近代日本における子ども観や人間形成のあり方を、家庭や学校での教育のあり方に焦点をあてながら、社会的な観点から考察する。特に、近代的な学校教育の成立に関連づけて、「授かりもの」から「作るもの」「育てるもの」への子ども観の変化や、「家」の教育から家庭の教育への変化を取り上げる。			
【授業計画と内容】			
以下の通り、授業を行う予定。			
第1週 オリエンテーション			
第2~5週 1. 前近代の子ども観 (1) 墮胎・間引き・捨て子 (2) 「家」の子ども			
第6~10週 2. 「作るもの」としての子ども (1) 産児制限の登場 (2) 家族計画の時代			
第11~15週 3. 「育てるもの」としての子ども (1) 「家」と家庭 (2) 家庭の子ども			
【履修要件】			
歴史に対する興味や関心をもっていることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
学期末におけるレポート			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	人間形成史論演習 A Seminar on History of Education A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 小山 静子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間形成史に関する考察を深める。3回生は卒業論文作成の最初のステップとなり、4回生では卒業論文作成のための演習となる。									
【授業計画と内容】									
前半では、人間形成史に関する史料を精読する。後半では、各自の研究テーマに関して報告し、討論する。									
【履修要件】									
人間形成史論演習 B との連続履修を推奨する。3・4回生での重複履修可。									
【成績評価の方法・基準】									
演習での報告・発言、レポートにより総合的に行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、木曜日3時間目。ただし、あらかじめメールで予約をとること。メールアドレスは、1回目の授業の際に伝える。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	関係発達論の応用 Relational Development	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大倉 得史						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
関係発達論とは、生来の身体的資質、周囲の対人関係、社会・文化的環境の三者の絡み合いのもとで人間の自己性がいかに形作られていくかを究明する理論である。本講義では特に、周囲の「他」との関係性が「自」へと沈殿していくという関係発達論を支える根本的メカニズムや、エピソード記述法などの方法論的問題について考究を深めつつ、それをさまざまな領域における実践活動につなげていく道筋を探っていく。身体論、言語論、他者論、自我論を行き来しながら、受講生に対して研究という営みにつきもの試行錯誤を体感してもらうことが目標である。									
【授業計画と内容】									
議論の流れに応じてその都度必要な探究を行い、最新の研究成果を示していくことが本講義の特徴なので、授業計画は示しにくい。主として次のようなテーマ(のいずれか)を適宜扱っていく。									
1 人間にとっての言語 2 身体の機能(関身体性・間主観性など) 3 自己の成立 4 発達障がいの世界 5 エピソード記述法や語り合いの方法論 6 関係発達論の応用分野 ア) 保育 イ) 主体性を育むための関わり ウ) 供述分析 エ) 青年期									
【履修要件】									
関係発達論A、Bのいずれかを履修済み(履修中も可)であること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、授業中の小課題、期末レポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 大倉得史『育てる者への発達心理学』(ナカニシヤ出版) 鯨岡峻『エピソード記述入門』(東京大学出版会)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間形成史論演習 B Seminar on History of Education B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 小山 静子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間形成史に関する考察を深める。3回生は卒業論文作成の最初のステップとなり、4回生では卒業論文作成のための演習となる。									
【授業計画と内容】									
前半では、人間形成史に関する史料を精読する。後半では、各自の研究テーマに関して報告し、討論する。									
【履修要件】									
人間形成史論演習 A との連続履修を推奨する。3・4回生での重複履修可。									
【成績評価の方法・基準】									
演習での報告・発言、レポートにより総合的に行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、木曜日3時間目。ただし、事前にメールで予約をとること。メールアドレスは1回目の授業の際に伝える。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	関係発達論演習 A Seminar on Relational Development A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大倉 得史						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
発達心理学に関するテーマでの「研究能力」(自ら問題を発見し、適切な方法論により、新しい知見を創出する能力)を身につけることを目指す。4回生は卒業論文作成のためのテーマ設定、先行研究レビュー、方法の選定、調査の実施等を、「各自で」行っていく。3回生は研究の進め方の概略を学んだ上で、興味のあるテーマについて「各自で」研究を進めていく。									
【授業計画と内容】									
各自が自分なりの興味・関心にしたがって研究を進め、担当回に発表していくという演習形式。発表について全員で議論を行い、それを踏まえて発表者には今後の研究の方向性(案)を、それ以外の者には研究を進める際に必要となる考え方を提示していく。なお、関係発達論演習を初めて履修する3回生は、いきなり「自分なりのテーマで研究を進めよ」と言われても戸惑いが大きいと思われるので、こちらからいくつかの課題を与える中でテーマを発見できるようにするなど、ある程度配慮する。									
【履修要件】									
発達心理学に関連するテーマで自分なりの研究を行おうとする者(卒論指導者は別の先生であっても良いが、「発達心理学の演習」としての当演習での研究もきちんと行える者)。全学共通科目「関係発達論の構築」「関係発達論の展開」「発達心理学基礎ゼミナールA(またはB)」のうち2科目以上を履修中ないしは履修済であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表、議論への参加、学期末の研究報告書の提出。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 大倉得史『語り合う質的心理学』(ナカニシヤ出版) 鯨岡峻『エピソード記述入門』(東京大学出版会)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
3・4回生での重複履修可。4限の授業だが、できれば5限の大学院生ゼミにも参加すると実力が伸びる。オフィスアワーは火曜4限。ちなみに担当教官が受け持っている発達心理学関連科目の概要・難易度は次のとおりなので、履修の際の目安にしてほしい(リレー講義の場合は担当回の概要と難易度)。 <初級>心理学基礎論(大倉担当)・・・青年期(講義) 発達心理学基礎ゼミナールA・B・・・青年期(グループワーク) <中級>関係発達論の構築・・・重要な先行研究の理論的検討(講義) 関係発達論の展開・・・主として乳幼児期の養育論(講義) 心理学実験1・2(大倉担当)・・・観察等の方法論(実習) <上級>関係発達論・・・身体論・言語論・自我論・方法論(講義) 関係発達論演習A・B・・・卒業研究に向けた指導(演習)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	関係発達論演習 B Seminar on Relational Development B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 大倉 得史						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
発達心理学に関するテーマでの「研究能力」（自ら問題を発見し、適切な方法論により、新しい知見を創出する能力）を身につけることを目指す。4回生は卒業論文作成のためのテーマ設定、先行研究レビュー、方法の選定、調査の実施等を、「各自で」行っていく。3回生は研究の進め方の概略を学んだ上で、興味のあるテーマについて「各自で」研究を進めていく。									
[授業計画と内容]									
各自が自分なりの興味・関心にしたがって研究を進め、担当回に発表していくという演習形式。発表について全員で議論を行い、それを踏まえて発表者には今後の研究の方向性（案）を、それ以外の者には研究を進める際に必要となる考え方を提示していく。なお、関係発達論演習を初めて履修する3回生は、いきなり「自分なりのテーマで研究を進めよ」と言われても戸惑いが大きいと思われるので、こちらからいくつかの課題を与える中でテーマを発見できるようにするなど、ある程度配慮する。									
[履修要件]									
発達心理学に関連するテーマで自分なりの研究を行おうとする者（卒業指導者は別の先生であっても良いが、「発達心理学の演習」としての当演習での研究もきちんと行える者）。全学共通科目「関係発達論の構築」「関係発達論の展開」「発達心理学基礎ゼミナールA（またはB）」のうち2科目以上を履修中ないしは履修済であることが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席、発表、議論への参加、学期末の研究報告書の提出。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
（参考書） 大倉得史『語り合う質的心理学』（ナカニシヤ出版） 鯨岡峻『エピソード記述入門』（東京大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
3・4回生での重複履修可。4限の授業だが、できれば5限の大学院生向けゼミにも参加すると実力がつく。オフィスアワーは火曜4限。ちなみに担当教官が受け持っている発達心理学関連科目の概要、難易度は次のとおりなので、履修の際の目安にしてほしい（リレー講義の場合は担当回の概要と難易度）。<初級>心理学基礎論（大倉担当分）・・・青年期（講義）発達心理学基礎ゼミナールA・B・・・青年期（グループワーク）<中級>関係発達論の構築・・・重要な先行研究の理論的検討（講義）関係発達論の展開・・・主として乳幼児期の養育論（講義）心理学実験1・2（大倉担当分）・・・観察等の方法論（実習）<上級>関係発達論・・・身体論・言語論・自我論・方法論等（講義）関係発達論演習A・B・・・卒業研究に向けた指導（演習）									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	精神病理学・精神分析学 Psychopathology, Psychoanalysis	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
[授業の概要・目的]									
精神分析による精神疾患の理論と治療論について学ぶ。									
[授業計画と内容]									
フロイトとラカンが、精神病や神経症をどのように捉えたか、とくに臨床的治療活動のなかでその問題をどのように人間の問題として理解して行ったかを考察してゆく。なお、臨床的精神活動の具体化としての心理テストなど、可能であれば実習の要素も取り込む予定である。									
[履修要件]									
精神病理学・精神分析学関連の科目を1つ以上履修しているか、並行して受講中であること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点で行う。									
[教科書]									
授業中に指示する									
[参考書等]									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	心理学実験 Experiments on Psychology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤 人間・環境学研究所 准教授 月浦 崇 人間・環境学研究所 助教 山本 洋紀 人間・環境学研究所 教授 杉 俊夫 (Toshio Sugimata) 人間・環境学研究所 准教授 沼田 基樹 (Motohiko Nagata) 人間・環境学研究所 准教授 大倉 得史						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4,5	授業形態	実験
[授業の概要・目的]									
知覚、認知、発達、社会的行動など、心理学の基本的な領域の実験や実習を通じて、心理学の初歩を学ぶ。この授業は、総合人間学部、文学部、教育学部の3学部で行われてきた心理学実習・実験の入門的な授業を統合したもので、学生の皆さんにとって、よりバラエティに富んだ授業内容を選択できるように工夫したものである。京都大学は、認知、臨床、動物、社会、発達、知覚、神経科学など、日本でも最も幅広い範囲の心理学を学ぶことのできる場であり、是非このチャンスを生かして心理学の面白さを実感すると共に、実験の実施からレポートの作成に至る基礎的手順の習得が期待される。									
[授業計画と内容]									
この授業では、まず、3学部共通の授業で心理実験とレポートの書き方の基礎を学び、その後、2週間をひとつのユニットとして、ユニット毎に原則として自分の希望する学部での授業を受けることができる。日程（授業各回の担当教員・テーマ）の詳細については、授業初回にガイダンスを行う。出席者は必ず、このガイダンスに出席すること。以下、例年の授業計画を示す。									
第1回 ガイダンス・各ユニットの説明 第2～4回 基礎的な心理実験とレポートの書き方、レポートの添削、ユニット決定 第5～6回 第1ユニット 錯視、日常記憶、インタビュー法など 第7～8回 第2ユニット 赤ちゃん研究法、動物研究法、ゲーミングなど 第9～10回 第3ユニット 視覚心理物理学実験、ニューロン活動記録、精神検査など 第11～12回 第4ユニット イメージ、知能検査、記憶能力測定など 第13～ 所属学部の授業									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
テーマ毎に出されるレポートの平均点による。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者多数の場合、人数を制限することがある。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	精神分析学I Elements of Psychoanalysis I	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	講義
[授業の概要・目的]									
夢という体験をつぶさに研究して、無意識の働きを識る。									
[授業計画と内容]									
1. なぜ夢をみるのか： 夢と精神病。夢の精神保健機能。人生は夢か？ 2. 空飛ぶ夢と言語の万能。 3. 夢と無意識： 夢を分析することは無意識への王道。夢は「自分を読む」他者のテキスト。 4. 夢の累層構造： 夢の反復。 5. 累層構造と神話形成： 夢が神話を作る。 6. 夢と喪の過程。 7. 神経症の精神療法について： 転移という現象や無意識の起源についての精神分析の理論を、精神療法の実例から検証する。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
期末試験による。									
[教科書]									
新宮一成『夢と構造』（弘文堂）									
[参考書等]									
（参考書） 新宮一成『夢分析』（岩波新書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
後期の「精神分析学」においては、無意識が夢のみならず精神病の症状形成にどのように関わっているかを学ぶ。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	精神分析学II Elements of Psychoanalysis II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
精神分析の見地から、無意識の構造を通して、精神の各種の病を考察する。また、病理的なものの背景をなす無意識の構造が、芸術的な産出の原動力になっている可能性に言及する。どちらの場合も、夢という普遍的な現象との関連を考慮しながら論述する。									
【授業計画と内容】									
1. フロイトの夢理論について： 夢と神経症の間を繋ぐもの。 2. 文字の夢と、精神的固着理論 3. パラノイアという病理現象について： 妄想という現象と人間の営みとの間の深い関係について。 4. 病跡学について： 芸術作品を作ることと、症状を生み出すことの間にある類似性について。 5. 夢と死： 主に統合失調症の病理に見られる死のテーマについて。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験による。									
【教科書】									
新宮一成 『夢と構造』(弘文堂)									
【参考書等】									
(参考書) 新宮一成 『夢分析』(岩波新書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
「精神分析学」からの継続受講が奨められる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	精神病理学・精神分析学演習B Seminar in Psychopathology and Psychoanalysis B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
精神病理学・精神分析学の分野で卒業論文を作成するための演習である。									
【授業計画と内容】									
担当教員との相談により自ら研究テーマを決めて発表と討論を行う。大学院との共同演習になるので、この分野の研究内容を知ることにより自らのテーマへの考察を深めてほしい。									
【履修要件】									
この分野で卒論作成を目指す3・4回生のみを対象とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	精神病理学・精神分析学演習A Seminar in Psychopathology and Psychoanalysis A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
精神病理学・精神分析学の分野で卒業論文を作成するための演習である。									
【授業計画と内容】									
担当教員との相談により自ら研究テーマを決めて発表と討論を行う。大学院との共同演習になるので、この分野の研究内容を知ることにより自らのテーマへの考察を深めてほしい。									
【履修要件】									
この分野で卒論作成を目指す3・4回生のみを対象とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	グループ・ダイナミクス演習A Advanced Seminar on Group Dynamics A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 杉元 俊夫(Toshio Sugimura)						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
グループ・ダイナミクスの分野で卒業研究を行う学生のために、 社会学の理論的文献の輪読 数値モデルによるシミュレーション フィールドワークの実習 の3つを行う。社会学や数学の予備知識を前提とすることなく、初歩的なレベルから懇切丁寧に指導する。									
【授業計画と内容】									
社会学の理論的文献の輪読 「あなたへの社会構成主義」(K. ガーゲン)を輪読する。社会構成主義(構築主義)とは、従来の「心を内蔵した肉体」という人間像や、「外界と内界」二項図式を前提にしない新しいメタ理論(研究哲学)である。社会構成主義は、現場の当事者と研究者の協同的実践を旨とするグループ・ダイナミクスのメタ理論でもある。授業では、同書を輪読しながら、社会構成主義の基礎的な概念・理論、社会構成主義に基づく具体的な研究例について、わかりやすく解説する。  数値モデルによるシミュレーション まず、MATLAB(マットラプ)というプログラミング言語を学習する(プログラミングの経験や予備知識は一切必要ない)。それに続いて、セルオートマトンを使ったシミュレーションを実習する。セルオートマトンについて簡単に説明しておこう。碁盤を想像してほしい。碁盤の目には、白石か黒石のいずれかが置かれているとしよう。白石は、ある意見に賛成の人、黒石は反対の人を表すとす。どの人も、自分の周りの8人だけを見て、自分の意見を変更するとしよう(例えば、自分と違う意見の人が5人以上であれば意見を変更、4人以下であれば現在の意見を維持する、というように)。では、碁盤上のすべての人が、そのような同じ局所的ルールにしたがって動くとき、盤面全体の白黒の配置は、どのように変化していくだろうか。  フィールドワークの実習 研究室で進行中のフィールドワークについて紹介する。可能であれば、夏期休暇などを利用して、2泊3日程度のフィールド見学も行いたい(実施可能性、日程等については受講生と相談する)。									
【履修要件】									
講義「グループ・ダイナミクス」、「グループ・ダイナミクス基礎ゼミナール」を履修済み、あるいは、本授業と併行して履修していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席とレポート)									
グループ・ダイナミクス演習A(2)へ続く									

グループ・ダイナミクス演習A(2)	
-----	
【教科書】	
K. ガーゲン（東村（訳））『あなたへの社会構成主義』（ナカニシヤ出版）	
【参考書等】	
（参考書） 授業中に紹介する	
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

グループ・ダイナミクス演習B(2)	
-----	
【教科書】	
大澤真幸『行為の代数学』（勁草書房）	
【参考書等】	
（参考書） 授業中に紹介する	
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	グループ・ダイナミクス演習B Advanced Seminar on Group Dynamics B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 杉 俊夫(Toshio Sugimura)						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
前期に引き続いて、グループ・ダイナミクスの分野で卒業研究を行う学生のために、社会学の理論的文献の輪読 数理モデルによるシミュレーション フィールドワークの実習 の3つを行う。社会学や数学の予備知識を前提とすることなく、初歩的なレベルから懇切丁寧に指導する。ただし、前期に指導した内容は理解していることを前提にする。									
【授業計画と内容】									
社会学の理論的文献の輪読 大澤真幸「行為の代数学」を輪読する。スペンサー・ブラウンの風変わりな論理学（アプリオリな存在をまったく前提にせず、「区別しかない」という前提だけからスタートしたら、どんな論理展開になるのか、を論じた論理学）をベースに、規範、意味、時間、法などの成立を考察した本。前期で学んだ社会構成主義に立脚した理論の典型例である。									
数理モデルによるシミュレーション 前期に学んだMATLABを使って、今度は、微分方程式（の数値解法）に挑戦する。高校までに習った方程式では未知数を含む式が与えられ、未知数を求めた。それに対し、微分方程式では、未知関数やその導関数を含む式が与えられ、未知関数を求める。微分とは、いわば瞬間変化率だ。ある社会現象がこの先どう変化していくか --- 現在の状態は調べればわかる（初期値はわかる）、瞬間変化の規則性を微分によって定式化する。そうすれば、現在からちょっとだけ先のことは、初期値に を適用すれば求められる。さらに、その結果に を適用すれば、そのまたちょっと先のことがわかる。こうして、瞬間変化の仮説をいろいろ立てて、将来をシミュレーションする。									
フィールドワークの実習 前期に続いて、研究室で進行中のフィールドワークについて紹介する。夏期休暇を利用してのフィールド見学が実施できなかった場合には、可能であれば、冬季・春期休暇などを利用して、2泊3日程度のフィールド見学を行いたい（実施可能性、日程等については受講生と相談する）。									
【履修要件】									
講義「グループ・ダイナミクス」、「グループ・ダイナミクス基礎ゼミナール」を履修済み、あるいは、本授業と併行して履修していること。 前期に「グループ・ダイナミクスA」の単位を取得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席とレポート）									
-----									
グループ・ダイナミクス演習B(2)へ続く									

授業科目名 <英訳>	人間行動論 Human Behaviour	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 高橋 由典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
体験選択概念を社会分析のツールとして精練する可能性を探る。今年度は「動機としての体験選択」について考えることを通じて、体験選択概念の経験的事象への応用可能性を見極めたい。									
【授業計画と内容】									
最初に体験選択概念の意味を確定したのち、この概念を用いた現実分析の可能性を探る。体験選択は人間の経験の動性に注目した概念だが、この動性への着目は、遊びや芸術、宗教といった現象の分析に大きな寄与をなす。本講義では動機カテゴリーとしての体験選択について考察を進めることを通じて、この概念が、遊びについての社会学的研究や宗教社会学に対してどのような貢献を果たしうるかを考えてみたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期中のレポートおよび期末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 高橋由典『行為論的思考 - 体験選択と社会学』（ミネルヴァ書房）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 文学部、文学研究科、人間・環境学研究科と共通 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会情報論 Socio-Information Studies	担当者氏名	情報科学研究センター 教授 吉田 純						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ハーバーマス、ギデンズ、ベックらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の順序で、各項目について1～3回の講義をおこなう。 1 情報ネットワーク社会への視点 2 日本社会 / アメリカ社会における情報化 3 CMC (Computer Mediated Communication) 空間の展開 4 生活世界のリアリティの再編成 5 再帰的近代化としての情報化 6 監視社会論 7 リスク社会論 8 社会空間の再編成 9 親密圏・公共圏の再編成									
【履修要件】									
社会学関係の全学共通科目を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
中間・期末の2回のレポートによる（配点は中間30点・期末70点とする）									
【教科書】									
使用しない プリントを配布する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
<a href="https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/sis/">https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/sis/</a> (授業専用サイトで、資料配付、レポート提出、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間行動論演習 B Seminar on Human Behavior B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高橋 由典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間行動論の領域における卒業論文作成のための演習を行う。									
【授業計画と内容】									
人間行動論で学んだ内容をふまえ、人間行動と社会の関係、あるいは人間行動の諸問題をめぐる内外の最新の関連文献の中から特に重要と考えられるものをいくつか選んで講読する。毎回、受講者の分担報告に基づいて討論を行い、各自の関心領域への理解を深めるとともに問題意識の明確化をはかることによって、卒業論文作成に向けての準備を行う。 初回の授業時に、受講者の希望も聞きながら、報告予定を決める。									
【履修要件】									
前期の「人間行動論演習A」との連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「社会情報論演習A,B」（吉田純教授）を履修し、4回生時に本演習を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学期末レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間行動論演習 A Seminar on Human Behavior A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高橋 由典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間行動論の領域における卒業論文作成のための演習を行う。									
【授業計画と内容】									
人間行動論で学んだ内容をふまえ、人間行動と社会の関係、あるいは人間行動の諸問題をめぐる内外の最新の関連文献の中から特に重要と考えられるものをいくつか選んで講読する。毎回、受講者の分担報告に基づいて討論を行い、各自の関心領域への理解を深めるとともに問題意識の明確化をはかることによって、卒業論文作成に向けての準備を行う。 初回の授業時に、受講者の希望も聞きながら、報告予定を決める。									
【履修要件】									
後期の「人間行動論演習 B」との連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「社会情報論演習A,B」（吉田純教授）を履修し、4回生時に本演習を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会情報論演習 A Seminar on Socio-Information Studies A	担当者氏名	情報科学研究センター 教授 吉田 純						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
社会情報論の領域における卒業論文作成のための演習をおこなう									
【授業計画と内容】									
受講者各自の問題関心に基づき、情報と社会との関係、あるいは現代の情報ネットワーク社会の諸問題をめぐる内外の最新の関連文献の中からとくに重要と考えられるものを選んで講読する。毎回、受講者の分担報告に基づいて討論をおこない、各自の関心領域への理解を深めるとともに問題意識の明確化をはかることによって、卒業論文作成に向けての準備をおこなう。 スケジュールは、第1回目の授業で受講者の希望に基づき調整する。									
【履修要件】									
後期の「社会情報論演習 B」への連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「人間行動論演習A,B」（高橋由典教授）を履修し、4回生時に本演習および「社会情報論演習 B」を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会情報論演習 B Seminar on Socio-Information Studies B	担当者氏名	こころの未来研究センター 教授 吉田 純						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
社会情報論の領域における卒業論文作成のための演習をおこなう									
【授業計画と内容】									
社会情報論および社会情報論演習 A で学んだ内容を踏まえ、情報と社会との関係、あるいは現代の情報ネットワーク社会の諸問題とくに関心をもつ学生を対象として、卒業論文作成のための演習をおこなう。受講者各自の論文作成計画の報告に対して、指導・助言および出席者全員での討論をおこなう。 スケジュールについては、原則として第1回目の授業で、受講者の希望に基づき調整する。									
【履修要件】									
前期の「社会情報論演習 A」からの連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「人間行動論演習 A, B」(高橋由典教授)を履修し、4回生時に「社会情報論演習 A」および本演習を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学期末レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学研究方法論演習 A Seminar in Research Methods for the Study of Religion	担当者氏名	こころの未来研究センター 教授 カール・ベッカー						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
宗教を研究する為には、倫理学、人類学、社会学、心理学、哲学、文学批評、化学史、政治等の学問体系を股がらざるを得ない。本演習 2 では、夫々の学問領域の成立と方法論を参考に、情報の検索・収集・分析から、論理構造や目次作りまで、学生の発表を含め、高度な論文の書き方を目指して指導する。									
【授業計画と内容】									
下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題を一緒に添削・訂正する									
研究の基本的姿勢と目標									
テーマの選び方・絞り方									
ノートやメモの取り方									
情報収集の仕方									
論理構造の形成									
優れた研究の事例検討									
図表やポスター、スライドの作り方									
論文調の表現や注意点									
【履修要件】									
論文作成は、数冊の本を読めば出来る研究ではなく、広範囲な文献収集を要するので、明確な研究仮説及び計画的な時間配分を心がけられる学生を期待する。									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の出席と宿題提出、勉強した上の積極的な参加や発言で評価するので真摯な学生を期待する。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 高橋昭男著、『仕事文の書き方』岩波新書；小笠原誠、『読み書きの技法』筑摩書房									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生命倫理学 Bioethics	担当者氏名	こころの未来研究センター 教授 カール・ベッカー						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
高齢少子化社会の倫理道徳的行動基盤、生と死に関する究極的な価値基準、生き方と死に方の理想像、そして自然界・宇宙の中の人間の理想像や位置付けを考える。特に、医療から発生する様々な倫理的困難を事例検討の対象とする。例えば、インフォームド・コンセント(治療選択・自己決定権)、Truth-Telling(告知)、医療情報の公開・透明性・所有権、を出発点として、公共資源分配と医療保険制度の問題点を提起し、また医療倫理学の思考法の問題点も検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は次の様な問題を取り上げる。 社会の倫理・道徳とは 高齢少子化社会 自己決定？ 病名・余命告知 情報開示 優先順位の根拠 予防医学の観点 不治と末期 死の看取り 医療従事者の健康 など									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の出席と宿題提出、勉強した上の積極的な参加や発言で評価するので真摯な学生を期待する。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会心理学演習 A Seminar on Social Psychology A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 糸田 諒(Motoko Negata)						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
社会心理学の分野で卒業研究を行うために必要な理論と方法を学ぶ									
【授業計画と内容】									
【理論編】 『あなたへの社会構成主義』(K. J. ガーゲン著)の輪読を通して、社会構成主義のメタ理論、理論、方法論を詳しく学ぶ。項目は次の通り。 1. 伝統的人間観の行きつまり 2. 共同体による構成 事実と価値 3. 対話の力 明日を創る試み 4. 社会構成主義の地平 5. 「個人主義的な自己」から「関係性の中の自己」へ 6. 理論と実践(1) 対話のもつ可能性 7. 理論と実践(2) 心理療法・組織変革・教育・研究 8. 理論と実践(3) マスメディア・権力・インターネット 9. 「批判に答える」 【方法編】 フィールド実習を通して、質的研究法を学ぶ。									
【履修要件】									
全学共通科目「社会心理学」「社会心理学基礎ゼミナール」を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の出席と発表、期末レポート提出									
【教科書】									
K. J. ガーゲン、東村知子(訳)『あなたへの社会構成主義』(ナカニシヤ出版)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
本授業の履修は、社会心理学の分野で卒業研究を行うための必須条件である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会心理学演習 B Seminar on Social Psychology B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 細 野(Morihiko Nagata)						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 社会心理学の分野で卒業研究を行うために必要な理論と方法を学ぶ									
【授業計画と内容】 【理論編】 ラトウール『科学が作られているとき』を輪読し、アクターネットワーク理論を学ぶ。(7回程度)  【方法編】 集団間コンフリクトを分析する数理モデルとして、ゲーム理論の1種である「コンフリクト解析」の実習を行う。数学、ゲーム理論に関する予備知識は必要ない。(7回程度)									
【履修要件】 前期の「社会心理学演習A」からの連続した履修を推薦する。 全学共通科目「社会心理学」「社会心理学基礎ゼミナール」を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】 毎回の出席、発表、レポート提出									
【教科書】 B.ラトウール、川崎勝・高田紀代志(訳)『科学が作られているとき』(産業図書)									
【参考書等】 (参考書) 「コンフリクト解析」については、授業中にプリントを配布する。  (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 本授業の履修は、社会心理学の分野で卒業研究を行うための必須条件である。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヒストリー・オブ・アイディアズ演習 B Seminar on History of Ideas B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 多賀 茂						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 <現代思想を原語で読む>  文体・用語法等の特徴に注目しながら、思想家の文章を講読することによって、将来の研究のための十分な基礎となるレベルまでフランス語の読解能力を高めることをめざす。									
【授業計画と内容】 Lecture de quelques textes modernes sur le milieu, les techniques, les institutions, la folie...  1. F. Guattari, Ecrits pour l' ' Anti-OEdipe 解説 2. F. Guattari, Ecrits pour l' ' Anti-OEdipe 3. F. Guattari, Ecrits pour l' ' Anti-OEdipe 4. F. Guattari, Ecrits pour l' ' Anti-OEdipe 5. F. Guattari, Ecrits pour l' ' Anti-OEdipe 6. Gilbert Simondon, L' ' Invention dans les techniques 解説 7. Gilbert Simondon, L' ' Invention dans les techniques 8. Gilbert Simondon, L' ' Invention dans les techniques 9. Gilbert Simondon, L' ' Invention dans les techniques 10. Gilbert Simondon, L' ' Invention dans les techniques 11. Henri Maldiney, Penser l' ' homme et la folie 解説 12. Henri Maldiney, Penser l' ' homme et la folie 13. Henri Maldiney, Penser l' ' homme et la folie 14. Henri Maldiney, Penser l' ' homme et la folie 15. Henri Maldiney, Penser l' ' homme et la folie									
【履修要件】 最低限フランス語初級文法を終えていること									
【成績評価の方法・基準】 平常点と最終日に行う小テストの成績とを合わせて評価する									
【教科書】 授業中に指示する 必要なテキストは随時コピーして配布します									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する  (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヒストリー・オブ・アイディアズA History of Ideas A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 多賀 茂						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 「生政治」の中で人間を守るとは、無意識を守ることなのかもしれない。薬物中心の治療や、無意識を否定するような認知療法などが主流になる中で、無意識を守ること、無意識の場所を確保することは、人間を守ること、人間の人間たる所以を守ることである。社会の中での生活、個人の生活、人間関係、環境のなかの人間・・・さまざまな観点から「無意識への配慮」の可能性を探ってみたい。									
【授業計画と内容】 1. 前年度までのまとめと今年度のテーマへの導入 2. 無意識の発明 3. 生政治の時代 4. 後期フーコーの読み直し 5. 制度を使う精神療法とスキゾアナリーズ 6. 評価・拠点化・競争・効率・・・ 7. 政治制度と人間 8. 田園と人間 9. 都市と人間 10. 住居・インテリアと人間 11. 衣服(ファッション)と人間 12. 労働と余暇 13. 欲望と症状 &#8211;1 14. 欲望と症状 &#8211;2 15. まとめ									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 レポートによる									
【教科書】 授業中に指示する 必要なプリントを随時コピーして渡します									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する  (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論IA Cinema Studies IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 加藤 幹郎						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 現代芸術と現代表象文化と現代イデオロギーに関わる映画学について、その多様な関係性から映画のテクニカルな側面を同時に、人間精神を多種多様なイデオロギーから距離をおいた芸術作品としての映画作品の分析方法を広い視野から、かつ多角的な視点から考察します。									
【授業計画と内容】 下記の問題機制について、1 問題機制あたり、1 ~ 3 週の講義をする予定です。1 映画美術と映画空間構成との関係 2 映画演出と俳優の演技との関係 3 映画のテクニカルな側面と諸映画理論との関係 4 映画作家主義と映画産業との関係 5 映画美学と映像文化との関係 6 映像と音響の関係 7 映画とイデオロギーとの関係 8 世界映画史と日本映画史との関係 9 初期映画と古典的映画との関係									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 学期末レポートと講義中のディスカッションへの参加の度合いに応じて評価します									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 加藤幹郎『列挙映画特別講義―芸術の条件』(岩波書店) 加藤幹郎『映画館と観客の文化史』(中公新書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】 オフィスアワーは水曜日午後4時20分から5時20分まで。できるだけあらかじめアポイントメントをとっておいてください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論 I I B Cinema Studies IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 英男						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ジャンル映画についての具体的な考察、映画史的展望									
【授業計画と内容】									
アメリカおよびイギリス映画について、それぞれ代表的なジャンルを選び、具体的作品に即して考察します。本年度はミュージカル映画を予定しています。映画を具体的な相貌のもとにとらえるためには、映画テキストを丹念に観ることはもちろん、批評および映画史の理解が必要です。講義とはいえ、基礎訓練を含んだものと考えています。									
【履修要件】									
英語圏の映画に興味があり、自分で作品を観る時間と意欲があること。英語力は言うまでもありません。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テストで総合的に評価します。常時出席が前提。初回に欠席の場合は、登録しても一切評価の対象にはなりません。教科書必須。									
【教科書】									
Steven Cohan 『Hollywood Musicals, The Film Reader』(Routledge) 前後期共通。Amazon等で各自購入すること。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://www.eonet.ne.jp/~wildbird/00entrance.html">http://www.eonet.ne.jp/~wildbird/00entrance.html</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論演習 I I A Seminar Cinema Studies IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 英男						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ジャンル映画についての具体的な考察、批評文献の読解									
【授業計画と内容】									
アメリカおよびイギリス映画について、それぞれ代表的なジャンルを選び、具体的作品に即して考察します。本年度はミュージカル映画を予定しています。「演習」ですから、映画テキストを丹念に観ることはもちろん、批評テキストをきちんと読むことが必要です。									
【履修要件】									
英語圏の映画に興味があり、自分で作品を観る時間と意欲があること。英語力は言うまでもありません。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テストなどで総合的に評価します。常時出席が前提。初回に欠席の場合は、登録しても一切評価の対象にはなりません。教科書必須。									
【教科書】									
Steven Cohan 『Hollywood Musicals, The Film Reader』(Routledge) 前後期共通。必須。Amazon等で各自購入すること。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://www.eonet.ne.jp/~wildbird/00entrance.html">http://www.eonet.ne.jp/~wildbird/00entrance.html</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論演習 I B Seminar on Cinema Studies IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 加藤 幹郎						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現代イデオロギーから人間精神を解放し、浄化し、精神治療をはかりうる自然動物たる人間の精神の最高の達成カテゴリーたる現代芸術と現代表象文化に関わる映画史にもとづく映画学について、作家論、ジャンル論、技法論、その他、多様な視点から芸術作品としての映画作品の分析方法を習得できるように、映画学の多様な問題機制を広汎な文脈から検討します。									
【授業計画と内容】									
参加学生の興味のある映画学の諸相について、各学生の口頭発表を順次おこないながら、参加者のあいだで綿密なディスカッションをおこないます。またそれに合わせて、必要な研究文献の講読もおこないます。映画学の問題機制は広汎ですが、下記に数例、列挙しますから参考にしてください。1 世界映画史と日本映画史との関連 2 映画美術と映画空間構成との関係 3 映画作家主義と映画産業史との関連 4 映画美学と映像文化との関連 5 映像と音響の関連 6 映画的テキスト分析の手法と書映画理論との関連。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
口頭発表とディスカッションへの参加の度合いに応じて評価します。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 加藤幹郎 『列車映画特別講義――芸術の条件』(岩波書店)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは水曜日午後4時20分から5時20分までです。できるだけあらかじめアポイントメントをとっておいてください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	制度・生活文化史 A Cultural History of Social Institutions and Life A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ドイツ映画に第二次世界大戦後の社会を見る									
【授業計画と内容】									
第二次世界大戦敗戦後、ドイツは東西ドイツに分裂し、西ドイツはとくにアメリカの支援のもと、高度経済成長を上げた。 1950年代 アデナウアー時代のドイツ映画は、センチメンタルな「ふるさと」映画、アメリカ・インディアンを題材としたカール・マイ作の冒険小説の映画化、恋愛映画などが主で、ナチスの時代の記憶を抑制して生活の苦しみからの回復と安心を約束するような、受動的で幸福な消費形態であった。 いっぽう他の国々では、50年代末から、旧来の映画に対する対抗運動が行われ、観客が批判的に映画に関わることを求めるようになった。 ドイツでも、60年代初頭に、ドイツ映画の現状を批判し、新しい方向性を提案する動きが生まれ、「ババの安寝とした映画」からの脱却を宣言し、「奇跡の経済復興」時代の「偽り」の映画に対して、西ドイツの現実を示すような、新しい映画の提案がなされ、さまざまな映画作品が生まれ、興業の制度の改革も行われるようになった。 本講義では、同時代の社会状況をえぐりだした作品を実際に見ながら、戦後社会の問題について考える。									
【履修要件】									
実際に映画を見て、感想を提出してもらったうえで、その作品について論じてゆくので、毎回の出席が求められる。また映画上映時は、一回で作品を見終えるため、授業時間が延長になる(午後7時を超えることもある)ので、その心づもりをしておくこと。(最後まで映画を見るのが履修条件です。)									
【成績評価の方法・基準】									
成績は、授業への参加度(感想、授業中の議論への参加)および、期末レポートによって評価する。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	制度・生活文化史演習 A Seminar on Cultural History of Social Institutions and Life A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化社会論、制度・生活文化史に関する考察を深める。この分野で卒論を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。									
【授業計画と内容】									
文化社会論、制度・生活文化史に関する考察を深める。この分野で卒論を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。 参加者の関心および卒論のテーマにしたがって、文献発表および論文の中間発表などを行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習における発表、議論、レポートなどで、総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	メディア・スタディーズIIB Media Studies IIB	担当者氏名	京都造形芸術大学 准教授 河田 学						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
言葉本来の意味に遡って考えるならば、「メディア」とは何かと何かの間であって、私たちの広い意味でのコミュニケーションを媒介するものごとである。そう考えると私たちが他者に意思を伝達するとき用いている言語はもともと身近なメディアといえるかもしれない。さらには言語情報を二次的に媒介する文字や活字、あるいは視覚的情報を媒介する写真、聴覚的情報を媒介するレコード、オーディオテープやラジオ、これらのさらに複合的な形態であるビデオやテレビ、インターネットなども当然メディアである。しかし、メディアは媒介するものではあるが、かならずしも情報を伝えるだけの「透明」な存在ではない。そうではないというまさにその事実、メディアについて考えるべき意義がある。 本年度のメディア・スタディーズIIBでは、これら言語・言語メディア、視覚メディア、音響メディアについて、メディアとそれが伝達する内容との関係について理解を深める。									
【授業計画と内容】									
授業は4～5人の担当者による集中講義の形式で行う予定。詳細は追って掲示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび授業への参加状況を総合して成績評価とする。詳細は初回授業内で告知する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	制度・生活文化史演習 B Seminar on Cultural History of Social Institutions and Life B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化社会論、制度・生活文化史に関する考察を深める。この分野で卒論を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。									
【授業計画と内容】									
文化社会論、制度・生活文化史に関する考察を深める。この分野で卒論を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。 参加者の関心および卒論のテーマにしたがって、文献発表および論文の中間発表などを行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習における発表、議論、レポートなどで、総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自己存在論I Ontology of Self I	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 安部 浩						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
「自己存在」は人間存在を特色づける基本的な規定の一つであり、哲学史上、精神、主体、自己意識、実存、現存在、一人称といった概念の下で究明され続けてきたものである。時の古今を問わず、洋の東西を問わず、こうした考察が絶えず繰り返されているという事実は、「今ここにこうしてある私とは何者であるのか」という問いが、我々にとっていかに根源的であり、そしてまたいかに抜き差しならないものであるかをいみじくも物語っているとさえいえる。 本講義のねらいは、そのような「自己存在」を基軸としながら、主として近現代の哲学における諸問題を考究し、もって受講者各人自身による思索の歩みを裨益せんとすることにある。 もとより「ゼルブスト・デンケン(自分で考え抜くこと)」は、決して一朝一夕になしうるものではない。だがそれこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを受講生諸氏が本講義を通して感得されんことを冀ってやまない。									
【授業計画と内容】									
フィヒテ等が強調するように、なるほど自己存在の特質は、自己が自分自身で自分自身をして存在せしめる点(「自己指定」)にあると言いうるのである。しかしながらその反面、自己存在が他の存在者との関わりなくしては成立しえないこともまた否み難い。本年度の「自己存在論I」において「共生」の問題が取り上げられる所以はここにある。 そこで本講義では、如上の問題意識に基づき、日本人の自然・人間観との関係にも留意しつつ、特に「自然との共生」について論ずることとする。 目下のところ、以下のような課題について、1課題あたり1～2週間の授業をする予定である。 1. 「安楽」に抗して 「形而上学的なるもの革命」としての哲学 2. 自然界における共生現象 「間接効果」の重要性 3. 共生現象に即応しうるロゴスの探求 龍樹と山内得立 4. いかにして「自然との共生」を果たしうるか 「予防原則」の再考 5. 何故に「自然との共生」を果たさねばならないか 「予防原則」の根拠づけ 6. 日本人の自然観 古代ギリシアの自然観との近さ 7. 日本人の人間観 自然といかに共生すべきか									
【履修要件】									
哲学系科目Ⅱ(哲学Ⅰ・Ⅱ、倫理学Ⅰ・Ⅱ、科学論Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ等)の中、少なくとも一つを既修していることが望ましいが、そうでない場合にも本授業を履修して頂くことは可能である(その代わりに頑張る私の話に付けて下さい)。									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験によって評価する。									
自己存在論I(2)へ続く									

自己存在論I (2)	
-----	
【教科書】 使用しない	
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

自己存在論II (2)	
-----	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 受講に際しては、デカルトの『省察』、フィヒテの『全知識学の基礎』(1794年)、西田の『自覚における直観と反省』を予め読んでおくことが極めて望ましい。しかしながらそうでない場合にも本授業を履修して頂くことは可能である(その代わりに頑張って私の話に付いてきて下さい)。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	自己存在論II Ontology of Self II	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 安部 浩						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 「自己存在」は人間存在を特色づける基本的な規定の一つであり、哲学史上、精神、主体、自己意識、実存、現存在、一人称といった概念の下で究明され続けてきたものである。時の古今を問わず、洋の東西を問わず、こうした考察が絶えず繰り返されているという事実は、「今ここにこうしてある私とは何者であるのか」という問いが、我々にとっていかに根源的であり、そしてまたいかに抜き差しならないものであるかをいみじくも物語っていると見えよう。 本講義のねらいは、そのような「自己存在」を基軸としながら、主として近現代の哲学における諸問題を考究し、もって受講者各人自身による思索の歩みを裨益せんとすることにある。 もとより「ゼルブスト・デンケン(自分で考え抜くこと)」は、決して一朝一夕になしうものではない。だがそれこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを受講生諸氏が本講義を通して感得されんことを冀ってやまない。									
【授業計画と内容】 本年度の「自己存在論II」は「西洋・日本哲学の自己存在論」というテーマを取り上げる。その際主として、西洋哲学においてはデカルトとフィヒテ、日本哲学では西田幾多郎に論及することにした。 目下のところ、以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。 1. 西洋と日本の文学の対比 伊藤整の比較文学論 2. 「私小説」とは何か 3. 『省察』におけるデカルトの自己存在論 4. 『全知識学の基礎』(1794年)におけるフィヒテの自己存在論 5. 『自覚における直観と反省』における西田の自己存在論									
【履修要件】 哲学系科目Ⅱ(哲学Ⅰ・Ⅱ、倫理学Ⅰ・Ⅱ、科学論Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ等)の中、少なくとも一つを既修していることが極めて望ましい。しかしながらそうでない場合にも本授業を履修して頂くことは可能である(その代わりに頑張って私の話に付いてきて下さい)。									
【成績評価の方法・基準】 レポート試験によって評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
----- 自己存在論II (2)へ続く									

授業科目名 <英訳>	自己存在論演習I Seminar on Ontology of Self I	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 安部 浩						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖が陸続と登場した「ゲテ時代」、これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、一人の早熟の天才が時代を鮮やかに駆け抜けた。F.W.J.シェリング(1775-1854)。彼が世に残した膨大な著述群の中でも、就中『人間の自由の本質』は、疑いなく最重要作の一つである。では「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由との対立」なる問題をシェリングはどのように考えるのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」と目されるこの著作を冒頭から最後まで読み進めていくことで、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。									
【授業計画と内容】 原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。それぞれの回には、次の箇所を読む予定である。以下、内容の梗概に続いて、括弧内に、教科書の頁番号を(また必要に応じ、その後斜線を付して行番号をも)示す。 1. ガイダンスと前期の復習 2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22) 3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-57/17) 4. 「悪の現実性の演繹・その5」(57/18-59) 5. 「悪の現実性の演繹・その6」(60-63/18) 6. 「悪の現実性の演繹・その7」(63/19-66/4) 7. 「神の自由・その1」(66/5-68/15) 8. 「神の自由・その2」(68/16-70/29) 9. 「神の自由・その3」(70/30-73/21) 10. 「神の自由・その4」および「神の自己啓示の目標(愛の「全にして一」なる性格)・その1」(73/22-77/27) 11. 「神の自己啓示の目標(愛の「全にして一」なる性格)・その2」(77/28-80/20) 12. 「神の自己啓示の目標(愛の「全にして一」なる性格)・その3」(80/21-84/31) 13. 「神の自己啓示の目標(愛の「全にして一」なる性格)・その4」(84/32-87) 14. ハイデガーの「自由論」解釈 15. 総合討議									
【履修要件】 ドイツ語を既修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 平常点で評価する。									
----- 自己存在論演習I (2)へ続く									

自己存在論演習I (2)	
-----	
【教科書】	
F.W.J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X ( Philosophische Bibliothek 503 )	
【参考書等】	
( 参考書 ) シェリング 『人間の自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2) F.W.J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 ( Open Court Publishing Company ) ISBN:087548025X Martin Heidegger 『Gesamtausgabe Bd.42』 ( Klostermann ) Martin Heidegger 『Gesamtausgabe Bd.49』 ( Klostermann )	
( その他 ( 授業外学習の指示・オフィスアワー等 ) )	
受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

自己存在論演習II (2)	
-----	
【教科書】	
I. Kant 『Kritik der reinen Vernunft』 (Meiner) ISBN:978-3-7873-1319-8 ( Philosophische Bibliothek 505 )	
【参考書等】	
( 参考書 ) I. Kant 『Critique of Pure Reason』 ( Cambridge University Press ) ISBN:978-0-521-65729-7 ( The Cambridge Edition of the Works of Immanuel Kant ) カント 『純粋理性批判 (全三巻)』 (平凡社) (平凡社ライブラリー-527/539/553)	
( その他 ( 授業外学習の指示・オフィスアワー等 ) )	
受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名	自己存在論演習II	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 安部 浩
<英訳>	Seminar on Ontology of Self II		
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
カントの『純粋理性批判』この古典的な大著で繰り広げられる議論の中でも自他共に認める山場の一つは、「カテゴリーの超越論的演繹」である。本演習ではこの有名な箇所を取り上げ、A版もB版も共に読み進めることにしたい。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。			
【授業計画と内容】			
原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。それぞれの回には、次の箇所を読む予定である。以下、内容の梗概に続いて、括弧内に『純粋理性批判』の原典版頁番号を示す。 1. ガイダンスと前期の復習 2. 「超越論的演繹の原理」(A84/B116-A92/B124) 3. 「超越論的演繹への移行」(A92/B124-A95/B129) 4. 「経験の可能性の為のアプリオリな根拠」および「三重の総合・その1」(A95-A102) 5. 「三重の総合・その2」(A103-A110) 6. 「アプリオリな認識としてのカテゴリーの可能性・その1」(A110-A117) 7. 「アプリオリな認識としてのカテゴリーの可能性・その2」(A118-A124) 8. 「アプリオリな認識としてのカテゴリーの可能性・その3」(A124-A130) 9. 「結合一般の可能性」および「統覚の総合的統一・その1」(B129-B136) 10. 「統覚の総合的統一・その2」(B136-B142) 11. 「範疇による直観の多様の統括」および「範疇の適用の方法・その1」(B143-B149) 12. 「範疇の適用の方法・その2」(B150-B156) 13. 「範疇の適用の方法・その3」(B157-B163) 14. 「範疇の適用の方法・その4」および「演繹の成果と要約」(B163-B169) 15. 総合討論			
【履修要件】			
ドイツ語を既修していることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点で評価する。			
-----			
自己存在論演習II (2)へ続く			

授業科目名	認識人間学I	担当者氏名	非常勤講師 松枝 啓至
<英訳>	Epistemological Human Studies I		
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
哲学における重要な問題の一つである「懐疑論」を手掛かりにして、わたしたちは何をどのような仕方ですら正しく認識できるのか・知ることができるのか(いわゆる認識論・知識論という問題系)について考察を深めたい。そしてその問題系を意識しつつ、近代以降の自然科学的知識の成立過程についても検討したい。とりわけ17世紀の自然学と形而上学(神学を含む)との関係、および19世紀末の原子の実在性をめぐる論争に注目してみたい。			
【授業計画と内容】			
「哲学」のもともとの意味合いは「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」や「知恵」がどのようなものであるか、あるいはどのような仕方ですらわたしたちはそれらを手に入れることができるのか? これは哲学の伝統における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上で、この問題は避けて通れないものだろう。このような問題系は現在では一般には認識論・知識論と呼ばれている。そしてこのような問題系の中心テーマの一つが、「懐疑論・懐疑主義」というものである。			
前期の講義では、具体的にはまず古代ギリシャから近世までの懐疑論・懐疑主義の歴史を紹介する。つまり古代ギリシャのピュロン主義から始めて、近代のモンテーニュの懐疑主義やデカルトの方法懐疑を概観する。そのことで懐疑主義的な議論が基本的にどのようなものであるかが把握できよう。その上で現代の認識論・知識論における、懐疑論や懐疑主義への批判的議論を一つ参照しよう(ウィトゲンシュタインの哲学)。			
さらに知識の正当化の問題に関連して、近現代の自然科学における二つの事例を参照しつつ考察を深めよう。一つ目は17世紀の自然学、特にここではデカルトの自然学とニュートンの粒子説を取り上げる。知識の正当化に関しては特に、自然学の成立においてこの時代では形而上学・宗教との関わりが欠かさないことに注目したい。もう一つは19世紀末の原子の実在性をめぐる、マッハとボルツマンの論争である。ここではとりわけ、自然科学の方法論(帰納法や仮説演繹法)が問題の焦点となるだろう。			
【履修要件】			
西洋哲学について興味関心があり、哲学についての初歩的な知識があるとなおよい(できる限り丁寧な授業を心掛けるつもりです)。			
【成績評価の方法・基準】			
授業中に不定期に行う計5回の小テスト(1回につき8点)を40点分、学期末に提出してもらってレポートを60点分とし、合計100点満点として評価する。小テストは1回あたり2~30分程度で、その時までに講義した内容についての質問に答えてもらう(記述式)。配布物やノートなどを参照し回答して構わない。レポートに関しては、課題内容などは別途授業中に通知する(分量は2000字以上~4000字以内の予定)。			
-----			
認識人間学I (2)へ続く			

認識人間学I (2)
-----
<b>【教科書】</b>
特に使用しない。授業中に資料などを配布する。
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 佐藤義之・安部浩・戸田剛文編 『知を愛する者と疑う心 懐疑論八章』(晃洋書房) 松枝啓至 『デカルトの方法』(京都大学学術出版会) 松本啓二朗・戸田剛文編 『哲学するのになぜ哲学史を学ぶのか』(京都大学学術出版会)
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))
懐疑論や知識論に関わる議論を可能な限りいろいろ紹介したいので、情報過多となるかもしれませんが。できる限り丁寧な授業を心掛けますので、授業で扱うさまざまなテーマを一緒に考えていきましょう。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

認識人間学II (2)
-----
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 佐藤義之・安部浩・戸田剛文編 『知を愛する者と疑う心 懐疑論八章』(晃洋書房) 松枝啓至 『デカルトの方法』(京都大学学術出版会) 松本啓二朗・戸田剛文編 『哲学するのになぜ哲学史を学ぶのか』(京都大学学術出版会)
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))
懐疑論や知識論に関わる議論を可能な限りいろいろ紹介したいので、情報過多となるかもしれませんが。できる限り丁寧な授業を心掛けますので、授業で扱うさまざまなテーマを一緒に考えていきましょう。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	認識人間学II Epistemological Human Studies II	担当者氏名	非常勤講師 松枝 啓至
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	火2
授業形態	講義		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
哲学における重要な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、わたしたちは何をどのような仕方ですら正しく認識できるのか・知ることができるのか(いわゆる認識論・知識論という問題系)、について考察を深める。とりわけ現代の認識論における主要な立場である、基礎づけ主義と整合説、内在主義と外在主義という二つの対について、それぞれ詳しく紹介し考察を深めたい。比較的新しい立場である文脈主義についても検討する。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
「哲学」のもともとの意味合いは「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」や「知恵」がどのようなものであるか、あるいはどのような仕方ですらわたしたちはそれらを手に入れることができるのか? これは哲学の伝統における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上で、この問題は避けて通れないものだろう。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。そしてこのような問題系の中心テーマの一つが、「懐疑論・懐疑主義」というものである。			
後期の講義では、具体的にはまず前期の授業でも紹介したデカルトの方法的懐疑やヒュームの因果性についての懐疑を復習したうえで、現代の認識論における主要な立場について、できる限り詳細に紹介し、検討を加えていきたい。ここで取り上げるのは、基礎づけ主義と整合説という対と、内在主義と外在主義という対である。これらの立場はそれぞれ懐疑主義や懐疑論に密接に関連しており、知識の正当化を論じるうえでも各々検討を欠かすことはできない。			
さらに現代の認識論における比較的新しい立場である、文脈主義についても考察を深めたい。ここでは主にM.ウィリアムズの文脈主義を取り上げるが、文脈主義にもいろいろなバージョンがあるので、それらとの比較検討も試みたい。			
<b>【履修要件】</b>			
西洋哲学について興味関心があり、哲学についての初歩的な知識があるとなおよい(できる限り丁寧な授業を心掛けるつもりです)。			
<b>【成績評価の方法・基準】</b>			
授業中に不定期に行う計5回の小テスト(1回につき8点)を40点分、学期末に提出してもらったレポートを60点分とし、合計100点満点として評価する。小テストは1回あたり2~30分程度で、その時までには講義した内容についての質問に答えてもらう(記述式)。配布物やノートなどを参照し回答して構わない。レポートに関しては、課題内容などは別途授業中に通知する(分量は2000字以上~4000字以内の予定)。			
<b>【教科書】</b>			
特に使用しない。授業中に資料などを配布する。			
-----			
認識人間学II (2)へ続く			

授業科目名 <英訳>	認識人間学演習I Seminar on Epistemological Human Studies I	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 富田 恭彦
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月2
授業形態	演習		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
George Berkeley 著 A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge を原典で読み、その immaterialism がどのような仕方ですら John Locke の materialism の論理を基礎としていたかを明らかにします。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
George Berkeley の母校であるダブリンのトリニティ・カレッジでは、Locke と親交のあった William Molyneux のすすめにより、Locke の Essay を研究することが奨励されていました。Berkeley は、そうした状況下でトリニティ・カレッジで教育を受けた若者の一人であり、Locke 研究者としての面を、彼はしっかりともっていました。本演習では、Berkeley の Principles を原典で読み、彼が Locke の materialism の論理をどのように利用して自らの immaterialism を構築したかを考察しようとするものです。Principles の最初の部分でどのようにして Berkeley が一挙に自らの immaterialism を展開したかを、読み解くために必要な Locke に関する情報を順次確認しながら、その論理の基本を確認します。			
<b>【履修要件】</b>			
特になし			
<b>【成績評価の方法・基準】</b>			
レポート提出を条件とした上で、平常点(出席と和訳担当)を基本とします。			
<b>【教科書】</b>			
テキストは初回に配布します。			
<b>【参考書等】</b>			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
できれば、Locke の An Essay Concerning Human Understanding を各自読まれることをお勧めします。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	認識人間学演習II Seminar on Epistemological Human Studies II	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 富田 恭彦						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
George Berkeley 著 A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge を原典で読み、その immaterialism がどのような仕方であるか John Locke の materialism の論理を基盤としていたかを明らかにします。（「認識人間学演習A」の続きです。）									
【授業計画と内容】									
George Berkeley の母校であるダブリンのトリニティ・コレッジでは、Locke と親交のあった William Molyneux のすすめにより、Locke の Essay を研究することが奨励されていました。Berkeley は、そうした状況下でトリニティ・コレッジで教育を受けた若者の一人であり、Locke 研究者としての面を、彼はしっかりともっていました。本演習では、Berkeley の Principles を原典で読み、彼が Locke の materialism の論理をどのように利用して自らの immaterialism を構築したかを考察しようとするものです。Principles の最初の部分でどのようにして Berkeley が一歩に自らの immaterialism を展開したかを、読み解くために必要な Locke に関する情報を順次確認しながら、その論理の基本を確認します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出を条件とした上で、平常点（出席と和訳担当）を基本とします。									
【教科書】									
テキストは初回に配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
できれば、Locke の An Essay Concerning Human Understanding を各自読まれることをお奨めします。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	哲学・文化史II History of Philosophy and Culture II	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
自由意志をめぐる問題について、これまでどのような議論がなされていたのかを概観し、現代社会においても重要な問題である自由と責任についての多面的な考えを身につける。また自由と責任の問題だけでなく、思想史に関する知識を身につけることも、重要なテーマとしている。									
【授業計画と内容】									
自由がなぜ問題となってきたのかを歴史的にまず論じる。									
具体的には、中世における神学と自由意志をめぐる問題、近代のホッブズを源流とするような両立可能主義(compatibilism)にどのようなものがあるのかを、確認する。									
後半では、両立可能主義の続きにはじまり、両立不可能主義についての議論を考える。さらに、現代の科学が、自由と責任の問題について、どのような影響を及ぼしてきたかについて紹介する。									
さらに、こういった議論を手掛かりに、科学と哲学の関係を考える。									
学生にも数人（これまででは、4人）に、この問題に関する論文を読んで、その内容を解説してもらう。その場合、発表者以外にも、その論文を読んでくれることを要求する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席50% レポート50%で判定する。 ただし、論文の発表者は、その発表をもってレポートにかえる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	哲学・文化史I History of Philosophy and Culture I	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
色の哲学的議論を考察する。色をめぐる哲学的考察は、近代を源流とするもので、20世紀後半になって、生理学や言語学などの発展とともに、盛んに論じられるようになった。									
色の哲学とは、それが外界にある物質などの表面にあるという常識的なものの考え方と、色を物理・生理学的な過程の結果だとする科学的な考えの間で対立が生じ、それらがどのようにして調停されるのかということに考察するものである。									
われわれの日常的なものの概念がどのように複雑な構造をもっているのかということを考えることで、世界のありようについての考察を深める。									
【授業計画と内容】									
なぜ色が哲学において問題になるのか、特に、科学的な成果がどのようにしてわれわれの常識的な概念に変更を迫ることになったのかを論じる。また、現代の生理学の一部を紹介し、どのような生理学的な過程をへることで色の知覚が生じるのかを解説した。今回は、まずこれらの説明をダイジェストで説明する。									
また、後半では、色の客観主義や主観主義などのさらに詳細な学説を紹介する。									
色についての語り方などまでを射程に入れるつもりである。									
講義を受動的に聴くだけでなく、出席者の中から担当者を決めて、学術論文の内容の紹介を発表してもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席50% レポート50%で判定する。 ただし、論文の発表者は、その発表をもってレポートにかえる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	哲学・文化史演習I Seminar in History of Philosophy and Culture I	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
スコットランド常識学派の代表者といわれるトマス・リードの『人間の知的能力論』を原典で読む。									
リードは、近代イギリス経験論の影響をうけつつ、ロックからヒュームにいたる哲学者を批判した哲学者であり、その評価は近年ますます高まっている。知識とはどのようなものかを考える上でも、彼の議論は興味深い手掛かりをわれわれに与えてくれる。									
【授業計画と内容】									
とくに担当者を決めず、数行ずつ訳してもらいながら進めていく。									
途中で重要な人物や理論などについて、調べてもらって解説してもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学・文化史演習II Seminar in History of Philosophy and Culture II	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
自由やそれにかかわる責任について古典的論文をよみながらその理解を深める。									
現代においては、科学の発展とともに、われわれの行動の因果関係が明らかになり、それによって決定論的思考方が強い影響力を持っている。そのような中で自由という概念をどのように扱うべきなのかということは、現代における重要な哲学的問題である。									
【授業計画と内容】									
前半と後半にわけて、以下の論文を扱う。									
前半 A. J. Ayer, "Freedom and Necessity"									
後半 P. F. Strawson, "Freedom and Resentment"									
適切なところで区切った箇所を、担当者に要約、発表してもらい、残った時間でそれをみんなで検討していく、という形式をとる									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業中の発言									
【教科書】									
授業中に指示する テキストはこちらでコピーを用意する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論II Philosophical Theory of Human Acts II	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
講義ではレヴィナスの最初の名著『全体性と無限』を手がかりに他者と倫理について考えてみた。レヴィナスは、倫理について極限的な思考を展開するとともに、そこから哲学の根本的変革を企てた思想家である。									
【授業計画と内容】									
総題：レヴィナスの思想									
(1) 序 現象学という立場 他者の謎									
(2) 顔と倫理 顔の体験と無限の責任 「選び」とその根拠?									
(3) 同と他 同と他 同の具体的あり方 享受、労働、所有									
(4) 他者の絶対他性 テーマ化と同化 言語とテーマ化									
(5) 学に対する顔の先行性 教えと学問 「第一哲学としての倫理学」 批判的考察									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論I Philosophical Theory of Human Acts I	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
フランスの現象学者メルロ＝ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。『知覚の現象学』の時期の彼の思想の流れを知覚論、身体論を中心にたどってゆきたい。									
【授業計画と内容】									
総題：メルロ＝ポンティの思想									
(1) 現象学とは何か 現象学という立場									
(2) 身体:世界に住み込む、意味により組織化された身体 身体の謎 導入 機械的身体観と現実の身体 身体図式 実践の主体としての身体 ハイデガーを手がかりに 身体の主体と身体 実存と事実性									
(3) 実存による知覚 古典的知覚観批判 実存による知覚									
(4) 実存の意味と自然 実存の意味と知覚の意味 非人間的な自然と人間的意味									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論演習I Seminar on Philosophical Theory of Human Acts I	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
E. レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。本年度は彼の短い論文、「存在論は根源的か」(1951)を読む。 この論文において初めて、レヴィナスは倫理を核心的な主題として意識し、10年後の主著に継承される、倫理からの存在論批判という着想に至った。その意味でこの論文は短い彼の思想展開上非常に重要な著作である。また、短い著作であり、早い時期のものであるがゆえに、彼の意図が比較的とらえやすい形で伺えるであろう。									
【授業計画と内容】									
上記「存在論は根源的か」(L'ontologie est-elle fondamentale?) (1951)を仏語原典で精読する。									
【履修要件】									
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
テキストは上記論文(L'ontologie est-elle fondamentale?)をプリントにして配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論演習II Seminar on Philosophical Theory of Human Acts II	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
E. レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。前期「人間実践論演習I」に引き続き、彼の短い論文、「存在論は根源的か」(1951)を読み、読了後、同様短い論文、「ハイデガー、ガガーリン、われわれ」(1961)に移る。 前の論文において初めて、レヴィナスは倫理を核心的な主題として意識し、10年後の主著に継承される、倫理からの存在論批判という着想に至った。その意味でこの論文は短い彼の思想展開上非常に重要な著作である。あとの論文は倫理からの存在論批判の中核をなす、ハイデガー批判を展開したごく短い論文である。どちらも短い著作であるがゆえに、彼の意図が比較的とらえやすい形で伺えるであろう。									
【授業計画と内容】									
前期「人間実践論演習I」に引き続き、上記「存在論は根源的か」(L'ontologie est-elle fondamentale?)を読み、読了後、「ハイデガー、ガガーリン、われわれ」(Heidegger, Gagarine et nous.)を読む。いずれも仏語原典で精読する。									
【履修要件】									
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
テキストは上記論文をプリントにして配付する。									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造行為論演習A Seminar on the Theory of Creative Arts A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 篠原 資明						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生の指導をめざす。									
【授業計画と内容】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生に、発表と議論に参加してもらう。開講初日に、発表の順番を決め、進めていく。									
【履修要件】									
創造行為論演習Bを受講するのが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
発表と議論の内容による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは毎週金曜日15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間存在論特別演習 Special Seminar on Human Ontology	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之 人間・環境学研究科 教授 富田 恭彦 人間・環境学研究科 准教授 安部 浩 人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間存在論の諸問題に関する研究報告とその批判的検討									
【授業計画と内容】									
この演習は卒業論文指導の重要な一環であり、人間存在論専攻生が各自の研究成果を口頭で報告し、その報告内容を人間存在論担当の全教員および専攻生が批判的に検討・討議することによって、研究のより一層の深化を図ろうとするものである。初日に発表順等の打ち合わせを行う。									
【履修要件】									
人間存在論を専攻する卒業予定者であること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点と発表内容の評価との総合評価									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
この演習は必修科目ではないが、人間存在論専攻の卒業予定者は、単位の要不要に関わりなく受講されたい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造行為論演習B Seminar on the Theory of Creative Arts B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 篠原 資明						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生の指導をめざす。									
【授業計画と内容】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生に、発表と議論に参加してもらう。開講初日に、発表の順番を決め、進めていく。									
【履修要件】									
創造行為論演習Aを受講するのが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
発表と議論の内容による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは毎週金曜日15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	創造行為論講読演習I Readings in the Theory of Creative Arts I	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 篠原 資明						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 美学および芸術哲学に関する基本文献の知識と読解力を身につけるよう目指す。									
【授業計画と内容】 美学および芸術哲学に関する基本文献を提示し、その中から各自選んだ文献について報告し議論する。 受講生の要望があれば、場合によっては文献を加えることもある。 文献については、欧文、和文を問わない。 ただし、欧文については英・仏・伊・西・独に限る。 邦訳も使用可である。									
【履修要件】 後期（創造行為論講読演習）の連続した履修を推奨する。									
【成績評価の方法・基準】 講読演習への参加を重視する。試験は行わない。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワーは毎週金曜日 15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近代芸術論 B Theory of Modern Arts B	担当者氏名	京都工芸繊維大学 工学部 教授 並木 誠士						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 近代京都の芸術 明治以降の芸術に関して、前期では、おもに京都の状況を講義する。おもなテーマは、博覧会と博物館・美術館、展覧会、美術学校、日本画の展開、新しい図案、工芸の近代などである。 京都の伝統文化が新しい時代にどのように対応したか、その結果はどうであったか、などの視点が獲得できるように講義を進める。									
【授業計画と内容】 01 ガイダンス - 時代の概観 02 - 04 博覧会と美術館・博物館 05 - 06 美術学校 06 - 09 日本画の展開 10 - 13 新しい図案 14 工芸の近代 陶芸・染織 15 総括									
【履修要件】 前期の「近代芸術論A」を受講していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 学期末の試験とする。									
【教科書】 並木ほか編 『京都-伝統工芸の近代（仮）』（思文閣出版社）									
【参考書等】 （参考書） 『美術でたどる日本の歴史』（ナツメ社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 講義はスライド等を用いるので、手元ライトを持参すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	創造行為論講読演習II Readings in the Theory of Creative Arts II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 篠原 資明						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 美学および芸術哲学に関する基本文献の知識と読解力を身につけるよう目指す。									
【授業計画と内容】 美学および芸術哲学に関する基本文献を提示し、その中から各自選んだ文献について報告し議論する。 受講生の要望があれば、場合によっては文献を加えることもある。 文献については、欧文、和文を問わない。 ただし、欧文については英・仏・伊・西・独に限る。 邦訳も使用可である。									
【履修要件】 前期（創造行為論講読演習）との連続した履修を推奨する。									
【成績評価の方法・基準】 講読演習への参加を重視する。試験は行わない。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワーは毎週金曜日 15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近代芸術論演習 A Seminar on Theory of Modern Arts A	担当者氏名	京都造形芸術大学 教授 上村 博						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 今日自明のものとして受け入れているさまざまな芸術制度は、「芸術」というジャンルそのものの概念をはじめ、感性や美、そして技術や知を巡る理論的反省の歴史ときわめて強くむすびついています。本科目では近代の芸術論の成立に至るまでの諸理論を、古典的テキスト（日本語版を使用）に基づきながら辿り、今日の芸術制作や受容を規制する枠組みがどのように形成されたのかを考察します。授業では受講者ごとに数回の分担課題の口頭発表が求められます。									
【授業計画と内容】 1 「芸術」という領域の成立 2 形式とアイデア（二元論の問題） 3 悲劇と有機体の理論 4 科学としての芸術 5 「創造」概念の出自 6 Disegnoという概念 7 天才の人間化 8-9 美と感性をめぐる諸理論 10-11 進歩と「芸術史」の思想 12 諸国民の芸術と文化遺産の問題 13 環境決定論の系譜 14 純粹視覚性の理論 15 「現代美術」の問題  以上の進行は学生の関心や理解に応じて変更する場合があります。									
【履修要件】 概説書等で美術史や哲学史の流れを把握しておくことが望ましいです。必須というわけではありません。									
【成績評価の方法・基準】 授業時の発表により評価し、その内容と授業への参加度（各発表者への質問やコメント）によります。									
【教科書】 資料については授業時に適宜配付。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	近代芸術論演習 B Seminar on Theory of Modern Arts B	担当者氏名	神戸大学 准教授 前川 修						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
写真論といえば、つねにベンヤミン、バルト、ソンタグという写真論御三家が参照されてきた。しかしそれ以後に発表された、バーギン、セクーラ、タッグらのポストモダンの写真論（ポルトン『意味の抗争』）、あるいはオクトーバー派の写真論（クラウス、ブクロー）、その後のパッチェンの写真論、あるいは90年代以降のデジタル写真言説などは、依然として包括的に議論されてはいない。この授業では、こうした写真論の系譜を紹介するとともに、さらに写真の圏域を広げ、視覚文化のなかでの写真の位置や問題を具体的に考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
1 イントロダクション 2 テキストとコンテキスト 3 モダニズムとポストモダニズム 4 写真の展示 5 写真と記号論 6 写真とアーカイブ 7 写真と監視 8 写真と心霊主義 9 写真と映画 10 アマチュア写真論									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示した文献を各自読んでおくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	舞台芸術論演習 B Seminar on Performing Arts B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 桑山 智成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
次の3点を目標にしながら、シェイクスピアの『オセロー』(後半)を読み、この作品の演劇上演としての芸術性に迫る。1) 台詞の韻律(リズム)を理解し、ある程度実践もできること。2) 台詞の意味や機能を深く理解すること、3) 役者の身体や、観客の視線等、当時の演劇空間を意識しながら脚本を読めるようになること、の3点である。									
【授業計画と内容】									
毎時間1、2場面ずつ原文の読み合わせを行い、場面の演劇的特徴や劇の構成について分析していく。予習では、台詞の意味内容だけでなく韻律についても準備することが求められる。韻律や劇場形態に関しては初回の授業で解説する。 期末にはレポートだけでなく、戯曲を立体的に理解するために、台詞を覚え、読み上げる発表を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加の積極性と、台詞を覚えて読む発表、そしてレポートによって判断する。									
【教科書】									
W. Shakespeare 『Othello』(Cambridge University Press) ISBN:0521535174 (ed., Norman Sanders) ウィリアム・シェイクスピア 『オセロー』(ちくま文庫) ISBN:4480033130 (松岡和子 訳)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	舞台芸術論演習 A Seminar on Performing Arts A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 桑山 智成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
次の3点を目標にしながら、シェイクスピアの『オセロー』(前半)を読み、この作品の演劇上演としての芸術性に迫る。1) 台詞の韻律(リズム)を理解し、ある程度実践もできること。2) 台詞の意味や機能を深く理解すること、3) 役者の身体や、観客の視線等、当時の演劇空間を意識しながら脚本を読めるようになること、の3点である。									
【授業計画と内容】									
毎時間1、2場面ずつ原文の読み合わせを行い、場面の演劇的特徴や劇の構成について分析していく。予習では、台詞の意味内容だけでなく韻律についても準備することが求められる。韻律や劇場形態に関しては初回の授業で解説する。 期末にはレポートだけでなく、戯曲を立体的に理解するために、台詞を覚え、読み上げる発表を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加の積極性と、台詞を覚えて読む発表、そしてレポートによって判断する。									
【教科書】									
W. Shakespeare 『Othello』(Cambridge University Press) ISBN:0521535174 (ed., Norman Sanders) ウィリアム・シェイクスピア 『オセロー』(ちくま文庫) ISBN:4480033130									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造ルネッサンス論 A Art History A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
主に西洋の芸術、芸術思想、現代思想について理解を深め、感性を磨くことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下の分野の中から各自がいずれかを選択し、さらに個別のテーマを設定して、それについて、文献や資料の収集と解説をおこない、さらに成果についてプレゼンテーションする。 1. ルネッサンスの芸術と思想 2. バロックの芸術と思想 3. 建築の歴史と思想 4. デザインの歴史と思想 5. 近代の芸術と思想 6. コンテンポラリーアートをめぐる批評や思想 7. 芸術・美学思想									
【履修要件】									
通年で履修									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造ルネサンス論B Art History B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
主に西洋の芸術、芸術思想、現代思想について理解を深め、感性を磨くことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下の分野の中から各自がいずれかを選択し、さらに個別のテーマを設定して、それについて、文献や資料の収集と解説をおこない、さらに成果についてプレゼンテーションする。									
1. ルネサンスの芸術と思想 2. バロックの芸術と思想 3. 建築の歴史と思想 4. デザインの歴史と思想 5. 近代の芸術と思想 6. コンテンポラリーアートをめぐる批評や思想 7. 芸術・美学思想									
【履修要件】									
通年で履修									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造ルネサンス演習B Seminar on Art History B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
4年生は卒業論文の完成、3年生は卒業論文へ向けてテーマの設定、資料収集の方法や解説などについて指導をおこなう。									
【授業計画と内容】									
前期に引きつづいて、毎週1名ないし2名、各自の研究テーマにそって、経過報告ないし発表をおこなう。 4年生は卒業論文の完成へ向けて、その構成と内容について具体的な指導をおこなう。3年生は、次年度へのステップとして小論文を仕上げるべく指導をおこなう。									
【履修要件】									
通年で履修									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造ルネサンス演習A Seminar on Art History A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
4年生は卒業論文の完成、3年生は卒業論文へ向けてテーマの設定、資料収集の方法や解説などについて指導をおこなう。									
【授業計画と内容】									
・1~3週 テーマの設定と資料収集 研究テーマは、芸術全般、美学、芸術思想、現代思想、視覚文化などの分野から受講生の関心や興味に合わせて、相談の上で決定する。									
・4~15週 毎週1名ないし2名、各自の研究テーマにそって、経過報告ないし発表をおこなう。資料紹介。									
【履修要件】									
通年で履修									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英文文芸表象論講義A Lecture on Literary Representation in English A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
イギリスの小説家・批評家E. M. Forster(1879-1970)の小説論 "Aspects of the Novel" (1927)を読みながら、小説とはどのようなジャンルかという問題について、小説を構成している諸要素の観点から考察する。									
【授業計画と内容】									
"Aspects of the Novel" は、E. M. Forsterが実作者としての経験を踏まえつつ、小説を成り立たせているさまざまな側面について論じた批評である。ケンブリッジ大学での公開講演をもとにした本書は、作家特有の文体で書かれた平易な批評ではあるが、小説の基本的かつ重要な問題を扱っている点で、いまなお小説論としての価値を失うことはない。また、そこに含まれた豊かな作品の実例からは、多くの文学的知識を得ることができる。授業では、テキストの解釈にそって、関連する問題を取り上げながら議論を進展させ、小説とは何かという問題について考察する。 テキストは、「序論」「ストーリー」「登場人物(1)」「登場人物(2)」「ファンタジー」「予言」「パターンリズム」「結論」、そして付録の評論などの各章から構成されていて、1~2回で1章程度読み進める予定。授業形態は講義をベースとするが、受講者自身もテキストに目を通したうえで授業に臨んでもらいたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常の授業への取り組みと試験等により、総合的に評価する。									
【教科書】									
E. M. Forster 『Aspects of the Novel (Penguin Classics)』 (Penguin Books) ISBN:978-0-14-144169-6									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、水曜16:30~17:30など(不在の場合もあるので、なるべく電子メールなどで事前に連絡をとること)。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講義 B Lecture on Literary Representation in English B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
後期ヴィクトリア朝作家Thomas Hardy(1840-1928)の短編小説集“Life’s Little Ironies”(1894)を読みながら、文学の重要な要素のひとつである「アイロニー」とは何かという問題を中心に考察する。									
【授業計画と内容】									
“Life’s Little Ironies”(1912年改訂版)には、8つの短編小説が含まれていて、そのタイトルにあるとおり、「人生の皮肉」がさまざまな側面から描かれている。「アイロニー」とは広範な意味を含む文学用語であるが、ダーウィニズムの影響を受けたThomas Hardyの場合は、言語的な諷刺にとどまらず、いわゆる「運命の皮肉」から、状況や環境、遺伝等の要素を含んだ皮肉に至るまで、多様な様相を示している。									
授業では、テキストを読み進めながら解釈を深め、関連する文学上の問題について考察する。授業形態は講義をベースとするが、受講者自身もテキストに目を通したうえで授業に臨んでもらいたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常の授業への取り組みと試験等により、総合的に評価する。									
【教科書】									
Thomas Hardy 『Life’s Little Ironies (Oxford World’s Classics)』(Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-954969-6									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、水曜16:30～17:30など(不在の場合もあるので、なるべく電子メールなどで事前に連絡をとること)。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習IB Seminar on Literary Representation in English IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
アメリカの小説家Edith Whartonの“The House of Mirth”(1905)を読む。1890年代のニューヨークの上流社会を舞台にしたこの小説には、当時の風俗習慣が丹念に描かれている。本書は、アメリカ自然主義文学と呼ばれる要素も有する。旧弊な社会の中で生き方を模索するヒロインLily Bartの苦悩、それを見守る男性たちの共感とその限界が、独特の文体で活写されている。アメリカとヨーロッパとの間を懊悩して生きた作者Whartonの心情が作品にどこまで投影されているか、という興味も読者に抱かせる。									
作品を精読しながら、様々な分析を行なうことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
“The House of Mirth”は、Edith Whartonが作家として持てる技術を高度に発揮した最初の重要な小説である。様々な読み方、分析が可能である。授業では、毎週1章を扱う。参考資料も適宜配布する。学期末には、受講者それぞれの作品解釈を展開したレポートを課す。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加・取り組みを重要な評価基準とする。あわせて学期末にレポートを課す予定。									
【教科書】									
Edith Wharton 『The House of Mirth (Norton Critical Edition)』(Norton) ISBN:0-393-95901-5									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、火曜10:30～12:00。その他、研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習IA Seminar on Literary Representation in English IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
アメリカの小説家Edith Whartonの代表作“The Age of Innocence”(1920)を読む。1870年代のニューヨークの上流社会を舞台にしたこの小説では、当時の風俗習慣、旧弊な社会と新興勢力との対立の様子が丹念に描かれている。また古い慣習を守りぬこうとする人々と新しい生き方を模索する女性との攻防を、男性の視点から見守る記録としての側面も持つ。アメリカとヨーロッパとの間を懊悩して生きた作者Whartonの心情が作品にどこまで投影されているか、という興味も読者に抱かせる。									
作品に用いられている技法にも、ユニークな面がある。									
作品を精読しながら、様々な分析を行なうことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
“The Age of Innocence”は、Edith Whartonが作家として持てる技術を最高度に発揮した小説である。様々な読み方、分析が可能である。授業では、毎週3章を扱う。作品に即した映画、参考資料も適宜使用する。学期末には、受講者それぞれの作品解釈を展開したレポートを課す。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加・取り組みを重要な評価基準とする。あわせて学期末にレポートを課す予定。									
【教科書】									
Edith Wharton 『The Age of Innocence (Norton Critical Edition)』(Norton) ISBN:0-393-96794-8									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜10:30～12:00、および研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習IIA Seminar on Literary Representation in English IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒論指導									
【授業計画と内容】									
受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜2時限、火・木・金曜12:00～13:00、ほか研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II A Seminar on Literary Representation in English IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】 授業担当者が指導教員であること。									
【成績評価の方法・基準】 報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 集中講義として履修登録のうえ、詳細は担当教員と相談すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II B Seminar on Literary Representation in English IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは火曜2時限、および火・木・金曜12:00~13:00、ほか研究室在室時。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II A Seminar on Literary Representation in English IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 小島 基洋						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生の研究報告、発表を中心として、卒業論文指導を行う。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 報告、発表、作成論文内容などにより、総合的に判断する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 集中講義として履修登録のうえ、詳細は担当教員と相談すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II B Seminar on Literary Representation in English IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】 授業担当者が指導教員であること。									
【成績評価の方法・基準】 報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 集中講義として履修登録のうえ、詳細は担当教員と相談すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II B Seminar on Literary Representation in English IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 小島 基洋						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業指導									
【授業計画と内容】									
受講生の研究報告、発表を中心として、卒業論文指導を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
報告、発表、作成論文内容などにより、総合的に判断する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
集中講義として履修登録のうえ、詳細は担当教員と相談すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講読 I B Reading of Literary Works IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 小島 基洋						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
Harry Potter and the Philosopher's Stone 全世界で数億部を売り上げた本作をめぐる膨大な批評、映像、データ、物語群を参照し、作品の核心に迫る。同時に批評理論を用いた作品解釈を実践する。									
【授業計画と内容】									
イントロダクション chapter 1 「狂気と正常 フォークスの火薬」(歴史) chapter 2 「生きることの弱さ 皮肉、メガネ、ユダヤ」(キャラクター) chapter 3, 4 「神の居場所 遠心的、求心的フィクション」(ジャンル) chapter 5, 6 「異世界としてのスコットランド」(地域) chapter 7, 8 「英国の階級 HagridはなぜHagridか」(階級) chapter 9, 10 「ハロウィンの夜 魔女、妖精、アイルランド」(民話) chapter 11, 12 「鏡像理論 大人になること、言葉、ラカン」(精神分析) chapter 13 「世界をこの手に ポケモン、図書館、google」(メディア) chapter 14 「ドラゴン・クエスト 剣と結婚」(物語論) chapter 15 「森と都市の抗争 ナルニア、もののけ姫、アバター」(構造) chapter 16 「不思議の国のハリー」(比較) chapter 17 「戦う英文学 漱石、ターバン、アルカイダ」(オリエンタリズム) まとめ 論文講評									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常の授業への取り組みとレポート等により、総合的に評価する。									
【教科書】									
J. K. Rowling, 『Harry Potter and the Philosopher's Stone』(Bloomsbury, 2010) ISBN:978-1-4088-1054-5									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講読IA Reading of Literary Works IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 小島 基洋						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英国文学を通覧する。 小説、詩、演劇から、政治パンフレット、手紙、思想書にいたるまで、英語で書かれた言説をテーマ別、時代順に丁寧に読み解いていく。									
【授業計画と内容】									
第1回 イントロダクション テーマ別 第2回 「森」 ロビン・フッド、ナルニア、チャタレー夫人の恋人 第3回 「怪物」 ベオウルフ、ヨブ記、フランケンシュタイン 第4回 「航海」 ガリヴァー、資本論、ロビンソン・クルーソー、 第5回 「子供」 オリヴァー・ツイスト、ピーター・パン、アリス 第6回 「仮想世界」 ユートピア、1984年、時計じかけのオレンジ 第7回 「探偵」 シャーロック・ホームズ、切り裂きジャック、ボワロ、 第8回 「神」 失楽園、ステイーヴン・ディーダラス、種の起源 年代順 第9回 「~17世紀」アーサー王、カンタベリー物語、マクベス 第10回 「18世紀」ジャーナリズム、ローマ帝国衰亡史、辞書 第11回 「19世紀前半」ワーズワース、ロマン主義、嵐が丘 第12回 「19世紀後半」大いなる遺産、ハーディ、ドリアン・グレイの肖像 第13回 「20世紀」ユリシイズ、ゴドーを待ちながら、カズオ・イシグロ 第14回 予備日 第15回 テスト									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常の授業への取り組みと試験等により、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講読II A Reading of Literary Works IIA	担当者氏名	京都光華女子大学 教授 和栗 了						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
アメリカ合衆国を代表する作家 Mark Twain の代表作 Adventures of Huckleberry Finn を読み進めます。アメリカ文学の傑作だと思われていますが、どのあたりがどのように傑作なのか、議論したいと考えています。前年度に続き、1853年の Missouri州Hannibalの地図の複製ももう一つの目標です。さまざまな問題を受講生の皆さんと議論できれば幸いです。そのためには、言葉に細かく注意しながら、同時に巨視的な視点も持ちながら、作品を読む技術を練習したいと考えています。									
【授業計画と内容】									
長い作品ですが、前期ですべて読み進めます。 第1回 イントロダクション(授業の進め方等) 第2回-第14回 1回の授業でテキストの二章分を読み進めます。 第15回 前期のまとめとディスカッション									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の授業の報告(50%) + 毎回の発言(20%) + 学期末のレポート(30%) 学期末のレポートの課題は受講生と相談のうえ決定します。									
【教科書】									
Mark Twain 『Adventures of Huckleberry Finn』(University of California Press) ISBN: 0520266102 (paperback版です。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
しっかりと予習してきてください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論講義 B Lecture on German Literary Arts and Representation B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 奥田 敏広						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>近代文学における神話の意味と役割がこの授業のテーマです。具体的には、ニーベルンゲン伝説の起源である北欧神話を取り上げ、その概要を学びながら、それらが、近代を代表する文学作品であるワーグナーの楽劇とヘッベルのドラマにおいて、どのような役割を演じているかを分析し検討します。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>北欧神話の英雄ジークフリートとブリュンヒルデにまつわる部分を、簡単な現代ドイツ語に書き直したテキストを日本語に訳しながら進めていきます。同時に、中世の『ニーベルンゲンの歌』、ワーグナーの『神々のたそがれ』そしてヘッベルの『ニーベルンゲン一族』を、もっぱら日本語訳で参照しながら、それらの設定や展開、そして表現の相違点と類似点について考察します。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の初級知識と能力があること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席などによる平常点とレポートで評価する									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>(参考書) 奥田敏広 『ワーグナーと恋する聖女たち』(松籟社) グレンベック 『北欧神話と伝説』(新潮社) 『ニーベルンゲンの歌』(ちくま文庫)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論演習 B Seminar on German Literary Arts and Representation B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 石田 明文						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>ドイツ近現代のテキストを「読む」ことによって、近現代の思想や文学について、たんに抽象的な知識を得るのではなく、具体的なテキストにもとづいた理解ないしは不理解に達することを目標とする。なぜなら理解とは、実は一種の不理解であるのかも知れず、もしそうであるなら、理解ではなく、不理解こそが目指すべきものとなるであろうからである。しかしこのことは、理解を目指すあらゆる努力を妨げるものではない。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>上記の目的にとっては「計画」はあまり役に立たない。そこには、計画的に得ることのできるような「正しい答え」はない。「正しい答え」がない-----これこそが近現代の思想や文学の根幹に触れるパラドクスである。テキストという迷路のただなかをさまよいながら、これまで気づくことのなかった出口をそのなかに見いだし、あるいは反対に、さらなる入口を発見するという経験を積み重ねることができれば、授業の目的を達したことになるであろう。テキストを読むというのは、いわば地図なしに行う探検、より正確に言えば、日ごろ慣れ親しんだ道にも、実は地図がないことに気づく試み、そもそも道というものがさえないかのように歩き、考える試みである。最終的な答えというようなものはないところで、どのように自分の地図を描き、他人の言葉に耳を傾け、言葉を発するかの、「読む」というのは、終わることのないその試みである。その練習をしよう。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の十分な語学力									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加の仕方を重要な評価基準とするが、状況に応じてレポートなどを課する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論演習 A Seminar on German Literary Arts and Representation A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 奥田 敏広						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>Alfred Döblin と現代文学 20世紀の文学を代表する作家のひとりである Döblinの代表作『Berlin Alexanderplatz』1929 を取り上げ、ジョイスらの「意識の流れ」や都市文学、そしてモンタージュ等の側面から現代文学の特徴やその具体的な手法について考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Fritz Martini の評論集『Das Wagnis der Sprache』の Döblinを論じた部分を読み進めることを中心に進めて行く。Martini は20世紀の代表的ドイツ文学研究者であり、『Berlin Alexanderplatz』の一節が取り上げられ、具体的に分析されている上記評論は、Döblin および『Berlin Alexanderplatz』について考える際に基本となるものである。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語初級文法の修得。ドイツ文学に関する知識は必ずしも必要ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加とレポート									
【教科書】									
上記のFritz Martini 『Das Wagnis der Sprache』を該当箇所をコピーして配布する									
【参考書等】									
<p>(参考書) アルフレート・デーブリン 『ベルリンアレキサンダー広場』(河出書房新社) ヴァルター・イェンス 『文学史に代えて』(紀伊国屋書店)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論講読 A Reading German Literary Arts and Representation A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 石田 明文						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>ドイツ近現代のテキストを精読することによって、近現代の思想や文学について、たんに抽象的な知識ではなく、具体的なテキストにもとづいた理解ないしは不理解を各自が自分自身の仕方で行くことを目標とする。不理解ということも、それが具体的なものであるかぎり、大きな成果である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>テキストにかんして各自が自分自身のアプローチの仕方を見いだすには(これ以外の仕方でもテキストにアプローチすることはできない)、「計画」はあまり役に立たない。自分自身の研究と思考、さらには他の参加者との対話を通して、各自がそれを見いだすばかりではない。計画的に得ることのできるような「正しい答え」を求めても得ることには多くはないであろう。「正しい答え」が存在しない---これは近現代の思想や文学の根幹に触れるパラドクスである。テキストという迷路のなかに、これまで自分が気づけなかった出口や入口を発見するという経験を重ねることができれば、授業の目的を達したことになるであろう。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の十分な語学力									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加の仕方を重要な評価基準とするが、状況に応じてレポートなどを課する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認知・行動科学入門 Introduction to cognitive & behavioral science		担当者氏名	こころの未来研究センター 教授 船橋 新太郎					
				人間・環境学研究所 教授 石原 昭彦					
			人間・環境学研究所 教授 林 達也						
			人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫						
			人間・環境学研究所 教授 齋木 潤						
			情報学研究所 講師 細川 浩						
			人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹						
			人間・環境学研究所 准教授 月浦 崇						
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
我々は、様々な環境に適応して行動をしている。すなわち、さまざまな刺激を認知し、それに応じて行動する。そうすると、環境がまたかわるから認知し直し、そしてまた行動する。このように認知と行動は我々の生活に常にリンクしている。この認知と行動についてさまざまな視点から理解することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
本講義はリレー形式である。船橋教員、石原教員、林教員、松村教員、津田教員、森谷教員、齋木教員、細川教員、神崎教員（順不同）が講義を行う。日程については、ガイダンスで指示する。認知に関しては、船橋教員・齋木教員、行動に関しては、松村教員・石原教員・神崎教員、代謝に関しては、森谷教員・林教員、生体センサーに関しては、細川教員が講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出欠を重視する。レポートを考慮に入れる場合もある。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

言語・数理情報科学入門(2)									
-----									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語・数理情報科学入門 Introduction to Linguistic and Mathematical Information Science		担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 藤田 耕司					
				人間・環境学研究所 教授 東郷 雄二					
			人間・環境学研究所 教授 齋藤 治之						
			人間・環境学研究所 教授 服部 文昭						
			学術情報メディアセンター 教授 増辻 正剛						
			人間・環境学研究所 教授 河崎 靖						
			人間・環境学研究所 准教授 谷口 一美						
			人間・環境学研究所 教授 上木 直昌						
			人間・環境学研究所 准教授 木坂 正史						
			人間・環境学研究所 教授 立木 秀樹						
			人間・環境学研究所 准教授 日置 尋久						
			人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司						
			人間・環境学研究所 教授 高崎 金久						
			人間・環境学研究所 教授 森本 芳則						
			人間・環境学研究所 教授 宇敷 重廣						
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
認知情報学系の学系入門科目である。言語活動を貫く知のメカニズムの解明、および、数学と情報における基本的な考え方の習得を目標に解説する。									
【授業計画と内容】									
言語科学講座および数理科学講座所属の教員全員によるリレー講義である。									
毎回、各教員が自らの専門領域を中心に、言語・数理情報科学関係の初歩的な講義を行う。言語科学の観点からは、音韻・形態、シンタクスに反映される形式と意味の体系からなる記号系と、言葉の伝達のメカニズムの諸相を対象とした講義を行う。数学と情報科学の観点からは、数学的对象・構造の記述形式、情報の数理的側面、画像処理・ネットワークなどの情報技術について概説する。									
今年度は、日程の前半を数理情報科学関係の教員が、後半部分を言語科学関係の教員が、それぞれ担当する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
言語科学、数理科学それぞれを50点満点で採点し、その合算により成績を出す。									
どちらも、原則として、毎回の出席を必要条件として、両関係の各一人ずつの教員宛にレポートを提出する。詳細は授業中に指示する。									
-----									
言語・数理情報科学入門(2)へ続く									

授業科目名 <英訳>	神経生理学の基礎 Basic Neurophysiology		担当者氏名	情報学研究所 講師 細川 浩					
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
脳は、神経細胞により高度に組織化された器官である。脳は、外部・内部環境の変動を感覚器などを用いてとらえ、それを適切に処理することができる。この際、脳はどのようにして外界の状況を把握し、どのように処理していくのかを学ぶ。鍵となる概念を学び、さらにその最先端を概観する。									
【授業計画と内容】									
下記の外部環境因子の変動に対する生体のホメオスタシス維持反応について講義を行う。環境の変化を読み取る仕組みと、その環境変化に対して起こる生体応答に関して、生理学、分子生物学の立場から解説する。特に外部温度変化に対して神経系がどのように応答するのかを解説する。									
1、 温度									
2、 水分									
3、 栄養									
4、 酸素									
5、 光									
6、 病原菌									
7、 化学物質									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
生物を学んでこなかった人や、文系の人も対象にしています。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	神経生理学基礎演習 Practice of Basic Neurophysiology	担当者氏名	情報学研究科 講師 細川 浩
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
脳・神経系を理解する上で、コンピュータによる学術情報の収集、データ収集、データ解析は不可欠である。この演習ではコンピュータを用いた神経生理学の解析手法を学ぶ			
【授業計画と内容】			
以下の項目について、解説、演習を行いレポートを作成する。 分子生物学的手法 インターネットを用いた学術情報の収集 インターネットを用いたDNA、タンパク質データベースからの情報収集 コンピュータを用いたデータの解析 データを提示するための報告書作製技術			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席とレポートによる			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
文系の人や、いままで神経系を学んでこなかった人も対象にしています。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	生命科学基礎ゼミ Seminar on Life Science	担当者氏名	情報学研究科 講師 細川 浩 情報学研究科 助教 前川 真吾
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月5
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
生命科学は、医学や生物学をはじめ生物をとりまくさまざまな学問分野の基礎となりうる。生物は細胞から構成されており、細胞内のDNAやタンパク質といった小分子が協調的に機能することで、様々な機能を発揮している。細胞の構成要素、遺伝の基礎原理、発生過程を講義・考察することにより、現在の生物学を俯瞰する。さらに受講者が討論することで理解を深めることを目的とする。			
【授業計画と内容】			
最初の2-3回の時間を使い、このゼミのテーマと目的を話す。また、以下の生命科学の基礎についてのトピックを解説を行いながら議論する。  細胞の基本機能 遺伝メカニズムの基礎 細胞内小分子の構造と機能 生物が形作られていく仕組み			
その後、受講する学生が、興味深いトピックを選び、背景もふくめてその内容を発表する。その際、発表内容を受講者全員で議論・考察する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席と発表による。 出席50%、発表50%です。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
生物を勉強したことのない人も対象にしています。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	神経機能論実験B Experimental Practice in Neurobiology B	担当者氏名	情報学研究科 講師 細川 浩
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水3,4
授業形態	実験		
【授業の概要・目的】			
神経機能を分子レベルであきらかにするための基礎的な実験手法を学ぶ。神経機構を分子レベルで理解するための解析方法の学習を行う。			
【授業計画と内容】			
イオンチャネルは、温度、接触、浸透圧、フェロモン、味などさまざまな刺激の受容に関わる。イオンチャネルあるいはそれを修飾する遺伝子の機能解析を行う。この実習を通して、遺伝子組み換え、細胞培養、遺伝子導入、たんぱく質発現、電気生理学的解析、形態学的解析などの手法を必要に応じて修得する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席とレポートによる。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
文系の人や、いままで神経系を学んでこなかった人も対象にしています。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	認知機能論 Cognitive function	担当者氏名	こころ脳科学科 教授 船橋 新太郎
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
視覚認知に関わる脳の仕組みを中心に、記憶や学習、思考、推論、判断、意思決定などに関わる脳の仕組みを考究する。このような働きに関わる大脳皮質の役割と同時に、大脳皮質の中でも特に連合野の働きを中心に理解を深める。			
【授業計画と内容】			
下記のテーマにそって、1テーマあたり2-3週目の予定で実施する。  (1) 脳の基本構造 (2) 神経細胞の機能的特徴 (3) 視覚系を中心とした感覚情報処理システム (4) 運動系を中心とした情報処理システム (5) 注意、記憶、学習のしくみ (6) 前頭葉の機能			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
数回実施する小レポート課題の内容と試験期間中に実施する試験の成績をもとに評価する。レポート課題全体の成績を50点満点、試験期間中に実施する試験の成績を50点満点とし、その合計点を成績評価とする。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) Purves et al. 『Neuroscience』 (Sinauer Associates) M.S. Gazzaniga et al. 『Cognitive Neuroscience』 (W.W. Norton & Co.)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	認知機能論演習 Proseminar on Cognitive function	担当者氏名	こころ脳研究センター 教授 船橋 新太郎
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火1
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
L.R. Squire and E.R. Kandel "Memory: From Mind to Molecules" (2008) を読み進めることにより、記憶に関する基本的な事項、そのシステム・レベル、細胞レベル、分子レベルのメカニズムを理解する。			
【授業計画と内容】			
L.R. Squire and E.R. Kandel 著 "Memory: From Mind to Molecules" (2008) の各章を、受講者で分担して1、2回で読み進める。章構成は下記のとおり。			
1. From Mind to Molecules 2. Modifiable synapses for nondeclarative memory 3. Molecules for short-term memory 4. Declarative memory 5. Brain systems for declarative memory 6. A synaptic storage mechanism for declarative memory 7. From short-term memory to long-term memory 8. Priming, Perceptual learning, and emotional learning 9. Memory for skills, habits, and conditioning 10. Memory and the biological basis of individuality			
【履修要件】			
「認知機能論」講義を受講するのが好ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
出席状況、発表の担当回数、授業内での発言、ならびに、試験期間中に実施する筆記試験をもとに評価する。			
【教科書】			
L.R. Squire and E.R. Kandel 『Memory: from mind and to molecules』(W.H. Freeman and Company) ISBN:0-7167-6037-1			
【参考書等】			
(参考書) D. Purves et al. 『Neuroscience』(Sinauer Associates) M.S. Gazzaniga et al. 『Cognitive Neuroscience』(W.W. Norton & Co.)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	認知機能論ゼミB Seminar for Cognitive function B	担当者氏名	こころ脳研究センター 教授 船橋 新太郎
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火5
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
前頭連合野の働きを中心に、それを構成する神経細胞の機能的特徴、神経回路網の構成やその特徴、大脳皮質の他の部位や皮質下の構造との間の解剖学的・機能的関係、損傷や破壊による認知機能上および行動上に見られる変化、そして、動物を用いた神経生理学的な知見などに関する知見を、最新の論文を紹介・解説することにより獲得することを目的とする。 大学院生による、研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。自己の研究目的に関連する研究の方法、知見を理解すると同時に、自己の実験・研究を含めて、批判的な見方を養い、自己の研究を改善できる能力を養う。			
【授業計画と内容】			
第1回：オリエンテーションおよび論文紹介のローテーションの決定 第2回以降：ローテーションに従って、論文・総説などの内容紹介とそれに関する討論を行う。適宜、大学院生の実施している研究の進捗状況の紹介とそれに関する討論を行う。また、学会発表前には、発表練習と発表内容に関する討論を随時挿入していく。			
【履修要件】			
「脳科学入門」および「認知機能論」を受講しているのが好ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
出席状況、関連論文の紹介回数、演習での討論の状況などをもとに評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) Joaquin M. Fuster 『The Prefrontal Cortex』(Academic Press) 船橋新太郎 『前頭葉の謎を解く』(京都大学学術出版会) M.S. Gazzaniga, R.B. Ivry, & G.R. Mangun (eds.) 『Cognitive Neuroscience』(W.W. Norton & Co.)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
担当教員が主催する研究会、講演会、セミナーなどに積極的に参加すること。 オフィスアワーは月曜日の正午から午後2時(於：吉田南総合館南棟113室)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	認知機能論ゼミA Seminar for Cognitive function A	担当者氏名	こころ脳研究センター 教授 船橋 新太郎
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火5
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
前頭連合野の働きを中心に、それを構成する神経細胞の機能的特徴、神経回路網の構成やその特徴、大脳皮質の他の部位や皮質下の構造との間の解剖学的・機能的関係、損傷や破壊による認知機能上および行動上に見られる変化、そして、動物を用いた神経生理学的な知見などに関する知見を、最新の論文を紹介・解説することにより獲得することを目的とする。 大学院生による、研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。自己の研究目的に関連する研究の方法、知見を理解すると同時に、自己の実験・研究を含めて、批判的な見方を養い、自己の研究を改善できる能力を養う。			
【授業計画と内容】			
第1回：オリエンテーションおよび論文紹介のローテーションの決定 第2回以降：ローテーションに従って、論文・総説などの内容紹介とそれに関する討論を行う。適宜、大学院生の実施している研究の進捗状況の紹介とそれに関する討論を行う。また、学会発表前には、発表練習と発表内容に関する討論を随時挿入していく。			
【履修要件】			
「脳科学入門」および「認知機能論」を受講しているのが好ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
出席状況、関連論文の紹介回数、演習での討論の状況などをもとに評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) Joaquin M. Fuster 『The Prefrontal Cortex』(Academic Press) 船橋新太郎 『前頭葉の謎を解く』(京都大学学術出版会) M.S. Gazzaniga, R.B. Ivry, & G.R. Mangun (eds.) 『Cognitive Neuroscience』(W.W. Norton & Co.)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
担当教員が主催する研究会、講演会、セミナーなどに積極的に参加すること。 オフィスアワーは月曜日の正午から午後2時(於：吉田南総合館南棟113室)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	視覚認識論ゼミA Seminar on Visual Cognition A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水3
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
視覚による認識の過程の科学的な研究に必要な研究テーマの設定、実験のデザイン、データの分析、結果の解釈などの過程を、分野の最先端の研究を進めている大学院生やポスドクの研究に関するディスカッションに参加することにより学ぶことを目指す。 現在進行中の研究の進捗報告とそれに関するディスカッションを通して、講義では得られない、実際に研究を行う上で必須となるスキルに対する理解を深め、自身の研究の高度化を図ることが期待できる。			
【授業計画と内容】			
原則として、大学院生、卒論生、ポスドクの研究進捗報告とそれに関するディスカッションを行い、討論に参加するとともに、少なくとも1回自身の研究あるいは、興味のある論文などについての発表を行う。 第1回：授業についてのオリエンテーション、参加者の確認と、発表スケジュールの調整。 第2回以降：スケジュールに従って学生の研究発表と討論。			
【履修要件】			
視覚認識論を履修していることが望ましい。(必須ではない)			
【成績評価の方法・基準】			
出席状況、ゼミでの討論への参加状況、発表状況をもとに評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
第1回の授業時に発表のスケジュールを決めるので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に連絡すること。事前連絡なく第1回の授業に出席しない場合は履修を認めない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	視覚認識論ゼミ B Seminar on Visual Cognition B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】 視覚による認識の過程の科学的な研究に必要な研究テーマの設定、実験のデザイン、データの分析、結果の解釈などの過程を、分野の最先端の研究を進めている大学院生やポスドクの研究に関するディスカッションに参加することにより学ぶことを目指す。 現在進行中の研究の進捗報告とそれに関するディスカッションを通して、講義では得られない、実際に研究を行う上で必須となるスキルに対する理解を深め、自身の研究の高度化を図ることが期待できる。									
【授業計画と内容】 原則として、大学院生、卒論生、ポスドクの研究進捗報告とそれに関するディスカッションを行い、討論に参加するとともに、少なくとも1回自身の研究あるいは、興味のある論文などについての発表を行う。 第1回：授業についてのオリエンテーション、参加者の確認と、発表スケジュールの調整。 第2回以降：スケジュールに従って学生の研究発表と討論。									
【履修要件】 視覚認識論を履修していることが望ましい。（必須ではない）									
【成績評価の方法・基準】 出席状況、ゼミでの討論への参加状況、発表状況をもとに評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 第1回の授業時に発表のスケジュールを決めるので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に連絡すること。事前連絡なく第1回の授業に出席しない場合は履修を認めない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	視覚科学実験 B Vision Science Laboratory B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤 人間・環境学研究所 助教 山本 洋紀						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4,5	授業形態	実験
【授業の概要・目的】 視覚科学研究に必須となる行動実験のより発展的な手法を学ぶことを目的とする。視覚科学実験Aで学んだ基本的な実験手法をさらに発展させることにより、卒業研究に必要なレベルの研究手法を獲得することを目指す。また、視覚科学実験Aでは扱っていなかったデータ解析の基本的な手法についても実習を行う。卒業論文作成に必要な研究のスキルを獲得することが期待される。									
【授業計画と内容】 授業の序盤では、データ解析手法の基礎を実習し、中盤から後半では、学んだ手法を利用して参加者各自の興味に応じた行動実験をデザインし、実施する。第6回以降は、全体での実習ではなく個別の実験プロジェクトとなる。第14回に研究成果発表の実習を行う。 第1回：オリエンテーション。授業の概要の説明（齋木・山本） 第2 - 5回：データ解析手法の基礎（齋木） 第6 - 10回：実験計画、デザイン、刺激、プログラム作成（齋木・山本） 第11 - 13回：データ収集、データ解析（齋木・山本） 第14回：研究成果発表会（齋木・山本）									
【履修要件】 視覚科学実験Aを履修していること。									
【成績評価の方法・基準】 出席と平常点									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 視覚科学実験Aを履修していない場合は、既修者に相当する実験手法やプログラミングスキルがあると判断できる場合に限り履修を認める。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	視覚科学実験 A Vision Science Laboratory A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤 人間・環境学研究所 助教 山本 洋紀						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4,5	授業形態	実験
【授業の概要・目的】 視覚科学研究に必須となる行動実験の基本的な手法を学ぶことを目的とする。視覚刺激を作成し、モニタに正しく提示するために必要な手続きを実習を通して学ぶとともに、実験の実施に必要な条件設定、呈示のランダム化、刺激のカウンタバランスなどの基本的な手法の解説と実習を行う。また、これらの作業に必須となるプログラミング言語の初歩を学び、簡単な行動実験を一人で作成できるようにすることを目指す。									
【授業計画と内容】 授業の前半では、視覚刺激の作成とモニタの校正の手法、後半では、実験のデザイン、カウンタバランス、データの取得などの手法を実習する。 第1回：オリエンテーション。授業の概要の説明（齋木・山本） 第2回：実習の準備。プログラミング言語MATLABの概説（山本） 第3 - 6回：視覚刺激作成、モニタ校正実習（山本） 第7 - 10回：実験デザイン、プログラム制御実習（齋木） 第11 - 14回：簡単な行動実験プログラム作成、データ収集・分析（齋木・山本）									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、及び実習での平常点									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 実習科目であるため、受講希望者が多い場合は、視覚科学研究室への配属を希望する学生を優先する。授業実施時限以外での実習が相当程度必要となる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	記憶神経科学ゼミ A Seminar of Neuroscience on Human Memory A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 月浦 崇						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】 ヒト記憶に重要な脳領域である側頭葉内側面（海馬・海馬傍回）の働きを中心に、ヒト記憶やその周辺の心理過程（情動や社会的認知、加齢など）に関連する最新の脳機能イメージング（fMRI等）研究を紹介・解説することによって、ヒト記憶を担う脳メカニズムを理解することをめざす。									
【授業計画と内容】 受講生による研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。研究方法やその結果を単純に理解するだけでなく、自分の研究と照らし合わせて論文のストーリーに対して批判的な見方をできるように力を養う。 参加者には、毎回事前に演習で紹介する論文・総説をメールで連絡する。 第1回：オリエンテーションおよび論文紹介ローテーションの決定 第2回以降 第1回で決定したローテーションにしたがって、論文・総説の内容紹介とそれに関する討論を行う。									
【履修要件】 「認知神経心理学 A」または「認知神経心理学 B」を受講していることが望ましいが、必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況、発表の内容、ディスカッションへの参加状況によって評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	記憶神経科学ゼミ B Seminar of Neuroscience on Human Memory B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 月浦 崇
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	月5
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
ヒト記憶に重要な脳領域である側頭葉内側面（海馬・海馬傍回）の働きを中心に、ヒト記憶やその周辺の心理過程（情動や社会的認知、加齢など）に関連する最新の脳機能イメージング（fMRI等）研究を紹介・解説することによって、ヒト記憶を担う脳メカニズムを理解することをめざす。			
【授業計画と内容】			
受講生による研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。研究方法やその結果を単純に理解するだけでなく、自分の研究と照らし合わせて論文のストーリーに対して批判的な見方をできるように力を養う。 参加者には、毎回事前に演習で紹介する論文・総説をメールで連絡する。			
第1回：オリエンテーションおよび論文紹介ローテーションの決定			
第2回以降 第1回で決定したローテーションにしたがって、論文・総説の内容紹介とそれに関する討論を行う。			
【履修要件】			
「認知神経心理学A」または「認知神経心理学B」を受講していることが望ましいが、必須ではない。			
【成績評価の方法・基準】			
出席状況、発表の内容、ディスカッションへの参加状況によって評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	細胞生理学実験 Experiment for Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 石原 昭彦
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火3,4
授業形態	実験		
【授業の概要・目的】			
細胞の適応能力(可塑性)についての生理学的な実験をヒト及び実験動物を用いて行う。環境の変化に伴う筋細胞と神経細胞の適応に焦点を絞って実験を行う。			
【授業計画と内容】			
実験動物を用いて神経、筋、骨、内臓などの各組織の摘出、凍結、薄切、染色を行う。その後、組織標本の観察を行う。 ヒトを用いて生体の適応能力(可塑性)に関係した実験を行う。環境の変化によって代謝および機能的な特性がどのように変化するかを検討する。血中の酸素飽和度、酸化ストレス度、抗酸化力、血圧、心拍数、呼吸数、皮膚温、血流量などの変化についても検討する。 研究室で作成した実験マニュアルを配布して、それに従って実験を進める。1課題あたり2～3週の授業を行う予定である。 1．実験動物の解剖・組織摘出・凍結保存 2．組織標本の作製・観察 3．酸素飽和度測定等の理解と実習 4．血流測定等の理解と実習 5．酸化ストレス度と抗酸化ストレス度の理解と実習			
【履修要件】			
授業では、マウス・ラットを使用した動物実験を行う。したがって、動物の体重測定、血圧測定、採血などを行う。動物の取り扱いや動物からの採血などが苦手な場合は履修を避けること。			
【成績評価の方法・基準】			
出席率、レポート、小テストによって総合的に判断する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
授業に関する質問等は、第1週目の授業時に受ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	細胞生理学 Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 石原 昭彦
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
細胞の基本的な構造や働きを解剖学的・生理学的な観点から説明する。細胞がどのように情報を受取り、どのように伝達するのかを理解する。神経細胞と筋細胞を代謝的、機能的な特性が異なるユニットに分類して、それぞれのユニットの特徴を解説する。			
【授業計画と内容】			
1課題あたり1～2週の授業を行う予定である。 1．静止電位と活動電位 2．細胞体とシナプス 3．神経線維のサイズと伝導速度 4．神経支配比 5．神経・筋単位の構造と機能 6．神経・筋単位と発育・発達 7．神経・筋単位と老化 8．神経・筋単位の可塑性 9．まとめ			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席点、レポート、小テストにより総合的に判断する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
質問などは授業中に受け付ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	細胞生理学ゼミ A Seminar A for Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 石原 昭彦
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月1
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
生体の構成要素である細胞の構造と機能に関する論文を講読・解説する。特に神経・筋系を構成する細胞の解剖と機能、システムについての最近の研究成果を学習する（発育・発達から老化、環境の変化による神経・筋系の可塑性(変化)について学習する）。			
【授業計画と内容】			
教科書として、Plasticity in Neuromuscular System. A Textbook of Development, Aging, and Adaptation of Motor Unit (Ishihara A. ed.), Kyoto University Academic Press, pp.1-142, 1997を使用する。英文論文を講読することにより細胞の生理学的な特性を学習する。海外における細胞生理学のトピックスも紹介する。 1課題あたり2～3週の授業を行う予定である。 1．神経・筋の発育・発達 2．神経・筋の老化 3．神経・筋と活動量の増大 4．神経・筋と活動量の減少 5．神経・筋と環境の変化 6．神経・筋と低重力・微小重力 7．まとめ			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席率、レポート、小テストによって総合的に判断する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
授業に関する質問等は、第1週目の授業時に受ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	細胞生理学ゼミB Seminar B for Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 石原 昭彦
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	月1
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
<p>生体の構成要素である細胞の構造と機能に関する論文を講読・説明する。特に神経・筋系を構成する細胞の可塑性についての研究成果を学習する(メタボリックシンドロームや生活習慣病の神経・筋系、宇宙環境への滞在による神経・筋系の変化について説明する)。</p>			
【授業計画と内容】			
<p>教科書として、Feasibility in Skeletal Muscle Fibers and Their Spinal Motoneurons. Approach for Enzyme Histochemical and Immunohistochemical Research (Ishihara A. ed.), Kyoto University Academic Press, pp.1-93, 1998を使用する。英文論文を講読することにより細胞の可塑性について学習する。海外における細胞生理学のトピックスも紹介する。</p> <p>1 課題あたり2～3週の授業を行う予定である。</p> <p>1. 神経・筋の構造と機能 2. 神経・筋とメタボリックシンドローム 3. 神経・筋と生活習慣病 4. 神経・筋と低圧・高圧環境 5. 神経・筋と宇宙環境 6. まとめ</p>			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席率、レポート、小テストによって総合的に判断する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
授業に関する質問等は、第1週目の授業時に受ける。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	運動医科学 Exercise and Medical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	月3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
<p>生活習慣病(がん、心臓病、糖尿病、高血圧、脳卒中など)に対する習慣的な運動の予防医学的役割を学び、実験を通じて自分の生理学的機能を把握して、最適な運動処方方を自ら構築する</p>			
【授業計画と内容】			
1 課題あたり1～2週の授業を講義と実習を絡めて行う			
1)ガイダンス、			
2)運動不足と生活習慣病			
3)パフォーマンスの生理学			
4)基礎運動生理学概論			
5)肥満の生理学			
6)老化の生理学			
7)運動処方概論			
<p>実験実習項目： 体脂肪、体重、安静時血圧、及び心電図の連続測定(心臓自律神経活動動態の定量化)、最大酸素摂取量の測定</p>			
【履修要件】			
「健康科学」を履修しておくことが望ましい			
運動医科学(2)へ続く			

授業科目名 <英語>	運動医科学 Exercise and Medical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
<p>生活習慣病(がん、心臓病、糖尿病、高血圧、脳卒中など)に対する習慣的な運動の予防医学的役割を学び、実験を通じて自分の生理学的機能を把握して、最適な運動処方方を自ら構築する</p>			
【授業計画と内容】			
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業を行う予定である。</p> <p>講義予定： 1)ガイダンス、2)運動不足と生活習慣病、3)パフォーマンスの生理学、4)基礎運動生理学概論、5)肥満の生理学、6)老化の生理学、7)運動処方概論</p> <p>上述の講義では、生活習慣病の発症に大きく関与する要因や具体的な対処法が理解できるように、必要な基礎知識や最新の知見を学ぶ。また、以下のような実験実習で自分自身の体組成、血圧、自律神経活動レベル、心臓循環器系持久力などを実測し、それらのデータを基にして、自身の健康管理を行うための「運動と栄養の処方箋」を書ける能力を養う。</p> <p>実験実習項目： 体脂肪、体重、安静時血圧、及び心電図の連続測定(心臓自律神経活動動態の定量化)、最大酸素摂取量の測定</p>			
【履修要件】			
「健康科学」を履修しておくことが望ましい			
【成績評価の方法・基準】			
出席点 40%			
期末レポート 60%			
【教科書】			
適宜、資料を配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(関連URL)			
<a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a>			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
<p>オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷(moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp)まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>			

運動医科学(2)			
-----			
【成績評価の方法・基準】			
出席点 40%			
期末レポート 60%			
【教科書】			
適宜、資料を配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(関連URL)			
<a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a>			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
<p>オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷(moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp)まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>			

授業科目名 <英語>	運動医学実験 Experiment for Exercise and Medical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火3,4
[授業の概要・目的]			
運動医学分野の研究手法や実験手法を学習する			
[授業計画と内容]			
1 課題あたり1～2週の授業を講義と実習を絡めて行う			
1) 脈波測定 (動脈硬化の評価法) 2) 臨床心電図 3) 心筋脱分極・再分極時間測定 4) 心拍変動パワースペクトル解析 (心臓自律神経活動動態の定量化) 5) 最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値 (AT) の測定 6) 筋音図解析 7) 近赤外分光法による筋酸素動態の測定 8) 床反力解析法 9) 脳波周波数スペクトル解析			
[履修要件]			
神経・機能論ゼミ及び呼吸循環機能論ゼミを履修しておくことが望ましい			
[成績評価の方法・基準]			
出席点 50% 期末レポート 50%			
[教科書]			
適宜、資料を配布する。			
[参考書等]			
(参考書) 授業中に紹介する			
(関連URL)			
<a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a>			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷 (moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp) まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	神経・筋機能論ゼミ Seminar on Neuro-muscular Function	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月5
[授業の概要・目的]			
ヒトの神経・筋機能に関する生体信号のコンピューター解析法を習得し生理学的基礎知識を学ぶ。ヒトの行動に不可欠な神経・筋機能を教養レベルで理解する。			
[授業計画と内容]			
1 課題あたり1～2週の授業を講義と実習を絡めて行う			
1) ガイダンス 2) 基礎筋生理学 3) 筋電図スペクトル解析 (筋疲労の定量化) 4) クリティカル・パワー及び筋電図作業閾値 (EMGIt) 5) 誘発筋電図 (H-反射) 6) 筋音図解析 7) 近赤外分光法による筋酸素動態の把握 8) 床反力解析法 9) 論文輪読			
[履修要件]			
「健康科学」を履修し、基礎的な神経・筋システムの知識を要する。			
[成績評価の方法・基準]			
出席点 40% 担当論文の発表および学期末レポート60%			
[教科書]			
適宜、資料を配布する。			
[参考書等]			
(参考書) 授業中に紹介する			
(関連URL)			
<a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a> (輪読する論文はPDF形式でKULASISから入手できる)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷 (moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp) まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	呼吸循環機能論ゼミ Seminar on Cardio-respirator Function	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月5
[授業の概要・目的]			
呼吸循環機能に関する生体信号のコンピューター解析法を習得して、基礎知識を学ぶ。ヒトの生命維持に必要な心臓・循環機能を教養レベルで学ぶ。			
[授業計画と内容]			
1 課題あたり1～2週の授業を講義と実習を絡めて行う			
1) ガイダンス 2) 基礎呼吸循環概論 3) 動脈硬化講義 4) ドップラー血流波動指数測定 5) 脈波測定 6) 臨床心電図 7) 心筋脱分極・再分極時間測定 8) 心拍変動パワースペクトル解析 (心臓自律神経活動動態の定量化) 9) 心筋酸素需要供給動態解析 10) 論文輪読			
[履修要件]			
「健康科学」を履修し、基礎的な呼吸・循環システムの知識を要する。			
[成績評価の方法・基準]			
出席点 40% 担当論文の発表および期末レポート 60%			
[教科書]			
適宜、資料を配布する。			
[参考書等]			
(参考書) 授業中に紹介する			
(関連URL)			
<a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a> (輪読する論文はPDF形式でKULASISから入手できる)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷 (moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp) まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	生活習慣と生体機能障害 Lifestyle and Human Body Dysfunction	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 林 達也
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水1
[授業の概要・目的]			
林が担当する「健康科学」の講義内容を、最新の知見の紹介や文献の抄読を織り交ぜ、医学的考察やディスカッションを加えながらより深く学習することを目的とする。「健康科学」とともに本講義を履修することで、生活習慣病に関する基本的な教養知識のより明確な把握が可能である。			
[授業計画と内容]			
糖尿病、高血圧症、高脂血症、肥満症、骨粗鬆症など、日常のライフスタイルがその発病や進行に大きく影響する「生活習慣病」に関して、なぜ生活習慣がこれらの疾患の誘引となるのか、どのような病態を示すのか、どのように予防対策をたてるべきか、罹患した場合はどのように治療を行うのかについて理解を深める。			
講義トピックス(予定) なぜ元気な若者が熟中症になるのか 体重測定記録を利用した減量法(計るだけダイエット) 沖縄県の平均寿命の変化(沖縄クライシス) メタボリックシンドロームと動脈硬化症の危険因子 健康食ガイドライン Food Pyramid 健康増進機器としての自転車 有酸素運動・筋力トレーニングの健康科学的意義 日本の若年女性の「痩せすぎ」傾向とその弊害 食事制限と運動の寿命延長効果 喫煙による健康障害と禁煙補助薬 Actual Causes of Death (実質的な死因とは何か) 椅子に座ったまま行う「チェアアクササイズ」 健康づくりに適した走り方(スロージョギング) ロコモティブシンドロームと骨・関節・筋肉の重要性 日本の「管理職」の健康状態 など			
[履修要件]			
生活習慣病の予防や治療に興味のある学生であること。			
[成績評価の方法・基準]			
出席点(30%)とレポート(70%)の総合判定。			
[教科書]			
授業中に資料を配付。			
[参考書等]			
(参考書) 授業中に資料を配付。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
「健康科学」を履修していなくても理解できるように配慮しています			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	生活習慣と生体機能障害 Lifestyle and Human Body Dysfunction	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 林 達也
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
林が担当する「健康科学」の講義内容を、最新の知見の紹介や文献の抄読を織り交ぜ、医学的考察やディスカッションを加えながらより深く学習することを目的とする。「健康科学」とともに本講義を履修することで、生活習慣病に関する基本的な教養知識のより明確な把握が可能である。			
【授業計画と内容】			
糖尿病、高血圧症、高脂血症、肥満症、骨粗鬆症など、日常のライフスタイルがその発病や進行に大きく影響する「生活習慣病」に関して、なぜ生活習慣がこれらの疾患の誘引となるのか、どのような病態を示すのか、どのように予防対策をたてるべきか、罹患した場合はどのように治療を行うのかについて理解を深める。			
講義トピックス（予定） なぜ元気な若者が熱中症になるのか 体重測定記録を利用した減量法（計るだけダイエット） 沖縄県の平均寿命の変化（沖縄クライシス） メタボリックシンドロームと動脈硬化症の危険因子 健康食ガイドライン Food Pyramid 健康増進機器としての自転車 有酸素運動・筋力トレーニングの健康科学的意義 日本の若年女性の「痩せすぎ」傾向とその弊害 食事制限と運動の寿命延長効果 喫煙による健康障害と禁煙補助薬 Actual Causes of Death」（実質的な死因とは何か） 椅子に座ったまま行う「チェアアクササイズ」 健康づくりに適した走り方（スロージョギング） ロコモティブシンドロームと骨・関節・筋肉の重要性 日本の「管理職」の健康状態 など			
【履修要件】			
生活習慣病の予防や治療に興味のある学生であること。			
【成績評価の方法・基準】			
出席点（30%）とレポート（70%）の総合判定。			
【教科書】			
授業中に資料を配付。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に資料を配付。			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 「健康科学」を履修していなくても理解できるように配慮しています。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	応用運動医学ゼミ Seminar on Applied Exercise Medicine	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 林 達也
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水2
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
日常的な運動習慣はさまざまな「健康増進効果」を有することが知られている。運動には、呼吸循環機能や筋力・筋持久力、柔軟性など体力的指標の向上のみならず、肥満症、高血圧症、糖尿病、高脂血症、動脈硬化症、骨粗鬆症といった「生活習慣病」の予防・症状改善効果が期待できる。本授業では、中高齢者や有疾患者が健康増進目的や疾患改善目的に運動を行う際に、どのようなリスクがあり、それに対してどのように対処すべきかについての学習を行う。			
【授業計画と内容】			
過度な運動、不適切な運動によって生じる健康障害について焦点をあてる。以下のような実例を提示しながら、不測の事態がなぜ生じたか、どうすれば防げるかについての理解を深める。			
三重県伊勢市で「7人のメタボ待 内臓脂肪を斬（き）る！」と題して市幹部らが減量に挑戦する企画に市長らとともに参加していた同市健康福祉部の男性課長（47）が、運動中に倒れ死亡していたことが17日分かった。伊勢市などによると、課長は休暇中の14日午前9時10分ごろ、Tシャツと短パン姿で自宅近くの路上に倒れているのを通行人に発見されたが、既に死亡していた。死因は虚血性心不全で、ジョギングかウォーキング中だったとみられる。この企画は生活習慣病予防をPRするため市長が発案。メタボリック症候群の疑いのある幹部7人が、保健師から食生活や運動のアドバイスを受け、減量に挑んでいた。課長は腹囲が100センチあり、「10センチ減」を目標としていたが、保健師に急激な減量をいさめられていたという。(2007/08/17 Sankei Web)			
授業テーマ： ・中高齢者・有疾患者が運動することの功と罪 ・運動前のメディカルチェック ・目的に応じた運動処方 ・運動の効果の判定 ・トピックス：夏期の運動と熱中症、突然死を防ぐAED（自動体外式除細動器）、Locomotive Syndrome（運動器症候群）とその対策、など			
【履修要件】			
運動やスポーツの医学面からみた功罪について興味のある学生であること。			
【成績評価の方法・基準】			
出席点（30%）とレポート（70%）の総合判定。			
【教科書】			
授業中に資料を配付。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に資料を配付。			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） この授業を履修した後に「運動療法実験」を履修すると、運動指導の意図や意義がよく理解できます。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	運動療法実験 Experiment on Preventive Exercise Medicine	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 林 達也
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期集中	曜時限	集中講義
授業形態	実験		
【授業の概要・目的】			
糖尿病や肥満症などの「生活習慣病」の運動療法に関して、実際の運動手法や身体機能計測を自ら体験することによって、運動することの健康医学的意義を理解する。			
【授業計画と内容】			
本授業は8月上～中旬に1週間（月～金、3,4限）の集中授業として実施する（詳細は7月上～中旬に掲示予定）。 履修人数が少ない場合（およそ7,8名以内）、病院や保健所、高齢者施設などを訪れて、実際に行われている運動や身体機能計測を体験する。履修人数がそれより多い場合、運動療法に関する研究や診療にかかわっている専門職を講師として招き、学内にて実習を行う。			
平成24年度テーマ： 「地域病院における理学療法士の活動の実際」 「部屋の中で行う健康増進運動」 「健康運動指導士の役割と活動」 「自転車の健康科学的意義と効果的な乗り方」 「体組成計・身体活動量計の測定原理と機器の実際」 「救急処置（心肺蘇生とAED、ノドにものを詰めた人への対処）」等			
【履修要件】			
生活習慣病の運動療法を体験することに興味のある学生であること。			
【成績評価の方法・基準】			
4日間以上の出席とディスカッションへの参加をもって単位認定とする。			
【教科書】			
授業中に資料を配付。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に資料を配付。			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 注意！シラバス作成の時点では平成25年度の実習スケジュールが確定していません。履修届けを出すにあたって、実習の開催曜日や時限を知りたい場合は、メール等にて担当教員（林）に直接問い合わせてください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	分子運動医学ゼミ Seminar on Molecular Exercise Medicine	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 林 達也
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	水2
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
日常的な運動習慣がもたらす健康増進効果がどのようなメカニズムに由来しているのか、最近の内外の研究結果の紹介を含めて分子医学的観点から概説する。			
【授業計画と内容】			
生活習慣病、特に世界的に患者数が急増している2型糖尿病に焦点をあて、運動はどのような機序でこれらの病態を予防・改善するのか、効果的に予防・改善する運動の方法とはどのようなものか、食品や薬剤によって運動の効果は影響を受けるのかなどのトピックスを、生体を構成するミクロ（分子）の視点から学習する。			
講義トピックス 糖尿病ではなぜ血糖値が高くなるのか 1型糖尿病と2型糖尿病 運動はなぜ血糖値を下げるのか（運動とインスリンとの違い） 運動による骨格筋糖代謝の変化：糖輸送担体GLUT4とそのトランスロケーション 運動時に活性化されるシグナル伝達分子AMPキナーゼ インスリン抵抗性が運動によって改善するメカニズム 運動の急性効果（1回の運動の効果）と慢性効果（積み重ね効果） 運動類似的作用を誘導する機能的食品やその成分 骨格筋電気刺激による代謝活性化 など			
【履修要件】			
運動の代謝活性化の「分子機構」に興味のある学生であること。			
【成績評価の方法・基準】			
出席点（30%）とレポート（70%）の総合判定。			
【教科書】			
授業中に資料を配付。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に資料を配付。			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 初学レベルから説明しているため、とくに生化学や分子生物学の予備知識は必要ありません。興味のある学生には林研究室で行っている運動生化学関連の実験を公開しています。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	運動制御ゼミA motor control A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火4
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
運動制御、運動生理学、神経生理学に関する論文を抄読し、実験の目的の立て方、適切な実験方法、結果の書き方、考察の仕方を学ぶ。			
【授業計画と内容】			
比較的読みやすいレビューをパラグラフ毎に訳し、科学論文独特の用語について慣れる。学生の興味ある研究にちかい論文を抄読する。それに対して、議論する。			
【履修要件】			
神崎研究室で卒論の実験研究をするもの。			
【成績評価の方法・基準】			
日常点で評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	運動の生理学 Physiology of Behavior	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
本講義では、身体動作の生理学について学習する。 (1) 筋収縮の生理学 (2) 神経・筋の情報伝達・自律神経系の働き (3) エネルギー供給機構 (4) 糖代謝・乳酸の代謝 (5) 加圧トレーニングとスロートレーニング これら講義から、我々の運動(あるいは動作)がどのような制御則に基づいているのか?それほどのような生理学的機序なのか?そしてその複雑な制御則がどのような意味があるか?について学習する。			
【授業計画と内容】			
(1) 筋収縮の生理学 ミクロな視点から筋がどのようにして収縮・弛緩しているか、そのためにはどのような制御機構が働いているか、について学習する。また、マクロな視点から骨格筋の働きについて学習する。これに関しては2週間の授業を行う予定である。			
(2) 神経・筋の情報伝達 骨格筋を支配する運動神経細胞は、体内のさまざまな部位からの入力情報をもとにその出力を決定する。ここでは、これらの入力かどのように変換され出力に反映されるか、複数の入力かどのようにに総合され、その情報がどのように筋活動に結びつくかについて学習する。これに関しては2週間の授業を行う予定である。			
(3) エネルギー供給機構 骨格筋の活動には、エネルギーを供給し続けることが必要である。連続的なエネルギー供給機構を理解する。これに関しては2週間の授業を行う予定である。			
(4) 糖代謝 生活習慣病予防のためには、筋での糖代謝について深く理解することが必要である。また、スポーツの競技力向上のためにも糖代謝を理解する必要がある。骨格筋の糖代謝について学習する。これに関しては2週間の授業とする。			
(5) 乳酸の代謝 乳酸は疲労物質と考えられているが、それは間違いである。乳酸はエネルギー源である。乳酸が疲労物質でないこと、身体運動にとって乳酸は重要であることを学習する。これに関しては1週間の授業とする。			
(6) 自律神経系の働き 身体運動中に心拍数を測定してみると、運動強度にほぼ比例して心拍数は上昇する。運動時に限らず、このようなストレス時にみられる呼吸循環系のダイナミックな反応は自律神経を介してもたらされる。心拍数の一拍毎の変動から自律神経活動に関する情報が得られる。ここでは、心拍数の変動から自律神経系の働きについて学習する。これに関しては1週間の授業を行う予定である。			
----- 運動の生理学(2)へ続く			

授業科目名 <英訳>	運動制御ゼミB motor control B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	火4
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
運動制御、運動生理学、神経生理学に関する論文を抄読し、実験の目的の立て方、適切な実験方法、結果の書き方、考察の仕方を学ぶ。			
【授業計画と内容】			
比較的読みやすいレビューをパラグラフ毎に訳し、科学論文独特の用語について慣れる。学生の興味ある研究にちかい論文を抄読する。それに対して、議論する。			
【履修要件】			
神崎研究室で卒論の実験研究をするもの。			
【成績評価の方法・基準】			
日常点で評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

運動の生理学(2)			
-----			
(7) 加圧トレーニングとスロートレーニング 加圧トレーニングやスロートレーニングは筋力および筋量を効率的かつ効果的に向上させることができる。さらに、生活習慣病予防にも効果的である。これらトレーニングの生理学的メカニズムおよびその効用について学習する。これに関しては4週間の授業を行う予定である。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席とテスト(最終週に実施する)により評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	運動の生理学 Physiology of Behavior	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
本講義では、身体動作の生理学について学習する。 (1) 筋収縮の生理学 (2) 神経・筋の情報伝達・自律神経系の働き (3) エネルギー供給機構 (4) 糖代謝・乳酸の代謝 (5) 加圧トレーニングとスロートレーニング これら講義から、我々の運動(あるいは動作)がどのような制御則に基づいているのか?それほどのような生理学的機序なのか?そしてその複雑な制御則がどのような意味があるか?について学習する。									
【授業計画と内容】									
(1) 筋収縮の生理学 ミクロな視点から筋がどのようにして収縮・弛緩しているか、そのためにはどのような制御機構が働いているか、について学習する。また、マクロな視点から骨格筋の働きについて学習する。これに関しては2週の授業を行う予定である。									
(2) 神経・筋の情報伝達 骨格筋を支配する運動神経細胞は、体内のさまざまな部位からの入力情報をもとにその出力を決定する。ここでは、これらの入力がかかるように変換され出力に反映されるか、複数の入力がかかるように総合され、その情報がどのように筋活動に結びつくかについて学習する。これに関しては2週の授業を行う予定である。									
(3) エネルギー供給機構 骨格筋の活動には、エネルギーを供給し続けることが必要である。連続的なエネルギー供給機構を理解する。これに関しては2週の授業を行う予定である。									
(4) 糖代謝 生活習慣病予防のためには、筋での糖代謝について深く理解することが必要である。また、スポーツの競技力向上のためにも糖代謝を理解するが必要である。骨格筋の糖代謝について学習する。これに関しては2週の授業とする。									
(5) 乳酸の代謝 乳酸は疲労物質と考えられているが、それは間違いである。乳酸はエネルギー源である。乳酸が疲労物質でないこと、身体運動にとって乳酸は重要であることを学習する。これに関しては1週の授業とする。									
(6) 自律神経系の働き 身体運動中に心拍数を測定してみると、運動強度にほぼ比例して心拍数は上昇する。運動時に限らず、このようなストレス時にみられる呼吸循環系のダイナミックな反応は自律神経を介してもたらされる。心拍数の一拍毎の変動から自律神経活動に関する情報が得られる。ここでは、心拍数の変動から自律神経系の働きについて学習する。これに関しては1週の授業を行う予定である。									
(7) 加圧トレーニングとスロートレーニング									
----- 運動の生理学(2)へ続く -----									

授業科目名 <英語>	数理現象論A Applied Analysis A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森本 芳則						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
自然現象を記述する偏微分方程式の数学的な取り扱いについて学ぶ。偏微分方程式の解の存在と一意性、弱解、解の平滑効果、解の安定性などの概念を偏微分方程式の具体例に用いて解説する。講義の後半では気体運動論の基礎方程式であるボルツマン方程式に対する最近の結果について紹介する。									
【授業計画と内容】									
1. フーリエ解析 2. 熱方程式 3. 波動方程式 4. ソボレフ空間 5. 超局所解析理論 6. ボルツマン方程式 7. ボビーレフ公式 8. 衝突項の評価 9. 解の一意性と平滑効果、以上のテーマについて、1 課題あたり1-2週の授業を行う。									
【履修要件】									
微分積分学A・B、線形代数学A・Bを履修済であること。									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、課題演習により評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 内容は高度であるが、必要な基礎知識は大学理系1回生終了程度で良い。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

運動の生理学(2)									
加圧トレーニングやスロートレーニングは筋力および筋量を効率的かつ効果的に向上させることができる。さらに、生活習慣病予防にも効果的である。これらトレーニングの生理学的メカニズムおよびその効用について学習する。これに関しては4週の授業を行う予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席とテスト(最終週に実施する)により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理現象論B Applied Analysis B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高崎 金久						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
電気回路の基本法則としてキルヒホフの法則があるが、それを数学的に定式化すれば、線形代数やグラフ理論との関係が見えてくる。交流回路は微分方程式とも関わっている。さらに確率論との思いがけない関係もわかる。この講義ではこのような電気回路の数学的側面を紹介し、電気回路を題材にして線形代数、組合せ論、微分方程式、確率論などについての総合的理解を深めることをめざす。									
【授業計画と内容】									
以下のような項目について、各項目あたり1-3週の講義を行う予定である。									
1. キルヒホフの法則とグラフ理論 2. グラフ理論の基本的概念 3. グラフのつながり具合を表すさまざまな行列 4. 抵抗回路の方程式とその解 5. 行列と木の定理 6. 交流回路と微分方程式 7. グラフのラプラシアンとマルコフ鎖									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点やレポートなどによって総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
電気回路の工学的側面を解説するのが目的でないで、電気回路そのものを学びたい人に向けていない。電磁気学に関しては高校程度の知識があればよい。線形代数については十分に理解しておくこと。									
オフィスアワーは特に設けない。授業時間外で面会したい受講者は takasaki@math.h.kyoto-u.ac.jp まで希望時間などを知らせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理学ゼミナール Seminar in Mathematics and Informatics	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 高崎 金久						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
<p>数学から情報学に至る数理学の様々な分野から適当な題材を選び、輪講（セミナー）形式で学ぶ。テキスト、専門書を自学、自習する能力が身につくことを目的としている。したがって、読解力、思考力をはぐくむことに重点をおくので、履修により知識量を増やすことは2次の目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>受講者の中から毎回2～3名程度の発表者をその場で決めて、セミナー形式で発表を行う。受講者全員に課題を提示して演習を行うこともある。</p> <p>受講者は割り当てられた題材について事前にテキスト・資料を読み、内容を理解した上で整理しておく。セミナーでは担当教員や他の受講者から随時質問などが寄せられるので、発表者はそれに適切に答えられるように、発表内容について十分な準備をしておかなければならない。また、発表時には、予定している発表内容について最初に全体の流れを示し、そのあとで各論に入るなど、発表を体系的で理解しやすいものにするように工夫しなければならない。</p> <p>当然、通常の講義や演習と違って、受講者自身が予習や発表を通じて題材に積極的に取り組むことが要求される。</p> <p>題材の選択に当たっては担当教員がいくつかの選択肢を示し、受講者の希望を最大限に尊重した上で調整を行う。基本的に1年次に学んだ微分積分学、線形代数学、情報科学などの知識のみを前提とするため、内容的にはあまり高度な題材は扱わない。</p>									
【履修要件】									
題材やテキスト等を決めるため、第1回から必ず出席すること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況およびセミナーでの発表能力に基づくが、演習課題への積極的な姿勢も考慮する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に定めがないが、講義時間外に直接話したい学生は takasaki@math.h.kyoto-u.ac.jp まで希望日時を連絡すること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	実解析 A Real Analysis A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 上木 直昌						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>測度論によって一般の集合上で積分論を構築し、和、積分の計算などを統一的に行う。また Lebesgue 積分論を構築し極限操作を簡明にする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>I. 測度空間の構成（可算加法族、可測集合、Hopf の拡張定理）  II. 可測関数と積分の定義（Riemann 積分と Lebesgue 積分の関係）  III. 収束定理（単調収束定理、Fatou の補題、Lebesgue の収束定理）  IV. 直積測度（Fubini の定理）  V. <math>L^p</math> 空間（完備性、Hölder の不等式、Minkowski の不等式）  VI. Radon-Nikodym の定理（符号付き測度、Hahn 分解、Lebesgue 分解、Stieltjes 測度、有界変動関数）</p>									
【履修要件】									
「数学基礎AB」、「微分積分学AB」、「線形代数学AB」などで扱う微分積分学、線形代数学の知識を仮定する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席率と試験による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 伊藤清三『ルベーグ積分入門』（裳華房）ISBN:978-4785313043									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>微分方程式論、確率論及びその関連分野を扱う際に必須の理論を扱う。「集合と位相」、「確率論基礎」、「数理現象論AB」、「実解析B」も履修することを推奨する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	数理学特論II Topics in Mathematical Science II	担当者氏名	未定						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
4月以降に揭示する。									
【授業計画と内容】									
4月以降に揭示する。									
【履修要件】									
4月以降に揭示する。									
【成績評価の方法・基準】									
4月以降に揭示する。									
【教科書】									
4月以降に揭示する。									
【参考書等】									
（参考書） 4月以降に揭示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	実解析 B Real Analysis B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 上木 直昌						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>実対称行列を無限次元空間で一般化したものに自己共役作用素がある。この授業では実解析Aで扱った理論を応用して実対称行列の対角化を自己共役作用素に拡張し、その量子力学への応用を述べる。これは作用素論、スペクトル理論の基本的題材である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>I. Feynman 経路積分量子化（Schrödinger 方程式、停留位相原理、準古典極限）  II. 自己共役作用素（対称作用素、自己共役拡大、摂動論）  III. 作用素半群（ユニタリ作用素、Cayley 変換）  IV. スペクトル分解（作用素値測度）  V. Feynman-Kac の公式（Brown 運動の構成、Trotter 積公式、熱方程式）  VI. スペクトルの分類（連続スペクトルと点スペクトル、非束縛状態と束縛状態）</p>									
【履修要件】									
「数学基礎AB」、「微分積分学AB」、「線形代数学AB」などで扱う微分積分学、線形代数学の知識と「実解析A」で扱う測度論の知識を仮定する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席率と試験による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） B.Simon『Functional integration and quantum physics』（Academic Press）ISBN:978-0126442502									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>作用素は解析学を始めとして数理物理学、確率論など様々な分野で扱われる。この授業ではその基本的扱い方を述べる。「集合と位相」、「確率論基礎」、「数理現象論AB」、「関数論」も履修することを推奨する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	計算機科学の基礎 B Foundation of Computer Science B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
-<2年に1回の開講-> 計算モデルなどの計算機科学の理論的な基礎について学ぶ。									
【授業計画と内容】									
計算モデルの基礎理論について講義を行う予定である。以下のような課題について、1課題あたり1～2週 of 授業を行う。									
1. 抽象的書き換え系 2. 合流性、CR性等の性質 3. 項とユニフィケーション 4. 項書き換え系 5. 項書き換え系の具体例 6. KBアルゴリズム 7. 停止性 8. 他の計算モデル 9. まとめ									
【履修要件】									
情報数学基礎論A,Bなどの情報数学の基礎科目、情報学概論などの計算機関係の基礎科目と情報学概論演習、などの演習科目を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
1回～3回のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/cs-ko/">http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/cs-ko/</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報処理の方法と演習 B Exercises in Information Processing B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金1	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
-<2年に一回の開講-> 計算機及びネットワークのハードウェア構成と基本ソフトウェアの運用方法を実際に運用を行うことにより学ぶ。また、計算機の理論的演習も必要に応じて行う。									
【授業計画と内容】									
計算機のハードウェアとソフトウェアの成り立ちを、実際に計算機を分解組み立てし、ネットワークを構成して接続し、基本ソフトウェアをインストールして運用することによって学ぶ。具体的には以下の項目に付いて理解する。									
1. コンピュータのハードウェアのあらまし 2. 作業の方法と安全のための注意 3. 分解・組み立ての実際 4. OSのインストールとネットワークの設定 5. サーバソフトウェアの種類と例 6. サーバソフトウェアのインストールと設定・運用の基本 7. セキュリティの保持									
【履修要件】									
情報学概論ABなどの計算機関係の基礎科目を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
計算機の運用方法についての実技と発表による。また、レポートの成績を加味する場合がある。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/houhoutu-enshuu/">http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/houhoutu-enshuu/</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	計算と位相 Topology and Computation	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 立木 秀樹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
イマジナリーキューブを題材として、フラクタルなどの幾何的概念とその基礎となる位相的な概念、および、数え上げなどの組合せ的な概念を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
3方向から見て立方体と同じように正方形に見える立体をイマジナリーキューブという。この講義では、イマジナリーキューブ、および、イマジナリーキューブをもとに作られたパズルや芸術作品を題材にして、フラクタルなどの幾何的な概念と、数え上げなどの組合せ的な概念を学ぶ。									
1、立体の幾何。 2、位相空間 3、フラクタルと不動点定理 4、対称性と群論入門 5、数え上げ定理									
また、4次元立体についても解説を行い、Zome ツールを用いて、4次元立体の工作を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートが試験を課す。出席を評価することもある。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理科学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宇敷 重廣						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】									
履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】									
数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面談し、教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況および、講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森本 芳則						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく： 宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 上木 直昌						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく： 宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高崎 金久						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく： 宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 木坂 正史						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく： 宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 日置 尋久						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 立木 秀樹						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	プログラミング演習（Lisp） Programming Practice (Lisp)	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	1-4回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	水4,5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 プログラミング言語LISPによって記号処理の基礎的な演習を行う。LISPは、関数的プログラミングが可能で、人工知能などの研究にも使われている言語である。再帰的データ構造とその探索、オブジェクト指向についても具体例によって理解する。また、希望する学生は、演習の題材として記号論理を用いてさまざまな記号処理を行い、記号論理の復習とそこの具体的な処理方法を学べる。									
【授業計画と内容】 以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。 0. オリエンテーション 1. 式の評価 2. 変数、関数、関数定義と再呼び出し 3. S式の正確な定義、二分木とリスト、再帰的データ構造 4. 記号論理の簡単な説明 5. リストによるデータの表現 6. リスト処理、数式と論理式の処理 7. オブジェクト指向 8. 木の探索とMin-Max法 コースの最初にUNIX(Linux)の使用法、メールの送受信、WWWブラウザの使用法を学び、受講の準備を行う。LISPには多数の方言が存在するが、本演習では、仕様がすっきりとまとまっているSchemeを使用する。									
【履修要件】 メディアセンターのIDを取得し、ログインできること。受講者は計算機の基本的な使い方やリテラシーを身につけていることが望ましい。記号論理学についての演習を主に行うことを希望する履修者は、「数理論理学A」などを同時期までに履修することを勧める。									
【成績評価の方法・基準】 毎回のレポートによって評価する。出席率も加味する場合がある。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL） <a href="http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/scheme/">http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/scheme/</a> (授業のホームページ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	プログラミング演習 (Prolog) Programming Practice (Prolog)	担当者氏名	龍谷大学 准教授 新井 潤						
配当学年	1-4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	金1,2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
Prologを使用して計算機による記号処理の基礎を学ぶ。Prologは論理に基づくプログラミング言語で、3段階法をそのまま実行したり、日本語や英語などに近い表現を行うことができる。計算機内部の知識があまりない場合にも理解することができる言語である。また、Prologによりデータベースとその処理プログラムを実現することもできる。									
【授業計画と内容】									
以下のようなトピックについてそれぞれ1,2週の授業を行う予定である。 1. 基本要素1: 変数と述語 2. データベース = 成り立つこと(解)の集まり 3. 解がどうか調べる質問 4. 解であるための条件のANDとORによる組合せ 5. 別解を求める動作 6. 条件の否定 7. 基本要素2: 項とデータのパターン 8. 2つのデータのパターンを合わせる 9. 自分自身を使った定義 10. リスト処理 11. 一階述語論理と自動証明のアルゴリズム コースの最初にLinuxの使用方法を学び、受講の準備を行う。									
【履修要件】									
京都大学の教育用計算機システムの利用IDがあり、利用のマナーを遵守できること									
【成績評価の方法・基準】									
毎回のレポートの達成度によって評価する。出席率も加味する場合がある。基礎的な課題について7割程度の達成度であれば単位を取得することが可能である。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
初回にできるかぎり出席すること。 関連する授業: 全学共通科目数理論理学A,B、情報科学のためのプログラミングI オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報数学II Mathematics for Informatics II	担当者氏名	非常勤講師 山田 修司						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
情報科学で有用な初等整数論および数え上げ論について、いくつかの具体例とトピックとを交えながら講義を行う。 この授業の目的は次の通りである。 初等整数論の剰余類について理解し、その計算および応用が出来る。 数え上げの理論を用いて、離散的な事象の数え上げが出来る。									
【授業計画と内容】									
授業を前半と後半に大きく分けて、次のような内容についてそれぞれ講義を行う予定である。 [前半] 整数の剰余計算、石取りゲーム、三山崩し、ユークリッドの互除法、フェルマーの小定理、中国剰余定理、RSA暗号 [後半] 数え上げの基礎、順列、組み合わせ、置換、ボリアの定理									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
上で示したトピックに関連するレポート課題および最後の授業で行う簡単な試験によって理解度を評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 必ずしも入手しなくてよい									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報数学I Mathematics for Informatics I	担当者氏名	非常勤講師 山田 修司						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
情報科学として必要な数学の一分野である、グラフ理論について講義を行う。 グラフは、物と物との関係、繋がりなどを表す図形であり、例えば路線図や人間関係図など、実社会で広く用いられているものである。 授業の目的は次の通りである。 グラフの数学的定義や定理を理解できる。 グラフの実践的な応用とそのアルゴリズムについて習得する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなトピックについて、それぞれ2-4週で講義する予定である。 1. グラフの定義および用語、部分グラフ、付加・削除・縮約、頂点の次数、同型なグラフ、単純グラフの一覧表、完全グラフおよび補グラフ 2. 道、回路・サイクル、二部グラフ、オイラー回路、ハミルトンサイクル、切断辺・切断点・ブロック、木、根つき木、全域木、全域木の数え上げ 3. 平面グラフ・平面的グラフ、双対グラフ、オイラーの公式、正多面体グラフ、非平面的グラフ 4. 頂点彩色、彩色多項式、辺彩色									
【履修要件】									
文系・理系は問わない。特別な予備知識は仮定しない。									
【成績評価の方法・基準】									
上で示したトピックに関連するレポート課題および最後の授業で行う簡単な試験によって理解度を評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 必ずしも入手しなくてよい									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語構造論 Language and its Structure	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 藤田 耕司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
生成文法・生物言語学・進化言語学の立場から自然言語の形式的特性を論じる。言語はヒト種固有の生物学的形質であり、それは階層的構造を介して音と意味を繋ぐシステムである。この構造を持つことが人間言語を生物学的に非常にユニークな能力にしており、構造を構築する統語演算能力の研究は言語能力の最も中心的で基本的な部分の研究となっている。この統語演算能力について、これまでどのようなことが解明されてきたかを中心に、近年、生物言語学・進化言語学として急速に進展している言語への学際的アプローチの一端を紹介する。									
【授業計画と内容】									
人間言語の基本設計、その個体発生と系統発生などを主たるテーマとして、言語に働く根本原理を求め試みについて概説する。特に、言語能力の根幹をなす回帰的統語演算能力の仕組みを理解するために、いくつかの言語現象をとりあげ、理論言語学(生成文法)の手法を用いた具体的な分析方法を紹介する。 またそこから得られた知見が、生物言語学や進化言語学という、より学際的な企てにどのように貢献し、中心的な役割を果たしているかを概観する。 講義では主に以下のようなトピックを取りあげる。 (1) 生物言語学・進化言語学とは何か (2) 人間言語の設計・発達・進化 (3) 普遍文法 (4) 生成文法(I): 原理・媒介変数モデル (5) 生成文法(II): ミニマリスト・プログラム (6) 回帰的統語演算と人間の本性 (7) 生物進化と言語進化									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験に基づく。									
【教科書】									
ハンドアウトなど各種資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
自然科学・経験科学の方法論が言語研究においてどのように実践されてきたかを理解し、それを学生諸君がそれぞれの専門の研究に役立てることができるようになれば幸いです。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語構造論演習 Seminar on Language and its Structure	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 藤田 耕司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
言語は音と意味を階層的統語構造を介して繋ぐシステムであり、この統語構造を構築する演算能力=シンタクスが人間固有の言語機構の中核の基盤をなしている。この統語演算能力をめぐる近年の生成文法・生物言語学研究所の動向や新たな知見に触れ、理解を深めることがこの授業の目的である。									
【授業計画と内容】									
上記の目的を念頭に、授業では英文で書かれた基本的文献を数編精選して輪読する。主たるテーマとしては次のものを予定している。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 統語と意味のインターフェイス</li> <li>(2) 回帰的演算操作</li> <li>(3) 最小演算</li> <li>(4) 素性の照合と一致</li> <li>(5) 併合と移動</li> </ol>									
とりあげる文献は、受講者の関心や背景知識を考慮の上、相談して決める。あらかじめ分担を指定するので、受講者は担当箇所について準備し、授業中にまとめて発表すること。内容の理解はもちろんであるが、専門的な英語文献を読みこなす能力を養い、自らが英語論文を執筆する際に留意すべき事項を学びとることも、この授業の狙いである。									
【履修要件】									
「言語構造論」を履修済みであるか、生成文法や理論言語学に関する基礎的知識を有していることが極力望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
発表等を通じた授業への貢献度に基づいて評価する。									
【教科書】									
マテリアルを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語機能論演習 Seminar : Language and its Functions	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 服部 文昭						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
輪読形式の授業で、言語の機能につき理解を深める。									
【授業計画と内容】									
池上嘉彦氏の《「日本語論」への招待》(講談社、2000年)をモチーフにして、毎回、学生諸君の発表を中心にして、授業を進めてゆく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートの予定。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語機能論 Language and its Functions	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 東郷 雄二						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
この講義のテーマは英語の冠詞論である。冠詞を持たない日本語を話す私たちに冠詞の使い方の習得はとてもむずかしい。そもそも冠詞は何の役に立っているかというのわかりにくい。この講義では具体例を通して、冠詞のしくみと使い方を考える。									
【授業計画と内容】									
英語を話したり書いたりするときにつぶかる大きな問題に冠詞がある。英語は冠詞の発達が途中で止まってしまった言語なので無冠詞のケースが多く、これも冠詞の用法をわかりにくくしている。この講義では英語の冠詞の使い方を検討し、その用法の奥に潜む原理を考えてみたい。その際に参考になるのがフランス語の冠詞である。英語は冠詞が未発達のまま止まってしまったのたいてい、フランス語は高度に冠詞を発達させたので、英語の無冠詞を考える上で大いに参考になる。講義では随時フランス語の冠詞にも触れながら解説する。受講にあたって特に言語学の知識は必要ない。次のようなテーマに関して1-2回程度の話をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 不定と定とは何か</li> <li>2) 不定冠詞と定冠詞の基本的意味</li> <li>3) 無冠詞とゼロ冠詞</li> <li>4) go to Tokyo by trainではtrainは無冠詞だが、play the pianoではpianoに定冠詞が付くのはなぜか</li> <li>5) I have no ideas.は「何のアイデアも浮かばない」だが、I have no idea.は「さっぱり見当もつかない」という意味なのはなぜか</li> <li>6) I like apples. : 総称名詞と冠詞</li> <li>7) show the flag「旗幟を鮮明にする」ではなぜ定冠詞が付くか</li> <li>8) go to the churchは「行きつけの教会」を意味するのか</li> </ol>									
【履修要件】									
フランス語を学んでいるとよりよくわかるが、必須の条件ではない。ほとんどは英語の話なので、フランス語を学んでいない人でも理解できる。									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポートにより成績を評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントを配布する									
【参考書等】									
(参考書) 石田秀雄『わかりやすい英語冠詞講義』(大修館書店) ISBN:4-469-24475-9									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語認知論 Cognition and Language	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 谷口 一美						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
認知言語学の観点から、ことばの意味の拡張・変化といった動的側面について考察することにより、言語と認知との相互作用への理解を深める。									
【授業計画と内容】									
この授業では、ことばの意味や用法が変化し、言語システムの中に定着し取り込まれていく過程とメカニズムについて、認知言語学の観点から幅広く考察していく。以下の内容やキーワードについて、各2週前後の授業で扱う予定。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 意味変化の要因：メタファーとメトニミー</li> <li>(2) ことばの多義性と意味ネットワーク</li> <li>(3) イメージ・スキーマと多義性</li> <li>(4) 身体性基盤</li> <li>(5) 使用基盤モデル</li> <li>(6) 文法構文にみられる用法の拡張</li> <li>(7) 意味の漂白化と簡化</li> </ol>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末に筆記試験を行う予定。授業への出席や参加態度を重視し、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業でプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語認知論演習 Seminar on Cognition and Language	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 谷口 一美						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
認知言語学は、認知的作用（知覚、注意、推論、記憶など）と言語との関わりを重要視し、文法や意味のメカニズムを明らかにしようとする理論である。どのようにしてこれらの認知的作用が言語現象に反映されているか、身近な例を示しながら、認知言語学の基礎を学んでいきたい。									
【授業計画と内容】									
授業では以下のテーマについて、それぞれ2週間後、授業を行う予定である。									
1. 言語学と心理学の関わり (1): 図と地の分化 2. 言語学と心理学の関わり (2): 視線と主観性 3. カテゴリー化と言語 (1): プロトタイプ・カテゴリー 4. カテゴリー化と言語 (2): 抽象化とスキーマ 5. イメージ・スキーマと言語の意味 6. 意味の拡張: メタファーとメトニミー 7. 文法構文と意味									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末の試験や課題、出席状況、授業への取り組み方から、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業でプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語比較論演習 Seminar on Comparative Language Studies	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋藤 治之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
比較言語学の方法の習得を目指し、同時に言語変化の法則性とそのメカニズムを追及する。さらに、言語理論史に関する知識を深める。									
【授業計画と内容】									
言語学における音論には音声学 (phonetics) と音韻論 (phonology) の二つの分野がある。前者は意味の区別に関与するか否かとは無関係に音を調音、聴覚、音響の観点からできる限り細かく分析するが、後者は各言語における意味の区別の観点から音素を設定し、その体系を記述することをその仕事とする。本授業では下記の教科書に基づいて音素に関する様々な問題を紹介したい。 第1回から第5回は音声学、音素、弁別的素性について考察する。 第6回から第10回は音韻的プロセス、基底的表示について考察する。 第11回から第15回は音節、強勢とイントネーションについて考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験と出席率による。									
【教科書】									
Katamba, Francis 『An Introduction to Phonology』 (Longman) ISBN:0-582-29150-x 上記教科書のコピーをこちらで準備して配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーの有無についてはKULASISを調べてください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語比較論 Comparative Language Studies	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋藤 治之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
比較言語学の方法の習得を目指し、同時に言語変化の法則性とそのメカニズムを追及する。さらに、言語理論史に関する知識を深める。									
【授業計画と内容】									
近年の共時的言語理論研究と通時的歴史言語学研究的相互関係についての議論が盛んになっている。このことはソシュールが『一般言語学講義』の中で、“共時的研究に通時的研究から得られる知識を導入してはならない”という考えを覆すものである。本授業では下記の本に掲載されている論文をいくつかを選び、言語学における上述の重要なテーマについて考察を加えたい。 第1回から第10回は下記上段の教科書により共時的研究と通時的言語変化の相互関係を考察する。 第11回から第15回は下記下段の教科書により具体例を用いてこの問題について考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験と出席率による。									
【教科書】									
Josephson, Folke (ed.) 『Interdependence of Diachronic and Synchronic Analyses』 (John Benjamins Publishing Company) ISBN:9789027205704 Ziegeler, Debra 『Interfaces with English Aspect』 (John Benjamins Publishing Company) ISBN:9027230927 教科書はこちらでコピーを準備して配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
* オフィスアワーの実施の有無は、KULASISで確認してください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学セミナーI Seminar in Linguistics I	担当者氏名	情報メディアセンター 教授 壇辻 正剛						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火5	授業形態	セミナー
【授業の概要・目的】									
(授業の概要・目的)									
言語は文化活動の根幹を成すものでもある。この授業では言語科学に関するテーマに関連して、ゼミナール形式で理解を深めることを目的とする。言語と文化や社会、教育などとの関わりにも目を向け、諸言語の具体的な分析と記述を通して、言語の諸側面に考察を加えることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下の課題について、1課題当たり1~2週の授業を行なう予定である。 ・言語科学の基礎 ・言語科学の諸領域 ・言語科学の応用と展開 ・言語の体系と構造 ・世界の諸言語と日本語 ・言語の通時的研究 ・言語の共時的研究 ・言語の比較と対照 ・対照言語学の領域 ・言語科学の応用 ・今後の課題と展望									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学ゼミナールII Seminar in Linguistics II	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 東郷 雄二						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
この授業では日本語で書かれた言語学に関する論文を読み、コトバのしくみと働きを研究する理論言語学に必要な基本的概念と手法を学ぶことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
今年次は次の論文を輪読する。受講する人はそれぞれ担当を決めて、レジュメを作り、授業で順番に発表してもらう。言語学事典などを調べて専門用語に親しむことも重要な作業となる。 [1] 鷲尾龍一、三原健『ヴォイスとアスペクト』(日英語比較選書7)、研究社出版 第II部 第1章「アスペクトと動詞分類」pp.108-144 [2] 巻下吉夫、瀬戸賢一『文化と発想とレトリック』(日英語比較選書1)、研究社出版 第II部 第3章「メトニミーの日英比較」pp.123-1165 [3] 影山太郎、由本陽子『語形成と概念構造』(日英語比較選書8)、研究社出版 第1章「名詞から動詞を作る」pp.11-52									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
受講者には少なくとも一回は授業で発表してもらい、それを平常点として成績評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学ゼミナールIV Seminar in Linguistics IV	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 服部 文昭						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題につき、理解を深めてゆく。									
【授業計画と内容】									
動詞のアスペクト、名詞・形容詞の格、コピュラを含む構文といったテーマを中心に、取り組む予定である。 具体的に述べれば、古典的なヴェンドラーの分類をめぐる問題、借用語である動詞と両体動詞との関係の問題、否定とアスペクトとの問題、動詞のアスペクトと目的語(その格)の問題などである。さらにまた、コピュラを含む構文の述部での名詞・形容詞の格の選択の問題も当然扱うが、その際に、格とアスペクトとの関係、近隣のスラヴ諸語との対照といった点にも目配りをしてゆきたい。									
単なる講義には終わらず、いくつかのカレントの論文を輪読する形式で進めてゆく。受講生諸君に割り当てる際には、本人の関心・興味と勉学・研究の進み具合を勘案の上、分担を決めようと考えているので、受講する諸君は積極的に参加して欲しい。									
【履修要件】									
ロシア語の読めることが望ましい(具体的には、少なくとも8単位は履修済みのレベル)。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートなどの総合評価を原則とする。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学ゼミナールIII Seminar in Linguistics III	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
印欧語の世界を視野に収めながら、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。史的言語学の諸分野(音論・形態論・統語論等の諸領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。比較言語学的方法と併せて、言語の理論的考究による種々の成果を踏まえ、言語学的方法論上の問題についても考察する。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。									
【授業計画と内容】									
言語学の諸分野(音論・形態論・統語論・意味論などの領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学的方法論上の問題についても考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点・小テスト・レポート等により総合的に判断する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学習指導論 Theories of English Language Learning and Teaching	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 中森 誉之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
英語を学習していく際に学習者が直面する諸課題を多面的に考察した上で、効果的かつ効率的な指導について検討する。基礎から発展まで、幅広い視座と深い見識を身につけることを目的とする。この授業では、現在までの自らの英語学習経験を振り返りながら、言語技能(文法・語彙・聴解・発話・読解・作文)の学習と指導について体系的に考究する。来年度は、英語の言語知識(音声・文字とつづり・語彙・構造・運用)の学習と指導について理論的に考察する。									
【授業計画と内容】									
1. 英語の理解と表出過程：外国語処理能力育成に向けて 2. 技能間の関係性、技能指導の順序性 3. 聴解(Listening)の学習と指導 4. 発話(Speaking)の学習と指導 5. 読解(Reading)の学習と指導 6. 作文(Writing)の学習と指導 7. 統合技能の育成に向けた指導、語彙の位置付け 8. 統合技能の育成に向けた指導、文法の位置付け * 内容に応じて複数回の授業時間を当てる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に実施する数回の論述試験の成績を合計し、100点満点換算し、本学の評価基準で判定する。評価は、知識の定着度と論証能力(独創性・説得性・論理性・明解性)に基づく。									
【教科書】									
中森誉之『学びのための英語指導理論 - 4技能の指導方法とカリキュラム設計の提案』(ひつじ書房)									
【参考書等】									
(参考書) 中森誉之『学びのための英語学習理論』(ひつじ書房)(偶数年度のこの授業で使用しています。) Takayuki Nakamori『Chunking and Instruction』(Hituzi)(大学院で使用しています。) 中森誉之『外国語はどこに記憶されるのかー学びのための言語学応用論』(開拓社(言語・文化選書37))(最新の知見を取り入れた分かりやすい読み物。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
英語の学習や指導に興味を持っている人なら教師経験や教員志望の有無は全く問わない。主に講義を中心に展開する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語教育方法論 Methodology in English Education	担当者氏名	藤原研一 教授 田地野 彰
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木2
授業形態	演習		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
言語と教育との有機的関連性を視野に入れながら、言語と教育にかかわる諸課題を、理論と実践の両面から探求する。 主として、言語教育理論、教育環境論、教育方法論、学習者論、履修課程設計論、教材開発論、評価論について総合的観点から考察する。具体的には、カリキュラム開発、教授法、学習方略、動機づけ、語彙教育、教育文法等に関する諸課題について考究する。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語カリキュラム開発論</li> <li>2. 英語教育方法論</li> <li>3. 英語教育論（高等教育の観点から）</li> <li>4. 英語教育論（中等教育の観点から）</li> <li>5. 英語教育論（初等教育の観点から）</li> <li>6. 英語教育論（社会言語学の観点から）</li> <li>7. 英語教育論（言語習得論の観点から）</li> <li>8. 英語教材開発論</li> <li>9. 英語教育評価論</li> <li>10. 英語教育学習者論</li> </ol>			
なお、受講者には、少なくとも一つの課題について関連研究の成果をまとめて報告することが期待されている。			
<b>[履修要件]</b>			
特になし			
<b>[成績評価の方法・基準]</b>			
平常点と学期末レポートにより総合的に評価する。なお、平常点には、出席点、授業内での発言、発表などが含まれる。			
<b>[教科書]</b>			
授業中に指示する ELT Journal, Applied Linguistics, TESOL Quarterly, English for Academic Purposes, Language Learning など、指定された学術雑誌・専門誌の掲載論文を教材として使用する予定。			
<b>[参考書等]</b>			
(参考書) 田地野 彰 『<意味順>英作文のすすめ』(岩波書店) ISBN:978-4005006762 (学習文法・文法指 ----- 英語教育方法論(2)へ続く			

授業科目名 <英訳>	英語コミュニケーション論 Introduction to CALL	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 M. ピーターソン
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水5
授業形態	演習		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
This course is designed to provide an introduction to key concepts and research in the field of computer assisted language learning (CALL).			
<b>[授業計画と内容]</b>			
The lectures in this course will focus on providing an overview of the technological, theoretical and pedagogical issues raised by the application of computer technology in language education. In this context, areas such as pedagogy, technology and second language acquisition theory will also be investigated with the aim of providing students with a thorough understanding of the impact of computer technologies on second language learning and teaching. Moreover, on completion of this course students will be able to effectively apply new knowledge regarding CALL in their teaching. Areas covered in the lectures will include software evaluation, CALL authoring, courseware management, data driven learning and computer mediated communication (CMC).			
<b>[履修要件]</b>			
Undergraduate students			
<b>[成績評価の方法・基準]</b>			
This course has two main requirements, regular attendance and submission of a paper (due by the end of the semester) focusing on an aspect of CALL. Examples of suitable topics include:  evaluation of a CALL software package critical review of a CALL web site critical review of a CALL article or book creation of and rationale for a CALL task			
Assessment will be based on the above factors.			
<b>[教科書]</b>			
使用しない			
<b>[参考書等]</b>			
(参考書) Chapelle, C. 『English language learning and technology』(John Benjamins) Levy, M. 『Computer assisted language learning: Concept and conceptualization』(Oxford University Press)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
Towndrow, P. & Vallance, M. (2004). Using IT in the language classroom: A guide for teachers and students in Asia. Longman: London.			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

英語教育方法論(2)
----- 導についての参考図書として使用する予定。 大津由紀雄(編著) 『学習英文法を見直したい』(研究社) ISBN:978-4327410803 (学習文法について様々な視点から論じている。参考図書として使用する予定。) Yoshida, T., Imai, H., Nakata, Y., Tajino, A., Takeuchi, O. & Tamai, K. 『Researching Language Teaching and Learning: An Integration of Practice and Theory』(Peter Lang) ISBN:978-3-03911-534-1 (授業ではELT Journalなどの学術誌・専門誌から関連論文を参照する。)
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))
毎週2本程度の指定論文を読んでくること。 オフィスアワーは、水曜日 12:10-12:50。(事前にメールにて連絡のこと。)
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	言語教育政策論演習 Seminar on Language policy	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 西山 教行
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水4
授業形態	演習		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
この授業では19世紀末に活躍したフランス人著作家Leopold de Saussure(1866-1925)のフランス植民地主義に関する著作『Psychologie de la colonisation française dans ses rapports avec les sociétés indigènes (1899)を取り上げ、フランス植民地主義における言語問題を考察する。 Leopold de Saussureは近代言語学の祖Ferdinand de Saussure (1857-1913)の弟であり、中国学者にして、海軍士官である。植民地主義に関しては、本書一冊を残したのみであるが、19世紀末から20世紀にかけて、フランス植民地主義が同化主義から協働主義へと転換を遂げる上での重要なイデオログの役割を果たした。本書は植民地同化主義の限界を明確に指摘し、フランス同化主義の源泉を大革命にあると看破するなど、その思想的意義は大きい。また植民地会議にも論客としてたびたび招聘され、なかでも1900年に開催された植民地社会学国際会議での発言は植民地同化主義に決定的であり、それ以降、協働主義という緩やかな同化主義が植民地経営の基調となってゆく。 Leopold de Saussureの活躍した時代から100年以上経ち、いま改めてその著作を読み直すと、「人種主義者」の相貌の元に、異民族に言語を教えることは何を意味するのか、という根源的問題が立ち現れる。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
本書は以下の15章から構成されている。 1) 原住民の制度 2) 精神性の遺伝 3) ドグマの起源からの変化 4) 同化というドグマ 5) 同化の効果 6) 教育による同化 7) 制度による同化 8) 言語による同化 9) クレオール地域での同化 10) 同化という措置の不可逆性 11) 1889年の植民地会議と同化論 12) 個別的な同化の問題 13) ローマ治世下のガリア 14) 日本の場合 15) まとめ 授業では、受講者に訳文を提出してもらい、それを元に討論を進める。			
<b>[履修要件]</b>			
フランス語中級までを履修していることが望ましい。			
----- 言語教育政策論演習(2)へ続く			

言語教育政策論演習(2)
<b>【成績評価の方法・基準】</b> 出席，レポートによる総合評価を行う。
<b>【教科書】</b> プリントを配布する。
<b>【参考書等】</b> (参考書) 授業中に紹介する
(関連URL) <a href="http://www.flae.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/">http://www.flae.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/</a>
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国際文明学入門 A Introduction to International Civilizations A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI,Brian						
			人間・環境学研究科 教授 前川 玲子						
担当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
7名のリレー講義のかたちで、「国際文明学」に関する入門を行う。テーマは、思想、文学、経済、法学、社会学等、多岐にわたっている。									
【授業計画と内容】									
第一回目のガイダンス授業で、授業の順番、および、各講師が具体的にどのような授業を行うかを簡単に説明するので、必ず出席されたい。順番は決まっていなが、今期の授業は、道旗、大川、大黒、見平、間宮、浅野、佐野が担当する予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出 課題や提出期限については、授業開始後に指示する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
学修相談にはいつでも応じる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論IA Structure of Civilizations IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 江田 憲治						
担当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
「東アジア」とは何であるのか、「東アジア世界」は近世から近代への移行の過程にあって、どのような変貌をとげたのか。こうした問題意識は、現代東アジア諸国家(日本・中国・韓国および北朝鮮)それぞれのナショナリズムに直面するわれわれへの、射程距離を有する問いかけであるはずである。本講義では、「東アジア世界」の文明構造と、近世・近代における東アジア三カ国(中国・日本・朝鮮)の関係性を理解し、今日的視座から考えるための素材を提供するめざす。									
【授業計画と内容】									
<b>ガイダンス</b> 近世東アジア世界の構造 「世界帝国」と朝貢体制 近世東アジア世界の構造 日本・朝鮮の「交隣」関係(1) 近世東アジア世界の構造 日本・朝鮮の「交隣」関係(2) 近世から近代への移行 中国の場合(1) 近世から近代への移行 中国の場合(2) 近世から近代への移行 日本の場合(1) 近世から近代への移行 日本の場合(2) 近世から近代への移行 朝鮮の場合(1) 近世から近代への移行 朝鮮の場合(2) 近代東アジア世界の変動 日清戦争(1) 近代東アジア世界の変動 日清戦争(2) 近代東アジア世界の変動 韓国併合									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国際文明学入門 B Introduction to International Civilizations B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 元木 泰雄						
			人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣						
担当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
本講義は歴史文化社会論講座の3人の教員によるリレー講義である。国際文明学というテーマの下に、それぞれの教員が自らの専門領域の中からこのテーマにそった題目を選んで講義する。									
【授業計画と内容】									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
3人の担当者がそれぞれ試験あるいはレポートを課す。3人の合議により成績を判定する。詳細については授業中に指示する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論IB Structure of Civilizations IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 江田 憲治						
担当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
「東アジア」の文明構造にとって、西洋文明はどのような存在であったのか。アヘン戦争に始まる西洋文明との接触の結果、東アジア諸国が、これを「受容」する立場にあったことはいうまでもないが、それも全般的なものでなかったことは、今日の中国を見ても明らかである。では、この「受容」にわれわれは改めて何を学ぼうのか。こうした問いから出発して、東アジア諸国とりわけ中国で受容された西洋文明を、民主主義と社会主義を中心に考え、あわせて現代中国を理解するための基礎的知識の獲得を目指す。									
【授業計画と内容】									
<b>ガイダンス</b> 東アジア世界の西洋文明受容 日本と中国の比較(1) 東アジア世界の西洋文明受容 日本と中国の比較(2) 中国における民主主義の受容 変法運動と辛亥革命(1) 中国における民主主義の受容 変法運動と辛亥革命(2) 中国における民主主義の変貌 三民主義と中国国民党(1) 中国における民主主義の変貌 三民主義と中国国民党(2) 中国における社会主義の受容 国家社会主義・無政府主義・マルクス主義(1) 中国における社会主義の受容 国家社会主義・無政府主義・マルクス主義(2) 中国における社会主義の変貌 中国共産党と毛沢東思想(1) 中国における社会主義の変貌 中国共産党と毛沢東思想(2) 今日中国の社会主義(1) 今日中国の社会主義(2) 今日中国の民主主義									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論IVA Structure of Civilizations IVA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 大川 勇						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
脳圭平の『知識人と政治 ドイツ・1914～1933』を読みながら、ナチズムへといたるヴァイマル共和国の思想状況を検討する。検討の中心となるのはトーマス・マンとマックス・ヴェーバー。その周辺にはホーフマンスタールやエルンスト・ユンガーなど、「保守革命」に関わる思想家・文学者がいた。第一次大戦後に彼らドイツの知識人たちが置かれた状況は、フクシマ以後、理性を喪失したかにみえる日本の状況とけっして無縁ではない。									
【授業計画と内容】									
脳圭平の『知識人と政治 ドイツ・1914～1933』（岩波新書）を輪読する。毎回、担当者はレジュメを作成して発表し、その発表をもとに全員で議論する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表とレポートによる。									
【教科書】									
脳圭平『知識人と政治 ドイツ・1914～1933』（岩波書店） 生協等で各自用意のこと。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習IIA Seminar IIA on Struture of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 江田 憲治 大学図書館 助教 福家 崇洋 非常勤講師 石澤 将人 非常勤講師 金 永哲 非常勤講師 武上 真理子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現代文明の中でも東アジアを対象に、「国境を越える人と思想」を共通テーマとし、以下のテーマからリレー形式での演習を行う。 孫文の思想とアメリカ合衆国憲法の関係を考察する（武上） 近代日本の教育とドイツの教養理念について考える（北澤） 東アジアにおける国境を越える人々について考察する（金） 戦間期日本の政治と社会を再検討する（福家）									
【授業計画と内容】									
初回の授業で全体のガイダンスを行い、教材（プリントなど）を配布または指定し、各テーマにつき（各3～4週）のゼミ形式の授業とする。受講生には、テキストの講読・報告・議論などもとめる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と、報告担当およびレポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論IVB Structure of Civilizations IVB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 大川 勇						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
脳圭平の『知識人と政治 ドイツ・1914～1933』で提議された問題をもとに、ナチズムへといたるヴァイマル共和国の思想状況を再検討する。検討の中心となるのはトーマス・マンとマックス・ヴェーバー。その周辺にはホーフマンスタールやエルンスト・ユンガーなど、「保守革命」に関わる思想家・文学者がいた。第一次大戦後に彼らドイツの知識人たちが置かれた状況は、フクシマ以後、理性を喪失したかにみえる日本の状況とけっして無縁ではない。									
【授業計画と内容】									
脳圭平の『知識人と政治 ドイツ・1914～1933』（岩波新書）で取り上げられた思想家・文学者について、個別に検討する。毎回、担当者はレジュメを作成して発表し、その発表をもとに全員で議論する。									
【履修要件】									
前期の文明構造論IVAを受講していることが望ましいが、脳圭平『知識人と政治』で取り上げられた思想家・文学者に関心のある人であれば、後期からの参加も可とする。									
【成績評価の方法・基準】									
発表とレポートによる。									
【教科書】									
脳圭平『知識人と政治 ドイツ・1914～1933』（岩波書店） 生協等で各自用意のこと。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習IIB Seminar IIB on Struture of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 江田 憲治 非常勤講師 大野 直樹 非常勤講師 関根 真保 非常勤講師 熊谷 哲哉 非常勤講師 西井 美幸						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現代文明の中でも、欧米を対象に、「国境を越える人と思想」を共通テーマに、以下の四つのテーマについて、リレー形式での演習を行う。  アメリカ外交と情報機関の役割を考察する（大野） ドイツ文学を中心に、「夢」と現代文化について考える（熊谷） 古典とドイツ翻訳論について考える（西井） ヨーロッパ・ユダヤ人の思想と行動を考察する（関根）									
【授業計画と内容】									
初回の授業で全体のガイダンスを行い、教材（プリントなど）を配布または指定し、各テーマにつき（各3～4週）のゼミ形式の授業とする。受講生には、テキストの講読・報告・議論などもとめる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と、報告担当およびレポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習III A Seminar IIIA on Struture of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 道旗 泰三						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ドイツの思想家、文学者W・ベンヤミンの好エッセイ「物語作者」をドイツ語原典で味わいながら、「経験の衰滅」という観点から西洋近代のありようを批判的に検討する。									
【授業計画と内容】									
全19章のうち前半の10章程度を、毎回1章ほど読み進め、そのつど内容について議論を交わす。文学、芸術、歴史などの幅広い面での知識が必要なので、適宜そうした読書の案内も行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席を重視し、そのなかでの発表、議論、応答などを成績の判定基準とするが、場合によっては、こちらから授業内容にかかわるテーマを与え、レポートを課すこともある。									
【教科書】									
テキストはこちらでプリントを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) ベンヤミン 『ベンヤミン・コレクション2』(ちくま学芸文庫)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代社会論IA Theory on Contemporary Societies IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐伯 啓思						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
この講義では「日本」とは何か、ということをつかの論点に即して論じてみたい。									
【授業計画と内容】									
1. 「戦後日本体制」とはなにか。 2. 「憲法」の問題 3. 三島由紀夫と「文化の防衛」 4. 丸山真男の問題提起と「日本社会」 5. 天皇とはなにか 6. 日本社会と「無責任体系」 7. 日本精神(1); 西田哲学をめぐって 8. 日本精神(2); 和辻哲郎をめぐって 9. 日本精神(3); 「無の思想」をめぐって									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に指示する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習III B Seminar IIIB on Structure of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 道旗 泰三						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ドイツの思想家、文学者W・ベンヤミンの好エッセイ「物語作者」をドイツ語原典で味わいながら、「経験の衰滅」という観点から西洋近代のありようを批判的に検討する。									
【授業計画と内容】									
全19章のうち後半の10章程度を、毎回1章ほど読み進め、そのつど内容について議論を交わす。文学、芸術、歴史などの幅広い面での知識が必要なので、適宜そうした読書の案内も行う									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席を重視し、授業中の発表、議論、応答などを成績の判定基準とするが、場合によっては、こちらから授業内容にかかわるテーマを与え、レポートを課すこともある。									
【教科書】									
テキストはこちらでプリントを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) ベンヤミン 『ベンヤミン・コレクション2』(ちくま学芸文庫)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代社会論演習IIA Seminar on Theory on Contemporary Societies IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐伯 啓思						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
この講義では、主として「政治」と「民主主義」についての文献を読み、また、その時々々の時事的な論点に即して適宜、文献や資料を読みたい。また、参加者同士で、意見を述べ、議論をすることを重視する。									
【授業計画と内容】									
政治と民主主義の基本的な関係を理解するために、政治思想の古典、たとえばプラトンなどをまず読みたい。 参加者にはできるだけ報告をしてもらい、また、積極的に議論をしてもらいたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に指示する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代社会論演習IIB Seminar on Theory on Contemporary Societies IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐伯 啓思						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
この講義の全体的なテーマは「ニヒリズムとしての現代社会」および「日本の価値（精神）をめぐって」というもので、これらの論点について学生諸君に報告してもらおう。また、卒論の予備報告も行ってもらう。									
【授業計画と内容】									
同上。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に指示する									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	多文化社会論IIA Studies on Multicultural Society IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 HAYASHI,Brian						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
The aim of this course for the spring semester is to provide you with a background into the social, cultural, and political history of the United States, focusing on the society that emerged from its Third World-like condition to becoming a global power on the world stage by 1920. To explain why the United States of America became a world power while at the same time transforming itself into a nation with many "subnations," requires that we look at not only its political and economic roots, but its cultural and social dimensions as well. By "cultural" and "social," I mean not the great literary writers but how average Americans understood the world they lived in through the lens of class, gender, "race," religion, and region.									
【授業計画と内容】									
The first semester focuses on the beginnings of the United States as a nation, but also pays attention to other nation-states and colonies in existence on the North American continent such as the Iroquois Confederacy, the Polynesian Kingdom, and Spanish California. The course covers the entire nineteenth century and concludes in 1920, the turning point in the formation of modern America. The course is designed to have both student oral participation in class discussions based on the readings, and lectures which sometimes complement and at other times contradict the readings.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Your grade is based on three things: Oral Participation in class: I fully expect you to participate in the discussions, usually at the beginning of each lecture, on the subject to be covered that week.  Weekly Readings: Since the course is a combined SoJin and Bungakubu, with a handful of KUINEP students, the readings are divided into two categories and students are allowed to choose either sets of weekly readings. You should come to each class prepared to discuss the readings, as your grade is based on this.  Written report at the end of the semester: Each student is expected to write a report, roughly 5-7 pages in length, comparing a topic covered in the lectures, with a similar one for another country. This paper is due at the end of exam period and should be turned in to my office or through the email system.									
【教科書】									
Your readings will all be offprints of various articles and books. However, if you are completely unfamiliar with American history, you should consult, as reference the following books:  紀平、「アメリカ史」(1999) or Mary Beth Norton, A People and a Nation									
----- 多文化社会論IIA(2)へ続く -----									

授業科目名 <英訳>	現代経済文明論IA On Modern Civilization IA	担当者氏名	京都精華大学 専任講師 佐藤 一進						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
今日の世界化した経済システムとそれを支える技術(テクノロジー)は根本的な不安定性と問題性を露呈しています。現下の問題の根源を見据える作業は、現代文明の基本原理の再考することをも要するのであって、ただ経済学的な思考の枠組みと概念をもって遂行できるものではありません。									
本講義では、こうしたパースペクティブに基づき、哲学、政治学、社会学、歴史学等で提示された議論を参照しながら、現代経済の根本問題を主として非経済学的なアプローチから扱います。基本的には、アダム・スミスによって提示された商業社会における政治経済学と道徳哲学の枠組みを、後代の思想家が提示した概念や議論と照らし合わせながら、近代文明社会についての批判的検討を行います。									
【授業計画と内容】									
本講義では、以下のようなトピック一つにつき、1~2週での授業を行なう予定です。ただし、受講状況に応じて授業形態、内容や順序を変更することがあります。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商業社会と政治経済学の成立 A・スミスの「同感」と「競争」</li> <li>2. 主権国家と市民社会 T・ホッブズとJ・ロック</li> <li>3. 欲望の体系としての市民社会 G・W・F・ヘーゲル『精神現象学』</li> <li>4. 自由・平等原理の実現と「歴史の終わり」 A・コジェーヴ</li> <li>5. 禁欲と蓄財の論理と倫理 M・ウェーバー</li> <li>6. 公的領域/私的領域の消滅 H・アレント</li> <li>7. 惑星的テクノロジーの支配 M・ハイデガー</li> <li>8. 富の表象から労働の表象へ M・フーコー</li> <li>9. 欲望機械と資本主義 G・ドゥルーズ/F・ガタリ</li> <li>10. &lt;帝国&gt;と資本主義 A・ネグリ/M・ハート</li> <li>11. 政治的意志と経済文明の行方 J・M・ケインズ</li> </ol>									
【履修要件】									
予備知識は特に求めないが、社会科学への思想的・哲学的関心を持つ者の受講が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
最終授業にて論述試験を行なう。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

多文化社会論IIA(2)									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
You can always see me before or after class. I am on campus every day of the regular week. Normal office hours are Fridays, 15:00 to 16:30.  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	多文化社会論II B Studies on Multicultural Society IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 HAYASHI,Brian						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
This course is a continuation of the spring semester course on American History. Its aim is to provide you with a background into the social, cultural, and political history of the United States, focusing on the society that emerged from its prominence as a world power after World War I to its world power status in a multipolar world by the arrival of the Bush Dynasty in the 1990s. To explain why the United States of America became a weakened world power, deeply divided along racial, class, and ethnic lines requires that we look at not only its political and economic roots, but its cultural and social dimensions as well. By "cultural" and "social," I mean not the great literary writers but how average Americans understood the world they lived in through the lens of class, gender, "race," religion, and region.									
【授業計画と内容】									
The course begins after the end of World War I with the United States entering the world stage as a new superpower allied to the old superpower Great Britain. It continues through the Great Depression, World War II, and the Cold War on to the 2000s with the rise of the neo-conservatives. Though the course will have lectures each week, students are also expected to participate orally in class discussions of each week's readings at the beginning of class. During these discussions, I will try to get you to think comparatively on a given topic.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Your grade is based on three things: Oral participation in class: You should be prepared to discuss the assigned topic for that week. Each topic is designed so that you should be able to discuss most if not all topics. Part of your grade is based on this discussion.  Weekly readings: You should demonstrate both in the class discussions and in your written report, a familiarity with the weekly readings. I expect you to know them before each class.  Written report: A paper, comparing a weekly topic discussed in class with a similar phenomenon in another country, in about five to seven pages, is required at the end of the examination period. Further guidance on the exact style, and other requirements will be given in class.									
【教科書】									
There are no textbooks per se, but you will have to make your own copies of the offprints I assigned and placed in 現代文化学系共同研究室Room 819 of the 文学部新館.									
【参考書等】									
(参考書) 紀平 『アメリカ史』(山川出版社) Mary Beth Norton 『A People and a Nation』(Houghton Mifflin)									
----- 多文化社会論II B (2)へ続く -----									

授業科目名 <英語>	多文化社会論演習II A Studies on Multicultural Societies IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 玲子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
この授業では、アメリカの外交史の古典の一つであるGeorge KennanのAmerican Diplomacyを英語で精読し、米西戦争から二つの世界大戦を経て冷戦にいたる時代までのアメリカの外交の背景にある考え方をみていく。国際政治の力学をみていくというよりは、知識人としてのKennanがどのようにアメリカの外交史を解釈しているのかを考察していく。									
【授業計画と内容】									
テキストは、10章からなっているので前書きをあわせて、基本的に一回の授業で一章(約20ページ)ずつむことになる。 最初の授業は授業の説明、最後の授業はまとめにあてる。演習で少人数になると思うので、一人一回ないし2回レポーターをやってもらおう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、口頭発表、平常点で総合的に判断する。 授業への出席は基本的に3分の2程度が必要である。 平常点のなかには、出席のほか、授業内での発言、英語の質問への解答、小レポートなどが含まれる。									
【教科書】									
George F. Kennan 『American Diplomacy (Expanded Edition)』(University of Chicago Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業の前後、あるいは学生の希望によって研究室での相談に応じる。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

多文化社会論II B (2)									
-----									
Although the lectures are in English, outlines of all lectures are distributed to students.									
Every year, the lectures' contents changes, so even if you have taken this class once before, you will find new materials presented. Also, this fall semester I will try to be a little more interactive--meaning I want you to talk and discuss more in class.									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
Normal office hours are Fridays, 15:00 to 16:30. Or you can see me immediately after class.  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	多文化社会論演習II B Studies on Multicultural Societies IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 玲子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
この授業では、20世紀のアメリカ史に関するイギリス人歴史家の論文集を使い、1930年代から70年代ごろまでのアメリカの政治・社会史を10年ごとの単位でみていく。アメリカの内政を中心に、世界的な危機にひんして、アメリカの政治、経済がどのような変化の道筋を辿ったのか、そしてその世界観や理念にどのような継続性があるのかを、論文の精読、ディスカッションを中心に検討していきたい。									
【授業計画と内容】									
最初の授業は、受講予定者のための説明にあて、最後の授業は全体のまとめをする。各章に約2週をあてる。週ごとの詳しいスケジュールは、最初の授業で予定表を配布する。毎回、学生に口頭発表をさせ、その他の学生にも英語の質問などをして、よんできたことを確認する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、口頭発表、平常点で総合的に判断する。 授業への出席は基本的に3分の2程度が必要である。 平常点のなかには、出席のほか、授業内での発言、英語の質問への解答、小レポートなどが含まれる。									
【教科書】									
使用しない プリント教材を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 本の購入などについては、最初の授業で指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業にできる前提としてテキストを読んでいることは当然である。 相談にはいつでも応じる。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国際関係論IA International Relations IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 齋藤 嘉臣
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
国際秩序を維持するメカニズムはいかに構築され、どのように変遷してきたのか。国際社会は17世紀以降、国際社会の安定のために様々な戦争抑止メカニズムを構築してきた。19世紀のウィーン体制、第一次世界大戦後の国際連盟、第二次世界大戦後の国際連合はすべて、平和維持のメカニズムが体现された例である。戦争を防ぎ平和を創る新たなメカニズムの構築が期待されながら、噴出する民族紛争やテロリズムの脅威に対し有効な手立てを見出すことができない今日の国際秩序を念頭に置く時、国際秩序の構築史を振り返ることは、今日的な意義を有していると言える。そこで、過去200年の戦争と平和の歴史を考察することで、今日の国際秩序を史的文脈の中で理解するための思考の基盤をつくることを、講義の目的とする。			
【授業計画と内容】			
以下の内容で各1-3回程度、講義する。(進め方は変わる可能性もある)			
1 オリエンテーション 2 国際関係の起源 3 勢力均衡と市民革命の時代 4 「ヨーロッパ協調 (Concert of Europe)」体制の構築 5 「ヨーロッパ協調 (Concert of Europe)」体制の変容 6 ドイツ統一と帝国主義の時代 7 ウェルサイユ体制と平和 8 第2次世界大戦への道			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
試験の成績 (80%) 出席点評価 (20%)			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	国際関係論IIA International Relations IIA	担当者氏名	大阪大学 教授 真山 全
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
国際関係論の2A及びB、並びに3A及びBは隔年開講であり、この2Aから3Bまでで国際法の全範囲が講義された。2013年度は、本来2A及び2Bが開講される予定であったが、大学予算の都合により、2Aのみが開講される。また、2014年度以降の開講科目は未定である。このため、2013年度にあっては、2Aの表題の下で本来の2Aの範囲を中心とし、それに2Bの若干の部分を加えて講義する。 すなわち、例年の2Aの範囲である国際法の主体及び法源、ならびに属地的な管轄権配分に加えて、2Bの主要問題の一つである国際的人権保障を論じる。			
【授業計画と内容】			
1. 国際法の法的性質と基本構造、2. 国際法の主体、3. 国際法と国内法の関係、4. 国家・政府の承認、5. 国家の権利義務、6. 国家領域、7. 海洋法、8. 航空宇宙法、9. 南極その他、10. 国籍、11. 国際的人権保障			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
主に定期試験により評価する。			
【教科書】			
杉原高嶺他 『現代国際法講義』(有斐閣) 松井芳郎編 『ベーシック条約集』(東信堂)(条約集は、いずれか一でよい。) 奥脇直也編 『国際条約集』(有斐閣)(条約集は、いずれか一でよい。)			
【参考書等】			
(参考書)			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは設定しない。担当教員は、非常勤講師であるので、講義時間以外で質問等を実施する場合には、メールによることになるが、そのアドレスは講義中に必要があれば連絡する。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	国際関係論IB International Relations IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 齋藤 嘉臣
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
近年、冷戦史は新たな活況を呈している。従来のような米ソに排他的な焦点を当てる冷戦史観や東西対立を殊更強調する冷戦史観は相対化されつつあり、かわって米ソの同盟国の外交や東西協力にも注目が集まるようになった。また、軍事的・政治的対立に加えて文化的な対立にも目配りする研究の蓄積により、冷戦をより包括的に再照射することが可能になっている。そこで、講義では、新しい冷戦史の観点から、20世紀後半の国際政治史を検討する。これにより、冷戦期と冷戦後の国際社会の変化と連続性を、明らかにすることが可能となる。			
【授業計画と内容】			
以下の内容を各1-3回程度、講義する。(進め方は変わる可能性もある)			
1 オリエンテーション 2 戦後秩序の模索と冷戦の始まり 3 封じ込めと1955年体制 冷戦対立の激化と外交の希求 4 多極化の世界とテラントの進展 5 冷戦の終結と「新世界秩序」 6 新しい世紀の国際関係			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
試験の成績、出席点評価			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	国際関係論IVA International Relations IVA	担当者氏名	同志社大学経済学部 教授 小野塚 佳光
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
人間が社会的に示す高度な文明や物質的生産力は、しばしば、破壊的な形でも示されてきました。もし私たちが、自由に、しかも豊かな生活を実現したい、と思えば、世界秩序を非暴力的な交渉によって調整できなければなりません。国際政治経済学 (I P E) は、人間の社会に一定の政治経済秩序がどのように形成されるのか? どうすればもっと良い秩序に転換・調整できるのか? という問題を考えます。 すなわち、本講義のテーマは、ガバナンスの形成と革新です。 本講では、このテーマを歴史的経験から考察します。文明と権力の成立、近代国家の誕生、地理上の発見、産業革命・工業化の波及、イギリス帝国主義の世界支配や現在、そして将来の世界秩序を考察します。私のH P「I P Eの果樹園」を参考にして下さい。「今週のReview」として、現在進行中のI P Eに関する問題を要約・コメントしています。			
【授業計画と内容】			
1. 概論 1 国際対立の例、国際協調の模索 2. 概論 2 国際秩序を築くものは何か? 3. メソポタミア文明、国家の起源 4. 地理上の発見と近代国家 5. 重商主義国家の競争 6. 市場による空間編成 7. 資本主義システムの長期循環 8. イギリス産業革命 9. 後発工業化の波及 10. 農産物供給圏と労働力 11. 金融危機と周辺国の再編成 12. 19世紀型国際秩序の崩壊 13. アメリカによる戦後秩序 14. 国際通貨と国内政治 15. 予備、もしくは、質疑			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
期末試験で評価する。 出席や、前回のポイント確認のための小テスト、課題図書による任意レポート、も平常点として加算する。			
----- 国際関係論IVA(2)へ続く -----			

国際関係論IVA(2)
<b>【教科書】</b> 小野塚佳光 『グローバル化を生きる 国際政治経済学と想像力』(萌書房)
<b>【参考書等】</b> (参考書) ジョン・ラギー 『平和を勝ち取る』(岩波書店)(第二次世界大戦後の国際秩序の構築を描く。) ジョン・ウィリアムソン 『国際通貨制度の選択』(岩波書店)(現代の国際通貨制度に関する優れた考察。) 石田・板木・桜井・中本 『現代世界経済をとらえる Ver.5』(東洋経済新報社)(特に、第10章の拙論を参照。) 桜井公人・小野塚佳光編著 『グローバル化の政治経済学』(見洋書房)(特に、最終章の拙論を参照。) ジェフリー・A・フリーデン 『国際金融の政治学』(同文館)(1970年代の債務危機など、国際通貨システムの変化がわかる。) その他の参考文献は、できるだけ多く、授業中に指示する。
(関連URL) http://www1.doshisha.ac.jp/~yozuka/(「IPEの果樹園」)
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国際関係論演習IB Seminar on Law of International Relations IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 齋藤 嘉臣						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水4	授業形態	演習
<b>【授業の概要・目的】</b> 冷戦史に関連する基礎的な文献を輪読し、参加者全員で討議を深めることで、戦後国際政治および外交史に対する理解を深めることが目的である。扱う時代は、冷戦の始まりから終焉まで、テーマも冷戦戦略から文化外交、日米関係からヨーロッパ冷戦まで多様である。これらの内容を検討することで、冷戦とは何であったのか、各人が深い理解を得ることを期待する。									
<b>【授業計画と内容】</b> 参加者との協議の上、冷戦史に関する研究書を輪読する。具体的には、米ソやヨーロッパ諸国、アジア諸国の視点から冷戦を捉え直すを試み、さらにイデオロギー、軍事、文化、消費社会、インテリジェンス等の面から、冷戦の多様性を理解する。  また、参加者数にもよるが、後半では各自が並行して進める研究の報告を行い、それを基に全員で討論を行う予定である。									
<b>【履修要件】</b> 特になし									
<b>【成績評価の方法・基準】</b> レポート・個別報告(50%) 出席点・議論への貢献(50%)									
<b>【教科書】</b> 使用しない									
<b>【参考書等】</b> (参考書) Melvyn P. Leffler, Odd Arne Westad (eds.) 『The Cambridge History of the Cold War』(Cambridge UP)(3巻本)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) いかなる専攻の学生であっても歓迎する。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国際関係論演習IA Seminar on Law of International Relations IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 齋藤 嘉臣						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	演習
<b>【授業の概要・目的】</b> 今日の国際政治を研究する視座を養うため、国際政治理論に関する基礎的な文献を輪読する。国際政治理論は、多様な国際政治上の問題を考察する際の、重要な認識枠組みである。授業を通して履修者には、個別の研究課題に理論的な観点から研究を行うことができる素地を獲得することが期待される。									
<b>【授業計画と内容】</b> 参加者との協議の上、研究書を輪読する。具体的には、国際政治に関連する以下の理論や諸問題等を扱う。  リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズム、国際政治経済論等 国際安全保障、グローバル化、国際レジーム、国連、文化、人間の安全保障等  毎回、担当者を事前に決定し、担当章に関する短い報告を行った後、参加者全員で内容の確認をすると同時に議論を深める。履修者には、事前に該当する章の精読を求める。  また、参加者数にもよるが、後半では各自が並行して進める研究の報告を行い、それを基に全員で討論を行う予定である。									
<b>【履修要件】</b> 特になし									
<b>【成績評価の方法・基準】</b> レポート・個別報告(50%) 出席点・議論への貢献(50%)									
<b>【教科書】</b> 使用しない									
<b>【参考書等】</b> (参考書) John Baylis, Steve Smith, Patricia Owens (eds.) 『The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations』 Robert Jackson, Georg Sorensen (eds.) 『Introduction to International Relations: Theories and Approaches』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) いかなる専攻の学生であっても歓迎する。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	契約関係原理論 Principles of Contract-Relation	担当者氏名	大阪市立大学 教授 高橋 眞						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	講義
<b>【授業の概要・目的】</b> 契約関係は、異なる立場の人が取引を通じて経済活動を進めてゆくための重要な手段である。その基礎となるのが、第一に個人の自由な意思による権利関係の形成、第二に所有権の絶対性である。民法、とりわけ民法総則および物権法は、その共通の基本的なルールとして、契約関係の枠組みを定めるものである。本講義では、民法総則および物権法の基本概念を学び、判例のなかにその実際の表れ方を確かめることによって、その理解をより確かなものとすることを目的とする。									
<b>【授業計画と内容】</b> 1. 民法とは何か 私的自治と契約自由 2. 権利の主体 人と法人 3. 法律行為 意思に即した法律関係の形成 4. 錯誤と瑕疵担保責任 意図と結果の食い違い 5. 代理 行為可能性の拡大と代理権限の問題 6. 所有権とは何か 権利の帰属・目的物の利用 7. 不動産所有権とその公示 物権変動の対抗の問題 8. 不動産登記 登記の記載内容から何がわかるか 9. 動産取引の信頼保護 即時取得 付:不動産の場合は? 10. 外観に対する信頼保護 意思表示による権利関係形成との関係は? 11. 時効 消滅時効と取得時効									
<b>【履修要件】</b> 特になし									
<b>【成績評価の方法・基準】</b> 期末試験による。									
<b>【教科書】</b> 内田貴・山田誠一・大村敦志・森田宏樹 『民法判例集 総則・物権』(有斐閣)ISBN:4-641-13271-2 なお、民法の条文(小さな六法全書など)を準備すること。									
<b>【参考書等】</b> (参考書) 角紀代恵 『コンパクト民法 民法総則・物権法総論』(新世社)ISBN:978-4-88384-177-6(民法総則・物権法に関するものであれば他の教科書でもよい)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 授業中に疑問が出たら、その場で質問してください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IA Law and Social System IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 那須 耕介
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	木1
[授業の概要・目的]			
<p>適法義務論（法に服従する/法を尊重すべき道徳的理由を問う法哲学・政治哲学上の諸議論）の歴史と現代における達成を紹介し、その今日的意義を検討します。特に、この問題への関心を喚起してきたさまざまな具体的事件や理論的課題をとりあげながら、西欧の法・政治思想への洞察をやしなうこと、およびこの問題を問うことの今日的意義について検討を行います。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>【歴史的主題】ソクラテスとイエスの死刑がもった法・政治思想上の影響、初期近代の社会思想における課題の再設定、20世紀の戦争経験がもたらした変容など  【理論的・社会的主題】憲法問題、市民的不服従、自然法論の変容と法実証主義思想、社会契約、政治的責務、連帯とナショナリズムなど  （各主題ごとに1、2回の講義を行う予定です。）</p>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末にレポートを課します。講義内容の理解と独自調査の成果の両面から判定します。			
[教科書]			
未定			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
質問・苦情・要望・相談・面談の申し込み等はnasu.kosuke.6a@kyoto-u.ac.jpにて受け付けます。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IIB Law and Social System IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小畑 史子
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火3
[授業の概要・目的]			
<p>働くことに関する現代的な問題を浮き彫りにした重要な判決を取り上げ、その内容と事件の背景をも分析し、法解釈の手法の習得と、雇用社会を展望する力の涵養を目指す。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>新阪神タクシー事件・大阪地判17・3・18、コンドル馬込事件・東京地判20・6・4、ダンス・ミュージック・レコード事件・東京地判20・11・26、A市職員事件・横浜地判16・7・8、国・中央労基署長事件・東京地判20・1・17、国・中央労基署長事件・名古屋地判21・5・28、中央労基署長事件・東京地判19・3・28、和歌の海運送事件・和歌山地判16・2・9、前田道路事件・高松高判21・4・23、JT乳業事件・名古屋高金沢支判17・5・18、東邦生命保険事件・東京地判17・11・2、神奈川信用農業協同組合事件・最一小判19・1・18、いすゞ自動車事件・宇都宮地判17・11・2、パナソニックプラスマディスプレイ事件・最一小判21・12・18、浜野マネキン紹介所事件・東京地判20・9・9 の順に授業を進める予定である。各週の事件で問題となったテーマにつき解説を加えた後、判決を全員で確認し、判決の内容や結論につきディスカッションする。</p>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末レポートによる。			
[教科書]			
小畑史子『裁判例が示す労働問題の解決』（日本労務研究会）ISBN:978-4-88968-091-1			
[参考書等]			
（参考書）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワーは特に定めません。問い合わせはobata.fumiko.3r@kyoto-u.ac.jpにお願いします。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IIA Law and Social System IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小畑 史子
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火3
[授業の概要・目的]			
<p>働くことに関連する重要な判決を毎週1件取り上げて、現実職場で生起する事件とそれに関する法的判断を分析し、雇用社会の在り方について論じる力を涵養する。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>インターネット総合研究所事件・東京地判20・6・27、宣伝会議事件・東京地判17・1・28、三洋電機コンシューマエレクトロニクス事件・広島高松江支判21・5・22、マッキンエリクソン事件・東京高判19・2・22、東京海上日動火災保険事件・東京地判19・3・26、西濃シェンカー事件・東京地判22・3・18、ネスレ日本事件・最一小判18・10・6、新日本製鐵事件・東京高判20・1・24、エーシーニールセン・コーポレーション事件・東京地判16・3・31、福岡双葉学園事件・最一小判19・12・18、協愛事件・大阪高判22・3・18、三菱自動車事件・最一小判19・11・16、大道工業事件・東京地判20・3・27、杉本商事事件・広島高判19・9・4、姪浜タクシー事件・福岡地判19426 を取り上げ、各事件で問題とされたテーマにつき解説を加えた後、判決を全員で確認し、判決の内容や結論につきディスカッションする。</p>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末レポートによる。			
[教科書]			
小畑史子『裁判例が示す労働問題の解決』（日本労務研究会）ISBN:978-4-88968-091-1			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワーは特に定めません。問い合わせはobata.fumiko.3r@kyoto-u.ac.jpにメールをお願いします。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IIIA Law and Institution of Nation and Society IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 見平 典
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月4
[授業の概要・目的]			
<p>法システム、特に司法システムの現実の作動について、学際的な方法を通して理解することを目標とする。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>【内容】 日本ではこれまで司法の役割は限定的であったが、社会の「法化」の進展や司法制度改革の実現などにより、司法の果たす役割は急速に拡大している。本講義（IIIA・IIIB）では、司法（特に日本とアメリカの司法）の現実の作動を体系的に分析した司法政治学や法社会学といった学際的な諸研究の成果を参照しながら、受講生が将来法システムの設計・運用に従事する際に必要となる知識や視点を提供したい。 IIIAでは、具体的には以下の内容を予定している。</p> <p>第1章 司法システムへの学際的アプローチ  第2章 日米の司法制度の基礎知識  第3章 司法システムの機能  第4章 司法システムの人事</p>			
[留意点]			
<p>本講義は、上記のように、法現象の学際的な分析（主として司法政治学的・法社会的分析）を中心としているため、法解釈学的な分析については、全学共通科目「憲法（基本原理・統治機構）」「憲法（人権）」をはじめとする実定法科目を受講して下さい。</p>			
[履修要件]			
法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。			
[成績評価の方法・基準]			
定期試験の結果による。			
[教科書]			
使用しない			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
<p>将来、法システムの設計や運用に関わる職種（立法・行政・司法に関わる職種）を志している方やアメリカに関心のある方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講状況を踏まえ、変更する場合があります。</p>			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論IIIB Law and Institution of Nation and Society IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 見平 典						
配当学年	2-4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
法システム、特に司法システムの現実の作動について、学際的な方法を通して理解することを目指すとする。									
【授業計画と内容】									
【内容】 日本ではこれまで司法の役割は限定的であったが、社会の「法化」の進展や司法制度改革の実現などにより、司法の果たす役割は急速に拡大している。本講義（IIIA・IIIB）では、司法（特に日本とアメリカの司法）の現実の作動を実証的に分析した司法政治学や法社会学といった学際的な諸研究の成果を参照しながら、受講生が将来法システムの設計・運用に従事する際に必要となる知識や視点を提供したい。									
IIIBでは、具体的には以下の内容を予定している。									
第4章 司法システムの過程 第5章 司法システムと国民 第6章 司法哲学									
【留意点】 本講義は、上記のように、法現象の学際的な分析（主として司法政治学的・法社会的分析）を中心としているため、法解釈学的な分析については、全学共通科目「憲法（基本原理・統治機構）」、「憲法（人権）」をはじめとする実定法科目を受講して下さい。									
【履修要件】 法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 定期試験の結果による。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 見平 典『違憲審査制をめぐるポリティクス』（成文堂）  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 将来、法システムの設計や運用に関わる職種（立法・行政・司法に関わる職種）を志している方やアメリカに関心のある方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講状況を踏まえ、変更する場合があります。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IB Seminar on Law and Social System IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 那須 耕介						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現代の法哲学・政治理論にかかわる文献の講読をおこないます。テキストの精読とそれにもとづく意見交換（とそこからの逸脱と）を通じて、各自の設問の明確化をうながしたいと考えています。									
【授業計画と内容】									
原則として、ゼミ参加者が交代でテキストを要約して報告し、適宜講読をおこないます。必要に応じて、原書（英文のみ）をとりあげます。テキストは参加者の関心や能力を考慮しつつ、当方で選択・指定します。									
【履修要件】 4月以降に掲示する。									
【成績評価の方法・基準】 ゼミでの発表と議論への貢献度と期末のレポートによって評価します。									
【教科書】 未定									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 質問・苦情・要望・相談・面談の申し込み等はnasu.kosuke.6a@kyoto-u.ac.jpにて申し受けます。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IA Seminar on Law and Social System IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 那須 耕介						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現代の法哲学・政治理論にかかわる文献の講読をおこないます。テキストの精読とそれにもとづく意見交換（とそこからの逸脱と）を通じて、各自の設問の明確化をうながしたいと考えています。									
【授業計画と内容】									
原則として、ゼミ参加者が交代でテキストを要約して報告し、適宜講読をおこないます。必要に応じて、原書（英文のみ）をとりあげます。テキストは参加者の関心や能力を考慮しつつ、当方で選択・指定します。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 ゼミでの発表と議論への貢献度と期末のレポートによって評価します。									
【教科書】 未定									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 質問・苦情・要望・相談・面談の申し込み等はnasu.kosuke.6a@kyoto-u.ac.jpにて申し受けます。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IIA Seminar on Law and Social System IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小畑 史子						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
働くことに関して職場で生起する様々な問題を、法律学的に解決する方法を検討し、雇用社会の在り方や国家の役割を議論する。									
【授業計画と内容】									
第一回目に毎週の発表担当者を決める。発表者は担当する週の回の前半45分に自分の選んだテーマにつき発表を行う。後半の45分は、その発表をもとに全員でディスカッションを行う。テーマは、働くことに関する法律を中心とした国家・社会法システムに関する項目の中から、担当者が自由に選択することとする。たとえば、高齢者雇用安定法改正や過労死の業務外上外認定の基準、リストラ解雇の効力、労働者派遣法の課題、いわゆる名ばかり管理職問題、職務発明の対価、留学費用の返還請求等のテーマが考えられる。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 平常点による。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） ゼミはゼミ員全員で作りに上げていくものです。授業外でも、新聞や判例集などで伝達される社会問題の法的解決につき興味を持ってキャッチするよう心がけてください。オフィスアワーは特に定めません。問い合わせはobata.fumiko3r@kyoto-u.ac.jpまでメールでお願いします。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IIB Seminar on Law and Social System IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小畑 史子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
働くことに関して職場で生じる様々な問題を法律学的に解決する方法を検討し、雇用社会の在り方や国家の役割について議論する。									
【授業計画と内容】									
第一回目に、各週の発表担当者を決定する。各週の発表担当者は、ゼミの前半において、働くことに関する法律を中心とした国家・社会法システムについての項目の中から自由に選んだテーマにつき発表を行う。ゼミの後半では、その発表について全員でディスカッションを行う。たとえば、労働契約法制定の意義、間接差別の法理、CSR(企業の社会的責任)、公務員を巡る問題、精神疾患の業務上外認定、育児休業法の改正等のテーマが考えられる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは特に定めませんが、何かありましたらobata.fumiko.3r@kyoto-u.ac.jpまで御連絡ください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IIB Seminar on Law and Social System IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 見平 典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【授業計画と内容】									
【内容 - IIIA・IIIBに共通】 本演習では、憲法現象に多角的に接近できるよう、憲法現象の法学的・政治学的な分析を、特に後者を中心に行う。具体的には、アメリカの憲法政治について書かれた英語文献を、日本との比較を意識しながら講読する。政治化の進んだアメリカの司法システムは、様々な点において日本と対照的であるため、アメリカの司法システムを理解することは、日本のシステムを理解し、オルタナティブを構想していく上でも有益である。									
【内容 - IIIB】 後期(IIIB)は、憲法学の重要な争点について、憲法政治的な視点から接近した文献を講読し、憲法現象について理解を深めると共に、学際的な方法に親しむ。									
【演習の形式】 各回とも、事前に指名された担当者の報告後、全員が参加して議論を行う。 憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【履修要件】									
法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席率、報告内容、議論への貢献度に基づいて評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
将来、法システムの設計や運用に関わる職種(立法・行政・司法に関わる職種)を志している方やアメリカに関心のある方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講人数や受講生の関心・背景知識などに応じて変更する場合があります。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IIIA Seminar on Law and Social System IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 見平 典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【授業計画と内容】									
【内容 - IIIA・IIIBに共通】 本演習では、憲法現象に多角的に接近できるよう、憲法現象の法学的・政治学的な分析を、特に後者を中心に行う。具体的には、アメリカの憲法政治について書かれた英語文献を、日本との比較を意識しながら講読する。政治化の進んだアメリカの司法システムは、様々な点において日本と対照的であるため、アメリカの司法システムを理解することは、日本のシステムを理解し、オルタナティブを構想していく上でも有益である。									
【内容 - IIIA】 前期(IIIA)は、憲法政治について基礎となる知識と視点を獲得するため、アメリカの大学で用いられている、憲法政治の導入的な教科書を講読する。									
【演習の形式】 各回とも、事前に指名された担当者の報告後、全員が参加して議論を行う。 憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【履修要件】									
法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席率、報告内容、議論への貢献度に基づいて評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
将来、法システムの設計や運用に関わる職種(立法・行政・司法に関わる職種)を志している方やアメリカに関心のある方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講人数や受講生の関心・背景知識などに応じて変更する場合があります。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論IA Theory of Socio-Economic System IA	担当者氏名	滋賀大学経済学部 柴山 桂太						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
グローバル化がもたらす社会経済への変化について、歴史的・理論的に考察する。グローバル化は、最近になって始まったものではなく、歴史上、何度か繰り返されている。とりわけ19世紀末から20世紀初頭にかけては、現在に匹敵する貿易や投資の拡大があったことが確認されている。この時代は同時に、金融危機が頻発した時代であり、国内格差が拡大した時代であり、帝国主義の時代でもあった。この時代と現代の比較を通じて、現代のグローバル化が直面しているさまざまな課題について考えるのが、この講義の目的となる。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について取り上げる予定である。 1. グローバル化とは何か? 2. グローバル化の歴史比較 3. 経済と自由主義 4. 国家主権と民主主義 5. 繰り返される金融危機 6. 帝国主義をどう理解すべきか 7. 二〇〇八年以後の世界									
【履修要件】									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートによる評価。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 出来る限り多くの文献を講義中に紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論IB Theory of Socio-Economic System IB	担当者氏名	滋賀大学経済学部 柴山 桂太
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
二〇世紀の各国の経済運営にもっとも大きな影響を与えた思想家は、マルクス、ケインズ、ハイエクであったと言える。マルクスは左派、ケインズは中道派に、そしてハイエクは一九八〇年代以後の右派(この言葉にはいくぶん注釈が必要だが)に強い影響力を持った。この三人の経済思想の比較を通じて、それぞれの特徴を掴むとともに、二一世紀の資本主義のあり方について考えてみたい。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題を取り上げる予定である。 1. 資本主義とは何か? 2. マルクス、ケインズ、ハイエク 3. 二〇〇八年以後の資本主義 4. 経済思想の意義			
【履修要件】			
【成績評価の方法・基準】			
期末レポートによる評価			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 出来る限り多くの文献を講義中に紹介する。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会統計論A Theory of Social Statistics A	担当者氏名	神戸大学大学院 農学研究科 金子 治平
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
社会の現状を認識し、政策の企画・決定・評価するのに不可欠な統計資料をとりあげ、その作成過程や利用過程をテーマとした講義を行う。統計学は、歴史的には国家科学の一分野を出自とし、社会を認識することを目的として発展してきた。本講義では、統計資料の作成過程や利用過程について学ぶことによって、統計資料が作成される必然性、統計資料が映し出す社会的側面、さらに、社会の変容の中で生じている統計資料の作成・利用上の問題とその対策について考え、現代に生きる我々が持つべき情報リテラシーについて理解を深めることを目的とする。			
【授業計画と内容】			
各トピックについて、それぞれ1-3週の講義を行う予定である。 1. イントロダクション 2. 欧米と日本における人口センサスの歴史 3. 標本調査の生成と展開 4. 統計資料の真実性 5. 社会環境の変化と統計資料の作成過程 6. 統計資料の政治的・行政的利用 7. ミクロ・データの分析的利用			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
8割程度は定期試験により評価するが、抜き打ちで行う数回の出席チェックや平常点も2割程度加味する。			
【教科書】			
適宜、講義中に資料等を配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論III B Theory of Socio-Economic System IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大黒 弘慈
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
現代社会の変容を捉えるためには、迂遠に見えても理論的な分析基準をもつことが不可欠である。ここでは資本制システムの根底をなす原理を、方法的、理論的、思想的側面から多角的に検討する。経済学の基礎的ディシプリンの習得を目指すと同時に、資本主義の現代的展開をも広く射程に収める。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について、1課題あたり1-2週の授業をする予定である。あるいは年度に応じて2-3の課題を集中的に取り上げることもある。 1. 経済学の方法 (経済学の目標、経済学の方法、原理・段階・現状分析) 2. 商品 (価値形態論、交換過程論、物象化論) 3. 貨幣 (価値尺度、流通手段、蓄蔵貨幣) 4. 資本 (商人資本、金貨資本、産業資本) 5. 資本の生産過程 (労働・生産過程、価値形成・増殖過程、生産方法の発展) 6. 資本の流通過程 (資本循環と流通費用、資本回転、剰余価値の流通) 7. 資本の再生産過程 (単純再生産、蓄積の現実的過程、再生産表式) 8. 利潤 (剰余価値率の利潤率への転化、一般的利潤率、利潤率低下の法則) 9. 地代 (差額地代第一形態、第二形態、絶対地代) 10. 利子 (貸付資本、商業資本、利子生み資本)			
【履修要件】			
社会経済システム論 Aを履修することが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点と年度末のレポート。			
【教科書】			
マルクス 『資本論』(国民文庫) 宇野弘蔵 『経済原論』(岩波書店)			
【参考書等】			
(参考書) 大黒弘慈 『貨幣と信用 純粋資本主義批判』(東京大学出版会) ISBN:4-13-040172-6			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
daiikoku.kouji.8a@kyoto-u.ac.jp オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論演習IA Seminar on Socio-Economic System IA	担当者氏名	滋賀大学経済学部 柴山 桂太
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
一九世紀から始まった「第一次グローバル化」は、二度の戦争と恐慌によって終わりを迎えた。それはなぜだったのか。この時代の「経済」と「社会」、「政治」の関係を歴史的・理論的に考察した文献を読みつつ、現代の「第二次グローバル化」の未来について理解を深めたい。			
【授業計画と内容】			
カール・ポランニーの『大転換』を講読する。この本は、一九世紀の金本位制、自由市場によってむずばれた当時のグローバル経済が、なぜ国家の対立やファシズムなどの統制経済へと行き着いたのかを説明した古典である。 必要な知識は適宜、解説しながら授業を進める。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席と学期末のレポートによって評価を行う。			
【教科書】			
カール・ポランニー 『[新訳]大転換』(東洋経済新報社) ISBN:978-4492371077			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
参加者は、担当箇所についてレジュメを下に報告が求められる。 詳細は初回講義時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論演習IB Seminar on Socio-Economic System IB	担当者氏名	滋賀大学経済学部 柴山 桂太
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
アメリカの住宅バブル崩壊、欧州債務危機と、世界経済の不調はまだまだ続いている。また、経済格差の広がりがも各国で確認されている。こうした現代の資本主義が抱える問題について、読みやすい現代の解説書を手がかりに、考察を深めたい。			
【授業計画と内容】			
ポール・クルーグマン『さっさと不況を終わらせろ』、ジョセフ・スティグリッツ『世界の99%を貧困にする経済』の二冊を講読する。前者は欧米の経済危機について、後者はアメリカの深刻な経済格差について書かれたものである。一般向けに書かれたものだけに、内容は理解しやすい。したがって授業では、内容を掘り下げるといっても、触れられている問題（不況、格差）の性質やその解決についての議論が、中心となるだろう。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席、および期末レポートによる。			
【教科書】			
ポール・クルーグマン『さっさと不況を終わらせろ』（早川書房）ISBN:978-4152093127 ジョセフ・スティグリッツ『世界の99%を貧困にする経済』（徳間書店）ISBN:978-4198634353			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論演習III B Seminar IIIB on Socio-Economic Theory	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大黒 弘慈
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。また経済思想の重要文献、および隣接分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行なう。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。あるいは年度に応じて2～3の課題を集中的に取り上げることもある。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 比例と交換（マルクス、アリストテレス、交換的正義、分配的正義）</li> <li>2. 類似と通貨（グレシャムの法則、コペルニクス、ニュートン）</li> <li>3. 模倣と信用（バジョットの法則、タルド、国家と中央銀行）</li> <li>4. 流行と慣習（アダム・スミス、ヴェブレン、先祖がえり）</li> <li>5. 模倣と権力（高田保馬、タルド、従属意志、威信への渴望）</li> <li>6. 模倣と進化（社会ダーウィニズム、ミーム、ミラーニューロン）</li> <li>7. 模倣の法則と価値形態論（模倣衝動の抑圧と回帰、家畜と貨幣）</li> <li>8. 模倣と物象化（アドルノ、ミメシス、投影、行為の物象化）</li> <li>9. 純粋資本主義論と世界資本主義論（宇野弘蔵、岩田弘、ウォーラーステイン）</li> <li>10. 帝国と帝国主義（ネグリ、レーニン、柄谷行人）</li> </ol>			
【履修要件】			
社会経済システム論演習 Aを履修することが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点と年度末のレポート。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 大黒弘慈『貨幣と信用 純粋資本主義批判』（東京大学出版会）ISBN:4-13-040172-6			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
daikoku.kouji.8a@kyoto-u.ac.jp			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論演習IIIA Seminar IIIA on Socio-Economic Theory	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大黒 弘慈
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。また経済思想の重要文献、および隣接分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行なう。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。あるいは年度に応じて2～3の課題を集中的に取り上げることもある。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 比例と交換（マルクス、アリストテレス、交換的正義、分配的正義）</li> <li>2. 類似と通貨（グレシャムの法則、コペルニクス、ニュートン）</li> <li>3. 模倣と信用（バジョットの法則、タルド、国家と中央銀行）</li> <li>4. 流行と慣習（アダム・スミス、ヴェブレン、先祖がえり）</li> <li>5. 模倣と権力（高田保馬、タルド、従属意志、威信への渴望）</li> <li>6. 模倣と進化（社会ダーウィニズム、ミーム、ミラーニューロン）</li> <li>7. 模倣の法則と価値形態論（模倣衝動の抑圧と回帰、家畜と貨幣）</li> <li>8. 模倣と物象化（アドルノ、ミメシス、投影、行為の物象化）</li> <li>9. 純粋資本主義論と世界資本主義論（宇野弘蔵、岩田弘、ウォーラーステイン）</li> <li>10. 帝国と帝国主義（ネグリ、レーニン、柄谷行人）</li> </ol>			
【履修要件】			
社会経済システム論演習 Bを履修することが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点と年度末のレポート。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 大黒弘慈『貨幣と信用 純粋資本主義批判』（東京大学出版会）ISBN:4-13-040172-6			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
daikoku.kouji.8a@kyoto-u.ac.jp			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	比較経営組織論 A Comparative Study of Business Organization A	担当者氏名	大阪経済大学経営学部 准教授 林田 修
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
ほとんどの現代人は企業-組織と関わりをもっている。この授業の前半では、なぜ企業は存在するのか、企業はどのような機能をもつのか、世の中に無数に存在する企業がすべて統合されて単一の企業にならないのはなぜか（組織の限界）、といった問題について、コーディネーション（調整）とモチベーション（動機付け）の視点から考察する。またこの授業の後半では、情報が企業内に偏在し、メンバー間で利害が異なるとき、メンバー同士がどのような駆け引きを繰り返すのか、それがどのような影響を企業業績に及ぼすのか、メンバー同士の協調を達成するにはどうしたらいいか、という問題を、メッセージ・ゲームの分析を通して考察する。			
【授業計画と内容】			
以下の各課題について、1～2週間の授業をする予定である。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業とは何か</li> <li>2. コーディネーション問題とモチベーション問題</li> <li>3. 取引費用アプローチ</li> <li>4. 価値最大化原理とコースの定理</li> <li>5. アドバース・セレクション（逆選択）とエージェンシー理論</li> <li>6. スクリーニング（選別）と表明原理</li> <li>7. ダブル・オークション</li> <li>8. シグナリング（コストのかかる情報伝達）</li> <li>9. チープ・トーク（コストのかからない情報伝達）</li> </ol>			
【履修要件】			
高校数学で習う程度の微積分の知識を必要とする。また後期開講予定の「比較経営組織論B」も合わせて履修することを薦める。			
【成績評価の方法・基準】			
学期末試験の成績で評価する。			
【教科書】			
使用しない 用意した講義プリントを授業の始めに配布する。特に教科書は指定しない。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する 初回の講義で関連文献のリストを配布して解説する（必ずしも購入しなくてよい）。			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
この授業は高校レベルの数学の知識（超初級の微積分）を必要とするが、基本的に文系学生向けの授業である。もちろん理系学生も大歓迎である。この授業を通じて、一見非合理に見えるかもしれない企業の活動・制度・慣行が実は数学モデルの分析を通じて合理的に説明可能であることを理解してほしい。そして企業経営について論理的に考える習慣を身につけてほしい。丁寧な解説に心がけるが、もし授業内容にわからないところがあれば、遠慮なく質問してほしい。積極的な参加を期待する。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	公共政策論 I A Public Policy Studies IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 佐野 亘						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
適切な公共政策を実現するには、まずもって、その「適切さ」を判断するための基準が必要となる。本講義では、経済学や倫理学、政治哲学などの議論を参照しながら、あるべき公共政策のあり方について探求したい。公共政策は現実の政治過程のもとで形成され、実現されるものである以上、ユートピア的な理念を語るのではなく、「実際に使える」規範理論を見つけ出すことが本講義の主要な目的である。									
【授業計画と内容】									
1. なぜ価値や規範について論ずるのか 2. 古典的自由主義 3. 現代的自由主義 4. 自由主義への批判 5. 古典的功利主義 6. 効率性基準 7. 功利主義への批判 8. 本質主義（卓越主義など） 9. 本質主義（自然と文化） 10. 本質主義への批判 11. 事例を通じて考える（ニーズとは何か） 12. 事例を通じて考える（分配の問題） 13. 事例を通じて考える（パターナリズム） 14. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
通常の試験による。									
【教科書】									
佐野亘 『公共政策規範』（ミネルヴァ書房）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論IIA Public Policy IIA	担当者氏名	滋賀大学経済学部 講師 松下 京平						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
経済学の観点から公共政策の意義や果たす役割を検討し、よりよい公共政策のあり方を考える									
【授業計画と内容】									
以下の予定で講義を進める									
1. オリエンテーション 2-3. 経済学から考える公共政策の必要性 4-6. 市場の動き－交換経済 7-9. 市場の動き－生産経済 10-11. 経済余剰の概念とその活用 12-13. 外部性とその帰結 14-15. 公共財の扱い									
学習の理解度に応じて、変更される場合がある									
【履修要件】									
公共政策論IABを履修済みであることが望ましい。後半（公共政策論IIB）を受講するためには、本講義（公共政策論IIA）を履修すること。									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験90% 平常点評価10%									
平常点評価は毎回の出席を重視する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 八田達夫 『ミクロ経済学Ⅰ』（東洋経済新報社）ISBN:978-4492812983									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論 I B Public Policy Studies IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 佐野 亘						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
公共政策においても、問題を発見し、それに対する対策をたて、その対策を実施するプロセスを適切に管理・運営することが重要となる。本講義では、特に現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現するうえで、実際上いかなる困難や問題が存在するかについて検討したい。本講義を通じて、受講者は、政策過程全体についての理解を深めるとともに、「政策の失敗」がなぜどのように起こるのかについて、自分なりに考察することができるようになることが望まれる。									
【授業計画と内容】									
1. 公共政策におけるPDCAサイクル 2. 問題発見 3. 問題分析 4. 課題設定 5. 立案（誰が行政サービスを提供するか：民間委託） 6. 立案（誰が行政サービスを提供するか：NPO） 7. 立案（不確実性への配慮） 8. 立案（インセンティブシステムの有効性） 9. 決定 10. 実施 11. 評価 12. 政治と分析 13. 政治制度の根本的改善？ 14. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
通常の試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 足立幸男 『公共政策学とは何か』（ミネルヴァ書房） クリストファー・フッド 『行政活動の理論』（岩波書店）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論IIB Public Policy IIB	担当者氏名	滋賀大学経済学部 講師 松下 京平						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
経済学の観点から公共政策の意義や果たす役割を検討し、よりよい公共政策のあり方を考える。									
【授業計画と内容】									
以下の予定で講義を進める。									
1. オリエンテーション 2-4. 補償原理：社会にとっての「望ましき」とは 5-7. 公正原理：ロールズ基準を考える 8-9. 多数決原理：多数決で「望ましき」は決められるか 10-12. アローの不可能性定理 13-15. 社会的選択									
学習の理解度に応じて、変更される場合がある。									
【履修要件】									
公共政策論IABを履修済みであることが望ましい。後半（公共政策論IIB）を受講するためには、前半（公共政策論IIA）を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験90% 平常点評価10%									
平常点評価は毎回の出席を重視する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 八田達夫 『ミクロ経済学Ⅰ』（東洋経済新報社）ISBN:978-4492812983									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論基礎ゼミナールIIA Introductory Seminar on Public Policy IIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 浅野 耕太						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
公共政策の具体例として、環境政策や資源政策をとりあげ、その現状とあり方を考究する。									
【授業計画と内容】									
基本書を輪読する。受講者はグループに分かれ、各グループは教科書の1章を分担し、その内容を報告するとともに、問題解答を行う。									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 希少性と社会的調整のシステム</li> <li>3. 市場と計画経済における社会的調整</li> <li>4. 経済と環境</li> <li>5. 市場の高い費用</li> <li>6. 非排除財</li> <li>7. 共有資源</li> <li>8. 政府のシグナリングの限界と誘因</li> <li>9. 異時点間意思決定</li> <li>10. 環境変化の費用便益分析</li> <li>11. 環境評価</li> <li>12. 表明選好法</li> </ol>									
【履修要件】									
後期に開講される公共政策論基礎ゼミナールIIBとの連続履修が望ましい。スタート時点では経済学の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、参考書による自学自習を求める。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、報告内容、貢献により総合的に評価する。									
【教科書】									
Ian Wills 『Economics and the Environment: A Signalling and Incentives Approach, 2nd Edition』(Allen & Unwin) ISBN:978-1741145762									
【参考書等】									
(参考書)									
ヘイン 『経済学入門』 ISBN:4-89471-646-1									
諸富徹・浅野耕太・森晶寿 『環境経済学講義』(有斐閣) ISBN:978-4-641-18365-0									
フィールド 『環境経済学入門』(日本評論社) ISBN:4-535-55134-0									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論演習IA Seminar on Public Policy IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 亘						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現実の公共政策のあり方について調査・検討するとともに、自分なりに適切な政策のあり方を提言できるような力を身につけることを目的とする。今年度は、特に、自治体における政策展開に焦点をあてることにしたい。受講者は、いずれかの自治体をひとつ取り上げ、そこでどのような問題が生じているのか、また、それに対してどのような政策が実施されているのか、さらに、それらの政策に問題はないのかを検討し、発表をおこなう。									
【授業計画と内容】									
受講者は、個人またはグループで、調査対象となる自治体をひとつ選び、その自治体が抱えている課題、またそれに対する対策などについて、調査・報告をおこなう。毎回、2または3人(グループ)ずつ報告をおこない、受講者全員でディスカッションをおこなう。以上を通じて、最終的に、具体的な政策提言・提案をおこなう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度(報告、質問、討論への参加など)にもとづいて、総合的に評価をおこなう。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論基礎ゼミナールIIB Introductory Seminar on Public Policy IIB	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 浅野 耕太						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
公共政策の具体例として、環境政策や資源政策をとりあげ、その現状とあり方を考究する。									
【授業計画と内容】									
基本書を輪読する。受講者はグループに分かれ、グループで教科書の1章を分担し、その内容を報告し、問題に解答する。									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 汚染の経済学</li> <li>2. 廃棄物とリサイクルに関する社会的調整</li> <li>3. 地球環境問題の経済学</li> <li>4. 共有資源の管理</li> <li>5. 生物多様性の経済的意義</li> <li>6. 生物多様性の危機に関する経済学</li> <li>7. 生物多様性保全の政策手段</li> <li>8. 不確実性下での社会的調整</li> <li>9. 経済学と環境問題</li> </ol>									
【履修要件】									
公共政策論基礎ゼミナールIIAの連続履修が望ましい。スタート時点では経済学の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、参考書による自学自習を求める。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、報告内容、貢献により総合的に評価する。									
【教科書】									
Ian Wills 『Economics and the Environment: A Signalling and Incentives Approach, 2nd ed.』(Allen & Unwin) ISBN:1-74114-576-7									
【参考書等】									
(参考書)									
ヘイン 『経済学入門: 経済学の考え方』(ピアソン・エデュケーション) ISBN:4-89471-646-1									
フィールド 『環境経済学入門』(日本評論社) ISBN:4-535-55134-0									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論演習IB Seminar on Public Policy IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 亘						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
適切な公共政策を実現するには、机上の空論に終わらないように、単に理想の社会のあり方を構想するだけでなく、その具体的な実現方法について考える必要がある。本演習では、受講者は、各自、みずからの興味・関心にもとづいてテーマを決め、それについてどのような政策がこれまで実施されてきたのか、またそこにはどのような問題があったのかを調査・報告するとともに、その改善策を提案する。この演習を通じて、受講者は、理論的な知識を具体的な問題に応用する力を身につけるとともに、みずからの問題意識を言語化し、他者に理解可能なかたちで伝える能力を身につけることが期待される。									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 受講者による報告</li> <li>3. "</li> <li>4. "</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. "</li> <li>8. "</li> <li>9. "</li> <li>10. "</li> <li>11. "</li> <li>12. "</li> <li>13. "</li> <li>14. まとめ</li> </ol>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度(報告、質問、討論への参加など)をもとに、総合的に評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	公共政策論演習IIA Seminar on Public Policy IIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 浅野 耕太						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 現実の公共政策について、文献、統計資料、現地調査などに基づいて、分析を行うための基礎的な力を養う。									
【授業計画と内容】 環境経済学、資源経済学、エコロジー経済学、政策科学、ミクロ経済学、計量経済学などに関する基本文献の講読からはじめ、受講者各自の問題意識を明確化していき、それぞれの課題にかなう手法の指導を行う。基本文献としては、例えば、以下のような図書を考えている。環境経済学に関しては、フィールド『環境経済学入門』日本評論社。ミクロ経済学に関しては、八田達夫『ミクロ経済学III』東洋経済新報社。計量経済学としては、浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣。読みこなしたい図書がある場合、積極的に提案してほしい。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、報告内容、その他の貢献を斟酌し、総合的に評価する。									
【教科書】 未定									
【参考書等】 (参考書) ヘイン『経済学入門』(ピアソン・エデュケーション) ISBN:4-89471-646-1  (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	経済と数学A Introductory Economics with Calculus A	担当者氏名	神戸大学経済学研究科 講師 山根 史博						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 経済学は世の中の様々な現象を思考するための分析ツールである。なぜ人はそのような行動をとるのか？なぜそのような社会現象が起こるのか？その政策はどのような効果(失敗)をもたらすのか？この講義ではそうした具体例をいくつも挙げ、1つ1つを「経済学的な考え方」で思考しながら、経済学の基本原則、適用範囲の広さ、長所・短所を明らかにする。このエチュードを通じて、受講者自身が直面する問題や関心事に対し、新しい視点と深い洞察力が身につけば幸いである。前期では主にミクロ経済学のトピックスを扱う。									
【授業計画と内容】 第1回：ガイダンス 第2回：経済学的な考え方 第3回：どこにでもある代替機会：需要の概念 第4回：機会費用と財の供給 第5回：供給と需要：その協業のプロセス 第6回：供給と需要：問題と応用 第7回：効率、交換、および比較優位 第8回：情報、仲介業者、および投機家 第9回：価格設定と独占の問題 第10回：価格探索 第11回：競争と政府政策 第12回：利潤 第13回：所得分配 第14回：外部性と権利の衝突 第15回：市場と政府									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 授業最終日に行う期末試験で評価する。出席点なし。試験には教科書と自筆のノート(コピーは不可)持ち込み可。									
【教科書】 ポール・ヘイン『経済学入門：経済学の考え方』(Pearson Education Japan) ISBN:978-4894716469									
【参考書等】 (参考書) N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』(東洋経済新報社) ISBN:978-4492313862  (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 受講者への希望：将来、経済学が必要になると思う人は、日々の出来事やニュースを経済学者になつたつもりで分析するよう心掛けるとよい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	公共政策論演習IIB Seminar on Public Policy IIB	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 浅野 耕太						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 現実の公共政策について、文献、統計資料、現地調査などに基づいて、分析を行うための基礎的な力を養う。									
【授業計画と内容】 環境経済学、資源経済学、エコロジー経済学、政策科学、ミクロ経済学、計量経済学などに関する基本文献の講読からはじめ、受講者各自の問題意識を明確化していき、それぞれの課題にかなう手法の指導を行う。基本文献としては、例えば、以下のような図書を考えている。環境経済学に関しては、フィールド『環境経済学入門』日本評論社。ミクロ経済学に関しては、八田達夫『ミクロ経済学III』東洋経済新報社。計量経済学に関しては、浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣。政策科学に関しては、ロッシン・リブセイ・フリーマン『プログラム評価の理論と方法』日本評論社。読みこなしたい図書がある場合、積極的に提案してほしい。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、報告内容、その他の貢献を斟酌し、総合的に評価する。									
【教科書】 未定									
【参考書等】 (参考書) ハイン『経済学入門』(ピアソン・エデュケーション) ISBN:4-89471-646-1 浅野耕太『政策研究のための統計分析』(ミネルヴァ書房) ISBN:4623056635  (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	経済と数学B Introductory Economics with Calculus B	担当者氏名	神戸大学経済学研究科 講師 山根 史博						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 経済学は世の中の様々な現象を思考するための分析ツールである。なぜ人はそのような行動をとるのか？なぜそのような社会現象が起こるのか？その政策はどのような効果(失敗)をもたらすのか？この講義ではそうした具体例をいくつも挙げ、1つ1つを「経済学的な考え方」で思考しながら、経済学の基本原則、適用範囲の広さ、長所・短所を明らかにする。このエチュードを通じて、受講者自身が直面する問題や関心事に対し、新しい視点と深い洞察力が身につけば幸いである。後期では主にマクロ経済学のトピックスを扱う。									
【授業計画と内容】 第1回：ガイダンス 第2回：経済システムの総合的な成果 第3回：貨幣の供給(1) 第4回：貨幣の供給(2) 第5回：金融政策と財政政策(1) 第6回：金融政策と財政政策(2) 第7回：国家政策と国際為替(1) 第8回：国家政策と国際為替(2) 第9回：雇用と失業(1) 第10回：雇用と失業(2) 第11回：経済成長の促進(1) 第12回：経済成長の促進(2) 第13回：経済的成果と政治経済学(1) 第14回：経済的成果と政治経済学(2) 第15回：経済学の限界									
【履修要件】 「経済と数学A」(前期)に引き続いて履修することを推奨する。									
【成績評価の方法・基準】 授業最終日に行う期末試験で評価する。出席点なし。試験には教科書と自筆のノート(コピーは不可)持ち込み可。									
【教科書】 ポール・ヘイン『経済学入門：経済学の考え方』(Pearson Education Japan) ISBN:978-4894716469									
【参考書等】 (参考書) N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』(東洋経済新報社) ISBN:978-4492313862  (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 受講者への希望：将来、経済学が必要になると思う人は、日々の出来事やニュースを経済学者になつたつもりで分析するよう心掛けるとよい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論IA Euro-American History and Society IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 合田 昌史						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
本講義では、中世から近世にかけてヨーロッパで作成された地図類を取り上げ、ヨーロッパの世界認識における変遷を考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の小テーマに沿って授業を進める。 1 地図・絵図・図像と歴史研究 2 中世のマッパムンディ 3 中世のポルトラーノ型海図 4 カタルーニャ・アトラス 5 フラ・マウロ図 6 カンティーノ図 7 フランシスコ・ロドリゲスのアトラス 8 ジョアン・デ・カストロの絵図									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験（筆記）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論IIA Euro-American History and Society IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
18世紀後半から19世紀の初めにかけて、イギリスは世界各地の植民地に植物園を設営した。それらは国内において同時期に整備されつつあったロンドンやエディンバラの植物園と連携して、帝国における情報の収集や資源確保のための重要な機関となった。本年はとくに、東半球（インド・東南アジア）における植物園ネットワークの形成について、資料を紹介しつつ論じる。									
【授業計画と内容】									
以下の小テーマ（各2回程度）に沿って授業を進める。 1 東インド会社のボタニスト 2 モラヴィア教団と植物学の研究 3 カルカッタの植物園とロバート・キッド 飢饉にそなえて 4 カルカッタの植物園とウィリアム・ロクスバラ インドのリンネ 5 マドラスの植物園 サボテンとコチニール 6 海峡植民地の植物園 ペナン 7 海峡植民地の植物園 シンガポール									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業への参加（質疑応答など）を重視する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論IB Euro-American History and Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 合田 昌史						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
本講義では、大航海時代の代表的人物をとりあげ、彼らの活動が西洋社会の経済・文化・宗教等に与えた影響について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の小テーマに沿って授業を進める。 1 .大航海時代と人物研究 2 .エンリケ航海王子 3 .コロンブス 4 .ヴァスコ・ダ・ガマ 5 .マゼラン									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験（筆記）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論IIB Euro-American History and Society IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
18世紀後半から19世紀の初めにかけて、イギリスは世界各地の植民地に植物園を設営した。それらは国内において同時期に整備されつつあったロンドンやエディンバラの植物園と連携して、帝国における情報の収集や資源確保のための重要な機関となった。本年はとくに、東半球（オーストラリア・セイロン・モーリシャス）における植物園ネットワークの形成について、資料を紹介しつつ論じる。									
【授業計画と内容】									
以下の小テーマ（各2回程度）に沿って授業を進める。 1 サマルコッタとスパイスの実験園 2 オーストラリアとジョゼフ・バンクス 3 オーストラリアの森林資源 4 シドニーの植物園 5 プリスペンおよびその他の植物園 6 セイロン島の植物園 7 モーリシャス島の植物園									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業への参加（質疑応答など）を重視する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論演習IA Seminar on Euro-American History and Society IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。									
【授業計画と内容】 ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関して、参加者各自が設定した研究テーマについてプレゼンテーションを行ってもらい、助言や指導を行い、また出席者全員による、質疑や討論を行う。一人の発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深めてゆく。大学院人間・環境学研究所の授業と共通。									
【履修要件】 ヨーロッパの歴史・社会・文化に関心を有すること。									
【成績評価の方法・基準】 プレゼンテーションおよび授業への出席と、積極的な参加を重視する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論演習IIA Seminar on Euro-American History and Society IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 合田 昌史						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。									
【授業計画と内容】 ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関して、参加者各自が設定した研究テーマについてプレゼンテーションを行ってもらい、助言や指導を行い、また出席者全員による、質疑や討論を行う。一人の発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深めてゆく。大学院人間・環境学研究所の授業と共通。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 プレゼンテーションおよび授業への出席と、積極的な参加を重視する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論演習IB Seminar on Euro-American History and Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。									
【授業計画と内容】 ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関して、参加者各自が設定した研究テーマについてプレゼンテーションを行ってもらい、助言や指導を行い、また出席者全員による、質疑や討論を行う。一人の発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深めてゆく。大学院人間・環境学研究所の授業と共通。									
【履修要件】 ヨーロッパの歴史・社会・文化に関心を有すること。									
【成績評価の方法・基準】 プレゼンテーションおよび授業への出席と、積極的な参加を重視する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論演習IIB Seminar on Euro-American History and Society IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 合田 昌史						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。									
【授業計画と内容】 ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関して、参加者各自が設定した研究テーマについてプレゼンテーションを行ってもらい、助言や指導を行い、また出席者全員による、質疑や討論を行う。一人の発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深めてゆく。大学院人間・環境学研究所の授業と共通。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 プレゼンテーションおよび授業への出席と、積極的な参加を重視する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論IA Japanese History and Culture IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
日本古代・中世の時代的特色に焦点を当て、その時代性・歴史性を理解することを目的とする。日本古代の都市と農村の関係や王権と文化の問題を、平安時代を中心に検討する。日記や古文書・説話などの諸史料を解説しつつ、課題に取り組む。									
【授業計画と内容】									
本年度は日本古代・中世の基本的な問題を取り上げ、講義形式で授業を行う。前期は9世紀の都市貴族の邸宅を舞台とする家政のあり方、文化の状況をテーマに、その内容を詳細に検討する。2011年度にJR二条駅の西側で発掘調査が行われ、多量の木簡・墨書土器が発見された。その中には「三条院」の墨書が見られ、この邸宅が右大臣藤原良相の西三条第とする根拠となった。また、平仮名と評価できる墨書が多数認められ、一般にも広く報道された。しかし、この文字群は平仮名だけが問題なのではなく、漢字の墨書にも注目すべき価値があり、平仮名の墨書は漢字の墨書を解明して初めて位置づけられる。このような観点から西三条第の墨書土器・木簡を検討する。									
はじめに(1・2週) 1 平安京右京三条一坊六町の発掘調査(3・4週) 2 西三条第の家政(5・7週) 3 西三条第の文化的現象(8・9週) 4 平仮名墨書(10・11週) 5 藤原良相の教養・文化(12・13週) 6 まとめ 9世紀の文化									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
主に年度末のレポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業参加には、十分な予習が必要である。 オフィスアワーは木曜の午後3時から(教授会の日を除く)。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論IIA Japanese History and Culture IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
最初の武士政権である平氏政権の成立過程、武士政権としての特色を検討する。これによって、当該期の政治情勢に関する認識を深めるとともに、政治史分析の方法と意味を提示したい。 あわせて関連史料(主に日記・古記録)を配布し、史料読解力を高める									
【授業計画と内容】									
主要なテーマは以下の通り。 1. 院政と武士 2. 保元の乱 3. 平治の乱 4. 後白河と平清盛 5. 平氏政権の成立 以上のテーマを2, 3回に分けて説明する。 毎回、史料を配布し、出席者に読み下してもらおう。									
【履修要件】									
日本歴史文化論 Bとの連続受講を推奨する。一定程度の漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、試験									
【教科書】									
毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論IB Japanese History and Culture IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
日本古代・中世の時代的特色に焦点を当て、日記・説話・古文書など様々な史料を素材に解明する。日本古代の都市と農村の関係や王権と文化の問題を、平安時代を中心に検討する。日記や古文書・説話などの諸史料を解説しつつ、課題に取り組む。									
【授業計画と内容】									
本年度は日本古代・中世の基本的な問題を取り上げ、講義形式で授業を行う。後期は8世紀から9・10世紀の王権のあり方をテーマに、その変遷過程を検討する。 王権(天皇制)に就く人格には要件がある。その要件を年令や人格のあり方を素材に分析する。9世紀には幼帝が出現するなど、王権に就く要件に年令はしばしば取り上げられる。また、天皇の<死>と政情は密接に関係するとされる。8世紀前後から9世紀以降の天皇の年令や、<死>・不子の側面から、古代の王権の歴史性を検証する。									
はじめに(1・2週) 1 古代天皇のライフサイクル(3・4週) 2 <健全>な天皇(5・6週) 3 天皇の不子と謀反(7・9週) 4 不子と譲位(10・12週) 5 <虚弱>な天皇(13・14週) おわりに(15週)									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
主に年度末のレポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業参加には、十分な予習が必要である。 オフィスアワーは木曜の午後3時から(教授会の日を除く)。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論IIB Japanese History and Culture IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
鎌倉幕府の成立  激しい源平争乱を通して成立した鎌倉幕府について、そのセリ過程、武士政権としての特色を検討する。これによって、当該期の政治情勢に関する認識を深めるとともに、政治史研究の方法や意味を提示したい。 関連史料を配布し、史料読解力の錬成を図る									
【授業計画と内容】									
主要なテーマは以下の通り。 1. 平氏政権の矛盾 2. 源平争乱 3. 義経の没落 4. 王権と自力救済 5. 鎌倉幕府將軍権力 それぞれを2, 3回に分けて論じる。 毎回史料を配布し、出席者に読み下しを担当してもらおう。									
【履修要件】									
日本歴史文化論 Aとの連続受講を推奨する。一定程度の漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、試験									
【教科書】									
毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 元木泰雄 『源義経』(吉川弘文館)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論演習IA Seminar on Japanese History and Culture IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本社会の発展を歴史的視点から考察し解明するための研究方法や、一次史料（日記・古文書などの扱い方を習得するための演習を行う。日本の古代・中世に関する研究課題・研究方法を習得し、史料を解読する演習を行う。									
【授業計画と内容】									
授業の計画と内容の具体的な中身は受講生と協議しながら決定するが、基本的には、日本の古代・中世の基本史料を読み解くことと、各自の研究内容を発表してもらい、質疑応答を行う。授業は、の両者を並行して実施するが、おおむね1月のうちは3回、は1回を予定している。									
は、9世紀から12世紀の貴族の日記や古文書を解読する。活字化された史料も取り上げるが、原本の写真・影写本などから釈文を作りあげることを目指す。取り上げる史料はできるだけ、活字化されていないものにする。場合によっては、活字化された史料にすることもありうる。担当者があらかじめ釈文を作成し、授業中に配布し、参加者全員で検討して釈文を作りあげる。本年度は寛治2年（1088）の白河上皇の高野山参詣を題材とする。									
は、と並行して臨機に参加者各自が研究内容を発表し、質疑応答しながら、研究内容の深化を目指す。原則として、1回の授業で1人の報告を行うが、研究の進行状況を1回の授業で3・4人が短時間に報告することがある。									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と発表内容から、平常点で評価する。									
【教科書】									
授業中に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業参加には、十分な予習が必要である。 オフィスアワーは木曜の午後3時から（教授会の日を除く）。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論演習IIA Seminar on Japanese History and Culture IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
古文書学を取り上げる。おもに中世の古文書を対象に、内容の正確な理解のために様式について検討する。あわせて写真の複写を配布し、読解力の養成を図る。									
【授業計画と内容】									
佐藤進一著『新版日本古文書学』に沿って授業を進める。主なテーマは以下の通り。 1. 古文書とは何か 2. 公式様文書(律令制の文書様式) 3. 公家様文書(官旨、奉書など、貴族政権の文書様式) 4. 鎌倉幕府の文書(下文、御教書、下知状など、将軍・執権の文書) 5. 室町幕府の文書(御判御教書、御内書など、将軍の文書) 様式を検討するとともに、崩し字の解釈力も練成する。毎回、次回までの課題を課す。									
【履修要件】									
漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テスト									
【教科書】									
佐藤進一『新版日本古文書学』									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論演習IB Seminar on Japanese History and Culture IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本社会の発展を歴史的視点から考察し解明するための研究方法や、一次史料（日記・古文書などの扱い方を習得するための演習を行う。日本の古代・中世に関する研究課題・研究方法を習得し、史料を解読する演習を行う。									
【授業計画と内容】									
授業の計画と内容の具体的な中身は受講生と協議しながら決定するが、基本的には、日本の古代・中世の基本史料を読み解くことと、各自の研究内容を発表してもらい、質疑応答を行う。授業は、の両者を並行して実施するが、おおむね1月のうちは3回、は1回を予定している。									
は、9世紀から12世紀の貴族の日記や古文書を解読する。活字化された史料も取り上げるが、原本の写真・影写本などから釈文を作りあげることを目指す。取り上げる史料はできるだけ、活字化されていないものにする。場合によっては、活字化された史料にすることもありうる。担当者があらかじめ釈文を作成し、授業中に配布し、参加者全員で検討して釈文を作りあげる。本年度は寛治2年（1088）の白河上皇の高野山参詣を題材とする。									
は、と並行して臨機に参加者各自が研究内容を発表し、質疑応答しながら、研究内容の深化を目指す。原則として、1回の授業で1人の報告を行うが、研究の進行状況を1回の授業で3・4人が短時間に報告することがある。									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と発表内容から、平常点で評価する。									
【教科書】									
授業中に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業参加には、十分な予習が必要である。 オフィスアワーは木曜の午後3時から（教授会の日を除く）。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論演習IIB Seminar on Japanese History and Culture IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
古文書学を取り上げる。 中世後期の様々な古文書を取り上げ、古文書読解力の練成を図る。									
【授業計画と内容】									
佐藤進一著『新版古文書学入門』に沿って授業を進めるが、写真を用いて実践的な読解力を要請する。 主なテーマは以下の通り。 1. 室町幕府の文書(奉行人奉書、施行状など) 2. 土地関係の文書(売券、譲状など) 3. 合戦関係の文書(軍忠状など) 4. 戦国時代の文書 前期より難解な文書を取り上げる。毎回、次回までの課題を課す。									
【履修要件】									
日本歴史文化論演習 Aの履修を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テスト									
【教科書】									
佐藤進一『新版古文書学入門』									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	中国社会学IA Chinese Culture and Society IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 辻 正博
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
「隋唐時代の法制と社会」 隋唐王朝の政治制度、とりわけ法制は、わが国の国家形成に大きな影響を与えた。この講義では、隋唐王朝の法制の概要を理解することを目的とする。制度が前提としていた社会のあり方についても考察することで、より一層理解が深まることと思う。中国中世史のみならず、日本古代史に関心を持つ学生にとっても意義ある講義としたい。			
【授業計画と内容】			
以下のテーマについて、1テーマあたりおおむね1～3週を目途に講義を進める。 なお、初回の授業において、学期の授業計画および講義が必要とされる事項について説明を行う。			
0) ガイダンス 1) 主要史料解題 2) 隋王朝の律令 a) 開皇律令 b) 大業律令 3) 隋代の法制と社会 4) 唐王朝の律令 a) 武徳律令 b) 貞観律令 c) 開元年間の律令 5) 唐代前期の法制と社会			
【履修要件】			
講義内容に対する理解を深めるためにも、後期科目(中国社会学 B)との連続受講が望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
期末レポートにより評価します。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 滋賀秀三『中国法制史論集 法典と刑罰』(創文社、2003年) 仁井田陞『唐令拾遺』(東京大学出版会)(とくに「序説」の部分) その他については、講義時に適宜指示する。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話したい学生は、  tsuji.masahiro.4m@kyoto-u.ac.jp			
に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	中国社会学IIA Chinese Culture and Society IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 キム ジヒョン
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
〔道教概論〕 本授業は道教史の諸問題、道教の発生・展開について時代順に概観していきます。仏教の流入以降の中国思想を理解するためには、儒教・道教・仏教の三教思想についてバランスの取れた知識が必要で、前期では後漢から六朝時代にまでの道教思想の展開について基本的な知識を得ることを目的とします。			
【授業計画と内容】			
以下の内容について重要文献を紹介し、資料の原文を読みながら講義を進めます。			
1. 道教の定義問題 2. 先秦時代の道家思想と養生思想 3. 秦漢時代の神仙思想と黄老学 4. 老子の神格化と黄老道 5. 陰陽五行の思想と太平道 6. 天師道の成立と新しい共同体の形成 7. 天師道の抑圧と伝播 8. 魏晉時代の貴族と道教 9. 魏晉時代の玄学と道教 10. 魏晉時代の仏教と道教 11. 東晉末の道教経典の成立(1)上清経 12. 東晉末の道教経典の成立(2)靈宝経 13. 南朝における道教の整備 14. 北朝における新天師道 15. 南北朝道教の交流と融合			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
平常点(30) 期末レポート(70)			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	中国社会学IB Chinese Culture and Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 辻 正博
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	木2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
「唐宋時代の法制と社会」 安史の乱を境に、中国社会学は大きく変貌を遂げる。「唐宋変革」とよばれる中国史上の一大変革期には、法制も大きく変化した。この講義では、当時の社会との関わりをも視野に入れつつ、唐宋変革を法制の面から理解することを目的とする。いわゆる「律令法」が唐後半期から宋代にかけてどのように変貌してゆくかを知ることによって、日本古代国家が導入を試みた法制が如何なるものであったかを感得できることと思う。			
【授業計画と内容】			
以下のテーマについて、1テーマあたりおおむね1～4週を目途に講義を進める。 なお、初回の授業において、学期の授業計画および講義が必要とされる事項について説明を行う。			
0) ガイダンス 1) 主要史料解題 2) 唐後半期の法制と社会 3) 五代の法制と社会 4) 宋代の法制と社会			
【履修要件】			
前期科目(中国社会学 A)との連続受講した方が、講義内容が理解しやすくなると思います。			
【成績評価の方法・基準】			
期末レポートにより評価します。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 滋賀秀三『中国法制史論集 法典と刑罰』(創文社、2003年) 梅原 郁『宋代司法制度研究』(創文社、2006年) その他については、講義時に適宜指示する。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話したい学生は、  tsuji.masahiro.4m@kyoto-u.ac.jp			
に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	中国社会学IIB Chinese Culture and Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 キム ジヒョン
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
〔道教概論〕 本授業は道教史の諸問題、道教の整備と展開について時代順に概観していきます。仏教の流入以降の中国思想を理解するためには、儒教・道教・仏教の三教思想についてバランスの取れた知識が必要で、後期では隋唐から北宋までの道教思想の展開について基本的な知識を得ることを目的とします。			
【授業計画と内容】			
以下の内容について重要文献を紹介し、資料の原文を読みながら講義を進めます。			
1. 授業概要 2. 道教類書の編纂 3. 道教の経典観と気論 4. 道教の修行と儀礼 5. 隋唐時代の道教：再び老子の尊崇 6. 道教の尊崇と老子の解釈学 7. 唐代における道観制度と道教聖地 8. 唐代の仏教と道教 9. 唐末五代：道教経典の再発見と新解釈 10. 周易参同契と内丹学の発展 11. 陰符経の思想 12. 宋代の黄帝尊崇と道教 13. 北宋真宗の天書事件 14. 北宋徽宗と道教 15. 金における三大道派			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
平常点(30) 期末レポート(70)			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	中国社会論演習IA Seminar on Chinese Society IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 辻 正博						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国社会を歴史学的に分析するためには、漢文史料を読解する能力を身につける必要がある。これだけではどうしても避けて通ることができない。 この授業は、漢文史料を自分の力で読み解いてゆくための必要最低限の能力を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
漢文史料を読み解くためには、ある程度の知識（漢文法を含む）が必要となる。限られた時間の中でそれを身につけてもらうために、いくつかの漢文史料を読みながら、その折々の問題を解決するという方法を採用する。 前期は、編年体で書かれた史料を輪読する。									
《授業スケジュール》 第1週：ガイダンス、授業内容・方法の説明。 第2週以降：漢文史料の読解。受講生が漢文史料を輪読し、内容についての質疑応答を行う。									
【履修要件】									
後期に開講する中国社会論演習 Bを連続受講して、前期で身につけた能力にさらに磨きをかけてほしい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席・受講態度、質疑応答の内容を勘案して、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 必要なテキストは、授業時に配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 各自愛用の漢和辞典を毎回持参すること。（電子辞書ではなく「紙の辞書」を持ってくること。）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話したい学生は、 tsuji.masahiro.4m@kyoto-u.ac.jp に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国社会論演習IIA Seminar on Chinese Society IIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 キム ジヒョン						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
本演習は、中国思想の三大土台といえる儒教・仏教・道教の三教の間における対立と交渉のありようを考察することを目的とする。『弘明集』などに収められている論争・議論のなかには、中国の知識人及び漢族の僧侶たちが儒教・道教、そして仏教についてどのように考えていたかが浮彫にされている。相異なる考え方、宗教思想が衝突した際の思想・宗教文化史の展開についても併せて検討していく。									
【授業計画と内容】									
『弘明集』および正史資料の中から、三教間の論争・交渉に関連する重要論文を選び、担当を決めて訳注を作り、それをもとに議論を行う。									
授業の具体的な目標・内容としては、 1. テキストの精読を通じて中国古典の読解力を養成し、工具書の使い方を身につける。 2. 伝統中国の立論の仕方、論理の展開について理解する。 3. 選読する論文に用いられた典拠に確実に当たり、もとの書物を調べる作業を行う。思想のソースとなるものを確認する作業を通じて、仏教流入の際に中国人が持っていた儒教・道教などの、伝統文化思想の素養がどのようなものであったか、仏教を擁護する知識人がベースとしていた仏教知識はどのようなものであったかについて検討する。 4. 仏教という外来の思想・文化と接した際に、中国の知識人たちが受けた文化的衝撃はどのような点にあったか、かかる文化的・思想的相異に遭遇した際に起こった抵抗と批判、あるいは思想的融合はどのような様相を呈していたのかについて理解を深める。									
【履修要件】									
漢文基礎の授業を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業における発表、訳注作り）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 授業中には、担当者の訳注発表表に対し、参加者全員で検討・議論を行う。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国社会論演習IB Seminar on Chinese Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 辻 正博						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国社会を歴史学的に分析するためには、漢文史料を読解する能力を身につける必要がある。これだけではどうしても避けて通ることができない。 この授業は、漢文史料を自分の力で読み解いてゆくための必要最低限の能力を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
漢文史料を読み解くためには、ある程度の知識（漢文法を含む）が必要となる。限られた時間の中でそれを身につけてもらうために、いくつかの漢文史料を読みながら、その時々に関連する問題を解決するという方法を採用する。 後期は、中国史上の有名人物の伝記を輪読する。									
《授業スケジュール》 第1週：ガイダンス... 授業内容・方法の説明。 第2週以降：漢文史料の読解。受講生が漢文史料を輪読し、内容についての質疑応答を行う。									
【履修要件】									
上記の能力を身につけるためには、正直なところ、半期の授業では時間が足りないかも知れませんが、可能な限り、前期に開講する「中国社会論演習 A」と連続受講されることを「強く」お勧めします。 後期からはじめて受講する方は、それなりの覚悟をもっておいで下さい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席・受講態度、質疑応答の内容を勘案して、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 必要なテキストは、授業時に配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 各自愛用の漢和辞典を毎回持参すること。（電子辞書ではなく、「紙の辞書」を持ってくること。）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話したい学生は、 tsuji.masahiro.4m@kyoto-u.ac.jp に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国社会論演習IIB Seminar on Chinese Society IIB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 キム ジヒョン						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
本演習は、中国思想の三大土台といえる儒教・仏教・道教の三教の間における対立と交渉のありようを考察することを目的とする。『弘明集』などに収められている論争・議論のなかには、中国の知識人及び漢族の僧侶たちが儒教・道教、そして仏教についてどのように考えていたかが浮彫にされている。相異なる考え方、宗教思想が衝突した際の思想・宗教文化史の展開についても併せて検討していく。									
【授業計画と内容】									
『弘明集』『集古今伝論衡』および正史の中から、三教間の論争・交渉に関連する重要論文を選び、担当を決めて訳注を作り、それをもとに議論を行う。									
授業の具体的な目標・内容としては、 1. テキストの精読を通じて中国古典の読解力を養成し、工具書の使い方を身につける。 2. 伝統中国の立論の仕方、論理の展開について理解する。 3. 選読する論文に用いられた典拠に確実に当たり、もとの書物を調べる作業を行う。思想のソースとなるものを確認する作業を通じて、仏教流入の際に中国人が持っていた儒教・道教などの、伝統文化思想の素養がどのようなものであったか、仏教を擁護する知識人がベースとしていた仏教知識はどのようなものであったかについて検討する。 4. 仏教という外来の思想・文化と接した際に、中国の知識人たちが受けた文化的衝撃はどのような点にあったか、かかる文化的・思想的相異に遭遇した際に起こった抵抗と批判、あるいは思想的融合はどのような様相を呈していたのかについて理解を深める。									
【履修要件】									
漢文基礎の授業を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業における発表、訳注作り）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 授業中には、担当者の訳注発表表に対し、参加者全員で検討・議論を行う。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国文字文化論 The Culture of Chinese Characters	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 阿辻 哲次						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
これまでの人間の歴史を文字との関連においてとらえる。文字による記録が歴史的にどのようなふうになり変わってきたか、主として中国を舞台とする観察を通じて考え、あわせてコンピュータ時代における文字文化のあり方を考える。									
【授業計画と内容】									
漢字の起源 新石器時代の遺跡から発見される初期の符号と、山東省丁公村発見の陶片を通じて、中国における文字の誕生を考える。 甲骨文字の発見と研究 現存する最古の漢字である甲骨文字を紹介し、その研究によって、個別の漢字の本来の意味を究明したり、字義の変遷のプロセスを明らかにする。 青銅器の銘文 殷周時代に大量に制作された青銅器の内側に鑄造された銘文も、甲骨文字と同様に古い時代の漢字の姿を示す貴重な資料である。この銘文を通じて、古代中国の文字文化を考える。 紙の普及と印刷の発展 書写材料として理想的な紙の普及と、それを使った印刷術の発展を通じて、文化の進展の様相を考える。									
【履修要件】									
後期の中国書誌論を連続して履修することを推奨する。									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験による。試験の際には講義を通じて自分で考えたことを論述させる方式を採る。									
【教科書】									
阿辻 哲次『漢字文化の源流をたどる』（丸善）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国古典講読論A Readings in the Chinese Classics A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国古典世界の文学者や知識人たちの逸話を読む。（『太平広記』選読）									
【授業計画と内容】									
中国古典世界において、文学の担い手は知識人の集団であった。彼らは優れた才能の持ち主たちであった。しかし、一方で極めて人間的な逸話も残している。それらを読んでゆくことにより、中国古典世界をより親しみやすいものにした。高校までの漢文の授業のように、読解だけを目的とするのではなく、読解を通して、広く中国古典文化を紹介することを目的とする。宋代に編集された『太平広記』はテーマ別に前代の知識人の逸話を纏めているので、幾つかのテーマから興味深い逸話を選読する。									
【履修要件】									
後半（中国古典講読論B）の連続履修を推奨する									
【成績評価の方法・基準】									
平常授業と定期試験による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 漢和辞典は必携。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
必ず予習しておくこと。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国書誌論 The History of Chinese Books	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 阿辻 哲次						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
これまでの人間の歴史を文字と書物との関連においてとらえる。文字による記録が歴史的にどのようなふうになり変わってきたか、書物の成立と発展を通じて文化と学問の歩みを考える。									
【授業計画と内容】									
さまざまな書写材料 世界で最初に紙を発明したのは中国であるが、紙が発明される前にも実にさまざまな書写材料が使われていた。その中には、甲骨や青銅器といった特殊なものもあるが、大多数は竹や木、あるいは石など、他の文明世界に共通する素材である。それらの古代的書写材料と、それに書かれた文字との有機的な連関を究明する。 書物の誕生と変遷 文字による記録から、不特定多数の読者を想定した書物の成立を考える。 印刷と出版の歴史 中国における印刷の起源と発展の様相、および現代の情報化時代における書物のあり方について考える。									
【履修要件】									
前期の中国文字文化論からの連続した履修を推奨する									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験による。試験の際には講義を通じて自分で考えたことを論述させる方式を採る。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国古典講読論B Readings in the Chinese Classics B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国古典世界の文学者や知識人たちの逸話を読む。（『太平広記』選読）									
【授業計画と内容】									
中国古典世界において、文学の担い手は知識人の集団であった。彼らは優れた才能の持ち主たちであった。しかし、一方で極めて人間的な逸話も残している。それらを読んでゆくことにより、中国古典世界をより親しみやすいものにした。高校までの漢文の授業のように、読解だけを目的とするのではなく、読解を通して、広く中国古典文化を紹介することを目的とする。宋代に編集された『太平広記』はテーマ別に前代の知識人の逸話を纏めているので、幾つかのテーマから興味深い逸話を選読する。									
【履修要件】									
前半（中国古典講読論A）との連続履修を推奨する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常授業と定期試験による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 漢和辞典は必携。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
必ず予習しておくこと。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国文化論演習IIA Seminar on Chinese Culture IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 道坂 昭廣						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国古典文（文言）の読解力を養成するとともに、中国古典文学研究の基礎的方法を身につける。									
【授業計画と内容】									
江戸時代の津阪東陽『夜航詩話』は中国古典詩に対して、詳細な考察を行っており、江戸時代の中国古典詩研究の精華の一つといえる。『夜航詩話』を精密に読み、訳注を作成する。 各話題は短いので、担当者を決め、出典を調べ、授業で発表する。参加者はその訳注について、討論を行う。 前期は巻4を読む。									
【履修要件】									
中国語を履修していることが望ましい。 中国古典文学・漢文学について基礎的な知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業における発表など、平常点									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業には、自分の担当以外の部分についても予習したうえで、出席すること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学IA Japanese Philology and Literature IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 佐野 宏						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
古代日本語の表記論・書記論はなお発展途上にあり、文体・表記・文字の相関関係や、表記法と用字法との概念などは論者によって異なっている。「変体漢文」と「倭文体」をめぐる議論などは、表記法に基づく表記体把握と、日本語文という質的な枠組みに基づく文体把握の重なりとずれを示すが、学史の中での揺れと共に問題点を一つずつ取り上げながら、古代日本語表記の諸問題を考える。									
【授業計画と内容】									
1 導入（書記論と表記論、文字論のそれぞれの立場と研究領域）都合3回 2 日本文学史と表記史の交差（萬葉集の表記が問題になった背景）都合3回 3 「文体」と「表記体」（橋本進吉から西宮一民へ）2回 4 文体・表記・文字の入子型構造について 5 「変体漢文」と「倭文体」の概念 6 「表記体」の相対化と用字法制限について3回 7 原理的な仮名の成立と仮名文の形成 8 前期のまとめ									
今年度前期は、とくに「表記体」の定位を試みる。広義の「仮名」において、万葉仮名、草仮名、平仮名、片仮名は、「表記体」のなかに認められる。仮名の発達を単線的な進化論的把握ではなく、複線的で重層的な把握によって記述し、それぞれの「表記体」に限定される「仮名」というあり方を考える。但し、受講生の理解度や興味に応じて上記内容を一部変更することがある。									
【履修要件】									
本講義は、古代日本語の表記史・文体史を取りあげる。主として8世紀の古代日本語についての講義であるから、古事記、日本書紀、風土記、萬葉集などの上代文学作品に関心のあることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート（60%）、授業中の小レポート（20%）、積極的な議論への参加度（20%）									
【教科書】									
井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』（和泉書院）ISBN:4757604904（もしくは、『萬葉集 本文篇』（塙書房 ISBN:482730081X）を購入しておくこと。） 坂本信幸・毛利正守『萬葉事始』（和泉書院）ISBN:4870887282（上代文学一般を扱う上で必要であるから、購入しておくこと） 講義中に配付するレジュメ・資料によって講義を行い、用例補足や文学史の説明に上記のテキストを用いる。またレポート作成時にも『萬葉事始』が必要であるから、2冊とも揃えておくこと。									
-----日本語学・日本文学IA(2)へ続く-----									

授業科目名 <英訳>	中国文化論演習IIB Seminar on Chinese Culture IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 道坂 昭廣						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国古典文（文言）の読解力を養成するとともに、中国古典文学研究の基礎を身につける。。									
【授業計画と内容】									
江戸時代の津阪東陽『夜航詩話』は中国古典詩に対して、詳細な考察を行っており、江戸時代の中国古典詩研究の精華の一つといえる。『夜航詩話』を精密に読み、訳注を作成する。 各話題は短いので、担当者を決め、出典を調べ、授業で発表する。参加者はその訳注について、討論を行う。 後期は巻5を読む。									
【履修要件】									
中国語を履修していることが望ましい。 中国古典文学・漢文学について基礎的な知識を持っていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業における発表など、平常点									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業には、自分の担当以外の部分についても予習したうえで、出席すること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

日本語学・日本文学IA(2)									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する 参考図書や論文については、講義中に紹介しつつその特徴を読書案内として解説する。その他はテキストの『萬葉事始』に基本文献の目録があるので参照されたい。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは授業日の放課後1時間程度とする。それ以外は事前に確認を取ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学IB Japanese Philology and Literature IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 宏						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
古代日本語の表記論・書記論はなお発展途上にあり、文体・表記・文字の相関関係や、表記法と用字法との概念などは論者によって異なっている。「変体漢文」と「倭文体」をめぐる議論などは、表記法に基づく表記体把握と、日本語文という質的な枠組みに基づく文体把握の重なりとずれを示すや、学史の中での揺れと共に問題点をつずつ取り上げながら、古代日本語表記の諸問題を考える。									
【授業計画と内容】									
1 土左日記の仮名字母について2回（導入を含む） 2 御堂閑白記の仮名について 3 続日本紀宣命の仮名字母のあり方 4 萬葉集の仮名字母についてその1 初期萬葉の場合 5 人麻呂歌集の仮名字母について（2回） 6 古事記歌謡の仮名字母と神名・固有名詞の仮名字母 その重なりとずれ 7 萬葉集の仮名字母についてその2 仮名書き諸巻の場合 8 字母の標準化と表語性の関係について 9 上代特殊仮名遣いの仮名遣いとしての側面 機能負担量と表記 3回 10 後期のまとめ									
今年度後期は、仮名字母の標準化に焦点をあてて考察をする。ここにいう標準化とは、音節毎に使用頻度の高い仮名字母という側面と、語の「表記体」と結びついた固定的な仮名字母群の両方を指している。この両者が相関していることは前期に述べている。できれば、片仮名の発展と万葉仮名字母の標準化の相互関係まで進みたい。仮名の成立は、「仮名遣い」の形成と表裏をなしているが、それは表記法が用字法を制限することによっている。また「仮名」という文字の成立は、書記法（文体）が表記法を拘束したところから、「仮名」の成立は、質的に仮名文の文体形成と不可分である。前期1Aで述べた「文体・表記・文字の入子型構造」を軸に考察する。但し、受講生の理解度をみながら進めるので、上記項目の一部を変更することがある。									
【履修要件】									
前期の日本語学・日本文学1Aを履修していることが望ましい。本講義のIBのみを受講する場合には、上代文学についてのある程度の専門的な知識が必要である。									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート（60%）、授業中の小レポート（20%）、積極的な議論への参加度（20%）									
【教科書】									
井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』（和泉書院）ISBN:4757604904（もしくは、『萬葉集 本文篇』（塙書房 ISBN:482730081X）を購入しておくこと。） 坂本信幸『萬葉事始』（和泉書院）ISBN:4870887282（上代文学一般を扱う上で必要であるから、購入しておくこと） 講義中に配付するレジュメ・資料によって講義を行い、用例補足や文学史の説明に上記のテキストを用いる。またレポート作成時にも『萬葉事始』が必要であるから、2冊とも揃えておくこと。									
-----日本語学・日本文学IB(2)へ続く-----									

日本語学・日本文学IB(2)									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する 参考文献は授業中に紹介、解説を行う。論文などは資料として配付することがあるが、原則として各自で関連文献を一読しておくことが望ましい。関連文献は『萬葉事始』を参照されたい。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは授業日の放課後1時間程度とする。それ以外は事前に確認を取ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学III A Japanese Philology and Literature IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
森鴎外の歴史小説を読むことを通じて、鴎外の文学、歴史小説に関する理解を深めるのが目的である。 鴎外は、明治天皇の死後、乃木將軍の殉死を受けて、歴史小説を書き始めた。本講義では、その代表的な作品を選んで材源との比較を行いながら、鴎外作品の主題を考察する。									
【授業計画と内容】									
下記の内容について講義を行う予定。順番は状況によって前後することがある。  1, 鴎外の経歴、歴史小説執筆の背景 2, 「山椒大夫」 3, 「ちいさんばあさん」 4, 「高潮舟」 5, 「寒山拾得」 6, 「魚玄機」 など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートによる。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学III B Japanese Philology and Literature IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
芥川龍之介の歴史小説を読むことを通じて、芥川の文学、歴史小説に関する理解を深めるのが目的である。 芥川は、鴎外の歴史小説に影響を受けつつ、しかし登場人物の内面を掘り下げた歴史小説を書いている。本講義では、その代表的な作品を選んで材源との比較を行いながら、芥川作品の主題を考察する。									
【授業計画と内容】									
下記の内容について講義を行う予定。順番は状況によって前後することがある。  1, 芥川龍之介の経歴、歴史小説執筆の背景 2, 「邪宗門」 3, 「奇遇」 4, 「秋山図」 5, 「開化の殺人」 6, 「開化の良人」 など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートによる。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本語学・日本文学演習IA Seminary on studies of Japanese Philology and Literature IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 宏						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
古代日本文学における「萬葉集」の注釈研究を行う。本年度は、巻一を取り上げ、古注釈書を丹念に読み込みながら現行諸注の問題点を指摘し、一首ずつ精読する。本文校訂の方法や注釈方法を通して、日本語の音韻史研究、文法史研究、語彙史研究を試みる。日本語の表現研究の一つとして、主として古代日本語の研究法の習得を目的とする。この演習で重要なのは、論文にせよ、発表にせよ、用例・データに語らせる方法を習得し、誤ってもよいから、そこに自らの論を構築してみせることである。古典作品の問題点・未解決点は、常に残されている。従来にはない新たな観点からの検証・証明方法の開発を求めたい。									
【授業計画と内容】									
1 ガイダンス（研究発表の例題：都合2回） 2 日本文学史概説（上代文学概説） 3 日本語史概説1（上代音韻史） 4 日本語史概説2（上代語における文法・語法上の特徴） 5 日本語史概説3（古代日本語の語構成の特徴） 6 演習担当1人目 7 演習担当2人目 8 演習担当3人目 9 演習担当4人目 10 演習担当5人目 11 演習担当6人目									
演習担当者の担当順は、受講者確定後に行う。最初に例題を示すので、それに倣って自らが担当する作品について研究をはじめ。最初の数回で上記のように研究に資する講義を行うが、受講者数に応じて回数を調整する。前期中に受講者は少なくとも1回は演習担当を行うこととし、その内容を論文にして期末に提出することを課す。受講者が少ない場合は、複数回の演習担当を行うことがある。									
【履修要件】									
日本語学・日本文学1Aをあわせて受講することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポート（50%）、授業中の研究発表（30%）、積極的な議論への参加度（20%）									
【教科書】									
井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』（和泉書院）（佐竹昭広『萬葉集 本文篇』（塙書房）のいずれかを購入のこと） 坂本信幸・毛利正守『萬葉事始』（和泉書院）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは授業日の放課後1時間程度とする。それ以外は事前に確認を取ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

日本語学・日本文学演習IB(2)
【教科書】
井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』（和泉書院）（もしくは『萬葉集 本文篇』（塙書房）のいずれかを購入のこと。） 坂本信幸・毛利正守『萬葉事始』（和泉書院）
【参考書等】
（参考書） 授業中に紹介する
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））
オフィスアワーは授業日の放課後1時間程度とする。それ以外は事前に確認を取ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英語>	日本語学・日本文学演習IB Seminary on studies of Japanese Philology and Literature IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 宏						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
古代日本文学における「萬葉集」の注釈研究を行う。本年度は、巻一を取り上げ、古注釈書を丹念に読み込みながら現行諸注の問題点を指摘し、一首ずつ精読する。本文校訂の方法や注釈方法を通して、日本語の音韻史研究、文法史研究、語彙史研究を試みる。日本語の表現研究の一つとして、主として古代日本語の研究法の習得を目的とする。この演習で重要なのは、論文にせよ、発表にせよ、用例・データに語らせる方法を習得し、誤ってもよいから、そこに自らの論を構築してみせることである。古典作品の問題点・未解決点は、常に残されている。従来にはない新たな観点からの検証・証明方法の開発を求めたい。									
【授業計画と内容】									
1 ガイダンス（研究発表の例題：都合2回） 2 日本文学史概説（上代文学概説） 3 日本語史概説1（上代音韻史） 4 日本語史概説2（上代語における文法・語法上の特徴） 5 日本語史概説3（古代日本語の語構成の特徴） 6 演習担当1人目 7 演習担当2人目 8 演習担当3人目 9 演習担当4人目 10 演習担当5人目 11 演習担当6人目									
演習担当者の担当順は、受講者確定後に行う。最初に例題を示すので、それに倣って自らが担当する作品について研究をはじめ。最初の数回で上記のように研究に資する講義を行うが、受講者数に応じて回数を調整する。後期中に受講者は少なくとも1回は演習担当を行うこととし、その内容を論文にして期末に提出することを課す。受講者数が少ない場合は、複数回の演習担当を行うことがある。また後期からの新たな受講生がなく、前期から継続して受講する者だけである場合は、最初にガイダンスとともに例題解説を二回程度行い、その次から直ちに演習担当者の発表を行う。なお前期受講者は、前期に担当した作品以外のものを担当することとする。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポート（50%）、授業中の研究発表（30%）、積極的な議論への参加度（20%）									
【教科書】									
東郷克美・高橋広満編『近代小説 異界を読む』（双文社出版）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本語学・日本文学演習III A Excercises in Japanese Philology and Literature IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本近代文学について理解を深めるためには、作品成立の背景となった社会的・文化的状況について熟知し、その上で、作品そのものについても詳しい注釈が求められる。この授業では、研究の基礎となる調査・研究方法を習得すべく、近代小説の中の異界（別世界）像について発表してもらい、それについてみんなで討論する。なお、後期の日本語学・日本文学III Bの履修を推奨する。									
【授業計画と内容】									
この授業では、受講者のおのおのが教科書から自分の好きな作品を担当し、一人一回分ずつ、順番を決めて発表していく。発表に際しては、作品のあらすじ、語句の注釈、これまでの評価を紹介した上で、自分独自の論点を文章にまとめ、レジュメとして配布し、45分間で発表する。残りの45分間は、他の受講生との質疑応答や意見交換に費やされる。発表者は綿密なレジュメを用意するとともに、前の週には発表の概略を予告しておくことが望まれる。 教科書に収録された作品は、泉鏡花「龍潭譚」、永井荷風「狐」、佐藤春夫「西班牙犬の家」、芥川龍之介「奉教人の死」、谷崎潤一郎「母を恋ふる記」、梶井基次郎「Kの昇天」、夢野久作「瓶詰の地獄」、江戸川乱歩「押絵と旅する男」、太宰治「魚服記」、萩原朔太郎「猫町」、岡本かの子「川」、井伏鱒二「へんろう宿」、中島敦「狐憑」、川端康成「水月」、井上靖「補陀落渡海記」などである。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表6割、出席点4割。									
【教科書】									
東郷克美・高橋広満編『近代小説 異界を読む』（双文社出版）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学演習III B Excises in Japanese Phily and Literature III B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 須田 千里						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本近代文学について理解を深めるためには、作品成立の背景となった社会的・文化史的状況について熟知し、その上で、作品そのものについても詳しい注釈が求められる。この授業では、研究の基礎となる調査・研究方法を習得すべく、都市像を扱った作品を取り上げて発表してもらい、皆で討論する。なお、前期の日本語学・日本文学III Aの履修を推奨する。									
【授業計画と内容】									
この授業では、受講者おのおのが教科書から自分の好きな作品を担当し、一人一回分ずつ、順番を決めて発表していく。発表に際しては、作品のあらすじ、語句の注釈、これまでの評価を紹介した上で、自分独自の論点を文章にまとめ、レジュメとして配布し、45分間で発表する。残りの45分間は、他の受講生との質疑応答や意見交換に費やされる。発表者は綿密なレジュメを用意するとともに、前の週には発表の概略を予告しておくことが望まれる。 教科書に収録された作品は、泉鏡花「夜行巡査」、樋口一葉「十三夜」、田山花袋「少女病」、国木田独步「窮死」、谷崎潤一郎「秘密」、志賀直哉「小僧の神様」、芥川龍之介「舞踏会」、梶井基次郎「檸檬」、横光利一「街の底」、中野重治「交番前」、堀辰雄「水族館」、江戸川乱歩「目羅博士」、織田作之助「木の都」、三島由紀夫「橋づくし」、大江健三郎「人間の羊」などである。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表6割、出席4割。									
【教科書】									
東郷克美・吉田司雄編『近代小説 都市を読む』（双文社出版）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	書論・書写演習B Exercises in Japanese Calligraphy B	担当者氏名	大阪大学日本語日本文学文化 教育センター准教授 柴田 芳成						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
書に親しみ、書を読む力を養う。									
【授業計画と内容】									
主として古典文学作品の版本を対象として、資料を読解する力をつける。 受講者数、進度などにより、内容を変更する場合もある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業内での担当・提出物等による)									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	書論・書写演習A Exercises in Japanese Calligraphy A	担当者氏名	大阪大学日本語日本文学文化 教育センター准教授 柴田 芳成						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
書に親しみ、書を読む力を養う。									
【授業計画と内容】									
主として古典文学作品の版本を対象として、資料を読解する力をつける。 受講者数、進度などにより、内容を変更する場合もある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業内での担当・提出物等による)									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本古典講読論A Read in Japanese Classics A	担当者氏名	非常勤講師 奥村 和美						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
現在『萬葉集』の原本は伝わらず、古写本を通して原本のあるべき姿を再構築し、それに基づいて研究が進められている。授業では、幾つかの代表的な写本に影印等で触れ諸本の特質を知るとともに、訓詁注釈の方法を修得することを目指す。									
【授業計画と内容】									
1. 『萬葉集』の漢字本文と訓 2. 諸本及び本文校訂 3. 古点・次点・新点 4. 西本願寺本 5. 桂本 6. 嘉暦伝承本 7. 藍紙本 8. 元暦校本 9. 金沢本 10. 天治本 11. 廣瀬本 12. 尼崎本 13. 類聚古集 14. 古葉略類聚鈔 15. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
筆記試験による。									
【教科書】									
井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』（和泉書院）ISBN:978-4-7576-0490-2（文庫本等で代替することは不可）									
【参考書等】									
（参考書） 佐竹昭広『萬葉集抜書』（岩波現代文庫）ISBN:4-00-600034-0									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本古典講読論B Read in Japanese Classics B	担当者氏名	非常勤講師 奥村 和美						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
『萬葉集』の和歌を読む。漢字ばかりで書かれている『萬葉集』の和歌を、中国文学の受容という観点から読解する。									
【授業計画と内容】									
1. 上代における日本文学と中国文学 2. 懐風藻 3~4. 千字文の受容 5. 論語の受容 6. 毛詩の受容 7~8. 類書の利用 9~10. 文選の受容 11. 玉臺新詠の受容 12. 仏典及び仏教詩文の受容 13~14. 遊仙窟の受容 15. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
井手至・毛利正守校注『新校注 萬葉集』(和泉書院) ISBN:978-4-7576-0490-2 (文庫本等で代替することは不可)									
【参考書等】									
(参考書) 佐竹昭広『古語雑談』(平凡社ライブラリー) ISBN:978-4-582-76655-4 神野志隆光『万葉集鑑賞事典』(講談社学術文庫) ISBN:978-4-06-292002-5									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学文献講読論B Reading in the Document of Japanese Philology B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 宏						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
「仮名遣い」、歌語を中心とした語彙分析の歴史的な展開という観点から、表記史を捉え直し、日本語研究の展開についての基礎的な知識を修得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
古代日本語の表記史について概説を行う。関連する文献の解説と講読を通して、その時代性とともに研究史の展開について考察を行う。また具体的な歌語の分析を行い、各文献の関連性についても文学史の観点から考察を行う。									
1 古代日本語表記史の諸問題 2 上代の文字と表記 3 中古の文字と表記 4 片仮名の発達と仮名文字の標準化 5 歌語研究と表記史 訓詁と仮名									
各項目について2回から4回の講義を行う。但し、受講生の理解度に応じて進度の調整をすることがある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験(60%)、授業への積極的な参加度(40%)によって評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは授業日の放課後1時間程度とする。それ以外は事前に確認を取ること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学文献講読論A Reading in the Document of Japanese Philology A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 宏						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
国語学史について基礎的な知識を修得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
国語学史について概説を行う。関連する文献の講読を通して、その時代性とともに研究史の展開について考察を行う。また具体的な歌語の分析を行い、各文献の関連性についても文学史の観点から考察を行う。									
1 国語学史について 2 国語学史概説 中世 3 国語学史概説 近世 4 国語学史概説 近代 5 歌学について 萬葉語研究の歴史									
各項目について2回から4回の講義を行う。但し、受講生の理解度に応じて進度の調整をすることがある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験(60%)、授業への積極的な参加度(40%)によって評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは授業日の放課後1時間程度とする。それ以外は事前に確認を取ること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論IA Culture and Its Representation in Modern Western Europe IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 水野 眞理						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
イギリス文学作品とその文化的背景をなす歴史・政治テキストを精読することを通して、古典古代以来の西欧文化の多様性とその相互作用を考察し、イギリス文化の特質を解明する。									
今年度は、「諷刺のきた道」と題し、英国の諷刺詩(satire)について講義する。 日本文学では諷刺詩というジャンルは盛んではないが、諷刺は人間への客観的視線という点で、イギリス文化の理解に欠かすことのできない要素である。その形式と心性への理解を深め、詩的ポテンシャルを身につけよう。									
なお、本講義は、教職科目(英語)の必修科目でもある。									
【授業計画と内容】									
以下の予定で詩作品を取り上げつつ、諷刺の歴史と英詩の技巧について講義する。 授業形式は講義を基本とするが、学生の発言・質問を促すよう心がける。									
第1週 オリエンテーション 英詩概説 第2週 諷刺概説 第3~5週 Chaucer 第6~7週 Barclay 第8週~第11週 Spenser 第12~14週 Donne 第15週 まとめ									
近代英語が確立されていくルネサンスの英詩は、ゲルマン語族の基底を保ちながらも、古代ギリシャ・ローマの詩の規律を復権させ、またイタリア・フランス語詩にも影響されつつ、独立した声を確立していく過程にあった。中でもその後の英詩史上も重要な形式であり続けるヒロイック・カプレット(二行ずつ脚韻を踏む弱強五歩格)は、ソネットと並んで形式そのものへの強い意識に支えられつつ、諷刺詩の標準形となっていた。それを英詩史上最初に用いた中世のChaucer、それを初期近代に復興したBarclay, Spenser, Donneの諷刺作品を取り上げ、なぜ諷刺作品がこの形式で書かれるのかを、考えてみたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への積極的参加、および期末試験を総合する。									

西欧近現代表象文化論IA(2)	
[教科書] 使用しない プリント等を配布する。	
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは月5、水5とする。事前にメールでアポイントメントをとられたい。(miram.uno@nifty.com)  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論IVB Culture and Its Representation in Modern Western Europe IVB	担当者氏名	高橋研治准教授 センター 准教授 桂山 康司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	講義
[授業の概要・目的] 英詩史上の諸問題									
[授業計画と内容] 英詩史は可能か、という根本問題から、英詩のリズム、様々な詩形の発達とその特徴、ギリシア・ローマ古典文学との関係など、英詩史上の諸問題を、特に文学史全体との関連において、考察する。  第1回 英詩史は可能か 第2回 英詩のリズム 第3回 strophicとstichic 第4回 連とは何か 第5回 sonnetについて 第6回 odeについて 第7回 blank verseについて 第8回 epicと詩のhierarchy 第9回 Miltonと英詩史 第10回 Hopkinsと英詩史 第11回 Wordsworthの位置 第12回 Yeats, Hardy, Larkinと現代詩 第13回 英文学研究と詩 第14回 古典の伝統とその効用 第15回 まとめ									
[履修要件] 特になし									
[成績評価の方法・基準] 評価は、期末に提出するレポートによる。									
[教科書] 平井正穂(編)『イギリス名詩選』(岩波文庫)ISBN:400322731X									
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論IIA Culture and Its Representation in Modern Western Europe IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 丸橋 良雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	講義
[授業の概要・目的] 本年度の講義は比較文化論的視点を取り入れて英国演劇というものを再考察する。取り上げる予定の劇作家は年代順にシェイクスピア、17世紀の王政復古期の喜劇作家、18世紀の風習喜劇の作家、世紀末のワイルド等であるが、おおむね喜劇作品に限定する。また、日英の演劇を比較して、女優の登場が作品に与えた影響も明らかにしたい。									
[授業計画と内容] 15回の授業のうち、13回程度は上記の劇作家の作品を4、5冊取り上げて講義する。比較文化論的視点も加味するので、それ以外に外部から講師を招聘して1、2回程度単発で講義をしていただく予定である。我が国を代表する歌舞伎や能楽にも言及するので、能楽の宗家、劇団の演出家、歌舞伎役者、比較文化学の専門家等を候補者として考えており、純然たる演劇研究者とは異なる視点から演劇の面白さを論じていただこうと考えている。									
[履修要件] 特になし									
[成績評価の方法・基準] 主として期末のレポートによって評価するが、それ以外に平常点・出席率も加味して総合的に判断する。									
[教科書] プリントを配布する。									
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 演劇に関心ある人はもとより、遊び心や芝居心に理解のある受講生は大いに歓迎します。舞台上演じる役者にとって大入り満員はうれしいものです。  オフィスアワーは水曜日の12~13時(丸橋研宄で要アポ)  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習IIB Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 丸橋 良雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	演習
[授業の概要・目的] 英国の風習喜劇は350年以上の歴史を持ちその伝統は現在に至るまで連綿と続いているが、代表的な喜劇作品を一つ選んで精読する。その際、英国流のユーモア、ウィット、ドラマツルギー、さらにはヒロインの描写等に言及することにより、英国喜劇の魅力や醍醐味を伝えたい。									
[授業計画と内容] 最初の授業ではイントロダクションとして風習喜劇とこの演習で取り上げる作品の説明を行い、その後毎回5~6頁程度輪番制で精読していく。理解を深めるためにも数回小テストを行うので、欠席しないようにしていただきたい。万一欠席した場合ストーリーがわからないと困るので、必ず自習して次の授業に臨むこと。 映画化された喜劇作品を選びたいので、映像を通じて理解を深める予定である。									
[履修要件] 特になし									
[成績評価の方法・基準] 出席率・平常点(発表の中身と回数)に期末レポートを加味して総合的に判断する。									
[教科書] プリントを使用する。									
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 演習という形式上できる限り欠席は避けて発表していただきたい。取り上げる作品は未定であるが、それほど難易度は高くなく楽しんで読んでいただければ幸いです。 オフィスアワーは水曜日の12~13時(丸橋研で要アポ)  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習III B Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe III B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 眞理						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
本演習では、文学・分野および周辺諸分野の資料を読む訓練を通じて、読解・分析能力を養う。									
今年度は、ルネサンス期に英国でよく読まれたイタリア発の短編小説を読む。それらは英訳され、時にはシェイクスピアその他の劇作品のネタともなり、いっそう人口に膾炙するようになった。授業では、作品の講読と平行して劇作品との比較も行いつつ、ルネサンス期のイタリア 英国の文化的交渉というテーマを追いたい。									
【授業計画と内容】									
第1週 オリエンテーション 第2週～第13週 作品講読、発表 第14週 まとめ									
授業に先立って、作品内外の諸要素を調べてレジュメを作り、発表することを求めるので、授業外での作業は多いだろう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、授業中への積極的参加、および期末試験を総合する。									
【教科書】									
Benson, Pamela (ed.) 『Italian Tales from the Age of Shakespeare』(Everyman) ISBN:978-0460875516									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは月5、水5とする。事前にメールでアポイントメントをとられたい。(miram.uno@nifty.com)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習IV B Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe IV B	担当者氏名	国際情報学センター 准教授 桂山 康司						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英詩の諸相									
【授業計画と内容】									
前期に引き続き、具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察する。どの作品を読むかは、最初の授業において指示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験の成績に、日常の活動を加味して評価する。									
【教科書】									
Christopher Ricks (ed.) 『The Oxford Book of English Verse』(Oxford U. P.) ISBN:9780192141828									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習IVA Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe IVA	担当者氏名	国際情報学センター 准教授 桂山 康司						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英詩の諸相									
【授業計画と内容】									
具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察する。 本年度は特に十七世紀の作品を中心に取り上げる。どの作品を読むかは、最初の授業において指示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験の成績に、日常の活動を加味して評価する。									
【教科書】									
Christopher Ricks (ed.) 『The Oxford Book of English Verse』(Oxford U. P.) ISBN:9780192141828									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論IA Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IA	担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
古代ギリシアにおいて、「哲学」という営みが、なぜ、そしてどのように形成されたのか。その過程を、いわゆる「ソクラテス以前の哲学者」たちを中心にたどりながら、哲学的思考のあり方について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下のような内容が論じられる予定である。 1 「哲学」という固有名詞 2 「タレスから哲学が始まる」という特殊な見方 3 ミレトスで何が起ったか 4 1962年数学者ピタゴラスの死 5 批判的思考とその表現形式 6 エリア派の論理的破壊力 7 世界の再構築の試み									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末の試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 内山勝利(編) 『哲学の歴史 1 哲学誕生』(中央公論新社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論IB Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IB	担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
古代ギリシアにおいて、「哲学」という営みが、なぜ、そしてどのように形成されたのか。その過程を、ソフィストとソクラテスの活動を中心にとりながら、哲学的思考のあり方について考察する。			
【授業計画と内容】			
以下のような内容が論じられる予定である。 1 契約教育者たちの登場 2 新教育の可能性と問題 3 真理と相対主義 4 ログスの力の演示 5 「ソクラテス」問題は問題か 6 対話・論駁と真理 7 人間のノモス性とピュシス性			
【履修要件】			
西欧古代・中世表象文化論 Aを履修していることがきわめて望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
学期末の試験。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 内山勝利編 『哲学の歴史 1 哲学誕生』(中央公論新社)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習 I A Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 高谷 修
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
ギリシア悲劇を読む  古典ギリシア語を学習した学生のためのギリシア語中級講座という位置づけで、昨年に引き続き、エウリピデスの『ヒッポリュトス』を読む。古典ギリシア語に親しみ、エウリピデスを楽しむことを目的とする。			
【授業計画と内容】			
先を急がず、festina lente で読み進めたい。毎回、まず学生が読んで訳し教師が解説するという方法をとる。今年度は601行から読み始める予定。			
【履修要件】			
古典ギリシア語を学習していること。			
【成績評価の方法・基準】			
毎回の活躍とレポートによって評価する。			
【教科書】			
John Ferguson, ed. 『Euripides: Hippolytus』(Bristol Classical Press)			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論III B Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 高谷 修
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
諷刺文学序説  古典文学やイギリス文学の中から代表的な作品を選んで、考察を試みる。			
【授業計画と内容】			
ローマからは、HoratiusやJuvenal、Persiusの主要な作品を選んで考察する。またイギリスからは、17・18世紀の諷刺文学の中から代表的な作品を選んで、政治と文学のかかわりについて考える。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
平常の発言と期末テストによって評価する。			
【教科書】			
使用しない プリントを配布する予定。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習 I B Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 高谷 修
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
ギリシア悲劇を読む  古典ギリシア語を学習した学生のためのギリシア語中級講座という位置づけで、エウリピデスの『ヒッポリュトス』を読む。古典ギリシア語に親しみ、エウリピデスを楽しむことを目的とする。			
【授業計画と内容】			
前期に引き続いて読む。先を急がず、festina lente で読み進めたい。毎回、まず学生が読んで訳し教師が解説するという方法をとる。			
【履修要件】			
古典ギリシア語を学習していること。			
【成績評価の方法・基準】			
毎回の活躍とレポートによって評価する。			
【教科書】			
John Ferguson, ed. 『Euripides: Hippolytus』(Bristol Classical Press)			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習IIIA Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 高谷 修						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ダンテの La Divina Commedia を読む。									
【授業計画と内容】									
昨年に引き続いて、ダンテの『神曲』を読む。彼はヨーロッパ中世最大の叙事詩人。La Divina Commediaは中世に屹立する偉大な作品といっても過言ではないだろう。この作品をCharles Singleton編集によるテキストを用いて精読し、<神曲>と称揚された世界に親しむ。 今年度は、「地獄篇」第24 歌から読む予定。									
【履修要件】									
イタリア語初級を学習していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常の活躍で評価する。									
【教科書】									
Charles Singleton (ed.) 『Dante: Inferno』 (Princeton University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習IIIB Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 高谷 修						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ダンテの La Divina Commedia を読む。									
【授業計画と内容】									
前期に引き続いて、ダンテの『神曲』を読む。彼はヨーロッパ中世最大の叙事詩人。La Divina Commediaは中世に屹立する偉大な作品といっても過言ではないだろう。この作品をCharles Singleton編集によるテキストを用いて精読し、<神曲>と称揚された世界に親しむ。									
【履修要件】									
イタリア語初級を学習していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常の活躍で評価する。									
【教科書】									
Charles Singleton (ed.) 『Dante: Inferno』 (Princeton University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化環境学入門A Introduction to Cultural and Environmental Studies A		担当者氏名	地球環境学 教授 小方 登					
				人間・環境学 教授 伊従 勉					
			人間・環境学 教授 西垣 安比古						
			人間・環境学 教授 小島 泰雄						
			人間・環境学 准教授 中嶋 節子						
			人間・環境学 教授 菅原 和孝						
			人間・環境学 教授 風間 計博						
			人間・環境学 助教 金子 守恵						
			人間・環境学 助教 安藤 哲郎						
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
文化環境学系の文化地域環境論関係教員による入門編のリレー講義である。本領域を構成する文化人類学・地域空間論・環境構成論のそれぞれの分野に固有の研究主題と方法論を概略的に紹介する。統一テーマは特に設けない。さらには、課題によっては、それらの諸分野を縦断する研究学習方法によって可能となる研究礼などを紹介することもある。									
【授業計画と内容】									
文化人類学・地域空間論・環境構成論それぞれ4回ずつ合計12回の講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
リレー講義で受講した教員二名以上に、それぞれの教員が指示する期限内にレポートを提出する。レポートはいくつ出してよいが、成績は、八割以上の出席とレポート成績上位の二点により決定する。									
【教科書】									
授業資料は、それぞれの教員が授業中に指示するか、配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
関心事項はそれぞれの教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ユーラシア文化複合論A Complex Studies of Eurasian Cultures A		担当者氏名	神戸大学 准教授 榎岡 求美	
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期
		曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】					
「世界」を創造するメディアとしての演劇・映画：ソ連の場合					
ソ連は、社会主義体制を標榜した世界初の国家というだけでなく、新規にゼロから世界を創造することが強く意識化された歴史的にも稀有な「実験国家」でもあった。そのプロセスにおいて、ユーロピアへの多様な志向性が交差しただけでなく、芸術の創作活動が直接的に政治的・社会的な改革に関わっていたのも特徴である。 本講では、なかでも、芸術の革命を牽引した総合芸術としての演劇と革命の武器として位置づけられた映画に注目し、日本ではなかなか紹介されることの無い作品を概観しながら、どのような社会変革やユーロピアとしての未来イメージの創出が行われたのか、検証する。					
【授業計画と内容】					
以下のようなトピックについて2週程度ずつ取り上げる予定です。 (1課題あたり1～3週の授業をする予定)					
1. イントロダクション：ロシア・ソ連演劇・映画ガイド ・学期中に参照すべき戯曲や映画(DVD)などの作品紹介(学期中、随時紹介しますが、概要をかねています)					
2. 革命前のロシア演劇と映画の歴史 ・メロドラマの量産とアニメーション ・条件主義演劇(様式演劇)と演劇性の追求					
3. 革命とアヴァンギャルドの盛衰 ・群集劇と革命劇 ・映画列車 ・エイゼンシュテインとモニタージュ					
4. 社会主義リアリズム(公式文化)とプロバガンダ ・戦争と演劇(『ロシアの人々』『前線』) ・豊穡なるソ連(『クパンのコサック』) ・民族融和(『砂漠の白い太陽』)					
5. 啓蒙と娯楽：映画普及運動 ・文化政策と映画上映 ・検閲を免れた体制批判(『不思議星キン・ザ・ザ』)					
6. ソヴィエト・ヌーヴェルバーグ ・雪解けと阻害された自己の表象					
7. 日露演劇・映画交流					
【履修要件】					
特別な予備知識は必要としないが、授業中に照会した作品については各自で読解、鑑賞することが求められる。					
-----ユーラシア文化複合論A(2)へ続く-----					

授業科目名 <英訳>	文化環境学入門B Introduction to Cultural and Environmental Studies B		担当者氏名	語学研究センター 教授 赤松 紀彦					
				人間・環境学 教授 岡 真理					
			人間・環境学 准教授 勝又 直也						
			人間・環境学 教授 小倉 紀蔵						
			人間・環境学 教授 松浦 茂						
			人間・環境学 教授 稲垣 直樹						
			人間・環境学 教授 ヨリッセン エンゲルベルト						
			地球環境学 准教授 塩塚 秀一郎						
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
比較文明論関係の諸分野の基礎的な理論と知識を、各担当教員が具体的なテーマをとりあげて概説します。									
【授業計画と内容】									
文化・環境学系の比較文明論関係の諸教員によるリレー講義です。各教員がそれぞれの専門を生かした入門講義を行います。以下、その一部を紹介します(順不同。なおテーマ、タイトルについては変更の可能性あります)。 勝又直也 「ユダヤ学入門」 岡真理 「ホロコーストからパレスチナへ ～パレスチナ問題の淵源～&#8232;」 小倉紀蔵 「朝鮮半島の文明的・文化論的世界観」 松浦茂 「ウラジスラヴィッチの中国視察報告」 赤松紀彦 「大田南畝が見た中国伝説劇」 稲垣直樹 「『比較パラダイム文明論』の概説 キモノとパリ・ファッションを例として」 ヨリッセン・エンゲルベルト 「植民地主義、ポスト植民地主義と文学」 塩塚秀一郎 「母語以外の言語で書く作家たち」									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業出席とレポートによる。期末レポートについての詳細は第1回目のオリエンテーションのときに説明します。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
第1回目の授業で全講義のアウトラインおよびレポートの提出方法などを紹介します。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

ユーラシア文化複合論A(2)					
-----					
【成績評価の方法・基準】					
期末レポート。 ただし、授業の進行状況によって、途中で鑑賞した作品のミニレポートを課す場合がある。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) Richard Stites 『Russian Popular Culture』(Cambridge University Press) ネーヤ・ゾールカヤ 『ソヴェート映画史 七つの時代』(ロシア映画社) 岩田貴 『街頭のスペクタクル 現代ロシア=ソビエト演劇史』(未来社)					
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))					
榎岡求美(たておか・くみ) 連絡先: kumi3@kobe-u.ac.jp  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。					

授業科目名 <英訳>	文化交渉複合論 A Cultural Encounters in Mediterranean and Middle Eastern Societies in the Middle Ages A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 勝又 直也						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。									
【授業計画と内容】 スペイン・トレド生まれのユダヤ人詩人イェフダ・アルハリーズィー（1165-1225）が、アラブ文学におけるマカーマートと呼ばれるジャンル（独立した50の物語からなる、韻を踏んだ散文）を模倣してヘブライ語で創作した作品『タハケモニ』を、原典で講読する。 最初の2週ほどで、中世ヘブライ文学、マカーマート文学等についての概論を行ったうえで、『タハケモニ』を読んでいく。50の物語のうち、特に興味深い物語を選ぶ。ひとつの物語を読むのに、3週ほどの時間が必要になる。合計、4つほどの物語を読むことを目指す。									
【履修要件】 ヘブライ語の知識が必須である。									
【成績評価の方法・基準】 通常の講読への参加、およびレポートにより評価する。									
【教科書】 プリント配布									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） n. katsumata@piyyut.mbox.media.kyoto-u.ac.jpにて、質問を受け付ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化交渉複合論演習 B Seminar : Cross-Cultural Relations in Arts B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 勝又 直也						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。									
【授業計画と内容】 スペイン・トレド生まれのユダヤ人詩人イェフダ・アルハリーズィー（1165-1225）が、アラブ文学におけるマカーマートと呼ばれるジャンル（独立した50の物語からなる、韻を踏んだ散文）を模倣してヘブライ語で創作した作品『タハケモニ』を、原典で講読する。 最初の2週ほどで、中世ヘブライ文学、マカーマート文学等についての概論を行ったうえで、『タハケモニ』を読んでいく。50の物語のうち、特に興味深い物語を選ぶ。ひとつの物語を読むのに、3週ほどの時間が必要になる。合計、4つほどの物語を読むことを目指す。									
【履修要件】 ヘブライ語の知識が必須である。									
【成績評価の方法・基準】 通常の講読への参加、およびレポートにより評価する。									
【教科書】 プリント配布									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 教免で単位の必要な場合は、n. katsumata@piyyut.mbox.media.kyoto-u.ac.jpにて相談してください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化交渉複合論演習 A Seminar : Cross-Cultural Relations in Arts A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 勝又 直也						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。									
【授業計画と内容】 スペイン・トレド生まれのユダヤ人詩人イェフダ・アルハリーズィー（1165-1225）が、アラブ文学におけるマカーマートと呼ばれるジャンル（独立した50の物語からなる、韻を踏んだ散文）を模倣してヘブライ語で創作した作品『タハケモニ』を、原典で講読する。 最初の2週ほどで、中世ヘブライ文学、マカーマート文学等についての概論を行ったうえで、『タハケモニ』を読んでいく。50の物語のうち、特に興味深い物語を選ぶ。ひとつの物語を読むのに、3週ほどの時間が必要になる。合計、4つほどの物語を読むことを目指す。									
【履修要件】 ヘブライ語の知識が必須である。									
【成績評価の方法・基準】 通常の講読への参加、およびレポートにより評価する。									
【教科書】 プリント配布									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 教免で単位の必要な場合は、n. katsumata@piyyut.mbox.media.kyoto-u.ac.jpにて相談してください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較思想論 A Comparative Studies of East Asian Thought A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小倉 紀蔵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 【授業のテーマ】 アニミズムの楽園  【授業の概要】 この講義ではアニミズムという世界観に新しい光を当てる。これまで、特に西洋の世界観によって蔑視されてきたアニミズムに対して新しい解釈を施し、その認識論・存在論を構築する。アニミズムとは何だろうか。シャーマニズムとどう違うのか。ここでは、アニミズムの世界観を哲学的なアプローチから考察してみる。アニミズムと哲学とは相性が悪いように思えるが、それは西洋の世界観に毒されているために持っている偏見である。そして、われわれの意識を変えれば、この世界はアニミズムの楽園であることがわかるであろう。									
【授業計画と内容】 【授業計画】 前半は、小倉紀蔵、『いのち は死なない』（春秋社、2012）をゆっくりと読み進めながら、アニミズムの世界観について思索し、なぜ いのち は死なないのかについて考える。 後半は、以下のようなテーマについて考える。これに関してはプリントを配布する。 1. 東アジアにおける汎神論的世界観とアニミズム的世界観 2. 東アジアの神話的世界観、詩的世界観、歴史的世界観 3. 儒教の二面性 4. 道家と仏教の二面性 5. 『論語』に対する道家的、朱子学的な解釈の誤謬 6. 上記の誤謬が中国・朝鮮・日本社会の構築に与えた影響 7. 『論語』と『孟子』の世界観レベルにおける決定的な差異 8. アニミズム的世界観による日本文化の読み変え 9. アニミズム的世界観と汎神論的世界観による東アジア思想史構築の試み									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 毎回、授業終了前に書く小レポートの合計：50% 期末レポート：50%									
【教科書】 小倉紀蔵 『いのち は死なない』（春秋社）ISBN:978-4-393-33317-4 プリントを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較思想論 B Comparative Studies of East Asian Thought B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小倉 紀蔵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
【授業のテーマ】 自我・生命・美・・・三島由紀夫の哲学									
【授業の概要】 三島由紀夫の小説『金閣寺』を精読しながら、自我と生命と美の関係を考える。三島の自我観は西洋近代的であるといわれるが、はたしてそうであろうか。東洋的なアニミズムおよび汎神論の世界観と重複するところが多いのではないかと、本講義では、これまでの諸解釈とまったく異なる三島像を描いてみる。押し寄せる生政治に抵抗しうる道として、三島の戦略ほど明確なものはないであろう。そのことについて、哲学的エッセイ「太陽と鉄」および誤読されることの多いエッセイ「文化防衛論」もあわせて読みながら、思索してみる。									
【授業計画と内容】									
【授業計画】 第1回目にガイダンスを行う。 第2回目から『金閣寺』を読み進める。なお、英語版でこの小説を読むと、日本語とは異なる世界観上の発見をすることができるので、授業では日本語版（新潮文庫）および英語版（Vintage; Reprint版）の両方を読むことにする。テキストは指定されたものを購入すること。指定された書籍以外だと授業進行上不便が生じる。 学期の後半では、「太陽と鉄」および「文化防衛論」を読む。この2作品に関してはプリントを配布する。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 毎回、授業終了前に書く小レポートの合計：50% 期末レポート：50%									
【教科書】 三島由紀夫『金閣寺』（新潮文庫）ISBN:4-10-105008-2 Yukio Mishima『The Temple of the Golden Pavilion』（Vintage International）ISBN:978-0-679-75270-7 プリントを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

東アジア比較思想論演習 A(2)									
【教科書】 小倉紀蔵『入門 朱子学と陽明学』（ちくま新書）ISBN:978-4-480-06695-4 学期の後半はコピーを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較思想論演習 A Seminar on Comparative Studies of East Asian Thought A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小倉 紀蔵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
【授業のテーマ】 朱子学・陽明学入門									
【授業の概要】 学期の前半では、小倉紀蔵『入門 朱子学と陽明学』（ちくま新書、2012）を読みながら、儒学の2大スクールである朱子学（宋代）および陽明学（明代）の哲学的世界観について考える。細かな思想的知識を習得することに目的があるのではなく、この2つの思想が一体何をどう考えたのか、ということの世界観レベルでつかみとることを目的とする。学期の後半では、朱子学・陽明学の重要な原典を読みながら、その肉声を聞いてみる。									
【授業計画と内容】									
【授業計画】 第01回 ガイダンス、イントロダクション 第02回 教科書 第1章 儒教の「宇宙快感」と「宇宙認識」 第03回 教科書 第2章 まず儒教を理解する 第04回 教科書 第3章 朱子学の玄関口 第05回 教科書 第4章 朱子学の核心 - 「理」とは何か 第06回 教科書 第5章 陽明学の核心 - 「ひとつになること」 第07回 教科書 第6章 「空虚」をめぐる思索 第08回 教科書 第7章 鬼神と社会 第09回 教科書 第8章 気と生命 第10回 朱子学の原典を読む 第11回 朱子学の原典を読む 第12回 朱子学の原典を読む 第13回 陽明学の原典を読む 第14回 陽明学の原典を読む 第15回 陽明学の原典を読む									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 毎回、授業終了前に書く小レポートの合計：50% 期末レポート：50%									
【教科書】 使用しない プリントを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較思想論演習 B Seminar on Comparative Studies of East Asian Thought B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小倉 紀蔵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
【授業のテーマ】 東アジア思想における美と生命									
【授業の概要】 東アジア思想における「美」と「生命」の問題を考える。日本・中国・朝鮮（韓国）の人びとが哲学・思想・文学などによって表現してきた世界観の歴史を、ふたつの大きな潮流に分けて概観する。そのひとつは汎神論的な世界観であり、もうひとつはアニミズム的な世界観である。このふたつは往々にして混同されるが、実際はまったく異なるものである。東アジアの哲学・思想・文学などがいかにアニミズムの世界観を駆逐し、汎神論的世界観の優位・支配というミッションに邁進したかが一目瞭然となるであろう。									
【授業計画と内容】									
【授業計画】 まず、以下のテーマに関して論じる。 1. アニミズムの世界観と汎神論的世界観 2. 2つの世界観から見た東アジアにおける美と生命の観念 3. 東アジアにおけるバイオフィリアとバイオフォビア 4. 『論語』的世界観と『孟子』的世界観 5. 朱子学・陽明学と汎神論 6. 和歌・俳句と汎神論・アニミズム 7. ナショナリズムにおける美と生命と汎神論 以上のテーマに関して議論したあと、以下の著者による論文を読み進めていく。主に考察の対象となるのは、日本と韓国（朝鮮）の思想である。 岡倉寛三、鈴木大拙、九鬼周造、井筒俊彦、三島由紀夫、大森荘蔵、浅沼圭司、稲賀繁美、李敦化、崔南善、金正日、崔淨雨、金芝河、金泰昌、金容沃									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 毎回、授業終了前に書く小レポートの合計：50% 期末レポート：50%									
【教科書】 使用しない プリントを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論A Studies on Postcolonial Thoughts and Cultures A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡 真理						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
テーマは「思想としてのパレスチナ問題」。 現代世界に生きる人間の普遍的な思想課題として、パレスチナ問題が提起する諸問題を、テキストの精読を通して、考察する。									
【授業計画と内容】									
パレスチナ問題の起源とは、パレスチナの地に、パレスチナ人を民族浄化して、ヨーロッパ・ユダヤ人のための「ユダヤ国家」が建設されたことにある。ユダヤ国家は自らを、ホロコーストの犠牲者であるユダヤ人の国とすることで、その存在を正当化している。パレスチナ人は、ホロコーストの犠牲者によって祖国を奪われ「現代のユダヤ人」となった、「犠牲者の犠牲者」である。パレスチナ問題とは、パレスチナに移植されたユダヤ人問題であり、パレスチナ問題の根源には、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義の問題がある。									
前期は、ホロコーストとパレスチナ問題の思想的連関について考察するために、エヴァ・ホフマン『記憶を和解のために』を読む。 同書は全7章から構成されており、各章1回～3回の授業を予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートならびに授業への積極的参加および課題（適宜、小レポートや発表を課す）等の平常点。									
【教科書】									
適宜、プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論演習A Seminar on Postcolonial Thoughts and Cultures A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡 真理						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
「思想としてのパレスチナ」をテーマに、現代世界に生きる人間の普遍的な思想的課題として「パレスチナ問題」について考察する。「パレスチナ問題」という巷間一般に、旧約聖書の時代まで遡る、ユダヤ人とアラブ人の民族対立、あるいはユダヤとイスラームの宗教対立であるかのように考えられており、マス・メディアでもイスラエルの主張がユダヤ人の主張と同一視されて報道される一方で、「ユダヤ国家」イスラエルのナショナル・イデオロギーであるシオニズムに異議を唱えるユダヤ人の主張についてはほとんど報道されない。今年度の授業では、パレスチナ/イスラエル紛争と呼ばれるものが、その本質において、いかなる問題であるかについて正しく理解するとともに、パレスチナ問題の真の解決とはどこにあるかについて考えるためのテキストを精読する。									
【授業計画と内容】									
パレスチナ問題を世界史的なコンテキストの中で概説した、臼杵陽『世界史の中のパレスチナ問題』（講談社現代新書、2013年）をテキストに、これを精読し、パレスチナについての基礎知識を学ぶとともに、パレスチナ問題の概要を理解する。 1章ずつ担当者を決め、毎回、担当者が内容について発表する。 同書を読了したのち、ヤコブ・ラブキン著『イスラエルとは何か』（平凡社新書、2012年）を精読し、パレスチナ問題に別の角度から光を当て、理解を深める。									
授業計画 第1回 オリエンテーション『世界史の中のパレスチナ問題』序章 第2回以降は、毎回、同書を1章ないし2章ずつ読んでいく。 全15章を10回程度で読了予定。 そのあと、『イスラエルとは何か』を読む。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業での積極的発言、課題発表等）および期末レポート									
【教科書】									
臼杵陽『世界史の中のパレスチナ問題』（講談社）ISBN:978-4-06-288189-0 ヤコブ・ラブキン『イスラエルとは何か』（平凡社）ISBN:978-4-58-285643-9									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は、受講者による発表を中心にさせていただきます。 現代文明論基礎ゼミナール（岡担当）、ポストコロニアル思想文化論（講義）も併せて履修することが望ましいです。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論B Studies on Postcolonial Thoughts and Cultures B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡 真理						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
前期に引き続き、「思想としてのパレスチナ」をテーマに、関連テキストを精読する。									
【授業計画と内容】									
後期は、ジョージ・フレドリクソンの『人種主義の歴史』（みすず書房）を読む。 同書は、第1章～第3章、エピソード、補遺、そして、日本におけるレイシズムを論じた訳者解説の6つのパートから構成されている。 それぞれのパートにつき、2回～3回の授業を予定。									
【履修要件】									
前期にポストコロニアル思想文化論Aを受講していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートおよび平常点（授業への積極的参加、および発表、小レポート等の課題）									
【教科書】									
ジョージ・M・フレドリクソン『人種主義の歴史』（みすず書房）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
テキストは変更することもありうる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論演習B Seminar on Postcolonial Thoughts and Cultures B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡 真理						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
前期に引き続き、「思想としてのパレスチナ」をテーマに、パレスチナ問題について思想的に考察する。									
【授業計画と内容】									
「思想としてのパレスチナ」をテーマに、参加者は、各自の関心に基づいてテーマを定め、個人研究をおこない、適宜、発表し、期末にそれをレポートにまとめる。 同時に、参加者全員で、文献の講読も併せて行う。 何を講読するかは、参加者の関心に応じて選ぶ。									
【履修要件】									
留学等、特別な事情がない限り、前期の演習を履修し、パレスチナ問題の基礎を学んでいること。									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートと平常点（課題発表、授業での積極的発言等）。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
個人研究テーマについては、前期の学習をもとに、夏休み前に定め、夏休み中に関連文献等を読んでおくこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東北アジア文化・社会論A Northeast Asian Culture and Society A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松浦 茂						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
1727年にロシアと清朝が締結したキャプタ条約は、その後100年以上にわたって両国の関係を安定させた。本年度の講義では、ヨーロッパ・キリスト教主義外交と中華主義外交の対立という観点から両国の外交交渉を説明して、アジアにおけるキャプタ条約の意義について述べる。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について講義する。									
第1～8週 1726・27年のロシアと清朝の交渉とその問題点 第9～15週 ロシアと清の文化交流・研究史									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験によって評価する。									
【教科書】									
使用しない 必要な資料は、プリントして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東北アジア文化・社会論演習A Seminar on Northeast Asian Culture and Society A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松浦 茂						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
近年の研究状況において、ロシア語文献は清朝とロシアの関係史、あるいは北方史、北方考古学の研究を志すものにとって必要不可欠のものとなっている。そこで本年の講義には、ロシア語研究文献の読解について実習を行なう。									
【授業計画と内容】									
本年度の授業においては、ネルチンスク条約・キャプタ条約など露清関係史に関するテキストを講読する。 なお受講生の人数等に応じて、テキストを変更することもある。									
【履修要件】									
ロシア語文法の初歩を終えていること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席を含む)で評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する テキストはプリントして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東北アジア文化・社会論B Northeast Asian Culture and Society B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松浦 茂						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ロシアと清が1727年に締結したキャプタ条約は、19世紀前半まで両国の関係を安定化させた。その前後におけるロシアの対中国外交、経済について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について講義を行なう。									
第1～7週 18世紀前半ロシアの東方政策 第8～15週 ロシアと清の経済交流									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験によって評価する。									
【教科書】									
使用しない 必要な資料は、プリントして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較芸能論B Comparative Studies of North-East Asian B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 赤松 紀彦						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国におけるいわゆる表演芸術(performing arts)、すなわち演劇、舞踊、音楽などを取りあげ、その歴史や表現様式などについて、文学作品との関係に注目しつつ、図像、映像資料なども援用しながら授業をすすめる。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、順に論じる。 1. うたのはじまり - 『詩経』と『楚辞』 2. 漢代の芸能と楽府 3. 分裂と融合 - 魏晋南北朝 4. 隋唐の文化と芸能 5. さまざまな芸能の形成 - 宋代 6. 演劇の興隆 - 元代 7. 小説、演劇の黄金時代 - 明代 8. 伝統文化の集大成 - 清代									
【履修要件】									
現代中国語ならびに中国古典文学についての十分な知識があること。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートにより評価する。課題については授業中に提示する。									
【教科書】									
授業中に指示する 資料は授業中に適宜配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー：水曜午後1時～5時(A124研究室) メールアドレス：chi4song1@gmail.com オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較芸能論演習 A Seminar on Comparative Studies of North-East Asian A	担当者氏名	藤原 紀彦 教授 赤松 紀彦						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
『牡丹亭』を読む。明代の劇作家湯顯祖による『牡丹亭』は、中国の伝統演劇作品の中でも、古来屈指の名作とされてきた。この授業では、この作品のいくつかの幕をじっくり読み解きながら、この作品が持つ演劇としての長所を明らかにしてゆきたい。									
【授業計画と内容】									
中国の演劇作品、とりわけ宋元南戯、明清傳奇と呼ばれるジャンルの作品は長大なものも多く、全編を読み通すとすると相当な時間が必要となる。そればかりが、実際に上演される場合においても、通しではなく、それぞれの幕を抜粋して上演する、折子戯とよばれる形式が古くから取られてきた。そこで、本授業でも、その形式にならない、前期は、全五十五齣のうち、以下の幕を取り上げながら、細かく分析することとしたい。 第十四齣 写真 第十六齣 詰病 第十八齣 診祟 第二十齣 鬧殯 以上の幕について、担当者により、毎回訳注を作成して発表してもらおう。									
【履修要件】									
現代中国語ならびに中国古典文学についての十分な知識があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィス・アワー：水曜午後1時～5時00分(A1 2 4 研究室) メールアドレス：akamatsu.norihiko.3x@kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	比較パラダイム文明論 A Comparative Studies of Paradigms and Civilization A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 稲垣 直樹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ヴィクトル・ユゴー著の小説『レ・ミゼラブル』は1862年の刊行(2012年で刊行150年)以来、19世紀、20世紀、そして21世紀を通じての一大ベストセラーである。1960年から1984年まで25年間におけるフランスでの総出版部数だけを取ってみても、4,927,185部と、500万部近い。日本でも、明治35(1902)年から翌36年にかけて黒岩涙香が新聞『万朝報(よるずちようほう)』に『噫無情(あむじょう)』と題して翻案を連載して以来、全訳もダイジェスト版も長い間、青少年の必読書となっていた。映画、ミュージカル等へのアダプテーションも盛んで、ミュージカル『レ・ミゼラブル』はフランス初演1980年、イギリス初演1985年、日本初演1987年以来、全世界で6,000万人以上と驚異的な観客動員数となっている。2012年12月、このミュージカルの映画化作品が公開されている。 これは、そもそも『レ・ミゼラブル』がどのような作品だからなのか。作者ユゴーと作品『レ・ミゼラブル』そのものについて、その原典抜粋を拙訳を手がかりに読みつつ、理解を深める。それとともに、この作品の邦訳翻案、映画、ミュージカル等へのアダプテーションについても比較文学・比較文化の視点を交えつつ分析・考察する。									
【授業計画と内容】									
次のような課題を設定して、授業を進める。一つの課題にほぼ2週を当てる予定である。ほぼ毎回、下記の教科書を用いて原典の抜粋を読む。  オリエンテーション ヴィクトル・ユゴーとその時代 『レ・ミゼラブル』執筆の経緯と刊行後の反響 ストーリー展開に隠された深層構造 「社会改革」のテーマとユゴーの政治理念 日本における『レ・ミゼラブル』 映画へのアダプテーション ミュージカル『レ・ミゼラブル』の特質									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、学期末レポート等を基本とする総合的評価									
【教科書】									
稲垣直樹『『レ・ミゼラブル』を読みなおす(新装版)』(白水社)ISBN:978-4-560-00344-2(2012年刊行の第2刷を使用する) その他、適宜プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較芸能論演習 B Seminar on Comparative Studies of North-East Asian B	担当者氏名	藤原 紀彦 教授 赤松 紀彦						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
『牡丹亭』を読む。明代の劇作家湯顯祖による『牡丹亭』は、中国の伝統演劇作品の中でも、古来屈指の名作とされてきた。この授業では、この作品のいくつかの幕をじっくり読み解きながら、この作品が持つ演劇としての長所を明らかにしてゆきたい。									
【授業計画と内容】									
中国の演劇作品、とりわけ宋元南戯、明清傳奇と呼ばれるジャンルの作品は長大なものも多く、全編を読み通すとすると相当な時間が必要となる。そればかりが、実際に上演される場合においても、通しではなく、それぞれの幕を抜粋して上演する、折子戯とよばれる形式が古くから取られてきた。そこで、本授業でも、その形式にならない、前期は、全五十五齣のうち、以下の幕を取り上げながら、細かく分析することとしたい。 第二十三齣 冥判 第二十四齣 拾画 第二十六齣 玩真 第二十八齣 幽媾 以上の幕について、担当者により、毎回訳注を作成して発表してもらおう。									
【履修要件】									
現代中国語ならびに中国古典文学についての十分な知識があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィス・アワー：水曜午後1時～4時30分(A1 2 4 研究室) メールアドレス：akamatsu.norihiko.3x@kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	比較パラダイム文明論演習 B Seminar on Comparative Studies of Paradigms and Civilization B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 稲垣 直樹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ヴィクトル・ユゴー著の小説『レ・ミゼラブル』は1862年の刊行(2012年で刊行150年)以来、19世紀、20世紀、そして21世紀を通じての一大ベストセラーである。1960年から1984年まで25年間におけるフランスでの総出版部数だけを取ってみても、4,927,185部と、500万部近い。日本でも、明治35(1902)年から翌36年にかけて黒岩涙香が新聞『万朝報(よるずちようほう)』に『噫無情(あむじょう)』と題して翻案を連載して以来、全訳もダイジェスト版も長い間、青少年の必読書となっていた。映画、ミュージカル等へのアダプテーションも盛んで、ミュージカル『レ・ミゼラブル』はフランス初演1980年、イギリス初演1985年、日本初演1987年以来、全世界で6,000万人以上と驚異的な観客動員数となっている。2012年12月、このミュージカルの映画化作品が公開されている。 これは、そもそも『レ・ミゼラブル』がどのような作品だからなのか。作者ユゴーと作品『レ・ミゼラブル』そのものについて、その原典抜粋を拙訳を手がかりに読みつつ、理解を深める。それとともに、この作品の邦訳翻案、映画、ミュージカル等へのアダプテーションについても比較文学・比較文化の視点を交えつつ分析・考察する。									
【授業計画と内容】									
次のような課題を設定して、授業を進める。一つの課題に2～3週を当てる予定である。ほぼ毎回、下記の教科書を用いて原典の抜粋を読む。  オリエンテーション ヴィクトル・ユゴーとその時代 カーニバル文学としての『レ・ミゼラブル』 日本における『レ・ミゼラブル』 映画へのアダプテーション ミュージカル『レ・ミゼラブル』の特質									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、学期末レポート等を基本とする総合的評価									
【教科書】									
稲垣直樹『『レ・ミゼラブル』を読みなおす(新装版)』(白水社)ISBN:978-4-560-00344-2(2012年刊行の第2刷を使用する) その他、適宜プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近現代民族移動論 A Studies of Early Modern and Contemporary Migration A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授	ヨリッセン エンゲルベルト					
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ポルトガルの植民地史 ポルトガルの植民地史を例にあげて、コロニアリズムとポストコロニアリズムの問題を勉強する。									
【授業計画と内容】									
15世紀前半から、定期的に海外へ派遣された探検隊や領土拡張によって、ポルトガル人の数百年間にわたる植民地史がはじまる。その地域は、アフリカ（カボベルデ、ギニア・ビサウ、サントメ・プリンシペ、アンゴラ、モザンビーク）、南米（ブラジル）、アジア（ゴア、マカオ、ティモール）である。その植民地政策と、ポルトガル人が到着したが植民地化されなかった地域（国、例えば日本）との接触は、それぞれの地域に大きな影響を及ぼした。一方、ポルトガルの宗国も大きな影響を受容した。その歴史が様々な形で日常生活や多くの分野、例えば料理、文学などに現れる。それについて多角的に考察する。ポルトガル人が執筆した海外に関する様々なテキストが多いが、出来るだけそれぞれの海外の地域（国）についても考察する。特に15世紀から、ゴア（インド）のポルトガル人による植民地時代の終わり（1947-1961年頃）とアフリカに植民地戦争が始まる1961年頃までについて考察する。									
【履修要件】									
ポルトガル語のテキストによるテーマを初めて学ぶ学生も是非参加されたい。出来る限り、英語、日本語などの資料も紹介する予定である。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加、レポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
前期と後期の授業はそれぞれ独立した内容である。主に15世紀から1960年頃までの資料をつかう。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近現代民族移動論演習 A Seminary on Studies of Early Modern and Contemporary Migration A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授	ヨリッセン エンゲルベルト					
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
イタリア文学の短編小説と物語（novelle e racconti） イタリア文学を例にあげて、文学の役割について多角的に勉強する。									
【授業計画と内容】									
イタリア文学の短編小説、また物語（novelle e racconti）を読む。特にnovella（短編小説）の発展の初めである『ノヴェリーノ』（Novellino、著者無名）、ジョヴァンニ・ボッカッチョ（Giovanni Boccaccio）の『デカメロン』（Decamerone）から19世紀までの作品について考察する。まず、それぞれの作品を文学のテキストとして丁寧に分析し、解釈してみる。その後それぞれのテキストについて多角的に考察する。ジャンルの歴史的（特に中世後期、ルネッサンス、バロック、ロマンチズム、リアリズム）の発展について考察する。また、ジャンルと個々の作品の歴史的、社会的などの背景について論ずる。この一つのジャンルをきっかけにしてイタリア文学の歴史もみる。そして、イタリア文学の著者と作品はどのようにして外国（特に中央ヨーロッパ）で受容されたのか、一方、イタリア文学はどのようにして外国（特に他のラテン系）文学の思想などによって影響を受けたのかについても考察する。									
【履修要件】									
イタリア語、ロマンス語を初めて学ぶ学生も是非参加されたい。出来る限り、英語、日本語などの表現とも比較しながら読む予定である。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加、レポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
前期と後期の授業はそれぞれ独立した内容である。主に中世から19世紀までのテキストをつかう。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近現代民族移動論 B Studies of Early Modern and Contemporary Migration B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授	ヨリッセン エンゲルベルト					
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ポルトガルの植民地史 ポルトガルの植民地史を例にあげて、コロニアリズムとポストコロニアリズムの問題を勉強する。									
【授業計画と内容】									
5世紀前半から、定期的に海外へ派遣された探検隊や領土拡張によって、ポルトガル人の数百年間にわたる植民地史がはじまる。その植民地政策と、ポルトガル人が到着したが植民地化されなかった地域（国、例えば日本）との接触は、それぞれの地域に大きな影響を及ぼした。一方、ポルトガルの宗国も大きな影響を受容した。 まずはゴア（インド）のポルトガル人による植民地時代の終わり（1947年インドのイギリスからの解放から1961年ゴアのポルトガルからの解放まで）とアフリカ（特にアンゴラ、モザンビーク、ギニア・ビサウ）における植民地戦争（1961年から1974-1975年まで）について考察したい。その後、特に文学に写される1974年のポルトガルのカーネーション革命後の社会、政治、文化などについて考察する。どのようにしてポルトガル人が20世紀におけるポルトガルのファシズム時代（1932/1933年-1974年）とコロニアリズム・ポストコロニアリズムに関して考えるかについて考察する。また、出来るだけ多くポルトガルの旧植民地に執筆されたテキストとその様々な問題を多角的に紹介する。									
【履修要件】									
ポルトガル語のテキストによるテーマを初めて学ぶ学生も是非参加されたい。出来る限り、英語、日本語などの資料も紹介する予定である。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加、レポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なし  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近現代民族移動論演習 B Seminary on Studies of Early Modern and Contemporary Migration B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授	ヨリッセン エンゲルベルト					
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
イタリア文学の短編小説と物語（novelle e racconti） イタリア文学を例にあげて、文学の役割について多角的に勉強する。									
【授業計画と内容】									
イタリア文学の短編小説、また物語（novelle e racconti）を読む。特にracconto（短編小説）の発展を19世紀末から、そしてルイジ・ピランデルロ（Luigi Pirandello）、アルベルト・モラヴィア（Alberto Moravia）、イタロ・カルヴィーノ（Italo Calvino）などの作品を通して、アントニオ・タブッキ（Antonio Tabucchi）、スザンナ・タマーロ（Susanna Tamaro）などの作品までについて考察する。まず、それぞれの作品を文学のテキストとして丁寧に分析し、解釈してみる。その後それぞれのテキストについて多角的に考察する。novellaとraccontoはどのように異なっているか、novellaは20世紀においてジャンルとしてまだ可能か。また、個々の作品の社会的などの背景について論ずる。この一つのジャンルをきっかけにしてイタリア文学の20世紀の歴史もみる。そして、イタリア文学の著者と作品はどのようにして外国（特に中央ヨーロッパ）で受容されたのか、一方、イタリア文学はどのようにして外国（特に他のラテン系）文学、思想などによって影響を受けたのかについても考察する。									
【履修要件】									
イタリア語、ロマンス語を初めて学ぶ学生も是非参加されたい。出来る限り、英語、日本語などの表現とも比較しながら読む予定である。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加、レポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なし  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	テキスト生成文化論 A Studies of Cultural Poetics A	担当者氏名	地球環境学 准教授 塩塚 秀一郎
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
フランス文学を中心に据えて、シュルレアリスムの先駆者たちから、ウリボと呼ばれる文学集団の動向までを概観する。ルネサンス期のラブレール以来、フランス文学の底流をなしているが、伝統的文学史では傍流に追いやられていた一つの流れ(笑い、グロテスク、奇想、実験性など)を把握する。具体的には、ヴェルヌ、ルーセル、ブルトンやその周辺の作家、アウトサイダー・アートなど、一風変わった作品や人物を、一回完結のかたちで取りあげる。			
【授業計画と内容】			
第1回：導入、概略説明 第2回：ラブレール 第3回：ヴェルヌ 第4回：ロートレアモン 第5回：ルーセル 第6回：シュルレアリスム 第7回：レリス 第8回：クノー1 第9回：クノー2（地下鉄のザジ） 第10回：ウリボの言語遊戯 第11回：カルヴィーノ 第12回：ヴィアン 第13回：フランソワ・ボン 第14,15回：予備日			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
レポートおよび出席状況により評価する。			
【教科書】			
毎回、参考資料を配付する。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	テキスト生成文化論演習B Seminar on Studies of Cultural Poetics B	担当者氏名	地球環境学 准教授 塩塚 秀一郎
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	金5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
前期に引き続き、現代フランスにおける「日常」や「並み以下のもの」に着目したテキスト群を抜粋で読む（内容は完全に独立しているため、後期からの参加も歓迎する）。誰の注意もひかない、平凡で些細な光景を、なぜ作家たちは書き留めようとするのか。いかなる理論的背景がありうるのか。テキストの具体的読解を通じて、現代フランス社会や都市のはらむ問題、現代の文学状況への理解を深めるとともに、フランス語読解力の向上にも努める。			
【授業計画と内容】			
初回に対象とするテキストの概略について簡単な説明を行った後、今後の進め方の方針を話す。フランス語のテキストを用いて語学的な解説も行うが、すべてを参加者に担当してもらい購読形式ではなく、教員による説明の比重を多くすることで、なるべく学生に過重な負担とならないよう考慮する。			
以下に取り上げる予定のテキストとこれにあてる授業回数を記す。			
概略説明 1 マイケル・シェリンガム『日常生活：シュルレアリスムから現在までの理論と実践』第9章「日常の布置」（英語文献、精読はせず概略を説明する）2 ジョルジュ・ペレック『ヴァン通り』1 ジョルジュ・ペレック『何に着目すべきか？』『パリのひとつの場所を書き尽くす試み』1 フランソワ・ボン『高速道路』（高速道路から出ずに一週間過ごした記録）1 フランソワ・ボン『鉄道の風景』（パリ・ナンシー間を走る鉄道の車窓風景の記録）1 フランソワ・ボン『デーウ』（工場の撤退への反対運動の記録）1 フィリップ・ヴァセ『白い本』（地図上に白く表示された場所への探訪記）3 オリヴィエ・ロラン『ホテル・クリスタル』『ルーム』（ホテルの一室を舞台とするショートストーリーの集成）1			
以上はあくまで予定であり、受講者の関心や、演習の進行に応じて適宜変更される。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
レポートおよび出席状況により評価するが、ゼミにおける積極的な参加姿勢も考慮に入れる。			
【教科書】			
毎回コピーを配布する。			
【参考書等】			
（参考書） Michael Sheringham『Everyday Life: Theories and Practices from Surrealism to the Present』（Oxford）ISBN:978-0-19-956698-3（授業で参照する箇所についてはコピーを配布する）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	テキスト生成文化論演習A Seminar on Studies of Cultural Poetics A	担当者氏名	地球環境学 准教授 塩塚 秀一郎
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	金5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
現代フランスにおける、都市の日常を記録したルポルタージュの作品群を抜粋で読む。誰の注意もひかない、平凡で些細な光景を、なぜ作家たちは書き留めようとするのか。テキストの具体的読解を通じて、現代フランス社会や都市のはらむ問題への理解を深めるとともに、フランス語読解力の向上にも努める。			
【授業計画と内容】			
初回に対象とするテキストの概略について簡単な説明を行った後、今後の進め方の方針を話す。フランス語のテキストを用いて語学的な解説も行うが、すべてを参加者に担当してもらい購読形式ではなく、教員による説明の比重を多くすることで、なるべく学生に過重な負担とならないよう考慮する。			
以下に取り上げる予定のテキストとこれにあてる授業回数を記す。			
概略説明 1 マイケル・シェリンガム『日常生活：シュルレアリスムから現在までの理論と実践』第8章「普及と多様化」（英語文献、精読はせず概略を説明する）2 マルク・オージェ『地下鉄の中の人類学者』3 フランソワ・マスベロ『ロワシー・エクスプレスの乗客』3 アニー・エルノー『戸外の日記』2 ジャック・レダ『街路の自由』2			
以上は予定であり、演習の進行にともない変更されることもある。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
レポートおよび出席状況により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。			
【教科書】			
コピーを配布する。			
【参考書等】			
（参考書） Michael Sheringham『Everyday Life: Theories and Practices from Surrealism to the Present』（Oxford）ISBN:978-0-19-956698-3（授業で参照する箇所についてはコピーを配布する）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	環境構成論I Theory and History of Environmental Construction I	担当者氏名	奈良文化財研究所 小野 健吉
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	水4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
庭園とは、祭祀・儀式・饗宴・逍遙・接遇などの場として、あるいは観賞の対象として、一定の空間的・時間的美意識のもとに造形される屋外空間である。その歴史的研究においては、考古学的遺構（発掘庭園）・遺存地形・現存庭園・文献・絵画・写真などを資料として各時代の庭園の構造及び意匠的特色やそこで繰り広げられた営みをたどることが求められる。この授業においては、上述したような資料を用いたアプローチで、先史時代、古代、中世、近世、近代の日本の庭園の通史的な理解を目指す。なお、必要に応じて海外の庭園の歴史についても触れる。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について1課題あたり1~2コマの授業を行う予定である。			
1. 縄文・弥生・古墳時代の庭園的屋外空間 2. 飛鳥時代の庭園（朝鮮半島からの影響を含めて） 3. 奈良時代の庭園（中国からの影響を含めて） 4. 平安時代の庭園（寝殿造り庭園・浄土庭園を中心に） 5. 鎌倉・南北朝時代の庭園（禅宗との関わりを中心に） 6. 室町時代の庭園（枯山水の成立を中心に） 7. 安土桃山時代の庭園（露地の成立を中心に） 8. 江戸時代の庭園（回遊式庭園と庭園文化の定着を中心に） 9. 近代の庭園（洋風庭園と自然主義を中心に） 10. 海外の庭園（ヨーロッパの庭園を中心に）			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
期末の試験またはレポートによる。			
【教科書】			
小野健吉『日本庭園 空間の美の歴史』（岩波書店）			
【参考書等】			
（参考書） 小野健吉『岩波日本庭園辞典』（岩波書店） 飛田範夫『日本庭園の植栽史』（京都大学学術出版会） 田中正大『日本の庭園』（鹿島出版会）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	環境構成論II Theory and History of Environmental Construction II	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 伊従 勉
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
都市計画と地方自治：日本の都市計画法制度はどのように生まれ、どのように制度形成してきたか。戦前の国主体の都市制度を確認した上で、戦後に変革された地方自治制度における自治としての都市計画の可能性を探る入門編。本年度は大学院講義とは別に、学部生向けの講義を行う。			
【授業計画と内容】			
下記の内容を順に扱う 1. 序 市民自治と都市計画 2. 日本近代における都市計画制度の起源 3. 明治期地方都市の都市改造 4. 戦前期都市計画の概要 5. 戦後都市計画制度の変容 6. 地方自治から見た都市計画の可能性			
【履修要件】			
予備演習科目として全学共通科目「生活空間論基礎ゼミナール」（前期）の履修も推奨する。			
【成績評価の方法・基準】			
授業出席と研究レポートによる評価、授業中に一度は関心テーマを発表すること。			
【教科書】			
石田頼房『日本近現代都市計画の展開』（自治体研究社） 本は購入しなくてもよいが、図書館所蔵の本を借り続けないこと。			
【参考書等】			
（参考書） 兼子 仁『新地方自治法』（岩波新書633） 辻清明『日本の地方自治』（岩波新書、青-957） 丸山・伊従・高木（編）『みやこの近代』（思文閣出版） そのほかの参考文献は、授業中に紹介する。			
（関連URL） <a href="http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/welj.html">http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/welj.html</a> （「伊従担当授業」「授業・ゼミに関する連絡事項」参照）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 詳しい参考文献は上記ホームページ「授業・ゼミに関する連絡事項」参照			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	環境構成論IV Theory and History of Environmental Construction IV	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 中嶋 節子
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
「景観」は人間の営みの結果として立ち現われる。建築物や土木構築物によって構成される市街地景観はもちろんのこと、それらを取り巻く、あるいはそれらの中に取り込まれる山や森林、河川といった自然景観もまた、それぞれの時代の生活や社会、思想を映し出すものとして存在する。ここでは、わが国において景観がいかに扱われ、そしていかに変容してきたのかについて、建築史、都市計画史、造園史、景観工学などの視点から歴史的にたどり、その性格を分析することで、生活環境としての「景観」の意味を考究する。とりわけ、近代における「景観」の意識変化、まなざしの転換を、西洋文化との出会い、近代化と風景観との関係、近代都市計画の影響などから検討する。また、現代の状況についても概観する。			
【授業計画と内容】			
以下の内容について講義する。ただし、内容は前後することがある。  1 生活の表出としての山並み景観 京都の山並みの中世・近世 2 つくられた山並み景観 - 京都の山並みの近代 3 つくられた名所・まもられた名所 4 イメージされる風景・景観 5 日本における風景観の系譜 6 新しい風景観の誕生 7 市街地・都市計画における景観保護の推移 8 景観工学の視点から 9 記憶の再生（災害・戦災復興を契機として） 10 現代における風景の創造			
講義内容に関する見学会を1～2回開催する。 見学会 近代的景観の創出 琵琶湖疏水とその周辺を歩く 見学会 京都の近代化 三条通りあるいは東山を歩く			
【履修要件】			
特別な予備知識は必要としない。都市や歴史に興味があることが要件となる。			
【成績評価の方法・基準】			
授業への参加姿勢と小レポート、期末レポートで評価する。			
【教科書】			
使用しない 毎回の授業でレジュメと資料を配布する。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 積極的な授業参加と発言を期待する。質問等の機会については個別に対応する。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	環境構成論III Theory and History of Environmental Construction III	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 西垣 安比古
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
建築・都市・風景など、人間の基本的な行為形態に対応する人間環境の諸相を、物的構成を通じて原理的、実践的に論及する。			
【授業計画と内容】			
東アジアの建築、都市、風景を具体例として取り上げ、講義する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
レポートによって評価する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	環境構成論実習II Practical Seminar on Environmental Construction II	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 伊従 勉
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火5
授業形態	実習		
【授業の概要・目的】			
日本の地方自治体は、10年から20年に一度、「基本構想」という長期政策計画をたて、それに基づき、より短期の「基本計画」を立案し、政策を執行している。「構想」や「計画」がどのような市民合意を経て立案されているかを、戦後京都市を事例に調査し分析し、参加者が各自担し、報告書を執筆した2012年度の研究成果に基づき、本年度は、フランスの現代社会で行われている都市政策に対する住民組織の関与と活動と比較する作業を行う。			
【授業計画と内容】			
1. 戦後京都市における基本構想の更新経過の概要の説明 2. 1999年基本構想に基づく「基本計画」策定経過の説明 3. 2010年度更新の「基本計画」調査結果：行政資料・市会会議録等調査結果の概略説明 4. フランス現代社会の都市政策決定場面への住民参加の現状の理解 5. 地方自治における都市政策の位置の日仏比較 6. 地方制度における都市政策の日本的特徴の理解 7. ゼミ参加者の関心に基づく具体的調査・検討項目の選定 8. 参加者の発表を持ち回りで行う。 9. 最終報告・討論			
【履修要件】			
一個人ではなかなか難しい調査対象を短時間に調査し一定の診断を行う体験を共有する目的があるので、それを希望する受講者が望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
出席と責任分担の作業の到達度で評価する。			
【教科書】			
重要文献は授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する 多数につき、授業中に指示			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 下記URLを参照： <a href="http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/cour-info08.html">http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/cour-info08.html</a>  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	環境構成論実習III Practical Seminar on Environmental Construction III	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西垣 安比古						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	実習
【授業の概要・目的】									
建築・都市・風景など、人間の基本的な行為形態に対応する人間環境の諸相に関して具体的事例に則して実習する。									
【授業計画と内容】									
東アジアの建築、都市、風景を具体例として取り上げ、実習する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、発表などを総合して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会人類学演習A Seminar of Social Anthropology A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 菅原 和孝						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
社会人類学とその隣接領域から、近年刊行された英文の単行本を選び、受講者全員で輪読し、討論する。これによって、本学問分野の重要な理論的動向と問題意識を把握することを目的とする。今年度は「言語」をテーマにする。テキストに選んだ本は当該領域を代表する重要な著作である。言語人類学の最先端について理解を深めるうえで有益である。									
【授業計画と内容】									
予定している著作は以下の通り。 Foley, William, A. 1997 Anthropological Linguistics: An Introduction (『人類学的言語学 - 序説』) 本書は非常に大部な著作なので、その一部分だけを読む。数年前のこの授業で前半を読んだので、今年度はとくに社会人類学・民族誌に関わりの深い後半のいくつかの章を取り上げる。ただし、著者の言語研究の立場は「身体化」理論と関連の深い独特なものである。その要点を、授業開始時に教員が解説する。 検討する予定の章の概略は以下のとおり： 第9章：文化モデルと隠喩 第13章：文化的に構築された行為としての話し 第14章：礼儀（丁寧さ）、面子、そして人格の言語学的構築 第15章：言語とジェンダー 第16章：言語と社会的地位 第17章：言語の社会化									
受講者はチームを組んで各章を担当する。担当チームは要旨のコピーを配布し、内容を発表する。教員のコメントと全員での討論をそのあとに行なう。テキストは教員が配布する。									
【履修要件】									
文化人類学・社会人類学関係の講義を少なくとも一つ履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席回数、要旨の質（英文理解を含む）、討論への熱心な参与を総合して、評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 「言語」という思考と意識の根源について自分の頭で考えたい人にとってはヒントになることが多いだろう。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは原則として、水曜午後1時半以降。吉田南総合館、東南棟A401(エレベーターのすぐそば)。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	環境構成論実習IV Practical Seminar on Environmental Construction IV	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 中嶋 節子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	実習
【授業の概要・目的】									
建築史、都市史、造園史、都市工学、美術史などの諸分野における都市景観、形態をめぐる論考を講読し、「景観」の生成の契機、社会的・文化的背景、その変容について考察する。加えて現地見学を行い、現在の都市に歴史的痕跡を見出すことで、現在に至る景観変容の過程を把握する。景観形成の歴史的理解は、現在の景観問題を考える前提として重要である。									
【授業計画と内容】									
授業開始時に提示する著書あるいは論文について以下の課題を行う。 課題1 分担当論文に関するプレゼンテーション 担当論文の内容をわかりやすく解説するとともに、関係する資料や論文、著書等を紹介する。また自身の分析、意見や感想も加える。 配布するレジュメの作成 レジュメの内容：内容の要約と解説＋関係する資料・論文・著書 プレゼンテーション 1 論文あたり1時間程度を予定 写真、図面、絵画資料などヴィジュアルな資料を盛り込む 課題2 レポート作成 授業中に指示する内容について期末までにレポートを作成する。 内容に関係する見学会を1～2回開催する。 見学会 岡崎公園の近代景観 見学会 御池通・三条通境界の景観									
【履修要件】									
環境構成論 を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加姿勢（出席・発言）と課題1、課題2によって評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
積極的な授業参加と発言を期待する。事業外の資料作成、論文講読、フィールドワークが必須である。質問等の機会については個別に対応する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会人類学演習B Seminar of Social Anthropology B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 菅原 和孝						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
社会人類学とその隣接領域から、近年刊行された英文の単行本を選び、受講者全員で輪読し、討論する。これによって、本学問分野の重要な理論的動向と問題意識を把握することを目的とする。今年度は「自然と文化の関わり」をテーマにする。テキストに選んだ書物は近年この領域で注目を浴びている重要な論文集である。									
【授業計画と内容】									
テキストは以下のとおり： Descola, Philippe & Palsson, Gisli 1996 Nature and Society: Anthropological Perspective (『自然と社会 - 人類学的視野』) 比較的大部な本なので、すべてを通読するのは時間的に無理である。 以下の章に焦点をあてる予定である。 序論 第1章 Tim Ingold 「最適狩猟採集民と経済人間」 第2章 Alf Hornborg 「記号論としての生態学：人間生態学文脈主義の枠組」 第3章 Gisli Palsson 「人間-環境関係：オリエンタリズム、家父長主義、共同体主義」 第4章 Philippe Descola 「自然を構築する：象徴的生態学と社会的実践」 第5章 Roy F. Ellen 「自然の認知的幾何学：文脈的なアプローチ」 受講者はチームを組んで各章を担当する。担当チームは要旨のコピーを配布し、内容を発表する。教員のコメントと全員での討論をそのあとに行なう。テキストは教員が配布する。									
【履修要件】									
文化人類学・社会人類学関係の講義を少なくとも一つ、1回生時に履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席回数、要旨の質（英文理解を含む）、討論への熱心な参与を総合して、評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 自然と文化（社会）という根源的な問題について自分の頭で考えたい人にとってはヒントになることが多いだろう。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは原則として、水曜午後1時半以降。吉田南総合館、東南棟A401(エレベーターのすぐそば)。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	環境人類学演習 A Seminar of Environmental Anthropology A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 風間 計博						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化人類学に関連する領域から英文の文章を選んで、履修者が輪読して議論する。個人またはグループで担当部分の要約をまとめ、疑問点や問題点、考察を発表する。今回は、感情の人類学を理解するための基礎的作業として、共感を主題とした民俗心理・認知論に関する書籍を探りあげる。									
【授業計画と内容】									
群居性霊長類として進化してきた人間が日常生活を営むうえで、他者との相互行為なしに済ませることはできない。こうした日常的生活実践を文化人類学の主題として採りあげるにあたり、感情、とくに他者との関係において表出する共感はきわめて重要なものと考えられる。本演習においては、共感に関わる民俗心理・認知論に関する文章を読み、理論的な基礎を固めたい。読解を予定している書籍は、下記のとおりである。									
Stueber, K.R., 2006, Rediscovering Empathy: Agency, Folk Psychology, and the Human Sciences, MIT Press.									
1. Folk psychology and rational agency 2. Charity and rational contextualism 3. The theory of mind debate 4. Basic empathy and reenactive empathy 5. Folk psychology and normative epistemology 6. The limits of empathy									
【履修要件】									
文化人類学・社会人類学関連の授業を少なくとも1つ、履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表の質、議論への参加や貢献等を総合して評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化行為論 A Cultural practices A	担当者氏名	人文科学研究所 教授 田中 雅一						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
文化行為論は日常実践に焦点を絞る文化・社会人類学である。そして日常実践を複数の権力が作用するアリーナととらえることで、人類学が対象としてきた様々なテーマや慣れ親しんできた諸概念を再考する。今年度は主としてジェンダーとセクシュアリティを扱う。									
【授業計画と内容】									
最初に現代人類学の状況を概観し、その後は、ジェンダー・セクシュアリティと文化とが交錯する領域をテーマとする。 1)文化人類学の変貌、ジェンダーとセクシュアリティの人類学 2)ジェンダー儀礼 男子割礼、女子割礼FGM 3)サティエ(寡婦殉死) 4)名誉殺人 5)セックスワーク									
【履修要件】									
文化人類学に関するほかの講義を受けていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点 60パーセント 小レポートと授業内での発言 期末レポート 40パーセント 関連文献のレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 田中雅一ほか編 『ジェンダーで学ぶ文化人類学』(世界思想社) 田中雅一ほか編 『ジェンダーで学ぶ宗教学』(世界思想社) 田中雅一 『癒しとイヤラシ エロスの文化人類学』(筑摩書房) 田中雅一ほか編 『南アジア社会を学ぶ人のために』(世界思想社) 各テーマについては授業中に参考文献を紹介する。									
(関連URL)									
<a href="http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~shakti/">http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~shakti/</a> (田中雅一のホームページ)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは特に設けない。問い合わせやアポイントはshakti@zinbun.kyoto-u.ac.jpで受け付ける。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	環境人類学演習 B Seminar of Environmental Anthropology B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 風間 計博						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化人類学およびその関連領域から英文の単行本を選び、履修者が輪読して議論する。個人またはグループで担当部分の要約をまとめ、疑問点や問題点、さらなる考察結果を発表する。今回は、自然と文化の二分法を脱する方法論を見出すことを目的として、感情・共感・痛みに関わる民族誌的著作をとりあげる。									
【授業計画と内容】									
人間の存在を議論するうえで、感情を無視することはできない。感情は単に人間個人の内に生理学的に生じるのではなく、身体的に表出するものである。さらに、コミュニケーションや多様な媒介によって、周囲に伝達され意味づけられていく。本演習においては、感情・共感・痛みやアイデンティティに関わる、下記の民族誌的論集をとりあげる。									
Hollan, D.W. and C. J. Throop, 2011, The Anthropology of Empathy: Experiencing the lives of Others in Pacific Societies. Berghahn Books.									
本書は下記の4部構成である。									
1. History and fieldwork as lenses on empathy 2. Universal and particular aspects of empathy 3. Personhood, mortality, and empathy 4. Vicissitudes of empathy									
【履修要件】									
文化人類学・社会人類学に関連する授業を少なくとも1つ、履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表の質、授業への参加と議論への貢献によって総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化行為論 B Cultural practices B	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 石井 美保						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
本演習は、主としてグローバル化がすすむ現代社会について、文化人類学的な観点から考察することを目的に、関連文献のレビュー、ならびに大阪や京都で実習を行う。									
【授業計画と内容】									
全体として、現代社会が直面する諸問題を取り上げる。とくに現代日本社会についての理解を深める。									
【履修要件】									
文化行為論Aの履修が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点 講義での報告の完成度や討論での積極的な発言など。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
問い合わせはshakti@zinbun.kyoto-u.ac.jpで受け付ける。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生態人類学演習 A Seminar of Ecological Anthropology A	担当者氏名	7/7・7/7加地細藤 准教授 高田 明						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
生態人類学は、人々の生活を環境の諸要素との緊密な相互関係の総体として把握することを目指している。本演習では、生態人類学およびその関連分野（言語人類学、文化人類学、環境社会学など）の最近の文献を題材とした討論を行うことを通じて、これから環境認識、環境の利用、環境に対する権利について研究していくための論点を整理する。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。トピックについては、受講生の関心を考慮して適宜調整する。 1. ナチュラリストの人間科学：生態人類学理論の特質 2. 全身で考える：生態人類学の方法 3. 人類の進化と社会 4. 環境への適応としての社会 5. エコシステムとひと 6. 環境・認識・文化 7. アイデンティティの物質的基盤 8. 生計経済と倫理 9. 社会動態と地域の発展									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主として授業中の報告による。討論の内容・積極性を重視する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化人類学方法 A Methodology of Cultural Anthropology A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 風間 計博						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化人類学の研究では、フィールドワークによる資料収集が不可欠である。本演習では、フィールドワークの方法、資料収集に関わる実践的問題をとりあげ、資料分析の定量的方法、定量的方法の実際を学ぶ。個々の履修生の問題関心に沿って、具体的事例を検討しながら進める。									
【授業計画と内容】									
既存の民族誌研究を参照しながら、資料収集の方法、調査における倫理的諸問題、収集資料の取り扱いと分析について、履修生による主体的な参加によって追究していく。主なトピックは下記の通りである。 1) 調査地選定の方法、調査地への入り方、資料収集の実際 2) 調査地における問題関心の深化と資料整理 3) 調査後の資料分析									
【履修要件】									
担当教員を指導教員として卒業論文を執筆する予定の学生は必修とする。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度、意欲、発表や議論の質によって総合的に評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生態人類学演習 B Seminar of Ecological Anthropology B	担当者氏名	7/7・7/7加地細藤 准教授 山越 言						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
自然環境の保全が、現代社会が直面する重要な現実的問題であることに疑問の余地はない。しかしながら、「自然」とは何か、どのような「自然」を保全/保護すべきかという問題は、「どのようにして」という問題の陰に隠れ、議論されることは少ない。本演習では、人類学およびその関連分野における、「自然」をめぐる古今の諸言説(風土/風景/景観論、環境哲学、風景画論、ネイチャーライティング、エコロジー思想、探検・アルビニズム、博物学、保全生態学、構造人類学、観光人類学など)を題材に徹底討論し、理解を深める。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～5週の討論をする予定である。 1. 「自然」という概念について(保護すべき自然、美観、国立公園、アニミズム) 2. 美しい景観とはなんだろうか(観光、巡礼・旅行記、バイオフィリア、隠れ家論) 3. メディアと自然(風景画、田園詩、造園、探検記、近代小説、宮崎アニメ) 4. 自然に臨む行為(修験道、近代アルビニズム、探検、博物学、自然科学)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
討論への参加の内容・積極性を平常点評価する。									
【教科書】									
資料を適宜配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
積極的な授業参加、発言を高く評価する。オフィス・アワーは特に定めがないが、講義時間外に直接連絡を取りたい学生は、山越(yamakoshi@jambo.africa.kyoto-ac.jp)までメールすること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化人類学方法 B Methodology of Cultural Anthropology B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 風間 計博						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化人類学の研究にフィールドワークは必須である。本演習では、フィールドワークにおける収集資料の分析から考察、さらに民族誌記述を行うまでの過程を学ぶ。人類学における既存の理論的問題を、いかに具体的な資料の分析結果とつぎ合わせることが可能か、具体的事例に基づいて考える。									
【授業計画と内容】									
近年、文化人類学でとりあげられたトピックを参照しながら、民族誌研究のあり方を考える。とくに、個々の履修生の問題関心に沿って、各自の集めた具体的な資料を分析・考察し、精緻に文庫化していく方法論を追究する。 1) 文献資料の収集と理論的問題へのアプローチ 2) 具体的な収集資料の分析と理論的問題への架橋 3) オリジナルな考察への発展 4) 民族誌執筆の実際									
【履修要件】									
担当者を指導教員として卒業論文を執筆する予定の学生は必修である。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度と意欲、発表や発言等を総合して判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会人類学方法 A Methodology of Social Anthropology A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 菅原 和孝						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4.5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
フィールドワークで得られた資料を分析し、論文へとまとめあげる方法を習得することを目的とする。民族誌記述、観察と解釈、定量化と定性的分析との関係などを主題にする。									
【授業計画と内容】									
文化人類学・社会人類学の優れた論文の参照しながら、具体的な資料に基づいて討議する。おもなトピックは以下の通りである。									
1) 民族誌記述の視点と問題 2) 行動観察の方法と統計的検定 3) 談話分析の方法と解釈 4) 会話分析の基礎理論 5) 文献の検索と引用法などについて									
【履修要件】									
菅原を指導教員として卒業論文を執筆する予定の学生は必修。									
【成績評価の方法・基準】									
出席回数と討論への積極的関与によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
本科目の履修と並行して、問題関心に沿ったフィールドワークを立案・計画し、予備調査を開始することが望ましい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域空間論 I A Region, Space, and Environment IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小島 泰雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国農村における空間と社会が、どのような関係を形成してきたのかをめぐって、地理学の視園に軸足を置いて講義を進める。江蘇、河南、四川などでやってきたフィールド調査に基づいて、中国農村の生活空間とその多様性を実感的に考えてゆく。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマをめぐって授業を行う。 1つのテーマあたり2 - 3週の授業を行う予定である。									
1. 村落 2. 市場町・市場園・郷 3. 中国農村の生活空間の変遷 4. フィールド調査論 5. 生活空間論									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主に期末のレポートにより評価を行い、授業への参加度を加味する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会人類学方法 B Methodology of Social Anthropology B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 菅原 和孝						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4.5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
フィールドワークを土台にして、明晰で論理的な論文を執筆する方法を学ぶことを目的にする。先行研究や理論に対する批判的視点、論証の説得性、説明と記述、知解と了解などを主題にする。									
【授業計画と内容】									
文化人類学・社会人類学における近年の理論的動向を批判的に摂取し、自らの問題の立脚点を把握する方法を探る。さらに、正確で明快な記述のしかた、理論的視野の展開、論文全体を組織する構想力などをめぐり、具体的な資料を参照しながら討議する。									
1) 実証主義的な分析の効用と限界 2) アイデンティティ論批判 3) 解釈人類学の功罪 4) 経済人類学的アプローチの可能性 5) アクターネットワーク理論の可能性 6) 現象学的人类学の可能性									
【履修要件】									
菅原を指導教員として卒業論文を執筆する予定の学生は必修。									
【成績評価の方法・基準】									
出席回数と討論への積極的関与によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
本科目の履修と並行して、フィールドワークを遂行したうえで、資料分析・卒論執筆を精力的に進める必要がある。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域空間論 I B Region, Space, and Environment IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小島 泰雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
都市と農村の関係について、中国を対象として考える。現代中国においては都市と農村が截然と分けられてきたが、それがいかに形成・変容されてきたかについて、主に地理学的な視角から具体的に検討してゆく。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマをめぐって授業を行う。 一つのテーマについて、2 - 3週の授業をする予定である。									
1. 都市と農村 2. 戸籍制度 3. 都市内部構造 4. 農村変革 5. 郷鎮企業 6. 出稼ぎ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主に期末のレポートにより評価を行い、授業への参加度を加味する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域空間論IIA Region, Space, and Environment IIA	担当者氏名	大阪市立大学 教授 山崎 孝史
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期集中	曜時間	集中講義
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
<p>本講義は、現代社会を地理学的に理解する一つの手段として、政治という側面について考えます。政治地理学の入門編として、政治地理学の理論と分析方法について講述したあと、事例研究を紹介し、政治を地理学的研究する有効性について解説します。本講義によって、政治的事象が空間や場所といかに密接に結びついているかを理解できるようにしましょう。</p> <p>講義の内容は4部15回からなり、指定テキストに沿って進行します。第1部は、近代における政治地理学の展開、つまり戦前の地政学から現代の政治地理学までの流れを、英米と日本においてあとづけ、「新しい地政学」および「場所の政治」研究の視角を示します。第2部は、空間や場所と権力との関係を明らかにしつつ、その関係を反映する領域の性質を理論的に解説した上で、グローバル化とナショナリズムについて政治地理学的に考えます。第3部は、「コンテキスト」、「スケール」、そして「言説」という政治地理学にとって鍵となる概念について説明し、それらを実証研究のなかでどのように活用しうるかを検討します。第4部は、第3部までの理論的・概念的な議論が、具体的な事例研究としてどのように展開できるかを解説します。</p> <p>つまり本講義では、政治地理学の学史・理論・概念・実証というテーマが断続せず、前後のテーマと重なりあひながら展開する構成になっている。受講生がこれら4部からなる本講義を受講することによって、政治地理学の理論的視角のみならず、日常的に見られる政治的な出来事に対する感性と理解が深まることを期待します。</p>			
【授業計画と内容】			
1部 政治地理学がたどってきた道			
1章 政治地理学の起源と地政学の盛衰			
2章 戦後の政治地理学 その日本的展開			
3章 政治地理学の展開と課題			
2部 空間・場所・領域			
4章 空間分析批判			
5章 場所の政治的意味			
6章 人間の領域性			
7章 グローバル化とナショナリズム			
3部 コンテキスト/スケール/言説の政治			
8章 コンテキストの政治			
9章 スケールの政治			
10章 言説の政治			
4部 事例研究にむけて			
11章 大都市圏行政と公共選択論			
12章 政党の編成と対立			
13章 領域と社会運動			
14章 安全と安心のまちづくり			
----- 地域空間論IIA(2)へ続く -----			

授業科目名 <英訳>	地域空間論IIIA Region, Space, and Environment IIIA	担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
<p>近年、進歩と普及の著しい地理情報処理技術の原理と応用を扱う。とくに衛星画像の地理学研究における活用事例を重点的に取り上げる。</p>			
【授業計画と内容】			
<p>自然・人文にまたがる地理的諸現象をコンピュータで扱うために、ベクトルおよびラスターというモデル化の方法があるが、本講義では主にラスター・モデルに基づく地理的現象のモデル化を取り上げる。</p> <p>1) ラスター・ベースでモデル化される地理的現象の例として、地形 (DEM)、人口 (メッシュ統計)、土地利用、リモートセンシング (衛星画像) などがある。それらについて、簡潔に紹介する。</p> <p>2) 衛星による地球観測の原理について論じ、センサーの種類による観測成果について説明する。また、近年供用されるようになった新世代の高解像度衛星により広がった応用範囲についても紹介する。</p> <p>3) 地球観測衛星の光学センサーによる観測の原理について、ランドサットなど具体的な衛星を取り上げ、説明する。</p> <p>4) 多重スペクトル衛星画像を用いた表示・分析手法について説明し、コンピュータを利用して実習する。画像のカラー合成や、正規化差分植生指標 (NDVI) による食性分布の分析、最尤法 (Maximum Likelihood Method) による土地被覆分類などを取り上げ、考察する。</p>			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
期末レポートによる。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書)			
授業中に紹介する			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
研究室のウェブサイトは以下の通り。			
<a href="http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/">http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/</a>			
オフィスアワーは、月曜13:00~15:00である。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

地域空間論IIA(2)
-----
総合討論
【履修要件】
特になし
【成績評価の方法・基準】
各章のリーディング・ショートレポート (30%)、討論参加 (10%)、最終レポート (60%) から評価します。
【教科書】
山崎孝史 『政治・空間・場所 「政治の地理学」にむけて』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4-7795-0510-2 (登録受講生はこのテキストを生協等で購入してください。)
【参考書等】
(参考書)
テキストの参考文献リストほかから適宜指示します。
(関連URL)
<a href="http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamataka/home.htm">http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamataka/home.htm</a> (左記教員ホームページに参考資料をアップロードします。)
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))
授業前には授業対象の章を必ず読み、コメントを提出していただきます。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	地域空間論IIIB Region, Space, and Environment IIIB	担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
<p>近年インターネットなどを通して利用可能となった各種地理データを、考古学の遺跡探査や歴史地理学における歴史景観復原などに応用する手法について講義を行う。取り上げる地理データとしては、地形データ (DEM) も含まれるが、とくに最近利用可能になった高解像度衛星を重点的に扱う。</p>			
【授業計画と内容】			
<p>空中写真や衛星画像を利用して、時代や地域の文化を反映する歴史的景観を復原する試みを扱う。集落や都市の立地や形態は地域や時代の文化を反映し、文化の伝播とともに他地域に取り入れられたりもする。この講義では、空からの映像を検討することにより、集落や都市の形態の中に文化要素を読み取り、考察する。日本の歴史地理学においては、奈良制の研究をはじめとして、空中写真や地形図を利用した景観復原が従来から成果を上げてきたが、こうした方法は、データの入手可能性の理由から欧米や日本に限定されてきた。しかし最近では、高解像度の衛星画像が利用可能になったことから、旧ソ連・中国・中東などの地域でも、空からの映像を用いた歴史的景観の研究が可能となっている。具体的には、以下の地域・テーマから適宜選択して講義を行う。</p> <p>1) 東アジアの都城：日本の平城京や平安京は、中国の都城をモデルとしたとされている。しかしこのようなモデルがどの時代にどの範囲に伝播・受容されたかは、従来必ずしも明らかにされてこなかった。ここでは、8~10世紀に中国東北地方に存在した渤海国の都城や、中国の新疆ウイグル自治区に残る「都護府」跡と考えられる遺跡の事例を取り上げ、中国式都城の伝播・受容・変容の過程を考察する。</p> <p>2) シルクロード地域のオアシス：世界の乾燥地域に展開するオアシスの存在形態は、地形などを反映して地域ごとに多様である。中央アジアのシルクロード地域では、山脈の山麓に連なる扇状地の形態を取るものが多い。扇状地オアシスの水利システムについて、廃墟となった水路跡を衛星画像上で検討することなどを通して考察する。</p> <p>3) 西アジアの集落・都市遺跡：西アジアは、人類が定住を始めた最古の地域であり、集落跡はテル (遺丘) の形で見ることが出来る。テルやそれに付随する痕跡についての、衛星画像を用いた最近の研究事例を紹介する。また、ヘレニズム・ローマ時代における計画都市の立地とプランについて検討し、一般化を試みる。</p> <p>4) 北アフリカの集落・都市遺跡：東地中海沿海部のフェニキア人は、紀元前1千年期に西地中海沿岸を舞台に活発に植民都市を建設した。一般にフェニキア人の都市は、立地やプランにおいて独特な特徴を備えているが、北アフリカ沿岸部のフェニキア人 (ポエニ) 植民都市の事例について、これらの点を考察する。</p> <p>以上の事例研究に加えて、このような目的のための衛星画像の利用方法について実習を行う。また、この講義では米国が1960年代に収集し、1995年に公開した偵察衛星写真を多く利用するが、宇宙からの偵察活動の国際政治における意味合いなどについても考察する。</p>			
【履修要件】			
特になし			
----- 地域空間論IIIB(2)へ続く -----			

地域空間論III B (2)	
[成績評価の方法・基準] 期末レポートによる。	
[教科書] 使用しない	
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 研究室のウェブサイトは以下の通り。 <a href="http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/">http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/</a> オフィスアワーは、月曜13:00~15:00である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	地域空間論演習 Seminar on Region, Space, and Environment I	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小島 泰雄
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木3
授業形態	演習		
[授業の概要・目的] 「地域を考える」とは、どのような知的営為なのだろうか、地理学が培ってきた方法や技法の習得を通して、地域に着目する意味や意義についての理解を深めることが、この授業の目的である。具体的な地域(2011年度は「亀岡」、2012年度は「宇治」とした)を定めて、受講生が協同して作業を行うことで、地域を考える多様なアプローチに触れる機会を創りだしてゆく。			
[授業計画と内容] 授業はゼミ・演習の形式で行う。 以下の項目について、1課題あたり1-3週の授業をする予定である。 ・地域を考えることは？ ・地図を読む/書く ・地誌や文書などの文献を利用する ・統計を分析する ・フィールド調査を行う ・地誌に関する発表とレポートを書く			
[履修要件] 全学共通科目の地理学関連科目、および学部科目「地域空間論」を履修していることが望ましい。			
[成績評価の方法・基準] 授業への参加度によって評価する。			
[教科書] 使用しない			
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	地域空間論 Region, Space, and Environment V	担当者氏名	大阪教育大学 教授 山近 博義
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金2
授業形態	講義		
[授業の概要・目的] 地理学で従来から扱われてきた景観の変遷について、日本の歴史的な都市や村落を事例としつつ、考察する予定である。また、その際に重要な資料となる地図や図像資料にも触れてもらい、これらの資料への理解も深めてもらう予定である。			
[授業計画と内容] 以下のテーマについて、2-3週ずつ授業を行う予定である。 1. 地理学における景観 2. 地図資料の概要 3. 図像資料の概要 4. 地図や図像資料にみられる都市景観とその変遷 5. 地図や図層資料にみられる村落景観とその変遷			
[履修要件] 特になし			
[成績評価の方法・基準] レポートにより評価する。			
[教科書] 使用しない			
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	地域空間論演習III Seminar on Region, Space, and Environment III	担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	木3
授業形態	演習		
[授業の概要・目的] 地理学的な空間的モデリングや地理情報処理に関連して、研究論文(英語のものを含む)を購読し理論を学ぶ。また、現実の地理データをコンピュータ処理することにより、学んだ理論の実践・応用を試みる。			
[授業計画と内容] 例年、ゼミ形式で授業を行っており、研究論文の紹介やデータ分析結果の報告などを、各自が発表する形で進めている。しかし、総合人間学部の特質により、受講する学生の関心分野は多様である。地理学が扱う研究対象もまた、自然・人文の多岐にわたる。従って、対象とする主題は受講生の関心に応じて臨機応変に設定したい。 例年は、都市地理学的なテーマを取り上げ、先ず社会地域分析や因子生態研究の研究動向について発表し、次に大都市圏の人口・産業分布などの統計データを分析した結果を発表するという形式で進めることが多い。 しかし自然科学を専攻とする受講生がいる場合、人工衛星の観測データから植生・生態系の分類を行う理論について研究動向を発表し、さらに実際の人工衛星データを分析して、対象地域の植生・生態系についての研究を発表するといった進め方を取る場合もある。コンピュータを利用した地形の分析といったテーマを設定することも可能であろう。地理情報科学や地理情報システムは、地理空間に展開する多様な現象を統合的に扱うことにメリットがある。関心のテーマが異なっても互いに興味を持ち活発な意見交換ができるような、総合人間学部にふさわしいゼミにしたい。毎回の出席は必須である。 文献(書籍や論文)の形で存在する既存の研究成果を把握することは、どの学問分野でも研究の基本であるので、文献探索・利用の方法について授業の最初に指導する。			
[履修要件] 特になし			
[成績評価の方法・基準] ゼミでの発表、発表内容に基づくレポートによる。			
[教科書] 使用しない			
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	自然科学入門 Introduction to Science		担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 森成 隆夫 人間・環境学研究所 教授 津江 広人 人間・環境学研究所 教授 瀬戸口 浩彰 人間・環境学研究所 教授 石川 尚人					
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
自然科学についての基礎知識を理解するための入門科目として、物理学、化学、生物、地学の各分野から興味ある話題を選び講義する。それを通じて、私たちがとりまく宇宙・地球・生態系そしてそれらを構成する物質・情報が自然科学的な観点からどのように理解されているか解説する。									
【授業計画と内容】									
主に物理学、化学、生物、地学から成り立つ自然科学について、各分野の専門家が内容を厳選して講義する。各分野の発展・成果と現在の課題について紹介する。これにより宇宙・地球・生態系という私たちがとりまく環境を理解するための論理・知識・方法論について概観できるようにする。同時にその環境を構成する物質や情報にも目を向け、それらの存在形態を研究しその性質を理解するために必要な概念・方法についても解説する。本講義を受講することで、自然科学系を目指す学生には学問内容を理解する入門的な講義として広く知識を得る助けとなるよう、また他の学系を目指す学生には自然科学全般の概念を理解する助けとなるよう努める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、小テスト等									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	量子力学 Quantum Mechanics		担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 藤原 直樹					
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
物理学の基礎である量子力学の基本項目について講義する。									
【授業計画と内容】									
シュレディンガー方程式、不確定性原理、トンネル効果、ポテンシャル問題、固有値問題、角運動量、摂動論、散乱問題(ボルン近似、ラザフォード散乱)、行列力学についてとりあげる。									
【履修要件】									
物理基礎論A, B 程度の基礎知識は必須。力学統論、振動・波動論の内容を理解していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
試験により評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	分野を横断する自然科学 Natural Science Beyond Disciplinary		担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 木下 俊哉 地球環境学堂 教授 梶井 克純 人間・環境学研究所 教授 宮下 英明 人間・環境学研究所 教授 酒井 敏					
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
自然科学の新たな入門科目である「分野を横断する自然科学」では、分野を異にする複数の担当教員が相互に連携し、つながりのあるテーマでリレー講義を行う。自然科学が細切れの知識の集約などではなく、高校時代の理科の4区分を超えたものであり、先端研究が分野を広くまたがる学問であることを認識し、自然を支配する科学の普遍性を学び取ることを目標とする。									
【授業計画と内容】									
今年度は「光と人間・環境」をテーマに、物理、化学、生物、地学の各分野から4名の教員が連携し、「光」をキーワードに分野横断的なりレー講義を行う。現代科学の進展に光がいかに貢献してきたのか、地球で起きている様々な自然現象、例えば、光合成、地球温暖化、物質循環などが光とどのように関わっているかについて学習する。具体的には、光とは何か、レーザー光による原子操作、光時計による時間標準(1秒の定義)、光合成の原理、地球環境の形成や恒常性に果たしている役割、光合成生物による環境負荷低減技術、太陽光照射とオゾン層の役割、光化学オキシダント、地球温暖化の原因と地球放射、都市環境と赤外線、等について講義を行う。スケジュールの詳細は、9月下旬に掲示する。									
【履修要件】									
文系理系を問わず、新入生を主な対象とするが、2回生の履修も妨げない。高校時代における理系科目の履修の程度が影響しないように内容を工夫する予定である。									
【成績評価の方法・基準】									
授業内容に関するレポートあるいは簡単な小テストによって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物性基礎論I Physics of Matter I		担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 吉田 鉄平					
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
固体物理学の基礎の習得を目標とする。物質の成り立ちを、量子力学、統計力学を応用しながら考察し、金属や半導体の物理的性質をミクロな視点から理解する。									
【授業計画と内容】									
固体物理学の基礎について講義する。  1.化学結合 2.結晶構造 3.格子振動 4.自由電子気体 5.バンド構造 6.金属の性質 7.半導体の性質									
【履修要件】									
振動・波動論、量子力学、統計力学の基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートなどによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) キツル『固体物理学入門』 イバツハ/リユート『固体物理学』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	統計力学 Statistical Mechanics	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 森成 隆夫						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 物性物理学を学ぶ上で必須であり、物理学の基礎科目の一つである統計力学を理解することを目標とする。									
【授業計画と内容】 以下の項目について、各項目あたり2～3週の予定で進める。 1. 平衡統計力学とカノニカル分布 2. 理想気体・常磁性・固体の比熱・黒体放射などへの応用 3. グランドカノニカル分布 4. 量子統計 5. 相転移と臨界現象									
【履修要件】 物理学基礎論A、B程度の基礎知識は必須。熱力学や量子力学の基本的な内容を理解していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 試験により評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 田崎 晴明 『統計力学』(培風館、2008年)(他の参考書などは授業中に案内する。) (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	物質機能論 Material Function	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 内本 喜晴						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 物質の機能、特に無機機能性材料の電気化学デバイスへの応用について概説する。									
【授業計画と内容】 物質のもつ化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換を行う電気化学デバイスの研究は、今後のエネルギー問題および環境問題を解決し、自然と人間の調和的共生を図る上で益々必要になる。電気化学デバイスの高機能化には、高機能性材料の開発が極めて重要な役割を担っている。電気化学デバイスに適用される無機機能性材料の機能発現原理について概説する。電気化学反応機構について、電解質溶液の考え方、平衡電気化学、溶液と電極の界面化学、電極反応速度論、電気化学測定法、電極の化学について学習する。デバイスに用いられる無機機能性材料につき、電子導電性、イオン導電性などの機能発現原理について講義し、燃料電池、電池を中心とした電気化学デバイスへの応用を最近のトピックスを交えて述べる。									
【履修要件】 基礎物理化学A,Bを習得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 レポート試験と出席率による。									
【教科書】 参考書を補助教科書として使用する。その他、必要な資料は適時配布する。									
【参考書等】 (参考書) 大堺 利行、桑畑 進、加納 健司 『ベーシック電気化学』(化学同人) ISBN:4759808612 (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 居室：人間・環境学研究所棟301号室 uchimoto.yoshiharu.2n@kyoto-u.ac.jp オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	物質分析論 Analytical Chemistry for Environmental Materials	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 杉山 雅人						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 化学分析を行う際の基礎となる、化学平衡、イオン平衡、溶液内反応論などの分析化学の基礎と応用について講義する。									
【授業計画と内容】 以下に示す項目について、講義する。 1. 質量作用の法則とデバイヒュッケル則 2. 酸塩基平衡 3. 緩衝溶液の理論と応用 4. 自然水中での酸塩基平衡、アルカリ度 5. 酸化還元平衡とネルンスト式 6. pH - 電位図 7. 沈澱平衡 8. 錯生成平衡 9. 溶媒抽出(分配平衡) 10. 有機試薬(構造と選択性) 11. ランベルト・ベールの法則と吸光度分析 12. 定量分析の実際(検出限界、検量線、感度、精度、確度) 13. 原子スペクトル分析 14. クロマトグラフィー									
【履修要件】 学共通科目の「基礎物理化学」、「基礎有機化学」を習得していることが望ましい。 分析化学に関する理解をさらに深めるため、本科目を習得したのちに「物質構造機能論演習A」を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 定期試験とレポートによる。									
【教科書】 藤永太郎 編著 『基礎分析化学』(朝倉書店)									
【参考書等】 (参考書) 藤永太郎、関戸栄一 訳 『イオン平衡』(化学同人) 姫野貞之、市村彰男 『分析化学』(化学同人) (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	物質構造論 Material Structure	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田部 勢津久						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 物質、特に無機材料の結晶構造と物性・機能性の関係の基礎、およびエレクトロニクス、フォトニクス応用について解説する。現代文明・テクノロジーの基礎を支える先端材料・デバイスの基本原理への理解を深め、新材料開発のために必要な基礎学理を修得する。									
【授業計画と内容】 光エレクトロニクス(情報通信、処理、表示、記録技術、光電変換)の発展は、固体レーザー、誘電体結晶、光ファイバ、半導体、発光ダイオード、太陽電池等、様々な光機能性無機固体材料の開発とその性能向上によって支えられている。本講義ではまず、その光機能性発現の基礎となる無機物質を構成する原子の電子オービタル、無機結晶の構造を学ぶ。また結晶構造と機能の関係、諸物性特に光学的性質を決定する因子、および固体物質の作製方法などを学ぶ。									
【履修要件】 基礎物理化学A & Bと基礎化学実験を履修していること、また無機化学入門A & Bを修得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 定期試験と平常点による。									
【教科書】 授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 「課題演習：物質の構造と機能」を履修してモノづくりと物性測定を経験していると、内容理解と具体的イメージの助けになる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物質反応論 Physical Chemistry	担当者氏名	地球環境学 教授 梶井 克純						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
化学結合論、構造化学および化学反応論について講義する。									
【授業計画と内容】									
以下に示す項目について講義する。 1 量子化学の基礎 2 水素原子 3 水素分子と等核2原子分子 4 化学結合論 5 分子構造 6 反応速度論 7 大気化学									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験、レポートおよび出席により評価する。									
【教科書】									
特に指定なし。									
【参考書等】									
(参考書) 特に指定なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	分子構造論 Organic Structural Chemistry	担当者氏名	有機物質化学センター 教授 山本 行男						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
芳香族化合物、アルコールとチオール、エーテルとエポキシド、アルデヒドとケトンを取り上げ、有機化合物の構造と反応を体系的に理解することを目的とする。 まず、芳香族性に関する数=6を学び、芳香族求電子置換反応の仕組みを電子の流れで理解することから始める。 次に、電子吸引性であり、かつ、非共有電子対を有する酸素原子の特性が、どのようにアルコールやエーテルを特徴づけるかを学ぶ。 最後に、C=C二重結合と比較しながらC=O二重結合の構造の特徴を学び、それに起因する求核付加反応の仕組みを理解する。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業をする予定である。 1. ベンゼンの構造と芳香族性 2. 芳香族求電子置換反応 3. アルコールの構造と性質 4. アルコールの反応 5. フェノールの構造と反応 6. チオールの構造と反応 7. エーテルの構造と反応 8. エポキシドの構造と反応 9. アルデヒド・ケトンの構造と性質 10. カルボニル基の反応：求核付加反応									
【履修要件】									
基礎有機化学A・B、構造有機化学入門、反応有機化学入門のいずれかを前もって履修していることが望ましい。 ヘテロ元素を含む有機分子の構造と反応が統一的に理解するため、分子反応論(後期)と連続して履修することを強く勧める。									
【成績評価の方法・基準】									
有機化合物の構造と反応についての基本的事項が理解できているか、次の方法で確認する。 レポート試験の成績(60%)、平常点評価(40%)。 平常点評価は毎回の出席と授業中に行う問題演習の評価を含む。									
【教科書】									
J. McMurry 『マクマリー 有機化学 中 第7版』(東京化学同人) ISBN:9784807906994									
【参考書等】									
(参考書) 山本行男 『クリック!有機化学』(化学同人) ISBN:9784759809930									
----- 分子構造論(2)へ続く -----									

授業科目名 <英訳>	物質変換論 Material Conversion	担当者氏名	人間・環境学 研究科 教授 吉田 寿雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
人間社会・環境に貢献する触媒化学の基礎と応用、及び関連の学問について講義する。									
【授業計画と内容】									
触媒は化学的物質変換に不可欠な物質であり、化学工業、環境保全におけるキーテクノロジーである。また、近年注目を集める光触媒は、エネルギー、環境分野での貢献が期待されている。本講義では、触媒・光触媒の歴史、基礎、応用について解説し、触媒の研究・開発を支える解析・評価技術についても講義する。									
【履修要件】									
化学や物理、物理化学等の一般的知識をある程度有していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
日常の小テストと定期試験の結果、及び出席率により評価する。									
【教科書】									
山下弘巳・田中庸裕ら 『触媒・光触媒の科学入門』(講談社)									
【参考書等】									
(参考書) 田中庸裕・山下弘巳 『固体表面キャラクタリゼーションの実践』(講談社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
ときに小テスト・宿題を課す。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

分子構造論(2)									
-----									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中になるべく多くの演習問題を解いて、学習した内容の理解を確かめる。 授業時間中に扱えない問題は各自で解くことになるが、質問がある場合は、まず、下記メールで問い合わせること。 yamamoto.yukio.6s_at_kyoto-u.ac.jp (Raplance_at_with @-mark)  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	分子反応論 Chemistry of Organic Reactions	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 藤田 健一						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 分子構造論（前期）に引き続いて、種々の有機化合物の反応をその構造と性質を含めて体系的に理解することを目的とする。									
【授業計画と内容】 講義の具体的内容としては、以下を取り上げ、それらの構造的特徴とそれらに由来する性質と反応について、命名法や反応機構を含めて解説する。 1) カルボン酸とニトリル 2) カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応 3) カルボニル基の置換反応 4) カルボニル縮合反応 5) アミンと複素環									
【履修要件】 本授業履修には、基礎有機化学、構造有機化学入門、反応有機化学入門のいずれかを前もって履修していることが望ましい。また、分子構造論（前期）と連続して履修することを強く勧める。									
【成績評価の方法・基準】 演習を十分実施しながら講義を進め、成績は出席、レポート提出を重視して、定期試験で評価する。									
【教科書】 マクマリー 『マクマリー有機化学第7版（中）及び（下巻の1部）』（東京化学同人）									
【参考書等】 （参考書） 希望があれば紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生体分子機能論I Molecular Aspects of Biological Function I	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 土屋 徹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 生物を構成する多様な分子の構造、機能、代謝などについて理解することを目的とする。									
【授業計画と内容】 細胞の構成成分、タンパク質や核酸の機能、物質代謝など生体分子を理解する上での基礎について解説する。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席と試験を基に総合的に評価する。									
【教科書】 適宜資料を配付する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フロンティア化学 Frontier of Chemistry	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 藤田 健一 人間・環境学研究所 助教 高橋 弘樹 人間・環境学研究所 助教 多喜 正泰 人間・環境学研究所 助教 折笠 有基 地球環境学 助教 上田 純平						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 科学技術の発展とともに、「化学」の研究対象はより細分化され、多岐にわたって私たちの生活を支えている。本授業では最先端の化学研究の紹介・解説を通じて、様々な分野における自然科学の知識や理解を深めるとともに、現代社会が抱える問題点に対して、「化学」がなし得る貢献や役割に関して講義する。									
【授業計画と内容】 現代社会において「化学」が果たすべき役割を解説するとともに、環境化学・有機化学・無機化学・結晶化学・材料化学・生物化学・電気化学といった化学の諸分野における最先端の研究についてリレー講義形式で紹介する。 以下の課題について、1課題あたり2～4週の講義を行う予定である。 1. グリーンケミストリー：現代合成化学の課題 2. 結晶工学：結晶構造をデザインする 3. 吸収と蛍光：ケミカルバイオロジーへの応用 4. 電気化学反応とエネルギー変換：蓄電池の課題 5. 光機能性無機材料：グリーンフォトリソグラフィ									
【履修要件】 特に定めがないが、理系志望の学生の受講を期待する。									
【成績評価の方法・基準】 出席率とレポートによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生体分子機能論II Molecular Aspects of Biological Function II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮下 英明						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 光合成生物は、地球生物圏の維持・恒常性に不可欠である。本講義では、光合成を行う生物に着目し、その多様性、生態、代謝について論じる。また、光合成の仕組みや光合成生物の多様化・進化についても論じる。									
【授業計画と内容】 以下の内容について講義する。 1. 光合成の誕生と地球生物圏の進化（2～3週） 2. 光合成をおこなう生物の多様性（4～5週） 3. 光合成の仕組み（4～5週） 4. 光合成と地球環境（1～2週）									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席率と期末試験による総合評価（ただし、期末試験をレポートに代えることがある）									
【教科書】 プリントを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 問い合わせ等がある場合は、担当教員に電子メール等で問い合わせること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	細胞生物学 A Cell Biology A	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 講義は英語で行う。生化学の知見をもとに細胞生物学の先端を学ぶ。									
【授業計画と内容】 細胞の成分、細胞膜の構造と機能、細胞膜受容体、細胞小器官（小胞体、ゴルジ体、ミトコンドリア、液胞）、細胞核の構造と機能、核膜複合体、クロマチン等について概観する。									
【履修要件】 全学共通科目（生化学入門101、生化学入門102およびバイオテクノロジー入門1、バイオテクノロジー入門2、分子細胞生物学入門（英語講義））をすべて履修した者のみ受講可。									
【成績評価の方法・基準】 口頭試問と出席率による。									
【教科書】 使用しない コメントなし									
【参考書等】 （参考書） Lodish他 『Molecular Cell Biology』（FREEMAN）ISBN:978-0-7167-7601-7 香川 靖雄編 『生化学－分子から病態まで』（東京化学同人）ISBN:4-8079-0511-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	分子細胞生物学特論 Molecular Cell Biology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮下 英明 人間・環境学研究所 准教授 土屋 徹 人間・環境学研究所 助教 神川 龍馬 生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	月1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 分子生物学、細胞生物学の研究に必要なスキルを身につける。									
【授業計画と内容】 本科目の授業は、リレー方式で実施する。 授業計画は大きく分けて前半と後半に分けられる。 前半（前期）では、生物を細胞や分子のレベルで研究する微生物学の分野における基本的な知見から最新の研究までを紹介する。 後半（後期）では、論文購読・英語でのプレゼンテーション・英語でのディスカッションを通して、専門用語の理解力、応用能力を養い、生化学的、分子細胞生物学的方法を理解する。 授業の特殊性を考慮し、開講曜時間については、前期および後期の最初の授業に、受講者との話し合いによって、変更されることがある。									
【履修要件】 後半の科目の履修には全学共通科目（「生化学入門」およびバイオテクノロジー入門「先端生命科学を支える技術I, II」（もしくは同等の科目））を履修済みであること。									
【成績評価の方法・基準】 レポート試験と出席率による。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	細胞生物学 B Cell Biology B	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 講義は英語で行う。分子遺伝学の知見をもとに細胞生物学の先端を学ぶ。									
【授業計画と内容】 培養細胞、遺伝子導入動物・植物を用いた研究について、最近の原著論文を購読する。									
【履修要件】 全学共通科目（生化学入門101、生化学入門102およびバイオテクノロジー入門1、バイオテクノロジー入門2、分子細胞生物学入門（英語講義））をすべて履修した者のみ受講可。									
【成績評価の方法・基準】 口頭試問と出席率による。									
【教科書】 使用しない コメントなし									
【参考書等】 （参考書） Lodish他 『Molecular Cell Biology』（FREEMAN）ISBN:978-0-7167-7601-7 香川 靖雄編 『生化学－分子から病態まで』（東京化学同人）ISBN:4-8079-0511-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然史特論 Special Lecture on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文 人間・環境学研究所 教授 加藤 真 人間・環境学研究所 教授 瀬戸口 浩彰 人間・環境学研究所 教授 宮下 英明 人間・環境学研究所 教授 市岡 孝朗 人間・環境学研究所 助教 幡野 恭子 人間・環境学研究所 助教 西川 完途 地球環境学室 助教 東樹 宏和						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 分類学・系統学・生態学・行動学などのマクロ生物学の分野の古典的な研究や最先端の研究を紹介しつつ、一方で論文の読みあわせを行いながら、生物の自然史の理解を深める。									
【授業計画と内容】 主に以下のようなテーマに沿った講義と論文講義を行なう。 1. 脊椎動物の分類と系統 2. 植物の分子系統解析 3. 生物の種間関係と、種間関係がもたらす種分化 4. 生物の個体群動態と調節機構 5. 熱帯雨林の生物群集と生態系 6. 生物の行動の進化 7. 藻類・微生物の分類・系統・生態									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	生物適応変異論I Variation and adaptation in animals I	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期集中	曜時限	集中講義
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
両生類を中心に動物界の構成員について、種および遺伝子レベルでの多様性（変異）の実態を紹介し、それが生じた要因（適応）を考察する。同時に、多様性の危機の実態と、保護・保全についても論じる。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について講義する予定である。 1 自然史という言葉の意味 2 多様性という言葉の意味 3 種多様性 形態的多様性 4 種多様性 生活史的多様性 5 遺伝的多様性 6 群集多様性 7 多様性の消失 様々な原因 8 多様性の消失 外来種問題 9 多様性保全の実態			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席点とレポート点。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
疑問点などは松井（fumi@jzoo.zool.kyoto-u.ac.jp）までメールで連絡すること。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名	生物適応変異論II (2)
【履修要件】	
特になし	
【成績評価の方法・基準】	
出席とレポート	
【教科書】	
使用しない	
【参考書等】	
（参考書） 葛西奈津子 『進化し続ける植物たち』（化学同人）ISBN:978-4-7598-1184-1（日本植物生理学会（監修）の「植物丸かじり叢書」の第4巻です。他にも多数の同シリーズがあります。） 植田邦彦（編集） 『植物地理の自然史』（北海道大学出版会）ISBN:978-4-8329-8205-5	
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））	
毎年、少人数で開講しています。対話を進めながら「濃い」授業を心がけます。オフィスアワーは特に指定しません：理科系の教員なので、毎日朝8時～17時の間に吉田南3号館3F、F302の研究室に居ます。	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英語>	生物適応変異論II Adaptive Relations Amongst Plants II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 瀬戸口 浩彰
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
植物は、いったん発芽した場所から動くことが出来ない生き物です。快適な生活場所を求めて移動が出来る動物とは大きな違いがあります。つまり、植物は生育環境に「適応」して「変わる＝進化」することが、生き残るために必要な生き物なのです。 この講義では、光・気温・標高・水・土壌・栄養などの環境に対して、植物がどのように「生き残り戦略をたてているか」を学習します。そして、これに対する対話を通して、サイエンスの考え方を涵養することを目的とします。 さらにもうひとつ：植物は地域ごとに適応進化しています。だから、たとえ同一の種でも地域ごとに維持することが生物多様性を守るうえで大切です。この講義では「総人」だからこそ取り組んできた「環境を守るサイエンスと社会での実践」についても扱い、皆さんに考えてもらいます。 【対象となる内容】 植物の種内の進化、進化をもたらす様々な遺伝子の変異、系統地理*、環境への適応という側面から見た絶滅危惧植物の保全。  *系統地理学とは、地球上の様々な場所に生息する生物種が、どのような歴史的経緯を辿って、現在のような地理的分布を得てきたのか、現在の生息環境に見られるように至ったのかについて、主にDNAデータの解析から明らかにしていく学問領域のこと。			
【授業計画と内容】			
1. 植物は、体中に「眼」を持って光をセンシングしているー1 （植物が花を咲かせるタイミングを測るしくみと適応） 2. 植物は、体中に「眼」を持って光をセンシングしているー2 （農業との関わり：幕末にきた黒船＝ペリー艦隊はダイズを集めていた） 3. 植物は、体中に「眼」を持って光をセンシングしているー3 （1種の植物でも、日本列島の中では地域分化が進んでいる） 4. 湿潤なモンスーン気候ゆえに起こる、日本の川岸での適応進化ー1 （種の間を干切る力＝自然選択） 5. 湿潤なモンスーン気候ゆえに起こる、日本の川岸での適応進化ー2 （自然選択がもたらす短期間の進化） 6. 日本列島の植生はどのようにしてきたか？ - 1 （落葉広葉樹の系統地理学） 7. 日本列島の植生はどのようにしてきたか？ - 2 （高山植物の系統地理学） 8. 日本列島の植生はどのようにしてきたか？ - 3 （琉球の系統地理学：世界最大級の「陸橋」が形作った進化） 9. 植物を守る！ - 1 （琵琶湖に閉じ込められた海浜植物の保護の実践） 10. 植物を守る！ - 2 （高い値段がつく山野草を守る取り組み）			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 加藤真 『生命は細部に宿りたまう - ミクロハビタットの小宇宙』（岩波書店）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

生物適応変異論II (2)へ続く

授業科目名 <英語>	生物多様性・生態学 Biodiversity Ecology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 加藤 真 人間・環境学研究所 教授 市岡 孝朗
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
地球にはどのような生物多様性があり、それがどのような変遷をとげてきたのか、生物多様性はどのように形作られ、どのように維持されているのか、生物多様性はどのような危機に直面しており、そのような危機から脱するためにはどのような方策が必要なのか、といったテーマに生態学の立場から答えることを目的としている。			
【授業計画と内容】			
以下のようなテーマにそって講義を行なう。 1. 海の生物多様性 2. 熱帯雨林の生物多様性 3. 日本列島の生物多様性 4. 生物多様性の歴史 5. 種分化の機構 6. 遺伝的多様性 7. 生物の多様性が個体群動態に与える影響 8. 生物多様性の危機 9. 生物多様性の保護			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 加藤真 『生命は細部に宿りたまう - ミクロハビタットの小宇宙』（岩波書店）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	物理学演習 A Studies of Physics A : recitation	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 森成 隆夫 人間・環境学研究所 助教 佐野 光貞						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	金3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 力学問題の方程式の導出と解法を身につけること。									
【授業計画と内容】 物理学の中で最も早くその理論体系が完成した力学について演習を行う。力学における法則（ニュートンの法則）を理解し、問題に応じて運動方程式を導出、導いた方程式を解くことを目標にする。粒子系を扱う質点系の力学、剛体を扱う剛体の力学、および、量子力学・統計力学に必要となる解析力学から出題する予定である。									
【履修要件】 物理学演習A、力学統論、解析力学を履修しておくこと。									
【成績評価の方法・基準】 毎回の演習問題に対するレポートの結果を基に採点をし、成績をつける。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 随時紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 質問等は, sano.mitsusada.6z@kyoto-u.ac.jpへメールすること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物理数学演習 Mathematics for Physics : recitation	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮本 嘉久 人間・環境学研究所 助教 佐野 光貞						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	水3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 物理学に必要な数学のうち、基本的なものを身につけ、使えるようになること。									
【授業計画と内容】 自然現象を理論的に解析するには数式を用いて表現することが求められる。数式を用いることで自然現象を抽象化し、その中に普遍的な構造を見出し、理論として一般化・体系化がなされていく。そのような物理学の理論形成に最小限必要な数学を身につけることを目標とする。具体的には、(1)ベクトル解析、(2)微積分、(3)微分方程式(常微分方程式・偏微分方程式)、(4)フーリエ解析、(5)複素関数論などである。これらの中から適宜問題を選んで、演習を進めることにする。									
【履修要件】 演習問題の内容に対応した数学の講義を履修していることを前提とする。内容については授業計画と内容を参照のこと。									
【成績評価の方法・基準】 毎回の演習問題に対するレポートの結果を基に採点し、成績をつける。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 随時紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 質問等は, sano.mitsusada.6z@kyoto-u.ac.jpへメールすること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物理学演習 B Studies of Physics B : recitation	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 木下 俊哉 人間・環境学研究所 助教 佐野 光貞						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	前期	曜時間	金3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 電磁気学の方程式の導出と解法を身につけること。									
【授業計画と内容】 電磁現象は重力と並んで時空の基本的な性質の現れである。また、20世紀におけるエレクトロニクスの発展の基盤となった。その電磁気学の基本的な問題を出題する。具体的には、静電場、静磁場、定常電流、電流と磁場、電磁誘導、Maxwell方程式などである。その他、電磁場、物性論と関連した問題についても出題するかもしれない。									
【履修要件】 物理学基礎論B、電磁気学統論を履修してくることを前提にする。									
【成績評価の方法・基準】 毎回の演習問題に対するレポートの結果を基に採点し、成績をつける。									
【教科書】 適宜、資料を配布する。									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) (佐野) 質問、希望等があれば、 sano.mitsusada.6z@kyoto-u.ac.jp にメールすること。 (宮本) オフィスアワー - は特に定めない。質問、希望等があればにメール、または、075-753-6784 に電話すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物質構造機能論演習 B Lecture and Exercise on Material Structure and Function B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田部 勢津久						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 名著"Physical Ceramics"を講読することにより、無機固体物質の結晶構造、物性、機能に関する基礎知識を習得し、自然科学英語に馴れると同時に、関連する演習も行う。									
【授業計画と内容】 輪講形式で、以下の項目について学習する。 1. セラミックスの3次元原子構造 1.1. 細密充填構造 1.2. イオン性結晶の安定性: マデルング定数、ボーリング則 1.3. FCC(面心立方)構造とHCP(六方細密充填)構造: 岩塩型、正逆蛍石構造、閃亜鉛構造、多形とポリタイプ、ウルツ型構造、コランダム、イルメナイトとニオブ酸リチウム、ルチル、 2. 1. ペロブスカイト 2.2. 強誘電性と圧電性 3. 1. スピネル 3.2. 磁性材料 4. 1. ペロブスカイト - 岩塩 - 派生構造、4.2. 銅酸化物高温超伝導体 5. 共有結合性セラミックス 5.1. 窒化物 5.2. 酸窒化物固溶体と次世代蛍光体									
【履修要件】 基礎物理化学、無機化学入門と基礎化学実験を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 出席日数、演習への参加、レポート内容などから総合的に判断する。									
【教科書】 『Physical Ceramics』(初回講義においてプリントを配布する。)									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物質構造機能論演習 C Lecture and Exercise on Material Structure and Function C	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 内本 喜晴						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
物質の機能、特に無機機能性材料の電気化学デバイスへの応用について概説する。特に、無機固体材料の設計のために必要な固体化学についての演習を行う。									
【授業計画と内容】									
次の項目について演習を行う。 1. 結晶構造 2. 主要な結晶構造 3. 固体の化学結合 4. 結晶の欠陥 5. 相図 6. 電気的性質 7. 平衡電気化学 8. 電荷移動過程 9. 物質輸送過程									
【履修要件】									
基礎物理化学A,Bを習得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験と出席率による。									
【教科書】									
参考書を補助教科書として使用する。その他、必要な資料は適時配布する。									
【参考書等】									
(参考書) A.R. ウェスト(著)、遠藤 忠(翻訳)、井川 博行(翻訳)、伊藤 祐敏(翻訳)、君塚 昇(翻訳)、武田 保雄(翻訳)、池田 攻(翻訳)、菅野 了次(翻訳)、泰松 育(翻訳)『ウエスト固体化学入門』(講談社サイエンスイック) ISBN:4061533711									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
居室：人間・環境学研究所棟301号室 uchimoto.yoshiharu.2n@kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	分子構造機能論演習 A Lecture and Exercise on Organic Molecular Structures and Properties A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田村 類 人間・環境学研究所 教授 津江 広人						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
有機化合物の構造解析に広く用いられている機器分析法の原理を理解し、各種スペクトルに含まれる情報から有機化合物の構造を決定できるようになることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
有機化合物の構造解析において有用かつ主要な機器分析法である 質量分析法、赤外分光法、紫外分光法、および 核磁気共鳴分光法の原理とスペクトルの解析方法について、解説と演習を交えながら授業を行う。これら4つの機器分析法について、1方法あたり3~4週の授業を行う予定である。									
【履修要件】									
基礎有機化学A・B、構造有機化学入門、反応有機化学入門を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と演習への参加状況により評価する。									
【教科書】									
マクマリー(伊藤ら訳)『有機化学 第7版 上巻』(東京化学同人) ISBN:978-4-8079-0698-7									
【参考書等】									
(参考書) R. M. Silverstein, F. X. Webster 著、荒木峻、益子洋一郎、山本修、鎌田利統訳『有機化合物のスペクトルによる同定法』(東京化学同人)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
この授業では、教科書等に掲載された問題を使って演習を行うので、指定された演習問題を次回授業時まで解いておくこと。 分子構造論、分子反応論、分子構造機能論演習Bと併せて履修することを強く勧める。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物質構造機能論演習 D Lecture and Exercise on Material Structure and Function D	担当者氏名	地球環境学 教授 梶井 克純						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
大気中の化学物質の機能について学ぶ									
【授業計画と内容】									
1 分子と光の相互作用 2 励起状態の緩和 3 光化学反応基礎 1 4 光化学反応基礎 2 5 成層圏オゾンの機構と機能 6 対流圏オゾンの機構と機能									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点とレポートおよび試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	分子構造機能論演習 B Lecture and Exercise on Organic Molecular Structures and Properties B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田村 類 人間・環境学研究所 教授 津江 広人						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
キラルな有機化合物の純度決定や物性評価に広く用いられている機器分析法を理解し、また化学原著論文の読み方を習得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
対象物質として、キラルな有機化合物や有機結晶を例に用いて、(1)高速液体クロマトグラフ(HPLC)法、(2)ガスクロマトグラフ(GC)法、(3)円二色性(CD)スペクトル法、(3)単結晶X線構造解析法、(5)熱分析法、および(6)プローブ顕微鏡(AFM, STM)や電子顕微鏡(SEM, TEM)の原理と、これらの利用法について解説する。同時に、キラリティーに関する次の基礎事項についても理解を深める。(7)キラルな分子構造と結晶構造、(8)キラリティーと点群、(9)エナンチオマーの純度と絶対配置、(10)純エナンチオマー体の利用。さらに、(11)キラリティーに関する化学原著論文の輪読を行う。									
【履修要件】									
基礎有機化学A・B、構造有機化学入門、反応有機化学入門を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と演習への参加状況により評価する。									
【教科書】									
毎回、資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 泉ら監修『第2版 機器分析のてびき 第2,3集』(化学同人)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
分子構造論、分子反応論、分子構造機能論演習Aと併せて履修することを強く勧める。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	分子細胞生物学演習 Seminar on Molecular Cell Biology	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 土屋 徹						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
生命現象を分子レベルで解析するためには、さまざまな研究手法が必要とされる。本演習では、生命科学における基礎的な研究手法の理解と習得を主たる目的とする。									
【授業計画と内容】									
いわゆるミクロ系生物学の研究に必要とされる研究手法について、解説と演習により学ぶ。加えて、個々の研究手法が実際の研究の中でどのように利用されているのかについても解説する。									
【履修要件】									
生体分子機能論A、もしくは同等の科目を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席とレポートを基に総合的に評価する。									
【教科書】									
適宜資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
動物の自然史の研究方法について演習する。主に両棲類を題材として、種レベル、遺伝的レベルでの生物多様性、史的時間を通じての生物環境動態について議論をし、理解を深めあうことを目指す。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり2-4週の授業をする予定である。 1. 東南アジア産無尾両棲類の分布様式 2. 東南アジア産無尾両棲類の分子系統 3. 東南アジア産無尾両棲類の分布形成史の推定 4. 東アジア産有尾両棲類の分布様式 5. 東アジア産有尾両棲類の分子系統 6. 東アジア産有尾両棲類の分布形成史の推定 7. アジア産両棲類の形態進化と遺伝的分化 8. アジア産両棲類の生活史の多様性 9. アジア産両棲類の保全と保護									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
適宜資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 両生類の進化 『東京大学出版会』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
疑問点などは松井 (fumi@zoo.zool.kyoto-u.ac.jp) までメールで連絡すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	分子細胞生物学演習 Seminar on Molecular Cell Biology	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	その他	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
論文講読に必要な能力を身につける。									
【授業計画と内容】									
生化学、分子生物学の基本的概念や方法をカバーする10報程度の原著論文を読む。									
【履修要件】									
全学共通科目(生化学入門101、生化学入門102およびバイオテクノロジー、バイオテクノロジー)をすべて履修済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
口頭試問と出席率による。7割以下の出席率では単位を認めない。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
学部専門科目であるので、「生物学を少しだけかじってみよう」と考えている学生は、授業を受ける資格はない。 * オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 加藤 真 人間・環境学研究所 教授 市岡 孝朗						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	木2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
生物相互の種間関係、生物の個体群や群集の動態、生物の系統や進化、生態系の維持機構、生物多様性の現状とそれを保護するための方策などのテーマについて、研究紹介や論文講読を行なうとともに、研究計画の検討や、研究の経過報告、研究を発展させるための議論などを行なう。									
【授業計画と内容】									
毎週、担当を決めて、下記のようなテーマに関する研究紹介や論文講読や、研究計画の検討、研究の経過報告、研究を発展させるための議論などを行なう。 1. 生物相互の種間関係 2. 生物の個体群や群集の動態 3. 生物の系統や進化 4. 生態系の維持機構 5. 生物多様性の現状とそれを保護するための方策									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と、セミナーでの発表(文献紹介など)									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
教員や大学院生のフィールド調査へ同行する機会を作る予定。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 瀬戸口 浩彰						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
生物の自然史(とくに植物)に関する文献の購読や研究発表, これに対する討論を通して, 研究の進め方や考え方を涵養することを目的とする。 【対象となる内容】 植物(ときには動物も対象とする)の種内の進化, 進化をもたらす様々な遺伝子の変異, 系統地理*, 絶滅危惧植物の保全。 *系統地理学とは, 地球上の様々な場所に生息する生物種が, どのような歴史的経緯を辿って, 現在のような地理的分布を得てきたのか, 現在の生息環境に見られるように至ったのかについて, 主にDNAデータの解析から明らかにしていく学問領域のこと。 【履修によって得られると見込まれる知識と思考】 植物(生物)の進化, 植物の環境適応, 系統地理学, 系統分類学, 光や温度受容などの主要な遺伝子の機能と, これが種内分化をもたらす機構保全生物学, 第四紀の気候変動と日本の植生の変遷, 新しいことを探求する思考									
【授業計画と内容】									
毎週水曜日の4時間目(14:40開始)から吉田南2号館1階理系総合学習室で行う。予定は, 吉田南2号館3階の廊下にある生物実習室1の掲示板に掲示する。毎回にゼミの発表者が2人あるいは1人ずつ, 特定の研究テーマや論文について紹介を行い, そのあとに討論を交わす。また, 不定期に, 総合博物館の地下にある植物標本収蔵庫において標本の整理作業も行う。将来に博物館に勤務を希望する人には貴重な体験学習の場になると考えます。									
【履修要件】									
高校における生物の履修歴は不要。ただし, 担当教員が全学共通科目で開講している「植物系統・進化学」と「生物学概論A」を履修していると, 内容理解が平易になる。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加(出席と発言)を総合的に評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 履修希望者は, 初回のゼミに参加しすること オフィスアワー実施の有無は, KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	地球科学演習 A Seminar on Earth Science A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 酒井 敏 人間・環境学研究所 教授 石川 尚人 人間・環境学研究所 准教授 小木曾 哲 人間・環境学研究所 助教 金子 克哉 人間・環境学研究所 助教 加藤 護						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
演習・実習を通して, 地球の姿や地球上での地学的な諸現象に, 興味を持ち, 納得してもらおう事を目指す。									
【授業計画と内容】									
地球に関連する諸現象を, 身近な事実や法則を用いて, また, 簡単な実験やデータ解析を行ないながら, 自分で確かめ, 納得してもらおう事を目的とする。いくつかのテーマを設定し, 複数回をかけて, そのテーマに沿った課題での演習・実験を行なう。 テーマ(例) ・地球の大きさや重さ(密度) ・地球の構造と構成物質(地球の層構造, 岩石・鉱物) ・地球で働く力(重力, 地磁気, コリオリ力など) ・地球での諸現象(火山, 地震, 気象, 気候)									
【履修要件】									
1コマの演習なので, 開始時間には遅刻しないこと(厳守)。 演習なので, 出席し, 課題に取り組むことが履修及び成績評価の条件である。									
【成績評価の方法・基準】									
出席及び各課題に対する達成度合い。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 地球科学の興味があれば, 学部科目「地球科学演習B・C」、全学共通教育科目「地球科学実験A・B」も履修することを強く推奨する。 オフィスアワー実施の有無は, KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮下 英明						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
微生物自然史に関する文献や最近の研究動向に関する話題の提供によって, 微生物を中心とした生物の多様性や生態, 系統・分類, 進化についての理解を深めること, また, 実際の研究の結果や発表に対する討論を通して, 自然史研究のプランニング, 進め方, 結果のまとめ方に関する考え方を涵養することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
毎週, その週の担当を決め, 下記について紹介(発表)・質疑応答・討論を行う。  自らの研究テーマに関連した最新の論文  微生物自然史研究における最新のトピックス  研究計画  研究の経過報告  担当者名やテーマの詳細については, 吉田南2号館2階および3階の生物実習室前掲示板に掲示する。									
【履修要件】									
特になし。ただし, 担当教員が開講している「微生物概論」(全学共通科目), 「藻類学概論」(全学共通科目), 「生体分子機能論B」(学部専門科目)や, 他の教員が開講している微生物関連科目を履修しておくことと内容の理解を助ける。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加を総合的に評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 問い合わせ等がある場合は, 担当教員に電子メール等で問い合わせること。 オフィスアワー実施の有無は, KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	地球科学演習 B Seminar on Earth Science B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 酒井 敏 人間・環境学研究所 教授 石川 尚人 人間・環境学研究所 准教授 小木曾 哲 人間・環境学研究所 助教 金子 克哉 人間・環境学研究所 助教 加藤 護						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
演習・実習を通して, 地球の姿や地球上での地学的な諸現象に興味を持ち, 理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
地球や地学的な諸現象に関して, 簡単な実験・観測・データ解析を行い, 自分で確かめながら, 興味と理解を深めることを目的とする。複数の事象をテーマとして設定し, そのテーマに沿った課題での演習・実験を複数回(2-4回)行なう。 テーマ(例) ・隕石-鉱物-岩石 ・環境変動の記録媒体としての堆積物 ・地球のダイナミクス-火山 ・地震活動の時間変化-空間変化 ・気象-気候									
【履修要件】									
1コマの演習なので, 開始時間には遅刻しないこと(厳守)。 演習なので, 出席し, 課題に取り組むことが, 履修及び成績評価の条件である。									
【成績評価の方法・基準】									
出席及び各課題の達成度合い。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 地球科学に興味があれば, 学部科目「地球科学演習A・C」、全学共通教育科目「地球科学実験A・B」も履修することを強く推奨する。 オフィスアワー実施の有無は, KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地球科学演習C Seminar on Earth Science C	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 酒井 敏 人間・環境学研究所 教授 石川 尚人 人間・環境学研究所 准教授 小木曾 哲 人間・環境学研究所 助教 金子 克哉 人間・環境学研究所 助教 加藤 謹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>地球現象は野外で起こっている。野外において、観測によりその現象を捉えることやその痕跡が残る現場を観察することを通じて、地球現象を「体感」し、地球科学に関連する諸現象への興味と理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>野外実習を伴う演習科目である。講義や室内を主とする実習では、映像や写真、言葉による説明で終わっている地球現象を現場で「体感」することにより、机上での学習を補完するものである。前期の期間内において、一日実習（土曜日または日曜日・祝日）、一泊二日実習（土・日）、二泊三日実習（前期試験終了後、夏期休業期間）を組み合わせて行なう。各実習は、事前学習→事後学習（実習内容の取りまとめ、レポート）を伴う。4月前期開始時期に、ガイダンスを行ない、実習概要の説明/実習時期（日程）・目的地の設定等を行なう。ガイダンスの日時は、教務掛を通じて連絡する。</p> <p>実習目的地の例は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大文字山越え（京都大学から琵琶湖まで、地形・地質巡検）</li> <li>・淡路島～高松（野島断層、渦潮、新第三紀瀬戸内火山岩類）</li> <li>・夜久野～豊岡（山陰海岸ジオパーク、日本海形成期の地質記録、玄武洞）</li> <li>・紀伊半島南部巡り（津波災害・津波防災、熊野酸性岩類、付加体）</li> <li>・東海地方探訪（根尾谷断層、生物大絶滅のP/T境界、化石）</li> <li>・伊豆大島（活火山、生々し噴火活動の痕跡、玄武岩溶岩流）</li> <li>・別府～阿蘇（火山活動の観測・研究の現場、阿蘇カルデラ）</li> </ul>									
【履修要件】									
<p>学部科目「地球科学演習」または全学共通教育科目における地球科学関連の講義・実験の中から少なくとも1つは履修済みであるか、同時期に履修中であること。演習であるので、原則的に事前学習→実習→事後学習をすべて出席すること。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
出席及び実習課題に対する達成度合い									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
地球科学に興味があれば、学部科目「地球科学演習A・B」、全学共通教育科目「地球科学実験A・B」も履修することを強く推奨する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：（物理学）構造と物性 Studies on Structure and Properties of Matter	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮本 嘉久						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	月3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>単結晶を育成し、強誘電相転移について測定を行う。強誘電相転移は2次相転移の典型例の1つであり、くり込み群の概念によって理解されている。ゼミナールと実験を通じて、2次相転移の基礎について理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>誘電体の基礎と相転移の現象論についてゼミナールを行う。溶液からの単結晶育成法について学習し、強誘電体の単結晶を育成する。育成した単結晶を用いて強誘電体の特徴である自発分極、履歴曲線の温度依存性を測定し、ゼミナールで学習した強誘電相転移の特徴を実験的に確認し、2次相転移について考察する。</p>									
【履修要件】									
受講にあたっては物理学基礎論A、B、熱力学、統計物理学を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と期末のレポートによる。ゼミナールにおける積極的な姿勢も考慮に入れる。									
【教科書】									
適宜、資料を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは特に定めなし。質問、希望等があれば、miyamoto.yoshihisa.4z@kyoto-u.ac.jp にメール、または、075-753-6784に電話すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：（物理学）レーザー物理学 Studies on Laser Physics	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 木下 俊哉						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	月3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>レーザーによる原子の冷却実験では、電磁気学、光学、量子力学の知識をもとに開発された、光に関する様々な技術が使われています。本演習では、まず輪読形式のゼミナールでレーザーや光学、原子と光との相互作用に関する基礎的な理論を文献によって理解した後、半導体レーザーの光源を製作します。これを飽和吸収分光に応用して原子のスペクトルを観測、レーザーの発振周波数の制御に利用します。レーザーと光学系の組み上げ、自動制御のための電子回路の製作を通して、冷却原子の実験に必要な技術の初歩を習得するだけでなく、基礎的な物理学がいかにサイエンスの研究現場に応用されているのかを体感してもらおうことを目標とします。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のように進める予定である（進行具合により、変更あり）。</p> <p>第1週： イントロダクション（演習全体の構成）</p> <p>第2～4週： レーザーの基礎</p> <p>第5～6週： 光と原子の相互作用</p> <p>第7～10週： 外部共振器型半導体レーザーシステムの製作</p> <p>第11～13週： レーザー制御用電子回路の製作</p> <p>第14週： 飽和吸収分光による原子スペクトルの観測</p> <p>第15週： フィードバックによるレーザーの周波数安定化</p>									
【履修要件】									
物理学基礎論A、B、電磁気学特論、量子力学を履修または受講していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への取り組み方を総合的に評価します。学んだことを忘れないためにも、レポートの作成（例えば全員で一つ）などを計画しています。									
【教科書】									
必要な文献（和文・英文等）はこちらで用意します。									
【参考書等】									
（参考書） 必要に応じて随時、紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
連絡先：吉田南3号館2階F 2 0 3号室 TEL: 075-753-6778 Email: kinoshita.toshiya.6x@kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：（物理学）物理の基礎A Basics of Physics A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる物理学に限らず、地球科学や他の自然科学また社会科学においても物理的な概念や手法が役立つことが多い。そこで、本課題演習では、これらの応用も念頭に置き、物理学の基本的概念の理解と数理的手法の習得をその目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>物理の基礎Aでは、力学、熱力学、振動波動を主たる分野とする予定である。これらの分野について、基本的な概念やそこで必要となる数理的手法を簡単に解説した後、具体的な課題を解くことにより、実際に使いこなせるようになることをめざす。課題としてはパソコンによるシミュレーション、数式処理、統計処理等を行う。必要であれば簡単な実験も行うこともある。</p> <p>具体的な内容としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 運動方程式</li> <li>(2) 惑星の運動</li> <li>(3) 振動：減衰振動・強制振動・連成振動</li> <li>(4) カタストロフィー</li> <li>(5) カオス</li> <li>(6) 変分原理と最適化</li> <li>(7) ラグランジュ方程式</li> </ol> <p>などを予定しているが、受講者の興味・事前の知識や理解度に応じて内容を大幅に変更する可能性がある。</p>									
【履修要件】									
物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、振動波動、力学統論の中の幾つかを履修していることが望ましい。当然であるが、できるだけ多く履修していることを期待する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業中に課す課題やレポートにより評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） <a href="http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html">http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html</a>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
必須ではないがノートパソコンを持っていることが望ましい。 問い合わせ先： sakagami@grav.mbox.media.kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	課題演習：(物理学)物理の基礎B Basics of Physics B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
いわゆる物理学に限らず、地球科学や他の自然科学また社会科学においても物理的な概念や手法が役立つことが多い。そこで、本課題演習では物理の基礎Aに引き続き、これらの応用も念頭に置き物理学の基本的概念の理解と数理的手法の習得をその目的とする。									
[授業計画と内容]									
物理の基礎Bでは、物理の基礎Aでやり残した分野と、フーリエ変換と時系列解析、統計力学、統計学、複雑系科学などを対象とする。これらの分野について、基本的な概念やそこで必要となる数理的手法を簡単に解説した後、具体的な課題を解くことにより、実際に使いこなせるようになることをめざす。物理の基礎Bでは、可能であれば、気象や地震等の地球科学や経済学に代表される社会科学、さらに生物集団への物理的手法の応用についても触れる。課題としてはパソコンによるシミュレーション、数式処理、統計処理等を行う。必要であれば簡単な実験おこなう予定である。									
具体的な内容としては、 (1)フーリエ解析 (2)カオス (3)音のスペクトルと情報処理 (4)時系列解析 (5)統計とデータ処理 (6)動的最適化と経済学 (7)群れのダイナミクスの解析 などを予定しているが、受講者の興味・事前の知識や理解度に応じて内容を大幅に変更する可能性がある。									
[履修要件]									
物理の基礎Aを履修していること強く希望する。物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、振動波動、力学統計に代表される物理の基礎科目の幾つかを履修していることが望ましい。当然であるが、できるだけ多く履修していることを期待する。									
[成績評価の方法・基準]									
出席と授業中に課す課題やレポートにより評価する。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) <a href="http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html">http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

課題演習：物質の構造と機能(2)									
[履修要件]									
全学共通科目として基礎物理化学A・B、基礎有機化学A・B、無機化学入門を、総合人間学部専門科目として物質分析論、物質機能論、物質構造論、物質反応論、物質変換論、物質構造機能論演習A・B・C・Dを修得している、あるいは併せて履修することが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席とレポートによる。									
[教科書]									
それぞれの実験のために独自に作成した実験指針を配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	課題演習：物質の構造と機能 Studies on Material Structure and Function	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 杉山 雅人 人間・環境学研究所 教授 田部 勢津久 人間・環境学研究所 教授 内本 喜晴 地球環境学 教授 梶井 克純 人間・環境学研究所 教授 吉田 寿雄 人間・環境学研究所 助教 高橋 弘樹 人間・環境学研究所 助教 折笠 有基 地球環境学 助教 上田 純平						
配当学年	3,4回生	単位数	8	開講期	前期	曜時間	月3,4,火3,4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
無機物質の構造、組成、性質、変化、機能に関する基礎的ならびに発展的実験を行う。このことによって、無機物質の化学に関する知識と実験技術を習得し、卒業研究を行う基礎を養う。									
[授業計画と内容]									
実験の化学領域は大きく次の5つからなる。それらの各領域について、下記の実験テーマを1日～数日に渡って行う。 1. 分析化学・水圏化学 秤量、測容器具の感度・精度・確度 緩衝溶液の調製と緩衝能の測定、酸塩基滴定 容量分析-塩化銀生成を利用する沈殿滴定 重量分析-硫酸バリウム沈殿による硫酸イオンの定量 原子吸光分析： アルカリ、アルカリ土類金属の定量 吸光度分析： リンモリブデン酸法によるリン酸の定量 イオンの吸着： 水酸化第二鉄沈殿へのリン酸イオンの吸着 溶媒抽出法： オキシシン抽出による重金属イオンの濃縮分離 2. 電気化学 サイクリックボルタンメトリーによる評価 対流ボルタンメトリーによる評価 単極電位に関するNernst式的应用 電気透析による電解質溶液の脱塩・濃縮 3. 物理化学・大気化学 大気試料の調整 FTIRによる大気試料の同定と定量 擬一次反応と2分子反応 窒素酸化物とオゾンの反応 4. 材料化学 溶融法によるガラスの作製 エルビウム含有ガラスの赤外可視変換蛍光測定 励起準位電子占有率の温度依存性測定とBoltzmann定数の算出 固体の紫外可視および赤外吸収スペクトル測定 ルビー単結晶の作成と蛍光スペクトル測定 固相反応による希土類蛍光体結晶の作製 5. 触媒化学 光触媒の合成と評価 金属ナノ粒子の合成と評価									
課題演習：物質の構造と機能(2)へ続く									

授業科目名 <英語>	課題演習：分子の構造と機能 Studies on Synthesis, Reactions, and Structures of Organic Molecules	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 山本 行男 人間・環境学研究所 教授 田村 類 人間・環境学研究所 教授 津江 広人 人間・環境学研究所 准教授 藤田 健一 人間・環境学研究所 助教 多喜 正泰						
配当学年	3,4回生	単位数	8	開講期	後期	曜時間	月3,4,火3,4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
有機化合物の合成・単離と構造決定、およびそれらの反応、機能、物性についての実験と演習を行うことにより、有機化学の実験手法を修得し、有機分子と分子集合体の性質に関する理解を深める。									
[授業計画と内容]									
次の課題について実験と演習を行う。(1)縮合反応(Aldol縮合とKnoevenagel縮合)、(2)1-フェニルエチルアミンの光学分割(ジアステレオマー法)、(3)パン酵母からのa,a-トレハロース二水和物の単離、(4)液晶の合成と物性(アニシリデン-4-アミノフェノールアセテート)、(5)アルケンの合成(Zaitsev型およびHofmann型生成物)、(6)有機金属錯体の合成と吸収(サレーン金属錯体)、(7)イリジウム錯体触媒の高い水素移動能を活用するアルコールの環境調和型酸化反応									
[履修要件]									
本課題演習の履修とともに、分子構造論(前期)、分子反応論(後期)、分子構造機能論演習A,B(前・後期)を履修することが、有機化学の理解を深める上で望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席、実験態度、レポート点で総合的に評価する。									
[教科書]									
全回分のプリントを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 希望があれば紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：生物学 Studies of Biology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文						
			人間・環境学研究所 教授 加藤 真						
配当学年	3,4回生	単位数	8	開講期	通年	曜時間	金3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ミクロからマクロまで、生物学のさまざまな分野の研究の基本的手法と考え方を、室内実験と野外実習を通して学ぶことを目的とする。室内実験では顕微鏡や分光光度計、電気泳動装置、シーケンサーなどの使用方法をも学ぶ。野外実習では、フィールド調査における心構えや自然との接し方、危険の回避方法、自然や生物のナチュラリヒストリーの基本なども学ぶ。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマの演習・実習・実験を行なう。 1. 動物の解剖による、動物の形態と系統関係の学習 2. 里山環境における両生・爬虫類の生態観察 3. 植物標本の作成と、分類学・形態学への入門 4. 植物や動物の分子系統解析 5. 溞葉虫の生存曲線と生命表の作成 6. 水生昆虫の分類と、群集構造や住み分けの観察 7. 藻類や微生物の観察と検出 8. 光合成色素の定量と光合成速度の測定 9. 細胞と細胞内小器官の観察									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と、セミナーでの発表（文献紹介など）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 興味のある生物群の図鑑の購入を薦める。『フィールド版 日本の野生植物 草本』、『フィールド版 日本の野生植物 木本』、『両生類・はちゅう類(小学館の図鑑NEO)』、『水の生物(小学館の図鑑NEO)』									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） フィールドに出かけることがしばしばあり、集合場所や装備などを指示する掲示に注意してほしい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
（参考書） 担当の指導教員の指示に従うこと。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：地球科学 Studies of earth science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 鐘田 浩毅						
			人間・環境学研究所 教授 酒井 敏						
配当学年	3,4回生	単位数	8	開講期	通年	曜時間	水3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
地球科学に関する基礎的実験を行なう。実験を通して、関連のある基礎的な知識/手法等の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
通年、または各学期を通して、一つの実験テーマに取り組む。 実験内容は、学期始めに受講者の興味などに応じて、相談の上決定する。 各学期の最終日に、半期の実験成果について報告会を行う。									
【履修要件】									
演習なので、出席し、各自の課題に取り組むこと。開始時間に遅れないこと。									
【成績評価の方法・基準】									
半期毎に行なう実験成果の報告会の発表内容で評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 地球科学に興味があれば、学部科目「地球科学演習」や、全学共通教育科目「地球科学実験A/B」も履修することを推奨します。 上記の通り、実験内容は相談の上決定します。そのため、前期/後期の第一回目の演習時には、受講者各自に実験テーマについての希望を聞きますので、考えておいてください。事前に相談していただいても構わないので、地球科学分野スタッフに問い合わせてください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 吉田 寿雄						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
（参考書） 担当の指導教員の指示に従うこと。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義III A Special topics for undergraduate course IIIA	担当者氏名	非常勤講師 坂元 正樹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	特殊講義
【授業の概要・目的】									
「19世紀の欧米における、科学技術の発展と大衆娯楽の発達」 19世紀の欧米においては、都市生活者の増加と、労働者における余暇時間の増大と賃金の上昇を背景に、余暇時間の消費と金銭の消費が結合し、多様な娯楽が登場し発展していった。本講義では、18世紀後半から20世紀初頭にかけて発達していった各種の娯楽について、それらを成り立たせた技術の発達に注目しつつ、その変遷をたどっていく。 娯楽が商業活動と深く結びつき、大衆化が進んでいく中で、求められた魅力（新奇性、合理性など）について考察していきたい。									
【授業計画と内容】									
本講義では、各種の娯楽について、その系譜的展開と技術的背景を主たる軸として言及をすすめていくが、講義全体の目的としては、娯楽を享受する人々の心性についての考察がなされねばならないことに留意されたい。 <見世物と劇場> ・からくり見世物（自動人形、オルゴール等） ・幻燈、パノラマ、のぞきからくり、写真、映画 ・自動販売機、スロットマシン <庭園、遊園地> ・動物芸と動物園 ・ジオラマ、スペクタクル庭園 ・乗車型遊具装置の発達（回転木馬、観覧車等） <交通の発展とレジャー> ・保養地の発展（海辺、温泉）、旅行の大衆化 ・自転車、自動車（レース、移動手段として） <近代スポーツの発展と大衆化> ・用具と競技、ルール（スケート、テニス、卓球等） ・競技場の人工的整備（水泳、自転車、ゴルフ等） ・興行としてのスポーツの発展									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートおよび出席状況により評価する。									
【教科書】									
使用しない 授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

学部特殊講義III B (2)									
【教科書】									
授業時にプリント等を適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 網野善彦 [ほか] 編 『大系日本歴史と芸能：音と映像と文字による』（平凡社）（全14巻のシリーズ、付属のビデオ映像に多数の芸能が収められており有益。） 小島美子監修 『日本の伝統芸能講座 音楽』（淡交社）ISBN:978-4-473-03489-2 服部幸雄監修 『日本の伝統芸能講座 舞踏 演劇』（淡交社）ISBN:978-4-473-03530-1 その他、個別芸能についての参考文献は授業中に適宜紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特別な予備知識は必要としない。講義に際しては受講者が各芸能を見ていないことを前提とし、視聴覚資料・絵画史料を用いてイメージしやすい工夫する。 但し、限られた授業時間で提供できる情報は限られている。興味をひかれたら、参考文献として紹介するCD・ビデオを図書館等で視聴して理解を深め、機会があれば積極的に実地見学を行ってほしい。近隣で見学可能な芸能については適宜紹介する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義III B Special topics for undergraduate course IIIB	担当者氏名	非常勤講師 辻 浩和						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	特殊講義
【授業の概要・目的】									
「日本の文化」や「伝統」という言葉をよく耳にします。多くの場合、「古来の」「昔からの」といった言葉が冠され、あたかも不変であるかのように語られます。しかし、文化には必ず歴史があります。発生があり、展開があり、終焉があります。現在目にすることのできる文化が、当初から同じ形であったわけではありません。本講義では、日本の中世を中心にくつかの文化・芸能をとりあげながら、それらがどのように変化しながら伝わってきたのかを紹介し、文化を「伝える」ということについて皆さんに考えてもらうつもりです。また、芸能は常に観客との関係を意識して行われるため、時代の変化を敏感に反映します。変化の背後に横たわる各時代の政治・社会情勢のありかたについても紹介しますので、「歴史」の具体的な影響を感じ取ってください。 （到達目標） 1、中世芸能についての基礎知識を身につける。 2、芸能をとりまく社会関係と、思想的背景について理解する。 3、芸能の変容を通して、「伝統」を歴史的に考える力を養う。									
【授業計画と内容】									
第1週：オリエンテーション（講義の進め方、成績評価方法等／「芸能」と芸能史研究） 第2週：和歌（贈答歌／和歌を歌う／題詠／勅撰和歌集の政教性） 第3週：雅楽（伝来と再編／楽人の「家」と秘伝／雅楽の変容） 第4週：田楽（田楽の起こり／権力と田楽／永長の大田楽／宇治田楽の「復興」） 第5週：蹴鞠（地下鞠のアクロバティック性／蹴鞠の貴族化／王権と新興芸能） 第6週：今様（初期今様の担い手／貴族・寺社と今様／後白河院／今様の衰退と固定化） 第7週：白拍子・曲舞（リズム主体の足踏み芸／白拍子から曲舞へ／曲舞から能へ） 第8週：ムラの芸能（王の舞／題目立／芸能の伝播／宮座と芸能） 第9週：連歌（短連歌と長連歌／連歌の平等性と一揆／正風連歌と伴諧連歌） 第10週：猿楽（散楽／猿楽・呪師／寺社と猿楽／猿楽から能へ／猿楽座の構造） 第11週：能（観阿弥・世阿弥のライバルたち／享受層の拡大と風流能／舞台・演出の変化） 第12週：狂言（狂言とアドリブ／狂言の固定化／諸台本の比較と中近世移行期の社会） 第13週：念仏芸能（歌う念仏／踊念仏／壬生狂言／六斎念仏／念仏踊りと盆踊り） 第14週：万歳（門付芸能の色々／千秋万歳／三河万歳と尾張万歳／万歳から漫才へ） 第15週：まとめ（芸能の機能と伝承・変化／現代における「伝統芸能」）									
学習の理解度や受講者の関心に応じて、変更される場合がある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート（100%）。 出席はとらなし。ただし、毎回提出してもらった感想や授業後の質問等において有意義なコメントを寄せた学生には、20%を上限としてレポートに加点する事がある。									
レポートの評価においては、参考文献を適切に用いながら、自分の意見を説得的に述べられているかどうかを最も重視する。加えて、着眼の独創性や論理性についても評価する。									
学部特殊講義III B (2)へ続く									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義IVA Special topics for undergraduate course IVA	担当者氏名	人間・環境学研究 助教 金子 守恵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化人類学的な研究の中核的な手法は参与観察を中心にすえたフィールドワークである。講義では、講師がこれまでフィールドワークをおこなってきたアフリカと日本をフィールドにし、ふたつのトピック（フィールドワークの手法と調査者とフィールドの人々との関わり）に関連させながら、文化人類学的な研究におけるフィールドワークの特徴、意義、そして可能性について受講者と議論を深めることを目的とする。  文化人類学の中核的な手法は参与観察であるが、なにを調査の対象とするかに応じてさまざまなアプローチがある。講義では、2005年以降現金経済が急速に浸透したことにより急激な変化に直面しているエチオピアの農村を対象にして、その変化をよみとくうえで重要な非言語的な情報（身体を介した情報）を収集するアプローチの仕方やデータの分析について議論する。  講師が2008年以降にとりくみはじめた、フィールドの人々との協働作業について、日本とエチオピアの事例を紹介し、調査者とフィールドの人々との関わり方の可能性について議論する。日本の事例では、トウモロコシの地域ブランドを確立した村の人びととともにはじめた、地域の歴史を記録する試みを紹介する。アフリカの事例では、フィールドの人々とはじめた観光用産品の開発をめぐる取り組みやコミュニティ・ミュージアムでの展示準備の取り組みについて紹介する。それらを介して、フィールドワーカーの関わり方の積極的／消極的な側面や外部者として関わることの可能性について議論する。  講義終了時には、受講者が自らの関心テーマについて具体的にフィールドワークをおこなうイメージをもち、フィールドから私たちが生きる世界を考える姿勢を確立してもらうことが最終的なねらいである。									
【授業計画と内容】									
1 回目 イントロダクション：講義のすすめ方や試験等についての説明。 2 回目 フィールドワークっておもしろい！：文化人類学的な研究とフィールドワーク 3 回目 フィールドワークの手法（1） 4 回目 フィールドワークの手法（2） 5 回目 フィールドワークの手法（3） 6 回目 フィールドワークの手法（4） 7 回目 フィールドワークの手法（5） 8 回目 民族誌的な映像資料の鑑賞 9 回目 調査者とフィールドの人々との関わり（1） 10 回目 調査者とフィールドの人々との関わり（2） 11 回目 調査者とフィールドの人々との関わり（3） 12 回目 調査者とフィールドの人々との関わり（4） 13 回目 調査者とフィールドの人々との関わり（5） 14 回目 文化人類学的な研究におけるフィールドワークの可能性（1） 15 回目 文化人類学的な研究におけるフィールドワークの可能性（2） * 講義のすすめ具合に応じて、変更される場合がある。									
学部特殊講義IVA(2)へ続く									

学部特殊講義IVA(2)
<b>【履修要件】</b>
特になし
<b>【成績評価の方法・基準】</b>
定期試験（筆記）および講義中の積極的な姿勢なども考慮に入れる。
<b>【教科書】</b>
授業中に指示する
<b>【参考書等】</b>
（参考書） 授業中に紹介する
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））
文化人類学的な研究やフィールドワークに興味関心を持っている方であればどなたでもぜひ受講してください。テーマに関して自分の考えをもって積極的に講義に参加して下さる受講生を歓迎します。講義の登録人数に応じて講義のすすめ方を工夫し、受講生とコミュニケーションをとりながらともに講義をつくっていきます。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	学部特殊講義IV B Special topics for undergraduate course IVB	担当者氏名	人間・環境学研究所 助教 藤原 学																																				
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義																														
<b>【授業の概要・目的】</b>																																							
建築は、それを取り巻く経済社会的状況はもちろんのこと、文化的な影響をうけて建造される。本講義は、建築造形に埋め込まれたこうした社会的意味を読み解く能力の習得を目的とする。																																							
<b>【授業計画と内容】</b>																																							
以下のテーマについて、洋の東西、時代を問わず、各回のテーマにふさわしい建築物や都市計画を採りあげ、その意味を読み解いていく。写真や図面などの視覚資料を用いて、具体的に説明する。理解度に応じてテーマを絞り込むこともある。																																							
<table border="0"> <tr> <td>(1) 住むことの形</td> <td>その1</td> <td>間取りの意味</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その2</td> <td>郊外住宅と住宅地の近代化</td> </tr> <tr> <td>(2) 聖なる形</td> <td>その1</td> <td>教会とモスク（西洋建築の造形的特徴）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その2</td> <td>寺と神社（日本建築の造形的特徴）</td> </tr> <tr> <td>(3) 政治の形</td> <td>その1</td> <td>首都の造形</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その2</td> <td>ナショナリズムの建築的表現</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その3</td> <td>民主主義の建築的表現</td> </tr> <tr> <td>(4) 記憶の形</td> <td>その1</td> <td>博物館の建築</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その2</td> <td>風景の可視化</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その3</td> <td>建築の記念碑性</td> </tr> </table>										(1) 住むことの形	その1	間取りの意味		その2	郊外住宅と住宅地の近代化	(2) 聖なる形	その1	教会とモスク（西洋建築の造形的特徴）		その2	寺と神社（日本建築の造形的特徴）	(3) 政治の形	その1	首都の造形		その2	ナショナリズムの建築的表現		その3	民主主義の建築的表現	(4) 記憶の形	その1	博物館の建築		その2	風景の可視化		その3	建築の記念碑性
(1) 住むことの形	その1	間取りの意味																																					
	その2	郊外住宅と住宅地の近代化																																					
(2) 聖なる形	その1	教会とモスク（西洋建築の造形的特徴）																																					
	その2	寺と神社（日本建築の造形的特徴）																																					
(3) 政治の形	その1	首都の造形																																					
	その2	ナショナリズムの建築的表現																																					
	その3	民主主義の建築的表現																																					
(4) 記憶の形	その1	博物館の建築																																					
	その2	風景の可視化																																					
	その3	建築の記念碑性																																					
<b>【履修要件】</b>																																							
特になし																																							
<b>【成績評価の方法・基準】</b>																																							
平常点（30%）；授業の要点についての小テストを数回行う。また、授業への主体的参加を考慮する。																																							
期末レポート（70%）；1）授業で採りあげた建築の一つを選び、その意味をまとめる。2）それを踏まえ、自分が興味を持つ建築について、その社会的意味をまとめる。																																							
レポートは説明の論理性だけでなく、その表現方法も評価の対象とする。																																							
<b>【教科書】</b>																																							
使用しない																																							
<b>【参考書等】</b>																																							
（参考書） 授業中に紹介する																																							
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））																																							
建築学の専門知識は必要としないが、美術、歴史、文学等知的好奇心旺盛な学生を歓迎する。																																							
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。																																							

授業科目名 <英語>	体育実技III(体操種目) Active Physical Education III(Gymnastics)	担当者氏名	高の原スポーツ研究所代表 金 尚憲						
配当学年	1-4回生	単位数	1	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	実技
【授業の概要・目的】									
器械運動が指導できる技能及び技術の獲得									
【授業計画と内容】									
この授業の目的は、体操・器械運動の指導者に必要とされる基本技（倒立、けあがり、腕立て前方転回等々）の習得及びそれらの技に関する指導法、補助方法などの研修を通して、生徒にとってわかりやすく、楽しく、有益な体操・器械運動の授業が展開できる能力の獲得である。そのため、体操では、生理学、解剖学、力学等の見地から運動を理解し、各種スポーツ及び健康の保持、増進に役立つ働きについて実習、学習する。器械運動では、小・中・高で行われているマット、跳び箱、鉄棒での各種技の復習とその科学的理解及びそれらの技をより大きく、より美しく実施する練習と練習法の工夫、さらには各種技の補助方法についても実習、学習する。また、必要に応じて平均台、平行棒、鞍馬、吊り輪についても指導する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況及び実技テスト									
【教科書】									
適宜プリント配付									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	体育実技V(野外キャンプ種目) Active Physical Education V(Nature Experience)	担当者氏名	滋賀短期大学 准教授 北尾 岳夫						
配当学年	1-4回生	単位数	1	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	実技
【授業の概要・目的】									
テーマ：コミュニケーション・体験・協力 目的：キャンプに関する知識と技術を獲得するとともに、野外教育について考える。									
【授業計画と内容】									
日程：事前オリエンテーション(日時は後日連絡) 本キャンプ 平成25年9月3日(火)～6日(金) 場所：事前オリエンテーション 後日指定する教室 本キャンプ 滋賀県立希望が丘野外活動センター 内容：担当教員が実施する滋賀短期大学のキャンプ実習へ、運営スタッフとして参加していただく。短大からの教員ならびに学生スタッフと協力し、大学におけるキャンプ実習の運営を通してキャンプに関する知識や技術を学ぶとともに、教育活動の一環として設けられている野外活動の意義について考える。受講者は、原則、現地集合現地解散とする。本キャンプに先立ち、事前オリエンテーションを実施して詳細の説明を行う。オリエンテーションの日時については後日案内するが必ず参加すること。なお、受講にあたり、最低限の装備及び宿泊費・食費などに関する若干の費用が見込まれる。									
【履修要件】									
他学の教員、学生との交流を伴います。十分なコミュニケーション能力を持つ学生の受講を希望する。									
【成績評価の方法・基準】									
事前オリエンテーションと本キャンプへの参加状況、参加(受講)態度によって総合的な評価を行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 日本野外教育研究会 編『改訂キャンプテキスト』(杏林書院) ISBN:4-7644-1548-8(野外教育に興味のある学生は、購入してみてください。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
この受講機会を通して、野外活動に必要なロープワークについて事前学習しておかれることをお勧めします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	体育実技IV(野外スキー種目) Active Physical Education IV(Ski)	担当者氏名	非常勤講師 内藤 栄一						
配当学年	1-4回生	単位数	1	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	実技
【授業の概要・目的】									
生涯スポーツとして人気の高い、冬季野外スポーツ。この中でも特にスキーを体験し、安全で快適なスキー技術の体得を目指す。初心、初級者は学校でのスキー実習で生徒を安全に引率できるレベルのスキー技術を習得してもらう。中級、上級者はさらなる技能のレベルアップのためのレッスンを行う。極寒の環境や気候の体験を通して雪山での安全の確保を学び、仲間と共同生活し、協力しあうことの重要性を再確認する。									
【授業計画と内容】									
琵琶湖バレースキー場など京都近郊のスキー場にて、2泊3日程度の日程で開催する。全日本スキー連盟のスキー教程に基づき、カービングスキーを用いた最新の効率的なスキー技術(hybrid skiing)を雪上レッスンを通じて伝授していく。実習は無理のないように十分な休息をはさみながら行う。降雪状況にも依存するが、スキー場での宿泊確保の都合上、1月以降の3連休に絡んだ日程で開催する予定。									
【履修要件】									
原則として、体育教員の免許取得を目指す学生および大学院生を対象。 雪上実習における参加者の安全を配慮し、若干名を対象とする。受講希望者多数の場合には、上記対象者のみ優先的に実習に参加でき、該当しない者の参加を断る場合があるので、あらかじめご了承ください。 実習参加に当たって、スキー傷害保険への加入を必須とする。 実習全日程に参加できること。 日程の調整などは実習に先立って行うため、迅速に連絡が取れること。連絡がとれない場合には、参加意思がないものと判断することがあるので、気を付けること。 前もってスキーを一度でも体験してある方が授業の進行上望ましい。スキー歴や取得級(もしあれば)を日程調整の折に報告してもらえると助かる。 ウェアやスキーなどはスキー場でレンタルすることができるが、宿泊費、レンタル料およびリフト代などは自費負担となるので留意すること。									
【成績評価の方法・基準】									
実習全日程に参加し、怪我なく、協力的に実習を修了したものに単位を認定する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									